第４章　自然科学分析

第１節　高松城跡 (高松北警察署) 出土漆器資料の材質・技法に関する調査

龍谷大学　北野 信彦

1、はじめに

本遺跡は、高松城本丸の西南方向の中堀と外堀の間の位置、江戸時代前期頃の上級武家屋敷エリアに相当し、主に 17 世紀前半～ 18 世紀前半（近世初頭～江戸時代前期）頃の遺構と遺物が検出された。この遺物群の中には SK24 からの一括出土の漆器資料も含まれていた。今回、これら（椀・椀蓋などの挽き物類および板物類）の材質・技法に関する分析調査を行ったので、結果を報告する。

2、出土漆器の調査

2.1　調査対象資料

本調査では、現在、香川県埋蔵文化財センターで保管されている実用的な生活什器類およびその破片である近世出土漆器資料の 29 点を調査対象資料とした。

2.2　調査方法

一般に漆器の製作は、原木から木地をつくり、挽き物や板物の形態にする「木胎製作」の工程と、その木胎に下地および漆を塗布し、蒔絵・漆絵などの加飾や研磨作業を行う「漆工」の工程から成っている。本報では、まず各出土漆器資料の器形や残存状態、漆塗り表面の状態などを肉眼観察した後、実体顕微鏡による細部の観察を行った。次に、自然科学的な手法を用いた①木胎部の樹種同定、②漆塗り構造の分類、③赤色系や黄色系漆における使用顔料の材質に関する定性分析、などの漆器の材質・技法といった生産技術面の組成に関する調査を行った。以下、調査方法を記す。

①　木胎部の樹種同定

樹種の同定は、出土木材の内部形態の特徴を顕微鏡で観察し、その結果を新材と比較することでなされる。試料は、本体をできるだけ損傷しないよう、破切面などオリジナルでない面から木口、柾目、板目の三方向の切片をカミソリの刃を用いて作成した。切片は、サフラニン・キシレンを用いて常法に従い染色と脱水を行い、検鏡プレパラートに仕上げた。

②　漆塗り構造の分類

まず肉眼で漆塗り表面の状態を観察した後、実体顕微鏡を用いた細部の観察を行った。次に 1 mm × 3 mm 程度の漆膜剥落片を採取して合成樹脂（エポキシ系樹脂／アラルダイト AER-2400 ＋ハードナー HY-837）に包埋した後、断面を研磨した。この断面試料の漆塗膜面の厚さ、塗り重ね構造、顔料粒子の大きさ、下地の状態などについて、金属顕微鏡による落射観察を行い、一部の代表的な漆器資料については生物顕微鏡を用いた薄層プレパラートの透過観察を併用した。

③　赤色系漆や黄色系漆の使用顔料の材質

赤色系漆および黄色系漆の使用顔料、蒔絵材料の材質に関する定性分析は、採取可能な部分の漆膜剥落片をカーボン台に取り付けた上で（株）堀場製作所 MESA-500 型の蛍光 X 線分析装置に設置

し、電子線 (X 線) を照射し、特性 X 線を検出した。設定条件は以下の通りである。分析設定時間：600 秒、試料室内は真空状態、X 線管電圧 :15kV および 50kV、電流 :240 μ A および 20 μ A、検出強度 :50.000cps。

3、調査結果

本漆器資料のうち、挽き物類である漆器椀・椀蓋は、(1) 内面を黒色系漆もしくは赤色系漆、外面を黒色系漆で地塗りし、外面に赤色系漆で漆絵を描く。この際、引っ掻き技法を用いる場合もある。また資料によっては高台部が高く、この高台内に所有を表す刻印を入れることもある。(2) 内面赤色系漆・外面黒色系漆を塗布し、地外面に赤色系もしくは黄色系漆、資料によっては両者併用して家紋もしくは漆絵を描く。(3) 内面・外面ともに赤色系漆を地塗りし、外面に黒色系漆で家紋や漆絵を描く。このうち、(1) 資料群は基本的には近世初頭期（17 世紀第 1 四半期）頃、(2) 資料群はそれよりやや年代が下る江戸時代前期（17 世紀中～後半）頃の出土漆器にみられる材質・技法上の特徴である。本漆器資料も、基本的な年代観との整合性が見られた。以下、個々の資料における材質・技法上の分析結果を述べる（第 2 表）。

まず樹種同定の結果、挽き物類である椀や椀蓋の資料群はいずれも広葉樹材が使用されていた。内訳は、ケヤキ（2 点：写真 1-1）、トチノキ (8 点：写真 1-2)、ブナ（11 点：写真 1-3）、ホオノキ（2 点）などの 4 種類である。ただし本報で調査対象とした漆器椀資料群は、1999 年度の検出後、長期間水漬保管されていたために劣化が著しく、脆弱で木材細胞の顕微鏡観察が困難なものが多く、不明広葉樹材が 4 点あった。一方、板物類は針葉樹材が使用されており、スギ（1 点) とヒノキ（1 点) であった。

北野によるこれまでの挽き物類である近世出土漆器椀の用材選択性に関する調査結果では、16 世紀末～ 17 世紀初頭期の桃山文化期の用材には、クリ、コナラ節、シオジ、クスノキ材などのように、その後の江戸期の出土漆器ではあまり使用されない用材も含み、樹種選択の多様性がみられる。これが、17 世紀中期以降になると用材の集約化の傾向がみられ、特に 18 世紀以降では、トチノキ・ブナ・ケヤキ材の三樹種の占有率が極めて高くなり、材の画一化、すなわち用材選択性の集約化の傾向が強まる。これらの木材の組織、工作の難易、割れ狂い、色光沢、塗りなどを考慮に入れて用材選択の傾向をみると、堅牢で寸法安定性が高い最良材であるケヤキ材と、若干寸法安定性に欠くが加工や入手の容易さという大量生産の点からみて極めて一般性が高いブナ・トチノキ材などの２つのグループに分かれる（第 3 表)。本資料群では、後者の出現比率が高く、ブナとトチノキの占有比率はそれほど差がなかった。この点について東北地区ではブナが、江戸・畿内地区ではトチノキが、中国・四国地区では両者の占有比率はそれほど差がないという一般的傾向がある。この点を考慮に入れると、本資料群の用材選択性の地域性には、齟齬がない結果であるといえよう。

次に、個々の漆器表面の漆塗り技法をみると、塗りは地と文様からなり、無文様で地塗りのみの資料と、家紋や漆絵などの加飾を地上面に描く資料に分かれた。漆膜面の塗り構造、特に各漆器資料の堅牢性を知る目安となる木胎と漆塗り層との間の下地層を定性分析してみると、無機物を含んでいないため無機元素の検出ピークがほとんど見出だされない資料と、粘土鉱物もしくは珪藻土の構成要素に近いピークで認められる資料に分かれた。これらを顕微鏡観察することにより、前者は炭粉を柿渋などに混ぜて用いる炭粉下地（代用下地)、後者は細かい粘土もしくは珪藻土を生漆に混ぜて用いるサビ下地（堅下地もしくは本下地ともいう）と理解した。なお、一部の資料については、細かい粘土や珪藻土とにか

わなどを混ぜて用いる泥下地（堅下地・本下地より堅牢性に欠ける）の可能性もある。しかし、出土資料の場合、にかわと生漆の明確な科学的識別が技術的に困難な現在、両者をまとめて「サビ下地」とした。また炭粉下地の名称についても炭粉を柿渋に混ぜて用いる渋下地以外にも、にかわや生漆を用いた例が知られる。これも同様の理由から両者を纏めて「炭粉下地」とした。本漆器資料の場合、2つのグループの比率は、サビ下地に比較して炭粉下地の出現比率が極めて高かった。このことは、本資料群が非日常のハレの什器というよりは日常の生活什器としての漆器椀類が中核を為していたことを意味しよう。

地の上塗りの漆塗膜層については、多くは1層塗りの簡便な塗り構造であった。そして、家紋や漆絵などの加飾はいずれも地の上塗り層の上に描かれていた。このような近世漆器の製法を示す民俗事例に、新潟県糸魚川市大所のナカジマ家小椋丈助氏による実用に即した近世木地師、漆器椀の製法に関する口承資料がある (文化庁 1974)。それによると、『[上品］布着せ補強（椀の欠け易い縁や糸じりに麻布を巻く）～サビ下地（砥の粉を生漆に混ぜたサビを二回塗布）～下塗り（生漆）～上塗り（生漆に赤色顔料もしくは黒色顔料を混ぜた赤色系漆もしくは黒色漆）の工程をふみ、人一代は持つ堅牢なもの。［下品］炭粉下地（柳炭粉や松煙粉を柿渋に混ぜて用いるサビ下地の代用下地）～上塗り（生漆の使用量を節約するために偽漆である不純物を多く混入して用いる粗悪な漆)。［中品］下品とほぼ同様の工程をふむが上塗りの漆を濃く塗布したり、ミガキを丁寧にしたりする。下品よりかなり持ちが良い。』などとしており、漆器ランク別の工程をよく示している。本漆器資料の場合、地塗りとして1層塗りにとどまる簡素で一般的な日用漆器の塗り構造を持つ資料が多いものの、その一方で明らかな塗り直し補修の痕跡資料も見出されており、幾つかの材質や製作技法上の品質ランクに分類された（第116図、写真2～5)。

次に、内面の地塗り、もしくは外面の家紋や漆絵加飾に用いられた赤色系漆の使用顔料を定性分析すると、Fe（鉄）のピークが強く認められる資料（第117図-1）とHg（水銀）のピークが強く認められる資料（第117図-2)、さらには両者のピークが強く検出される資料に大別された（第117図-3)。これらをさらに顕微鏡観察することにより、それぞれベンガラ（酸化第二鉄 Fe2O3）および朱（水銀朱 HgS）の異なる赤色顔料を用いたベンガラ漆もしくは朱漆であると理解した。ベンガラ・朱ともに赤色顔料としての歴史は古い。しかし近世漆器の色漆の使用顔料としては、幕府朱座を中心とした統制物資であった朱に比較して、江戸時代中期以降は人造ベンガラの工業生産化により量産体制が確立するベンガラの方が廉価で一般的となる。本漆器資料の場合、炭粉下地に地塗りの上塗り漆を一層塗布するような簡素で一般的な塗り構造を持つ資料にはベンガラ漆が多いが、一部の資料では、堅牢な塗り構造を持つ資料では朱漆を、地内面にはベンガラ漆を塗布するが地外面の家紋や漆絵の加飾部分のみに朱漆とベンガラ漆のブレンド顔料を使用するなど、朱漆とベンガラ漆の使い分けを意識した事例も見出された。

黄色系漆の使用顔料における無機物の定性分析の結果では、いずれも石黄（三硫化二砒素：As2S3) が認められた（第117図-4)。これらは漆塗膜面の断面観察においても地塗り内面は炭粉下地によるベンガラ漆1層塗りが、外面は炭粉下地による黒色系漆1層塗りの上に石黄色漆による加飾が認められた。近世出土漆器における石黄の使用は、江戸時代前期頃の漆絵や蒔絵加飾に黄色系漆を施す漆器資料群と、その後約一世紀の石黄使用の途絶期を挟み18世紀以降の江戸時代後期以降を中心として漆器の地塗りに緑色系漆を塗布する漆器資料群の二種類に大別される。このうちの前者は、17世紀中期～後期頃を中心としてシャム（現在のタイ）・トンキン（現在のベトナム）・林邑（現在のカンボジア）など

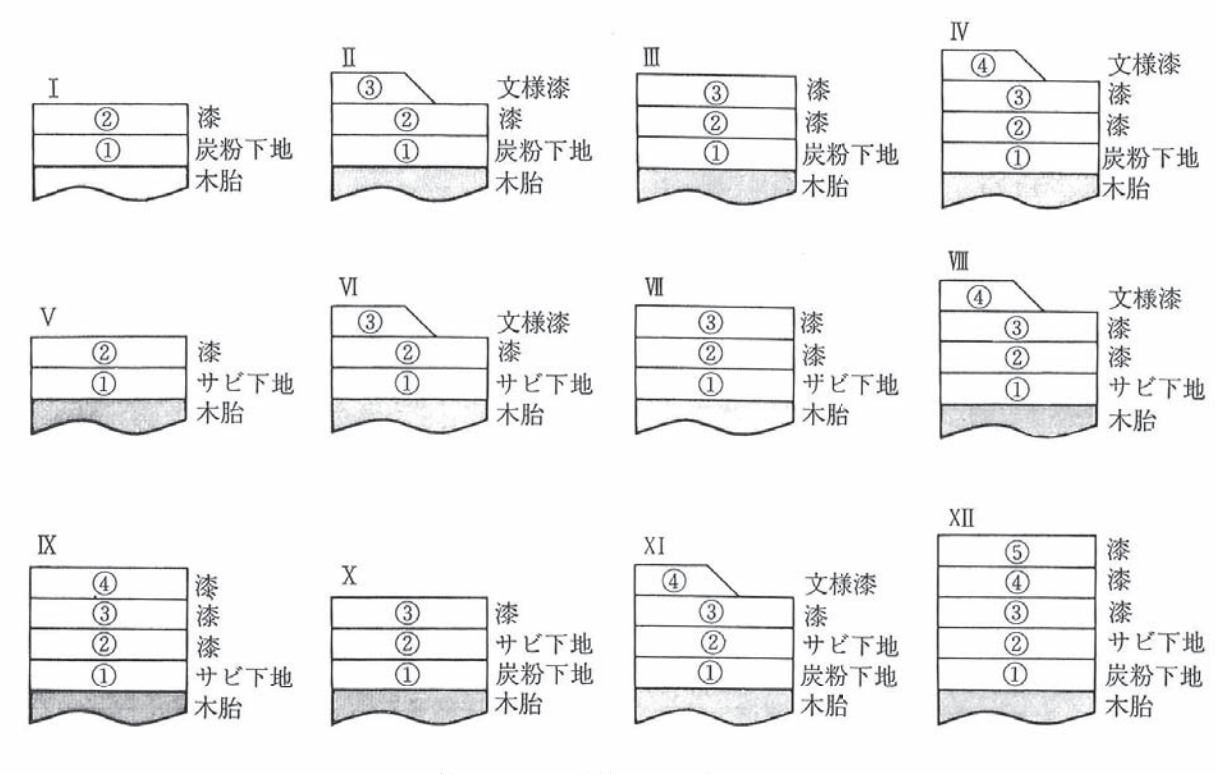
の東南アジアから大量に海外貿易品目の一つとして我国に輸入されたものである。本資料には、石黄顔料による黄色系漆を地外面に加飾した漆器椀が数点存在しており、この点も本漆器資料群の年代観を考える上で有力な参考となる。なお、本資料には黄色系漆の発色が極めて鮮明な黄色を呈する漆器と、ややくすんだ黄褐色を呈するものに分かれたが、いずれも石黄顔料の形態には大きな差異は認められなかった。地下埋没中の劣化条件の違いが影響しているものであろう。

（参考文献）

文化庁文化財保護部 (1974)『木地師の習俗　民俗資料選集２』国土地理協会
橋本鉄男 (1979)『ろくろ　ものと人の文化史 31』法政大学出版局
須藤護 (1982)『日本人の生活と文化、暮らしの中の木器６』日本観光文化研究所、ぎょうせい
北野信彦 (2005)『近世出土漆器の研究』吉川弘文館
北野信彦 (2005)『近世漆器の産業技術と構造』雄山閣
北野信彦 (2005)『漆器の考古学　– 出土漆器からみた近世という社会 -』あるむ出版
北野信彦 (2013)『ベンガラ塗装史の研究』雄山閣

No.	報文番号	遺構名	器型	樹種	表面塗り技法			漆塗構造		使用顔料			備考
					内	外	文様	内	外	内	外	文様	
1	807	SK24	椀	広葉樹散孔材	赤	黒	外 - 紋 - 赤	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ		ベンガラ	
2	805	SK24	椀	ブナ	赤	黒		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ			
3	815	SK24	椀蓋	ホオノキ	赤	黒	外 - 紋 - 赤	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ		ベンガラ	
4	806	SK24	椀	トチノキ	赤	黒	外 - 紋 - 黄褐色	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ		As+S	
5	800	SK24	椀	ブナ	赤	赤		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ	ベンガラ		
6	793	SK24	椀	ケヤキ	赤	黒	外－絵－赤	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ		朱	
7	797	SK24	椀	トチノキ	赤	黒	外－紋－赤	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ		ベンガラ	針描技法
8	822	SK24	棒状	ヒノキ	赤	赤		Ⅴ＋Ⅴ	Ⅴ＋Ⅴ	朱	朱		塗り直し痕跡
9	795	SK24	椀	トチノキ	赤	黒	外－紋－赤	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ		ベンガラ	
10	801	SK24	椀	ブナ	赤	黒		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ			高台高い
11	817	SK24	椀蓋	ブナ	赤	赤		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ	ベンガラ		
12	819	SK24	蓋	広葉樹材	赤	黒		Ⅴ	Ⅴ	朱			
13	244	SE07	椀蓋	ブナ	赤	赤		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ	ベンガラ		高台内刻印
14	794	SK24	壺椀	トチノキ	赤	黒	外 - 紋 - 黄褐色	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ		As+S	針描技法
15	809	SK24	椀	ブナ	赤	黒		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ			
16	818	SK24	椀蓋	広葉樹材	赤	赤		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ	ベンガラ		
17	813	SK24	椀蓋	トチノキ	赤	黒	外－絵－赤	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ		ベンガラ＋朱	針描技法
18	814	SK24	椀蓋	トチノキ	赤	黒	外－絵－赤	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ		ベンガラ＋朱	
19	796	SK24	椀	ブナ	赤	赤	外－紋－黒	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ	ベンガラ		
20	810	SK24	椀	トチノキ	赤	黒		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ			
21	816	SK24	椀蓋	ブナ	赤	赤		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ	ベンガラ		針描技法・内焼
22	811	SK24	椀蓋	ケヤキ	黒	黒	外－絵－赤	Ⅰ	Ⅱ			ベンガラ	高台内ススキ紋
23	803	SK24	椀	ブナ	赤	黒		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ			
24	808	SK24	椀	広葉樹散孔材	赤	黒	外－絵－赤	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ		ベンガラ	
25	812	SK24	椀蓋	ホオノキ	黒	黒	外－絵－赤・黄	Ⅰ	Ⅱ			朱・Ａｓ＋Ｓ	
27	804	SK24	椀	ブナ	赤	黒		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ			高台内刻印
28	798	SK24	椀	トチノキ	赤	黒	外－紋－赤	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ		ベンガラ	針描技法
29	864	SK24	板物	スギ	黒	黒		Ⅴ	Ⅴ	ベンガラ	ベンガラ		

第２表　高松城跡（高松北警察署）出土漆器観察表

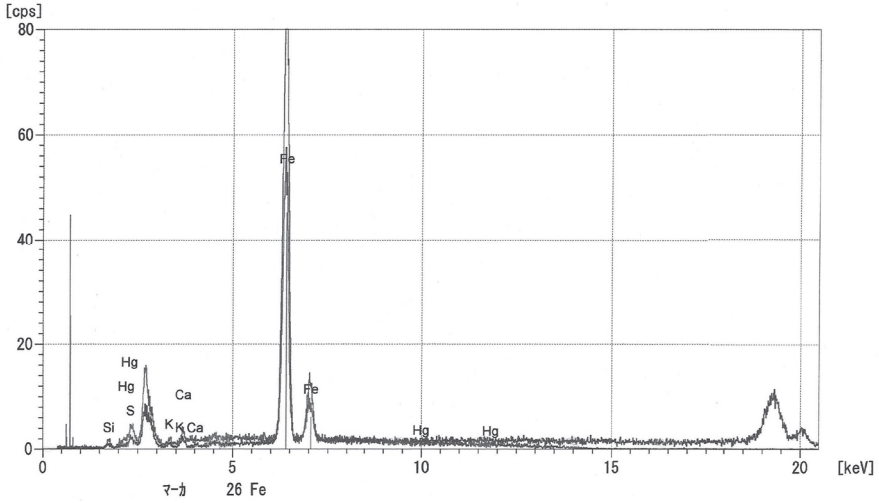


第 116 図　漆塗り構造部分類

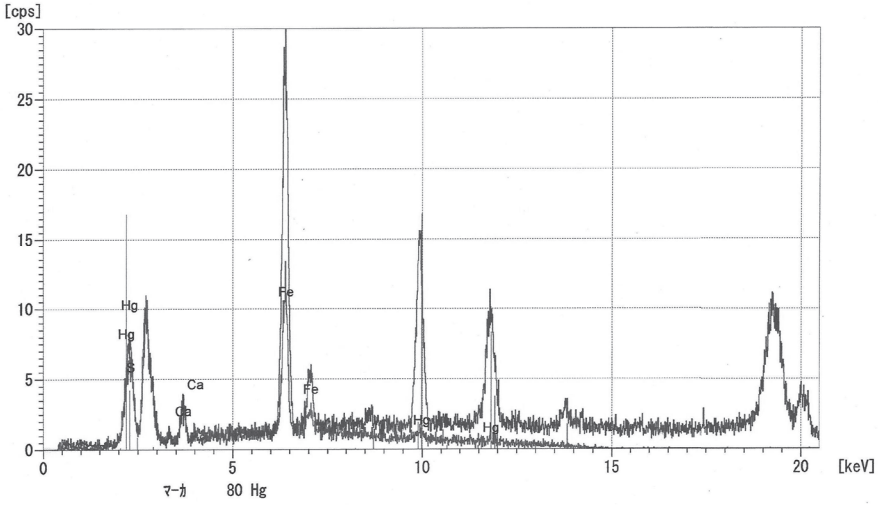
A 環孔材	a.　ケヤキ系 ニレ、ケヤキ、シオジ、ハリギリ、クリ、ヤマグワなど	木目が明瞭に表れる。堅硬であるが靭性もあり、木皿など薄手の物に適する。
B 散孔材	b.サクラ、カエデ系 イタヤカエデその他のカエデ類、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、ミズメなど	白木で美しい光沢があり、白木地物にも適している。割れ狂いが少なくて、やや堅さはあるが加工は容易。下地が少量で足りるので、塗り物にもっとも適する。
	c.ブナ、トチノキ系 トチノキ、ブナ、ミズキ、カツラ、ホオノキなど	軟らかくて加工は容易であるが、乾燥が難しく狂いも多い。しかし、大量に入手できるので使用量は大である。
	d.エゴノキ系 エゴノキ、アオハダなど	白い軽軟で加工が容易である。仕上げは見た目によく、彩色もし易いので、玩具、小物等に向いている。とくにエゴノキは大材を得られないが、入手が容易であり、割れにくいので使用に適する。

橋本鉄男『ろくろ　ものと人間の文化史31』-1979- などを参考にして作成

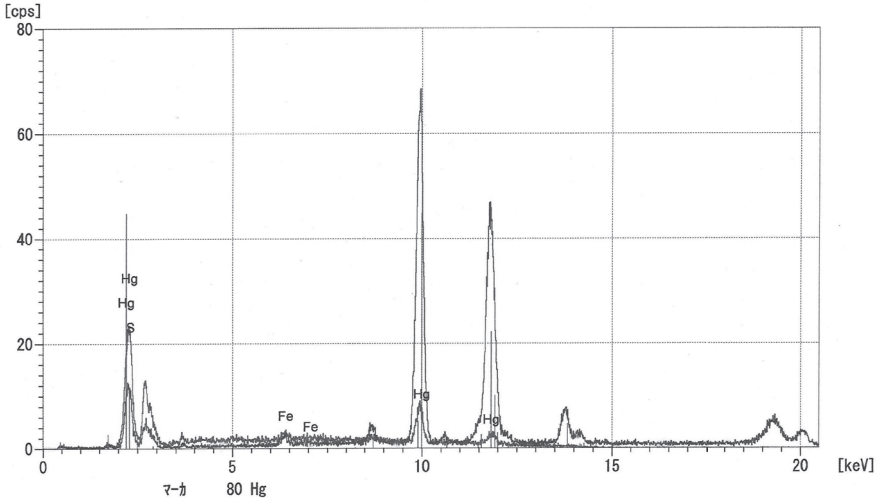
第３表　ろくろ挽き物の用材分類一覧表



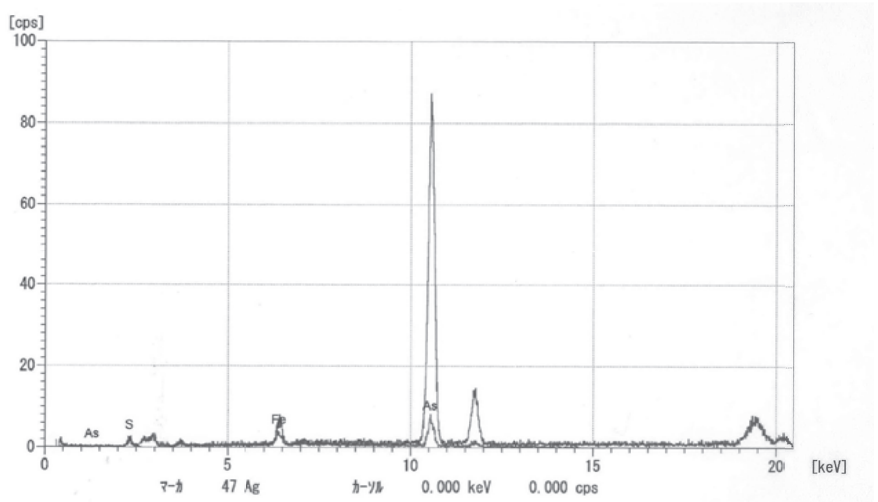
1. 赤色系漆の使用顔料 (ベンガラ)



2. 赤色系漆の使用顔料 (朱)



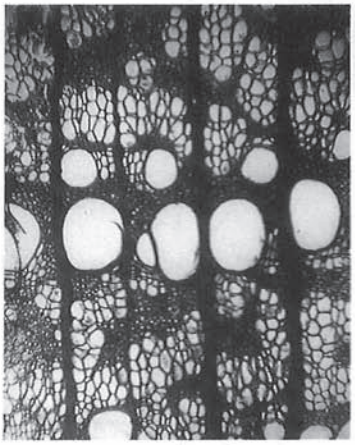
3. 赤色系漆の使用顔料 (朱 + ベンガラ)



4. 黄色系漆の使用顔料 (石黄)

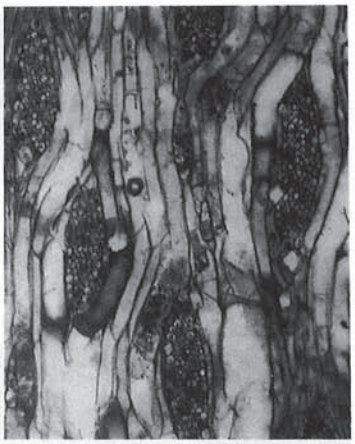
第 117 図　漆の使用顔料

1にれ科ケヤキ



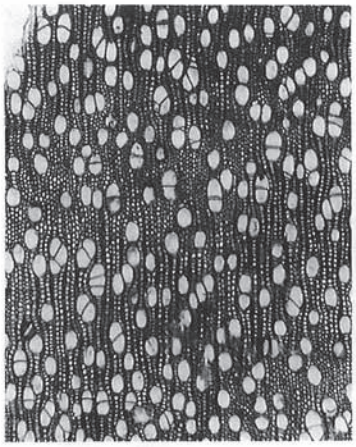
木口（30×）

柾目（100×）



板目（50×）

2とちのき科トチノキ

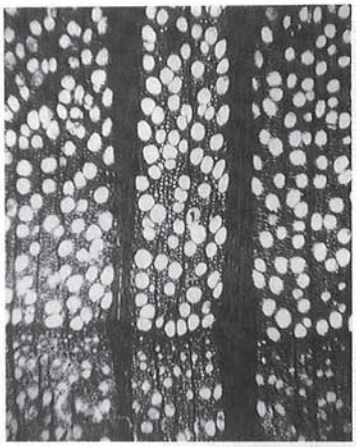


木口（30×）

柾目（100×）

板目（50×）

3ぶな科ブナ



木口（30×）

柾目（100×）

板目（50×）

写真１　代表的な樹種の顕微鏡写真

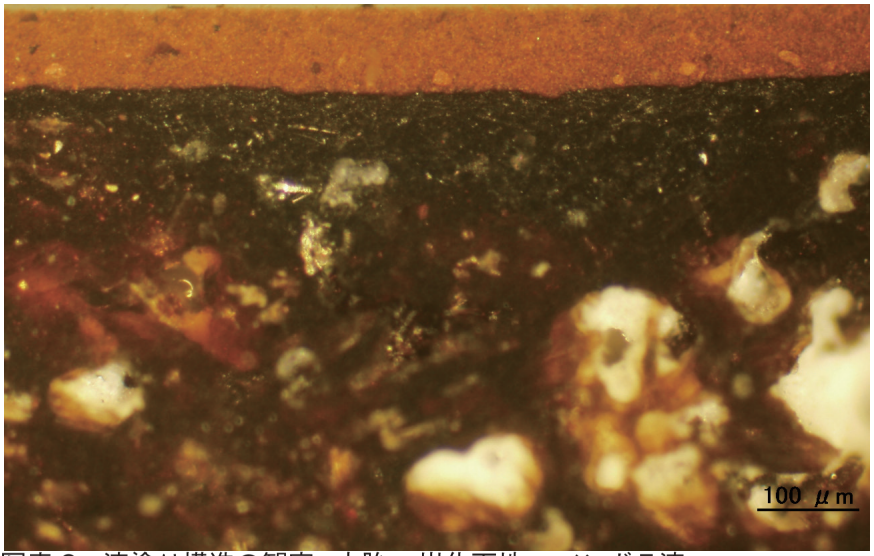


写真２　漆塗り構造の観察；木胎＋炭化下地＋ベンガラ漆

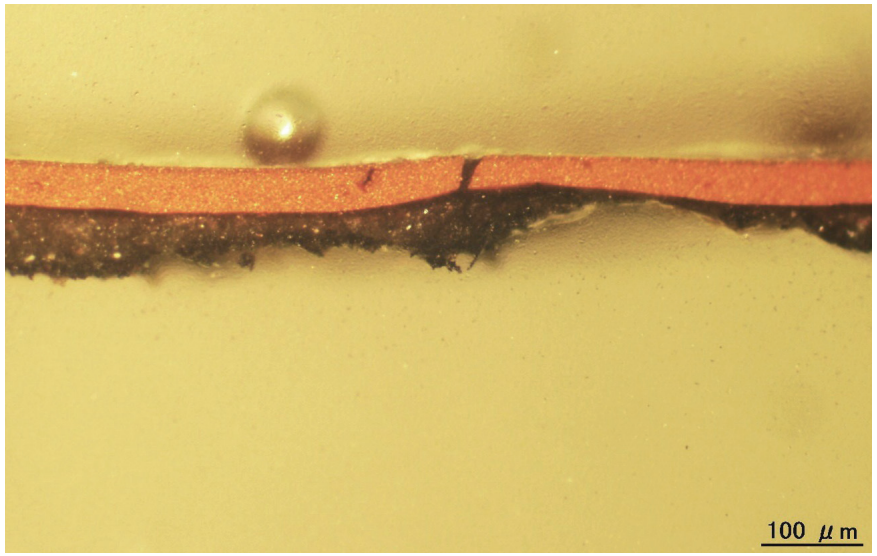


写真３　漆塗り構造の観察；炭粉下地＋サビ下地＋朱漆

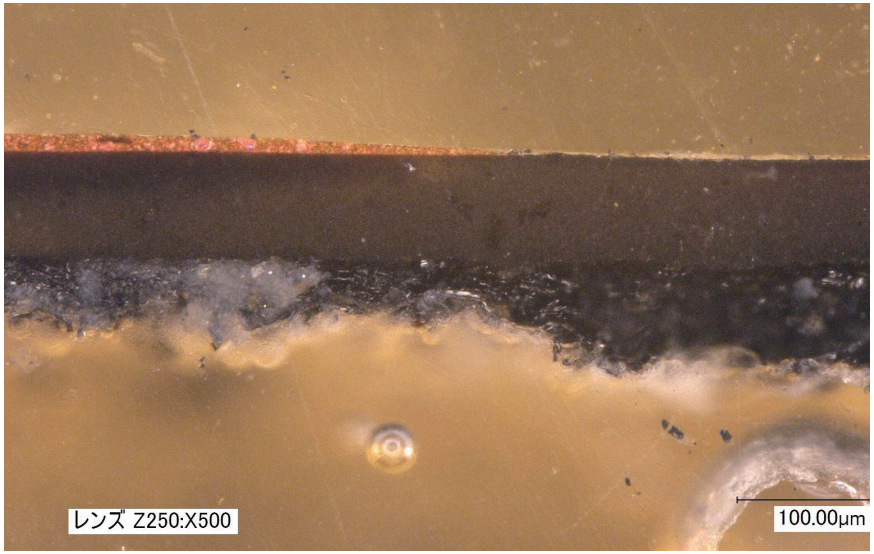


写真４　漆塗り構造の観察；炭粉下地＋赤褐色系漆＋朱漆（色絵）

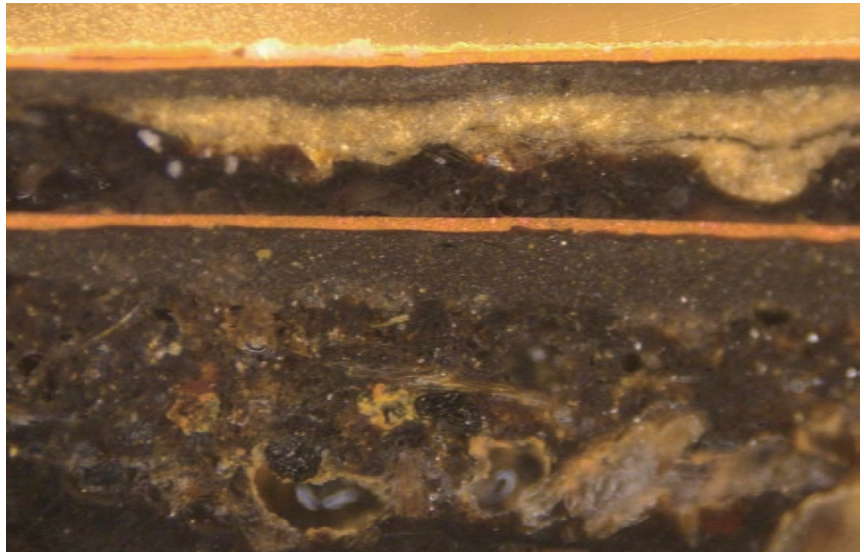


写真５　漆塗り構造の観察；布着せ補強＋サビ下地＋朱漆＋サビ下地＋朱漆＋朱漆

第２節　高松城跡（高松北警察署）出土の動物遺存体からみた上級武士の動物資源利用

広島大学総合博物館　石丸恵利子

１．はじめに

高松城跡は高松平野の中央ほぼ北端に位置し、近年の一帯の発掘調査によって江戸時代を中心とした礎石建物跡や井戸跡などの遺構が検出され、瓦や染め付けなどの多くの遺物が出土している（山元・岡本 1999）。1998 年におこなわれた高松北警察署の移転にともなう調査においては、溝や井戸などから貝殻や骨などの多量の動物遺存体が採集された。当該地は江戸時代の絵図から、上級武家屋敷が建ち並んでいた場所であり、これらの資料は当時の屋敷地で利用された動物資源や食文化を知るうえで貴重な資料だといえる。

本稿では、それらの種類や部位などの報告を行うとともに、高松城に暮らした上級武家がどのような動物資源を利用し、またどのように利用したのか、当時の食環境や資源利用の様相について考察する。

２．出土した動物の種類と部位

門	綱	目	科	属 / 種
軟体動物門 Mollusca	腹足綱 Gastropoda	古腹足目 Vetigastropoda	ミミガイ科 Haliotidae	マダカアワビ *Haliotis madaka*
				アワビ属の一種 *Haliotis* sp.
			ニシキウズガイ科 Trochidae	コシダカガンガラ *Omphalius rusticus*
				イシダタミ *Monodonta labio form confusa*
			サザエ科 Turbinidae	サザエ *Turbo cornutus*
				スガイ *Turbo cornatus coreensis*
		盤足目 Discopoda	ウミニナ科 Batillariidae	ウミニナ *Batillaria multiformis*
			カワニナ科 Pleuroceridae	カワニナ *Semisulcospira libertina*
			タマガイ科 Naticidae	ツメタガイ *Glossaulax didyma*
		新腹足目 Neogastropoda	アッキガイ科 Muricidae	レイシガイ *Thais bronni*
				アカニシ *Rapana venosa*
			テングニシ科 Melongenidae	テングニシ *Hemifusus tuba*
	二枚貝綱 Bivalvia	フネガイ目 Arcoida	フネガイ科 Arcidae	サルボウガイ *Scapharca kagoshimensis*
				ハイガイ *Tegillarca granosa*
		カキ目 Ostreoida	イタヤガイ科 Pectinidae	イタヤガイ *Pecten albicans*
			イタボガキ科 Ostreidae	イタボガキ *Ostrea denselamellosa*
				マガキ *Crassostrea gigas*
		マルスダレガイ目 Veneroida	ニッコウガイ科 Tellinidae	イチョウシラトリ *Pistris capsoides*
			シジミ科 Corbiculidae	ヤマトシジミ *Corbicula japonica*
			マルスダレガイ科 Veneridae	カガミガイ *Phacosoma japonicum*
				ハマグリ *Meretrix lusoria*
				オキシジミ *Cyclina sinensis*

第４表　出土動物遺存体種名一覧 (1)

溝や井戸などの遺構埋土より採集された資料は、破片数にして約 1730 点を数えた。資料には現場で目視によって取り上げられたものと、遺構内のすべての土壌を持ち帰って水洗選別されたものが含まれる。確認された動物群は、貝類 21 種、魚類 17 種、両生類 1 種、爬虫類 1 種、鳥類 5 種、哺乳類 7 種に

門	綱	目	科	属 / 種
脊椎動物門 Vertebrata	軟骨魚綱 Chondrichtyes	板鰓亜綱の一種 Elasmobranchii ord., fam., gen. et sp. indet.		
	硬骨魚綱 Osteichthyes	ウナギ目 Anguilliformes	ハモ科 Muraenesocidae	ハモ属の一種 *Muraenesox* sp.
		コイ目 Cypriniformes	コイ科 Cyprinidae	フナ属の一種 *Carassius* sp.
		ナマズ目 Siluriformes	ナマズ科 Siluridae	ナマズ *Silurus asotus*
		サケ目 Salmoniformes	サケ科 Salmonidae	サケ属の一種 *Oncorhynchus* sp.
		スズキ目 Perciformes	メバル科 / フサカサゴ科の一種 Sebastidae/Scorpaenidae gen. et sp. indet.	
			コチ科の一種 Platycephalidae gen. et sp. indet.	
			スズキ科 Percichthyidae	スズキ *Lateolabrax japonicus*
			ハタ科の一種 Serranidae gen. et sp. indet.	
			アジ科 Carangidae	ブリ属の一種 *Seriola* sp.
			アジ科の一種 Carangidae gen. et sp. indet.	
			タイ科 Sparidae	クロダイ属 *Acanthopagrus* sp.
			マダイ *Pagrus major*	
			マダイ亜科の一種 Pagrinae gen. et sp. indet.	
			タイ科の一種 Sparidae gen. et sp. indet.	
			タチウオ科の一種 Trichiuridae gen. et sp. indet.	
			サバ科 Scombridae	サワラ属 *Scomberomorus* sp.
		カレイ目 Pleuronectiformes	ヒラメ科 Paralichthyidae	ヒラメ *Paralichthys olivaceus*
		フグ目 Tetraodontiformes	フグ科の一種 Tetraodontidae gen. et sp. indet.	
	両生綱 Amphibia	無尾目の一種 Anura fam., gen. et sp. indet.		
	爬虫綱 Reptilia	カメ目 Chelonia	スッポン科 Trionychidae	スッポン *Pelodiscus sinensis*
	鳥綱 Aves	コウノトリ目 Ciconiiformes	サギ科の一種 Ardeidae gen. et sp. indet.	
			コウノトリ科の一種 Ciconiidae gen. et sp. indet.	
		カモ目 Anseriformes	カモ科の一種 Anatidae gen. et sp. indet.	
		キジ目 Galliformes	キジ科 Phasianidae	ニワトリ Gallus gallus domesticus
			キジ科の一種 Phasianidae gen. et sp. indet.	
	哺乳綱 Mammalia	齧歯目 Rodentia	ネズミ科 Muridae	クマネズミ属の一種 *Rattus* sp.
		兎目 Lagomorpha	ウサギ科 Leporidae	ノウサギ *Lepus brachyurus*
		食肉目 Carnivora	イヌ科 Canidae	イヌ *Canis familiaris*
			イタチ科 Mustelidae	アナグマ *Meles meles*
			ネコ科 Felidae	ネコ *Felis catus*
		偶蹄目 Artiodactyla	イノシシ科 Suidae	イノシシ類 *Sus scrofa*
			シカ科 Cervidae	ニホンジカ *Cervus nippon*

種名表記については、奥谷ほか（2000）、中坊編 (2013)、内山ほか (2005)、宇田川 (2006)、阿部ほか (2008) に従った。

第 5 表　出土動物遺存体種名一覧 (2)

分類される（第4･5表）。以下、種類ごとに特徴を述べ、個々の部位名や計測値などの情報については第6～21表に記した。また、各種の生息域や生態などの特徴については、参考引用文献欄に記した文献を参照した。

（１）腹足綱

アワビ類

井戸や土坑からアワビ類が2点出土している。SK24から出土したものは、欠損はあるが殻幅12㎝を計るマダカアワビである。SE02出土資料は破片であり、種は不明である。アワビ類は、潮間帯下から水深約50ｍまでの岩礁に生息するが、近隣の近世遺跡からも出土が認められ、素潜りやカギのついた竿などによって獲得していたと考えられる。徳島城下町遺跡や広島城跡、岡山城跡など多くの遺跡において少量ながら出土報告がある（石丸2016b、石丸2009、富岡1998）。江戸中期の百科事典『和漢三才図会』には「思うに、鰒は諸国の海中どこでもいる」とあり（島田ほか1987b）、多くは確認されなかったが高松城の武家屋敷でも食されたことがわかる。寛永二十（1643）年刊の『料理物語』には、刺身や煮物など多くの調理法が記されており、様々な食べ方で食されたことがうかがえる（吉井2007a）。

コシダカガンガラ

井戸（SE02）や土坑（SK23・24）から11点出土している。潮間帯から水深20ｍの岩礁に生息する種で、獲得は容易であったと考えられる。いずれも殻幅が25㎜前後を計るものである。

イシダタミ

複数の土坑（SK18・23・24）より7点が出土している。コシダカガンガラ同様に潮間帯の岩礁で獲得できる種である。大きさは殻幅15㎜前後のものである。

サザエ

殻軸や破片のみのものもあるが110点を数え、蓋も17点確認された。いずれもとげのない個体である。井戸（SE02・05）や土坑（SK18・23・24）から、アカニシに次ぐ量が出土している。完形のものが少ないため正確な大きさを把握するのは難しいが、小さなものは殻長52㎜と58㎜を計るものが確認された。多くが殻長80㎜を超えるもので、殻長106㎜を計る大型の個体も1点確認された。蓋は長径25から35㎜を計り、殻長は60から85㎜程度に復元できる。サザエは、イシタダミやコシダカガンガラと同様に潮間帯の岩礁に生息し、これらは同一の岩礁域で採取された可能性が高い。

スガイ

土坑（SK18・23・24）から7点が出土している。コシダカガンガラやイシダタミ同様に磯まわりで容易に採取可能である。欠損のため計測可能な資料は少ないが、殻長22.3㎜のものが確認でき、その他についても同様な大きさであると考えられる。

ウミニナ

井戸（SE02）と土坑（SK23・24）から11点が出土している。ウミニナは内湾の干潮時に干潟となるような場所に生息する。内湾に生息する貝も採取されていることがわかる。殻長は27㎜から33㎜のものが確認できた。

カワニナ

土坑（SK18・23・24）から5点出土している。川や沼などの淡水域に生息する種である。殻頂部が欠損していることが多いため、殻長は正確に把握できないが、殻幅8.4㎜から13.5㎜を計るものが確認された。

ツメタガイ

溝（SD04）や井戸（SE02）、土坑（SK23・24）から13点を確認した。ツメタガイは内湾の潮間帯から水深50ｍまでの細砂底に生息する種で、アサリなどの二枚貝に孔をあけて食べる肉食性の貝である。ウミニナと同様に干潟にも生息する。殻幅30㎜から56㎜程度のものを確認することができた。現在でも、潮干狩りの時にアサリなどに交じって採取できる種である。

レイシガイ

土坑（SK18）から1点のみ出土している。潮間帯から水深10ｍまでの岩礁に生息し、ツメタガイなどと同様に二枚貝などを食する種である。殻長45.8㎜を計る。

アカニシ

最も多く確認された巻貝で、破片を含めると250点以上を確認することができた。井戸（SE02・04・05・07）や溝（SD04）、柱穴（SP38・52）、土坑（SK18・23・24など）、SE02とSK18上面に堆積する包含層などの多くの遺構から出土している。アカニシはツメタガイやウミニナ同様に内湾の砂泥底に生息する。殻長が34㎜から146㎜のものまで認められるが、120㎜前後のものがもっとも多く確認できた。広島城跡や徳島城下町遺跡、松江城下町遺跡からも出土しているが、あまり量は多くない。

テングニシ

土坑（SK23）から3点のみ出土している。殻長95.8㎜を計るものが1点確認された。深さ10ｍほどの砂底域に生息する種で、食用可能である。広島城跡からも少量出土しているが、松江城下町遺跡では10点以上確認されている（石丸・江田2011）。

（２）二枚貝綱

サルボウガイ

井戸（SE02）や土坑（SK23）から14点出土している。最小個体数はそれぞれ3個体、5個体を数える。殻高22㎜から29㎜のものを確認することができた。サルボウガイは内湾の潮間帯に生息するが、現在では東京湾、瀬戸内海、有明海などの一部の海域でしか確認できない種となっている。アカガイの缶詰とされるものは、本種であることが多い。広島城跡や松江城下町遺跡でも出土しており、松江城下町遺跡では主要な出土貝類である。

ハイガイ

土坑（SK23・24）から8点が出土している。各遺構とも2個体を数える。殻高23㎜から30㎜のものが確認された。ハイガイもサルボウガイ同様に内湾の干潟から水深10ｍまでの海底に生息するが、現在では有明海のみに残るとされ、絶滅の危機にある。瀬戸内沿岸などに形成された縄文貝塚では、主要な貝種のひとつとして報告されている（石丸・富岡2006）。広島城跡や徳島城下町遺跡でも少量出土が報告されている。

イタボガキ

井戸（SE02）や土坑（SK24）から5点出土している。縁辺部は欠損が認められるが、殻長53.6㎜から57.8㎜を計るものが確認された。イタボガキは、内湾潮間帯の砂礫底で、マガキやイワガキよりも深場に生息する。かつては各地で確認されていたが、現在希少種となっている。

マガキ

土坑（SK23）で1点のみ確認された。マガキもイタボガキ同様に内湾の潮間帯から潮下帯の砂礫底

にカキ礁を作るなどすることから容易に採取できたと考えられるが、出土量は少量である。他の貝類よりも貝殻が破損しやすいことを考慮する必要はあるが、その他の近世城下町遺跡などと比較しても少量しか確認されなかった。

イタヤガイ

調査区南壁面で左殻の破片が１点のみ確認された。イタヤガイは 10 mから 100 mの砂底に生息する。比較的暖かい海域でとれ、同科の一種で東北からオホーツク海に生息するホタテガイよりもおいしいとされる。広島城跡や松江城下町遺跡からも一定量出土している。

イチョウシラトリ

調査区南壁面で２点出土している。うち１点は殻長 17.8㎜を計る小さなものである。内湾の湾奥部や河口部の干潟や潮間帯中下部泥底に生息する。

ヤマトシジミ

最も多く確認された二枚貝で、井戸（SE02・05）や土坑（SK18・23・24）から 340 点以上が出土している。殻高が 14.6㎜から 30.3㎜までのものが認められた。ヤマトシジミは河口や淡水の影響する内湾汽水域に生息するため、大きな河川の河口域であれば最も採取しやすい二枚貝であったといえる。ハマグリやアサリと比較して１個体に対する肉量は少ないが、貴重な食料資源のひとつであったと考えられる。徳島城下町遺跡では最も多く確認された種である。

カガミガイ

土坑（SK23・24）から３点出土している。殻高が 34.7㎜と 56.1㎜のものが確認できた。ハイガイやサルボウガイ、アサリ同様に、内湾の干潟に生息するが、周辺の遺跡においても大量に出土した例はない。

ハマグリ

井戸（SE02・05）や溝（SD04）、土坑（SK18・23・24）などから 113 点が出土している。殻高 32.9㎜から 71.5㎜までの大きさが確認された。ハマグリもハイガイやアサリ同様に内湾の干潟や水深 20 mまでの砂泥底で採取することができ、食料資源として主要な貝であったといえる。ヤマトシジミに次いで多く出土している二枚貝である。

オキシジミ

土坑（SK24）から１点のみ出土が確認された。殻高 36.5㎜を計る。オキシジミもハマグリやカガミガイなどと同様な環境に生息する種である。

（３）軟骨魚綱

エイ・サメ類

土坑（SK23）よりサメ類の椎骨が２点、エイ類のものと考えられる椎骨を１点確認した。サメ類の椎骨は、神経・血管棘の痕跡である窪み（孔）が認められるもので、同一個体のものと考えられる。ともに椎骨の背腹方向の径が 31㎜を超えるため、大型種だと考えられる。いずれも側面に切創を観察することができ、解体調理された可能性が高い。エイ類としたものは、椎骨径が 8.5㎜のもので、側面の窪みが明瞭でないものである。

（4）硬骨魚綱

ハモ属の一種

土坑（SK23）でハモ属の一種と考えられる椎骨を1点のみ確認した。ハモかスズハモの可能性がある。解体痕は観察されなかった。瀬戸内海でも漁獲され、多くはないが広島城跡と徳島城下町遺跡からも出土している。大坂城址では一定量の出土が認められる（丸山・松井 2006）。

フナ属の一種

土坑（SK23）でフナ属の主鰓蓋骨、前鰓蓋骨、舌顎骨など5点を確認した。解体痕は観察されなかった。主鰓蓋骨1点は体長195㎜よりやや小型、また舌顎骨1点は体長約200㎜に復元できる。淡水資源も利用されていたことがわかる。

ナマズ

井戸（SE02）からナマズの擬鎖骨が1点のみ出土している。体長460㎜の標本と比較してやや大きいことから同大もしくは体長500㎜弱の個体であったことがわかる。フナ属に加え、ナマズも淡水域で獲得されたものであり、河川域での活動をうかがい知ることができる。

サケ属

土坑（SK23）でサケ属の椎骨が2点確認された。椎体の側面（横）径が10.5㎜と12.1㎜を計り、体長530㎜のサケの椎骨よりも大きいことから、体長550㎜以上の個体に復元できるものである。広島城跡からもサケ属の椎骨が出土しているが、サケ属のなかでサツキマスは瀬戸内海にも生息するとされるが、当時大型のサツキマスが捕獲できたのか、あるいはさらに大型になるサクラマスやサケなどが遠方から運ばれたのか、椎骨のみでは明らかにできないが、高松城においてサケ属が利用されたことは興味深い。

メバル科もしくはフサカサゴ科の一種

井戸（SE05）や土坑（SK23・24）より、カサゴあるいはクロソイなどに似る歯骨や前上顎骨、主鰓蓋骨などが7点出土している。種の特定は困難であったことからメバル科の一種とした。ミノカサゴの可能性もあるが、標本との比較ができていないためフサカサゴ科の一種とも併記した。体長155㎜のクロソイの標本と比較して、より大きな個体とより小さな個体の両者が確認でき、複数個体が含まれていると考えられる。

コチ科の一種

土坑（SK23）からコチ科の一種の基鰭棘と椎骨が4点出土している。体長271㎜のマゴチの標本と比較して、それより大きな個体であると判断できる。

スズキ属

井戸（SE05）や土坑（SK23）、柱穴（SP46）、SE02・SK23上面からスズキ属の歯骨や前上顎骨、舌顎骨などの複数部位が74点出土している。マダイに次いで多くの資料を確認することができた。主鰓蓋骨はいずれもスズキのもので、ヒラスズキは含まれていないと考えられる。鋭い刃物で切断された痕跡が、歯骨や前上顎骨、主上顎骨、椎骨など多くの部位で観察することができた。スズキの口先部分にあたる歯骨の先端部が切断されていたり、主上顎骨や前上顎骨などの頭部を中心に椎骨も切断されていることから、中心から左右に切り開いたり、頭部や胴部を細かく分断したりして調理されたことがうかがえる。歯骨の計測値で体長を復元すると、400から450㎜のものが、また前上顎骨による体長復元では、450㎜程度のものと約300㎜のものが確認できた。

ハタ科の一種

井戸（SE02）や土坑（SK23・24）、SE02・SK23 上面からハタ科の一種の歯骨や前鰓蓋骨など 7 点が出土している。そのうち主鰓蓋骨と腹椎で解体痕が認められた。1 点のみ出土した腹椎は背腹径が 26㎜を計る非常に大型のもので、クエなどのように大型の個体のものであると考えられる。その他の資料において、体長 288㎜のキジハタの標本を参考に体長を復元すると、いずれも体長 400㎜を超えるものであった。広島城跡と徳島城下町遺跡からも出土している。

ブリ属の一種

土坑（SK23）からブリ属の一種と考えられる椎骨が 1 点のみ出土している。解体痕などは観察できなかった。広島城跡と徳島城下町遺跡からも出土が確認されている。

アジ科の一種

土坑（SK23）からマアジに似る椎骨が 1 点のみ出土している。小さな資料であるため、出土の有無や量については採集の精度による可能性があるが、広島城跡からも出土が確認されている。

クロダイ属

柱穴（SP46）と土坑（SK25）からクロダイ属の歯骨が各 1 点出土している。縄文時代や弥生時代では主要な出土魚種となる遺跡も多いが、近世の遺跡から多く出土することはまれである。解体痕などは確認されなかった。体長は 300㎜より小型なものと、400㎜以上のものに復元される。

マダイ亜科

魚類の中で最も多くの 145 点の資料を数え、井戸（SE02・05）や土坑（SK12・18・23・24）、SE02･SK23 上面などの多くの遺構から出土している。確実にマダイであることを示す前頭骨と上後頭骨は 50 点確認された。骨が丈夫であることから残存しやすい種であったことも指摘はされるが、その条件はクロダイと差はないと考えられることから、マダイが多く利用されたことに違いはないであろう。それらのほとんどで頭部を左右に二分割、あるいは両側面を切断して三分割された痕跡を観察することができる。そのほか、マダイ亜科に分類した歯骨や前鰓蓋骨などの複数部位は、いずれも大型個体であることからマダイのものである可能性が高い。体長 500㎜を超えると考えられるものも含まれる。

タチウオ科の一種

土坑（SK23）からタチウオ科の一種と考えられる歯骨あるいは前上顎骨の破片を 1 点確認した。歯が数本残る顎体の破片であることから、部位の特定が困難であったが、歯の形態からタチウオ科の一種に分類した。岡山城本丸下の段からの出土報告がある（石丸・松井 2001）。

サワラ属

井戸（SE02）からサワラ属の一種と考えられる歯骨が 1 点出土している。尾方向の端部に切断された痕跡を観察することができる。岡山城本丸下の段からも出土している。

ヒラメ

土坑（SK23）よりヒラメの角舌骨 1 点と上舌骨 2 点の計 3 点が出土している。体長 405㎜の標本と比較して、いずれの部位もやや大きく、体長 450㎜程度の大きさであったと考えられる。解体痕は確認できなかった。

フグ科の一種

井戸（SE02・05）や土坑（SK18・24）、SE02･SK23 上面からフグ科の歯骨や主上顎骨などが 11 点出土している。各部位の大きさから多くがトラフグなどの大型種であることがわかる。前鰓蓋骨の 1 点に

おいて鋭い刃物で切断された痕跡を確認することができた。近世城下町や城郭からのフグ科の出土例は多く、岡山城跡や広島城跡、松江城下町遺跡においても出土が確認されている。

（5）両生綱

種は不明であるが、土坑（SK23）よりカエル類の脛腓骨と思われる破片が2点出土している。

（6）爬虫綱

スッポン

井戸（SE05）や柱穴（SP46）、土坑（SK23・24）からスッポンの背甲や中腹骨板、脛骨などの複数部位が26点確認された。剣上腹骨板や中腹骨板などで複数の切創が観察でき、解体調理されたことがわかる。享和三（1803）から文政三（1820）年に刊行された『素人包丁』にスッポンが雑炊で食されたことを示す記載が認められる（吉井2007e）。

（7）鳥綱

サギ科の一種

土坑（SK23）よりサギ科の一種と考えられる脛足根骨が1点出土している。大きさはアオサギ大のものである。

コウノトリ科

土坑（SK23）よりコウノトリと考えられる脛足根骨や大腿骨などの複数部位が9点確認された。複数の部位で切創を確認することができる。松山城跡県民館跡地（愛媛県）や新蔵遺跡（徳島県）においてもコウノトリ科が複数点出土している（江田2010、丸山・中原2015）。『和漢三才図会』に、コウノトリの肉は「硬く生臭くて佳くない」とあるが、解体痕が認められたことから食べられた可能性や骨の利用が示唆される（島田ほか1987a）。

カモ科

土坑（SK23・24）からカモ科の上腕骨と尺骨が5点出土している。オナガガモ程度の大きさとトモエガモ大のものが確認できた。上腕骨の多くに切創が観察できた。

ニワトリ

井戸（SE02・05）や柱穴（SP46）、土坑（SK23・24）、SE02･SK23上面などからニワトリの足根中足骨や上腕骨、烏口骨など26点が出土している。鳥類の中で最も多くの資料が確認された。その多くが大型のものである。足根中足骨や尺骨、烏口骨、大腿骨には解体痕が確認できた。『和漢三才図会』には、家々でニワトリを飼っていることや、種類が大変多いとも記されている（島田ほか1987 a）。

キジ科

土坑（SK23・24）などからキジ科の上腕骨や脛足根骨が3点出土している。キジあるいはヤマドリの可能性がある。上腕骨の近位部に切創が確認された。

（8）哺乳綱

クマネズミ属の一種

土坑（SK23）からクマネズミ属の大腿骨1点と下顎骨1点が出土している。

ノウサギ

土坑（SK23）からウサギの肩甲骨が１点のみ確認された。

イヌ

井戸（SE05・07）と土坑（SK18・24）からイヌの上腕骨や橈骨、脛骨など４点が出土している。うち、上腕骨１点と椎骨に切創が観察でき、解体された可能性が指摘できる。

アナグマ

土坑（SK23）よりアナグマの尺骨が１点出土している。

ネコ

土坑（SK24）、SE02･SK23 上面よりネコの下顎骨、大腿骨、脛骨が各１点出土している。解体痕は観察されなかった。

イノシシ類

土坑（SK17・23）よりイノシシ類の脛骨１点と椎骨２点が出土している。椎骨のうち１点で椎骨板が完全に癒合しておらず、比較的若い個体であることがわかる。イノシシかブタかの判断は難しく、イノシシ類とした。

ニホンジカ

哺乳類の中で最も多くの資料が確認された。井戸（SE02・05・07）や土坑（SK12・18・23・24）、SE02･SK23 上面から、下顎骨や中手骨などの複数部位が計 77 点確認された。頭部から四肢骨先端の部位まで、ほぼ全身の部位が確認されている。解体痕が確認された資料も多く、下顎骨や環椎（第一頸椎）の頭部、椎骨や肋骨の胴部、また上腕骨や脛骨などの四肢骨と、ほぼ全身におよぶ場所に切創が認められ、毛皮や肉あるいは骨が利用されたと考えられる。

３．高松城跡における動物資源利用

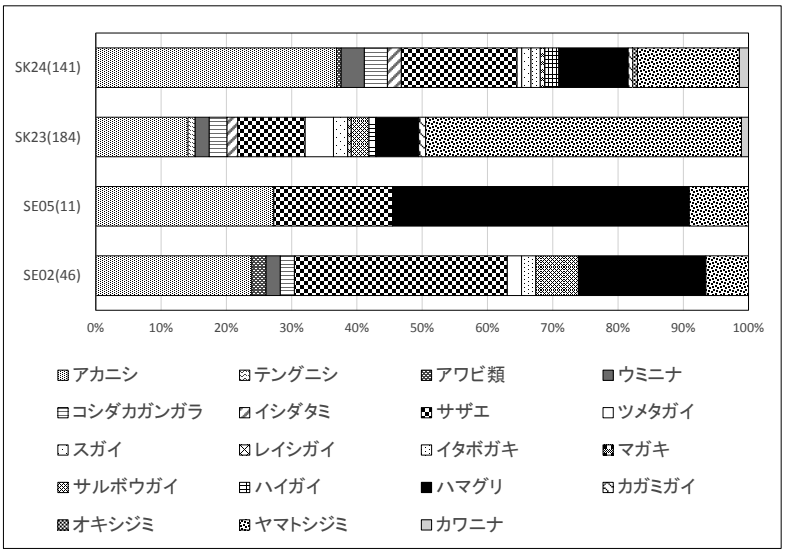
（１）各遺構出土動物相の特徴

動物遺存体のほとんどは井戸や土坑などから出土しており、当時利用された資源で人為的に廃棄されたものである。多くの資料が含まれていた遺構について、各遺構出土動物相を比較し、動物資源利用の様相を考察する。第 118 ～ 120 図に貝類、魚類、および爬虫類・鳥類・哺乳類に分けて遺構別の個体数比を図示した。

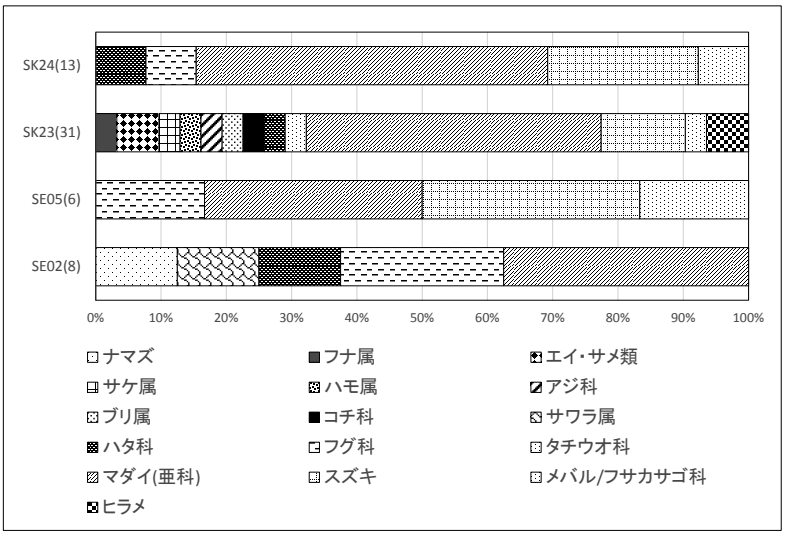
井戸 SE02（17 世紀後半～ 18 世紀前半）

貝類 10 種、魚類５種、鳥類と哺乳類各１種の 117 点の資料が確認された。貝類はサザエが 15 個体と最も多く、アカニシ 11 個体、ハマグリ９個体がそれに続く量を数える。前述の３種で貝類全体の 76.1％を占める。その他、ヤマトシジミが５点（３個体）、サルボウガイ４点（３個体）、アワビ類１点、ツメタガイ１点、コシダカガンガラ１点、ウミニナ１点、イタボガキ１点が含まれていた。サザエは殻長 67.6㎜から 81.4㎜のまとまった大きさで、アカニシは殻長 80㎜から 102㎜を測るいずれもサザエ同様に大型のものがそろっている。また、ハマグリは完形のものが少ないため全体の特徴を示すには情報が少ないが、殻高 36.6㎜から 50㎜程度のものまでが確認できる。

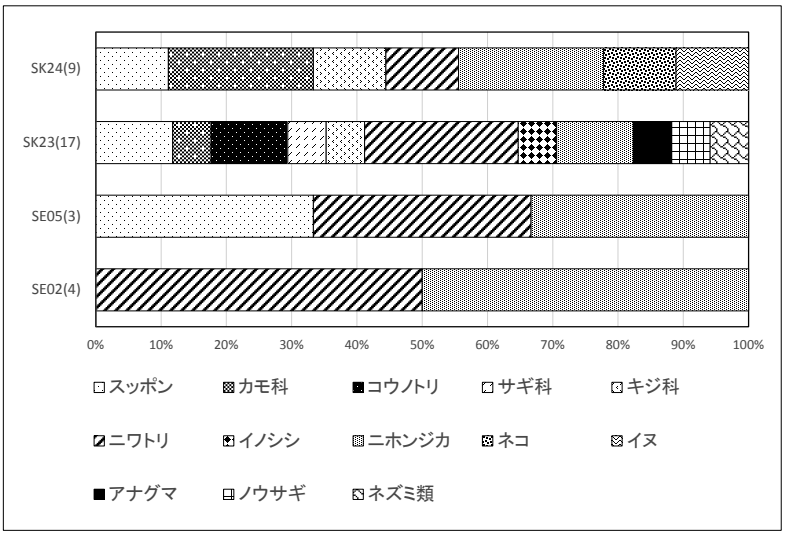
魚類はマダイ（マダイ亜科含む）が 21 点（３個体）、フグ科４点（２個体）、ハタ科３点（１個体）、ナマズとサワラ属が各１点確認された。魚類で最も多いのはマダイであるが、フグ科やハタ科などの海産魚類に加え、淡水魚のナマズも含まれている。マダイは各部位の計測値から体長を復元すると 350㎜



第 118 図　出土貝類の遺構別個体数比



第 119 図　出土魚類の遺構別個体数比



第 120 図　出土爬虫類・鳥類・哺乳類の遺構別個体数比

のものから500㎜を超えるものまでが確認できる。フグ科は、トラフグの標本と比較していずれも大型で体長400から465㎜のものに復元される。最小個体数は２個体であるが、復元した体長から考えると３個体存在した可能性が高い。ナマズは体長450㎜程に復元される。ハタ科は体長380から390㎜に復元できる。サワラ属は体長700㎜の大きな個体に復元される。現代において高級魚として扱われるマダイやハタ科、フグ科が主体を占める点と破片ではあるがアワビ類が確認されていることは興味深い。鳥類はニワトリが２点（２個体）、不明鳥類２点、哺乳類はニホンジカが10点（２個体）であった。ニホンジカは前頭骨や下顎骨などの頭部の破片が多く、鹿角を切断した痕跡が確認できる。分離された鹿角は加工されて利用されたことがうかがえる。また、肋骨にも切創や切断痕などの解体痕が認められ、敷地内に持ち込まれて解体され、それらが投棄された可能性が高い。

井戸SE05（18世紀前半）

貝類４種、魚類４種、爬虫類と鳥類が各１種、哺乳類が２種の計50点が確認された。貝類はハマグリが８点（５個体）と最も多く、アカニシ８点（３個体）、サザエ４点（２個体）、ヤマトシジミ１点（１個体）が確認された。破片が多く大きさを復元するのは難しいが、アカニシは殻長50㎜以下のもの、ヤマトシジミは殻高26.1㎜のものが確認できた。

魚類は、マダイ亜科９点（２個体）、スズキ属は３点（２個体）、フグ科とメバル科もしくはフサカサゴ科が各２点（１個体）確認された。マダイ亜科は体長300㎜と380㎜程度に復元されるもので、フグ科は体長355㎜のトラフグと同大、メバル科もしくはフサカサゴ科は体長200㎜程に復元されるものであった。爬虫類はスッポンの背甲１点、鳥類はニワトリの烏口骨１点、哺乳類はニホンジカ６点（１個体）とイヌの橈骨１点が確認された。ニホンジカの環椎や肋骨には切創が認められ、上顎骨片や大腿骨や尺骨などの四肢骨も確認されることから、１個体が持ち込まれ解体処理された可能性が高い。出土量や種類は少ないものの、貝類はアカニシやハマグリなど、魚類はマダイ亜科やスズキ属、ニワトリやニホンジカなどの主要な種が確認できる。

土坑SK23（17世紀中頃）

最も多くの資料が確認された遺構で、破片数にして1000点以上が含まれていた。貝類15種、魚類13種、爬虫類１種、鳥類と哺乳類が各５種と、種類も最も多く確認されている。貝類はヤマトシジミが最も多く、縁辺の破片も含めて275点（87個体）を数え、個体数にして貝類全体の約半数（48.4％）におよぶ。次いでアカニシ68点（26個体）、サザエ59点（19個体）、ハマグリ37点（12個体）で、上記４種で全体の79.3％を占めている。その他の貝類としては、ツメタガイ８点、サルボウガイ10点（５個体）、コシダカガンガラ５点、ウミニナ５点、スガイ４点、イシダタミ３点、ハイガイ４点（２個体）、カガミガイ２点（２個体）、マガキ１点が出土している。淡水のカワニナも１点確認された。他の遺構からは出土していないものとして、テングニシ２点があげられる。ヤマトシジミは、殻高16㎜程度の小型のものから約26㎜の大型のものが認められ、殻高20～21㎜台のものが最も多く確認された。アカニシは、欠損のため計測不可の資料も多いが、殻長76㎜の小型のものや136㎜の大型のものが各１点確認され、殻長110㎜前後のものが主体を占めていた。サザエも欠損が顕著で大きさを把握できるものが少ないが、蓋の計測値から殻長85.5㎜が１点、82.5㎜が２点、67㎜が１点に復元できる。ハマグリは、殻高32㎜のものから49㎜のものが確認できるが、殻高40㎜のものが主体を占める特徴がうかがえ

る。

魚類ももっとも多くの種が認められた。マダイ亜科が66点（14個体）と最も多いものの、スズキ43点（4個体）やメバル科もしくはフサカサゴ科4点（1個体）、ハタ科1点（1個体）など多様な種が含まれていた。コチ科4点（1個体）ヒラメ3点（1個体）、サケ属2点（1個体）、エイ・サメ類2点（1個体）ハモ属1点（1個体）、タチウオ科1点（1個体）、アジ科1点（1個体）、ブリ属1点（1個体）はSK23でのみ確認されており、淡水魚ではフナ属が含まれていた。淡水資源としては、スッポンが12点（2個体）確認され、脛骨には鋭い刃物によって解体されたことを示す複数の切創を観察することができた。

鳥類は計45点で、ニワトリが最も多く、カモ科、サギ科、キジ科、コウノトリの5種が確認された。コウノトリには上腕骨や大腿骨などの四肢骨に解体痕が観察され、調理されていた可能性が高い。正徳四年（1714）に出版された料理書『當流節用料理大全』にも「食してよし」との表記が認められる（吉井2007c）。また、哺乳類もニホンジカ26点（1個体）だけでなく、イノシシ類1点、アナグマ1点、ノウサギ1点、ネズミ類2点（1個体）が確認されている。イノシシ類やノウサギ、アナグマの利用もあったことがうかがえる。

本遺構からは最も多様な種類が確認されており、出土量も最多であった。本遺構はすべての土壌を水洗選別して資料を採集しており、当時利用された動物資源の種類や特徴をもっともよく表していると言える。

土坑SK24（17世紀後半）

貝類16種、魚類5種、爬虫類1種、鳥類3種、哺乳類3種の321点の資料が含まれていた。土坑SK23に次ぐ量の資料が確認された。貝類はアカニシが76点（52個体）と最も多く、サザエ36点（25個体）、ヤマトシジミ49点（22個体）がそれに次ぐ量を数える。SK23と比較して貝類の全体量は少ないが、アカニシやサザエ、ハマグリなどは多く出土しており、種類は最も多く確認されている。アカニシは殻長が34㎜や約50㎜程度の小さなものも確認されたが、殻長100㎜以上で140㎜以下のものが多く認められた。サザエは、殻長52.7㎜の小型のものから106.0㎜の大型のものが確認されたが、殻長80㎜大のものが主体を占めていた。ヤマトシジミは殻高14.6㎜から30.3㎜のものが確認され、殻高20㎜から25㎜のものが主体を占めていた。さらにハマグリについては、殻高31.5㎜のものから73.2㎜までが確認され、殻高40㎜前後のものが主体であるが、殻高70㎜以上のものも複数確認された。

魚類は5種と少ないが、マダイ亜科30点（7個体）、スズキ4点（3個体）、ハタ科2点（1個体）、フグ科2点（1個体）、メバル科もしくはフサカサゴ科1点（1個体）が確認された。ハタ科は体長288㎜の標本の尾舌骨と比較して同位置の計測値が約20㎜大きいことから、体長400㎜はある大型のものと推測される。フグ科はトラフグ大の大きなものである。鳥類はニワトリ4点（1個体）、カモ亜科3点（2個体）とニワトリよりもカモ亜科の個体数の方が多く認められた。キジもしくはヤマドリ大の上腕骨も1点出土している。

哺乳類はニホンジカが19点（2個体）、イヌのものと考えられる椎骨1点とネコの大腿骨と脛骨が各1点含まれていたのが特筆すべき点である。イヌは前述したSE05とSE07および土坑（SK18）でも確認され、ネコはSE02･SK23上面からも出土している。全出土量はSK23よりも少ないが、アカニシやサザエ、ハマグリはより多く確認されている点も特徴である。

（２）解体・調理・加工の特徴

アカニシの殻体 171 点のうち 17 点とサザエ殻体 67 点のうち１点で、人為的に開けられたと考えられる穿孔の痕跡が確認された。また骨資料には、鋭い刃物によってつけられた切創や切断の痕跡が観察できる。これらの痕跡は何らかを意図して穿孔されたもの、あるいは解体や調理などの際の刃物の痕だと考えられ、上級武士の屋敷地における解体や調理法などの動物資源利用の様相を知るうえでの情報となる。以下、穿孔の認められる巻貝や解体痕の認められる骨資料について考察する。

アカニシ 17 点で殻体中央辺りに１もしくは２か所の孔が確認された。穿孔の方向は、外側から開けられたと考えられるものと内側からと考えられるものの両者があるように見える。大きな穿孔が認められる資料は、大坂城址や高松藩や佐賀藩などの大坂蔵屋敷跡などで出土しており、調理痕の可能性が指摘されている（松本ほか 2012、池田 2006）。高松城跡においても同様な調理法によって身を取り出したものが含まれる可能性がある。また、江戸時代の料理書には、吸物やつぼ焼きなどに調理したことを示す記述が認められる（吉井 2007d・2007g）。火を受けた痕跡が観察されたのは１点のみであったため、つぼ焼きにしたものは少なかったと推測される。殻軸のみ残存しているアカニシは、殻体が人為的に割られたことによって生じた破片と考えることもでき、殻を割って身を取り出す方法が多くの個体で行われた可能性がある。一方、小さな孔が開けられているものについては、蛸壺として利用された可能性が指摘できる。江戸時代の書物『日本山海名産図会』には、高砂の海でアカニシの殻がイイダコ漁に用いられていることが描かれており、香川の高見島や小手島では現在も同様の漁がおこなわれている。穿孔の場所や孔の大きさを比較することによって、高松城におけるアカニシの食用以外の殻利用の様相が明らかにできると考えられ興味深い。

サザエについては、殻体に孔が開いたものは１点のみ確認できた。アカニシと比較して殻体が薄く穿孔しやすい可能性はあるが、確認できたのは１点のみで、殻体中央部分に孔が確認できた。外側か内側のどちらから開けられたものかは不明瞭なものであったが、孔の延長上が殻口にあたり、殻を割って内側から蓋をはずす方法がとられた可能性が指摘できる。享保 15（1730）年に刊行された『料理網目調味抄』に「生ながら打くだき身を秡造りて生姜酢肴によし」とあり、殻を打ち砕いて身を取り出す方法がとられていたことがわかる（吉井 2007d）。

また、魚類や哺乳類には解体あるいは調理の際についたと考えられる切創や切断の痕跡が観察された。魚類は全資料の２割で切断あるいは切創が確認され、歯骨や主鰓蓋骨などの頭部の部位だけでなく、椎骨や棘にも刃物の痕跡が観察された。特にマダイの前頭骨や上後頭骨に残された痕跡は特徴的で、中央で左右に分断されたものが多く確認された。両側面が切断され、３分割された痕跡や、前後方向に切断されたものも一部に認められた。また、椎骨には椎体が前後に切断された痕跡からぶつ切り状に分割されたことがうかがえる。マダイの頭部を左右に分割したものは、広島城跡や徳島城下町遺跡などの近世の多くの遺跡で確認される痕跡で、高松城跡においても同様な調理法によって食されたことがわかる。元禄二（1689）年刊『合類日用料理抄』や正徳四（1714）年刊『當節節用料理大全』には、鯛の潮煮として「身もほねも常のごとく切」との調理法が記されており、マダイに残る切断痕は、汁物として食されたときの痕跡であろうことが示唆される（吉井 2007a・2007c）。

４．まとめ

高松城跡からは、貝類 21 種、魚類 17 種、両生類１種、爬虫類１種、鳥類５種、哺乳類７種が確認さ

れ、上級武士の屋敷地において多様な資源を利用していたことが示された。そのほとんどが食材として利用された残滓であると考えられる。貝類は、アカニシ、サザエ、ヤマトシジミ、ハマグリが多く利用され、魚類はマダイを主体に、スズキやフグ科、ハタ科などの海産魚類だけでなく、ナマズやフナ属、スッポンなどの淡水資源の利用も認められた。鳥類は大型のニワトリが多く認められ、コウノトリが確認されたことも特筆される。また、ニホンジカやネコ、イヌなどの哺乳類も多く確認された。

確認された種の多くが、江戸時代の料理書に記載が認められるもので、貝類や魚類だけでなくシカやイヌ、ウサギについても、汁や吸物、あるいは「かひやき」や「いりやき」などの記載が『料理物語』に認められ、焼き物にして食されたことがうかがえる（吉井 2007a）。魚類は出土量からもマダイが多く調理されていたことがうかがえ、料理書も多くの記載が認められる。マダイが多く出土する点は、近世の他の城跡や城下町遺跡などでも同様な特徴である。また、出土したフグ資料にも解体痕が認められることから、食されていたことがわかる。フグについては、『和漢三才図会』や『本草綱目』に毒があることが記されており、古くから毒があることが知られていたといえるが、その味が他の魚とは断然違うことや毒のない種類、あるいは毒にあたらない食べ方についての記載も認められ、これらの点を理解したうえで調理されていたことがうかがえる（島田ほか 1987b）。『古今料理集』や享和二（1802）年刊行の『名飯部類』に、ふぐ汁や河豚ぞうすいにして食されたことが記されている（吉井 2007b・2007f）。フグについては、広島城跡や松江城下町遺跡などで出土が認められるが、同じ四国に位置する徳島城下町跡からの出土は確認できず、地域によって好まれる魚種に差があった可能性がある。

高松城跡では、ニワトリの出土も目立っており、雄の標準体重が 2,300 g の蓑曳鶏の標本と同大のものやそれより大きなもの、あるいは雄の標準体重 1,700 g の東天紅の標本と同大のものなど複数の大きさが確認された。『料理物語』には、汁やさしみ、「玉子はふわふわ」など記載が認められ、様々な調理法によってニワトリの肉や卵が食べられていたことがわかる（吉井 2007a）。また、天明五（1785）年に刊行された『万宝料理秘密箱』にはニワトリを始めとした鳥類の肉と卵の調理法が記されており、多くの鳥類が様々に調理されて食されていたことがわかる（吉井 2007e）。

以上のように、高松城における上級武士の屋敷地では、前述した多様な動物資源を利用していたという特徴が示された。確認された貝類や魚類の種類からは、瀬戸内海沿岸域や河川流域で獲得できたものを主体に利用していたことが読み取れた。また、鳥類はコウノトリやカモ類なども少量確認されたことから、野生種の狩猟も行われたことを知ることができるが、飼育していたニワトリを多く利用していたと理解することができる。ニホンジカやアナグマなどの哺乳類も複数種確認され、獣類も利用していたことが示された。また、それらの骨に残された切創や切断痕からは、解体や当時の調理法を読み取ることができた。ニホンジカの頭蓋骨には鹿角を切断した痕跡が観察され、鹿角を加工して利用していた可能性も示唆される。

本報告では高松城跡出土資料の特徴について、一部周辺の近世城跡や城下町遺跡の特徴と比較しながら考察した。広域に人が移動し、また物が運搬される近世においても、出土する動物遺存体は、遺跡によってやや様相が異なっている部分が認められる。これは近世における動物資源利用の地域性や嗜好の差、あるいは周辺の自然環境や産業の違いを示している可能性がある。出土動物遺存体の遺跡間の比較は、近世の人々の暮らしや動物とのかかわりについて知るうえでの有益な情報が得られることから、今後各地で多くの資料が確認されることが期待される。

謝辞

本報告作成においては、香川県埋蔵文化財センターの山元素子氏より分析の機会をいただき、遺跡の調査情報についてご教示いただいた。また、資料の同定には、一部奈良文化財研究所環境考古学研究室の所蔵標本を使用した。本成果の一部には JSPS 科研費 JP26350376 の助成を利用した。記して、厚く感謝いたします。

参考文献

阿部永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 2008『日本の哺乳類』改訂 2 版 東海大学出版会

池田　研 2006「大坂城跡（03 － 1・OKS99）出土の貝類」『大坂城址』Ⅲ　大阪府文化財センター 543 － 552 頁

石丸恵利子・松井　章 2001「岡山城本丸下の段出土の動物遺存体」『史跡岡山城跡本丸下の段発掘調査報告』岡山市教育委員会 323 － 337 頁

石丸恵利子・富岡直人 2006「彦崎貝塚出土の動物遺存体」『彦崎貝塚－範囲確認調査報告書－』岡山市教育委員会　254 － 296 頁

石丸恵利子 2009「広島城下町の動物資源利用－広島城跡広島法務総合庁舎地点出土の動物遺存体－」『広島城跡法務総合庁舎地点－広島市中区上八丁堀所在－』財団法人広島市文化財団発掘調査報告書第 16 集 財団法人広島市文化財団 付編 3 － 1 1 － 48 頁

石丸恵利子・江田真毅 2011「松江城下町遺跡（殿町 287 番地）・（殿町 279 番地外）発掘調査報告書－松江歴史観整備事業に伴う発掘調査報告書－』松江市文化財調査報告書第 139 集 島根県松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団 37 － 57 頁

石丸恵利子 2016a「徳島城下町跡 徳島 1 丁目地点の動物資源利用－出土骨類の考察－」『徳島城下町跡徳島町 1 丁目地点－徳島地家簡裁庁舎敷地埋蔵文化財発掘調査報告書－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 88 集 徳島県教育委員会・公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター 629 － 649 頁

石丸恵利子 2016b「徳島城下町跡徳島 1 丁目地点における貝類資源の利用」『徳島城下町跡徳島町 1 丁目地点－徳島地家簡裁庁舎敷地埋蔵文化財発掘調査報告書－』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 88 集 徳島県教育委員会・公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター 650 － 659 頁

宇田川龍男 2006『原色新鳥類検索図鑑』森岡弘之編修 北隆館

内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関慎太郎 2005『決定版日本の両生爬虫類』平凡社

江田真毅 2010「松山城内・県民館跡地出土の鳥類遺体からみた松山藩における鳥類の利用」『東温史談』第 6 号 東温史談会 99 － 106 頁

奥谷喬司編著 2000『日本近海産貝類図鑑』東海大学出版会

奥谷喬司著 2001（第 23 刷）『学研の図鑑　貝』株式会社学習研究社

島田勇雄・竹島淳夫・樋口元巳 訳注 1987a『和漢三才図会』6 寺島良安著 東洋文庫 466 平凡社

島田勇雄・竹島淳夫・樋口元巳 訳注 1987b『和漢三才図会』7 寺島良安著 東洋文庫 466 平凡社

富岡直人 1998「岡山城二の丸跡出土の動物遺存体」『岡山城二の丸跡　中国電力内山下変電所建設に伴う調査報告』中国電力内山下変電所建設事業埋蔵文化財調査委員会　136 － 163 頁

中坊徹次編 2013『日本産魚類検索 全種の同定』第三版 東海大学出版会

藤原昌高 2015『美味しいマイナー魚介図鑑』株式会社マイナビ
増田　修・内山りゅう 2004『日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類』ピーシーズ生態写真図鑑シリーズ 2 株式会社ピーシーズ
松本百合子・渡邉晴香・川村紀子・池田　研 2012『中之島蔵屋敷跡発掘調査報告　北区中之島五丁目（もと扇町高等学校）における高松藩蔵屋敷跡発掘調査報告書』財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所
丸山真史・松井　章 2006「大坂城跡出土の魚類遺存体」『大坂城址』Ⅲ　財団法人大阪府文化財センター　445 － 466 頁
丸山真史・中原　計 2015「動物遺存体・骨角製品」『新蔵遺跡－地域・国際交流プラザ地点－』徳島大学埋蔵文化財調査報告書第 4 巻　国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室　538 － 554 頁
山元素子・岡本　利 1999『高松北警察署建設に伴う埋蔵文化財調査概報　高松城跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
吉井始子編著 2007a『翻訳江戸時代料理本集成』第一巻 臨川書店
吉井始子編著 2007b『翻訳江戸時代料理本集成』第二巻 臨川書店
吉井始子編著 2007c『翻訳江戸時代料理本集成』第三巻 臨川書店
吉井始子編著 2007d『翻訳江戸時代料理本集成』第四巻 臨川書店
吉井始子編著 2007e『翻訳江戸時代料理本集成』第五巻 臨川書店
吉井始子編著 2007f『翻訳江戸時代料理本集成』第七巻 臨川書店
吉井始子編著 2007g『翻訳江戸時代料理本集成』第八巻 臨川書店
Driesch, Angela Von Den 1976 A guide to the measurement of animal bones from archaeological sites. Peabody Museum Bulletins 1, Peabody Museum Press, Cambridge 137pp.

第６表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (1)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値＊（単位：mm）	図版番号
1	SK24	腹足綱	サザエ				1	孔あり	殻長 106.0, 殻幅 87	6
2	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 113.5, 殻幅 97.5	
3	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 107.0	
4	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 99.1, 殻幅 91.7	
5	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 135.3, 殻幅 113.6	
6	SK24	腹足綱	アカニシ				1	２か所孔（内側からか？）	殻長 118、殻幅 109	6
7	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 120.5	
8	SK24	腹足綱	アカニシ				1	穿孔あり（外側からか？）	殻幅 103.2	
9	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 130、殻幅 104.7	
10	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻幅 102.8	
11	SK24	腹足綱	アカニシ				1	中央部分大きく欠損	殻幅 100	
12	SK24	腹足綱	アカニシ				1	中央部分大きく欠損	殻長 135	
13	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻長部欠損あり、中央部分２か所孔（一か所から穿孔し２つ開いた？）	殻幅 112.6	6
14	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 129.3, 殻幅 117.6	6
15	SK24	腹足綱	アカニシ				1	中央部分大きく欠損のため計測不可		
16	SK24	腹足綱	アカニシ				1	小孔あり（外側からか）	殻長 112.2、殻幅 83.7	
17	SK24	腹足綱	アカニシ				1	孔あり（内側外側両者ありか）	殻長 132.8, 殻幅 110.2	
18	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 126.6、殻幅 109.5	
19	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 133.5、殻幅 102.8	
20	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻唇部外側黒色（焼け？）	殻長 113.8, 殻幅 100.7	
21	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 105	
22	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻軸先端欠損。殻体（殻唇部）内外側面黒色（焼け？）内側は奥まで黒色		
23	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 121.1、殻幅 95.9	
24	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 108.6、殻幅 94.2	
25	SK24	腹足綱	サザエ				1	殻長近くやや欠損	殻長 81.4、殻幅 70	
26	SK24	腹足綱	サザエ				1	殻長部欠損	殻幅 67.8	
27	SK24	腹足綱	サザエ				1	殻長・殻唇部欠損、小型	殻幅 55 以上	
28	SK24	腹足綱	サザエ				1	殻唇部欠損	殻長 58	
29	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			左	1	欠損あり	殻高 73.2、殻長 91.9	
30	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			左	1	腹縁部欠損	殻長 96.4（復元）	
31	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			左	1	腹縁部欠損あり	殻高 50.6、殻長 63.0(復元)	
32	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1	腹縁全体的に欠損	殻長 90 以上	
33	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 31.5、殻長 35.9	
34	SK24	二枚貝綱	ハマグリ		腹縁部		3	破片		
35	SK24	腹足綱	コシダカガンガラ				1		殻長 25.7、殻幅 29.5	6
36	SK24	二枚貝綱	イタボガキ			右	1		殻高 50.6、殻長 38.8	7
37	SK24	二枚貝綱	ハイガイ			右	1		殻高 29.1、殻長 36.8	7
38	SK24	二枚貝綱	ハイガイ			左	1		殻高 25.1、殻長 31.3	
39	SK24	腹足綱	ウミニナ				1		殻長 28.14、殻幅 12.5	6
40	SK24	腹足綱	サザエ蓋				1			
41	SK24	腹足綱	サザエ				2	破片	殻幅 29.6	
42	SK24	腹足綱	アカニシ		外唇縁		1	破片		
43	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ		殻頂部	右	1			
44	SK24	腹足綱	マダカアワビ				1		殻幅（長径）119.6	6
45	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻高 58.6、殻長 72.6	7
46	SK24	二枚貝綱	ハマグリ		殻頂部	左	1	腹縁部欠損		
47	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1	破片３点、殻頂部含む、計測不可		
48	SK24	二枚貝綱	ハマグリ		腹縁部		1			
49	SK24	腹足綱	スガイ				1		殻長 22.35	
50	SK24	腹足綱	イシダタミ				1		殻長 15.1、殻幅 15.01	
51	SK24	腹足綱	アカニシ		突起片		1	破片		
52	SK24	腹足綱	サザエ				1	殻頂部欠損	殻幅 62.4	
53	SK24	腹足綱	サザエ				1	殻頂部欠損	殻幅 59.3	
54	SK24	腹足綱	サザエ				1	殻頂部殻体部欠損（計測は不可）		
55	SK24	腹足綱	サザエ		殻軸		1			
56	SK24	腹足綱	サザエ		殻軸		1			
57	SK24	腹足綱	サザエ		殻軸		1			
58	SK24	腹足綱	サザエ		殻軸		1			
59	SK24	腹足綱	サザエ		殻軸		1			
60	SK24	二枚貝綱	イタボガキ			右	1	桧皮状部分は欠損か？	殻高 68.9、殻長 57.8	7
61	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻頂部欠損、計測不可		
62	SK24	腹足綱	アカニシ				1	小孔あり（内側からか）その部分の外面すす（火を受けたか？）	殻長 114.5、殻幅 87.8	
63	SK24	腹足綱	アカニシ				1	外唇縁欠損あり	殻長 126.2、殻幅 102.8	
64	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻軸先端欠損、外面の一部・内面焼け（黒色）	殻幅 101.6	
65	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 105.1、殻幅 103	
66	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻頂部欠損､穿孔（外側からか）､殻頂部付近焼け（灰色）、ヤマトシジミの殻皮が付着（殻自体はない）	殻幅 103.1	
67	SK24	腹足綱	アカニシ				1	欠損あり、穿孔かどうかは不明	殻長 105.8	
68	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 125.4、殻幅 105.7	
69	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 108.3、殻幅 97.5	
70	SK24	腹足綱	アカニシ				1	欠損大（計測不可）		
71	SK24	腹足綱	アカニシ				1	表面若干の焼け（灰色）	殻長 105.1、殻幅 88.7	
72	SK24	腹足綱	アカニシ				1	外唇縁欠損あり	殻長 88	
73	SK24	腹足綱	アカニシ				1	外唇縁大きく欠損あり	殻長 103.7	
74	SK24	腹足綱	アカニシ		殻片		1			
75	SK24	腹足綱	アカニシ		殻軸		1			
76	SK24	腹足綱	アカニシ		殻片		1			
77	SK24	腹足綱	スガイ				1	欠損顕著		
78	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻高 40.6、殻長 49.4	
79	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			左	1	殻頂部		
80	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1	殻頂部		
81	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1	殻頂部		
82	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1	殻頂部		
83	SK24	二枚貝綱	ハマグリ				2	破片		
84	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 26.01、殻長 27.5	
85	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 20.06、殻長 21.96	
86	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 30.29, 殻長 33.62	7
87	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 21.03、殻長 23.24	
88	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1	腹縁部欠損		
89	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1	腹縁部欠損		
90	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1	腹縁部欠損		
91	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1	腹縁部欠損		
92	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 19.31、殻長 20.9	
93	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 23.42、殻長 26.53	

第７表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (2)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値＊（単位：mm）	写真番号
94	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1	腹縁部欠損		
95	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1	腹縁部欠損		
96	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 16.41，殻長 18.1	
97	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻長 17.87	
98	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 14.6	
99	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻長 23.7	
100	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 19.35	
101	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 18.9、殻長 21.1	
102	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 25.16、殻長 27.63	
103	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 20.72	
104	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 19.26	
105	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 22.9、殻長 24.28	
106	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1			
107	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1			
108	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1			
109	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1			
110	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1			
111	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1			
112	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ				2	腹縁部破片		
113	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 34.0, 殻幅 25.5	
114	SK24	二枚貝綱	オキシジミ			右	1		殻高 36.5、殻長 36.76	7
115	SK24	二枚貝綱	ハイガイ			右	1		殻長 28.62、殻幅 35.12	
116	SK24	腹足綱	サザエ蓋				1		長径 30.31、短径 27.27	6
117	SK24	腹足綱	ウミニナ				1		殻長 27.85、殻幅 11.04	
118	SK24	腹足綱	ウミニナ				1		殻幅 11.34	
119	SK24	腹足綱	カワニナ				1		殻幅 11.64	6
120	SK24	腹足綱	カワニナ				1		殻幅 10.39	
121	SK24	腹足綱	コシダカガンガラ				1		殻幅 29.46	
122	SK24	腹足綱	コシダカガンガラ				1		殻幅 24.34	
123	SK24	腹足綱	イシダタミ				1		殻幅 15.05	
124	SK24	腹足綱	サザエ				2	殻体破片		
125	SK24	腹足綱	アカニシ				7	殻体破片		
126	SK24	二枚貝綱	不明				3	ハマグリかヤマトシジミ		
127	SK24	腹足綱	不明				6	サザエ？		
128	SK24	硬骨魚綱	不明	棘			1			
129	SK24	硬骨魚綱	不明	椎骨			1	破片、やや大型		
130	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.53、殻長 23.58	
131	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.54、殻長 24.69	
132	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 20.86、殻長 22.95	
133	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.1、殻長 24.43	
134	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 18.46、殻長 21.0	
135	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 20.49、殻長 22.76	
136	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 18.77、殻長 20.68	
137	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 17.4、殻長 17.97	
138	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 23.09、殻長 23.11	
139	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 23.4、殻長 27.25	
140	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 20.57、殻長 22.03	
141	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 22.65、殻長 23.79	
142	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 16.45、殻長 17.22	
143	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻長 19.78	
144	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1	殻頂部		
145	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 19.4、殻長 21.62	
146	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 20.35、殻長 23.07	
147	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 21.43、殻長 24.03	
148	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 19.96、殻長 21.9	
149	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 18.07	
150	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 18.51	
151	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 16.32、殻長 18.15	
152	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1	殻頂部		
153	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1	殻頂部		
154	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1	腹縁部		
155	SK23	二枚貝綱	ハマグリ				1	殻頂部		
156	SK23	腹足綱	サザエ蓋				1		長径 33.9、短径 30.9	
157	SK23	腹足綱	サザエ蓋				1	欠損（約半分）		
158	SK23	腹足綱	コシダカガンガラ				1	殻頂部		
159	SK23	腹足綱	スガイ				1	殻頂部		
160	SK23	腹足綱	スガイ				1	殻頂部		
161	SK23	腹足綱	不明				9	破片、アカニシ含む		
162	SK23	硬骨魚綱	不明	棘			1	タイ科の第２臀鰭棘か		
163	SK23	硬骨魚綱	不明	主鰓蓋骨？		右	1	タイ科か		
164	SK23	腹足綱	アカニシ	殻軸			1	小、計測不可（殻長 52mm程度）		
165	SK23	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
166	SK23	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
167	SK23	腹足綱	アカニシ	殻体			7	破片		
168	SK23	腹足綱	サザエ	殻体			1	破片		
169	SK23	腹足綱	カワニナ				1		殻幅 13.51	6
170	SK23	腹足綱	ツメタガイ				1		殻幅 53mm以上	
171	SK23	腹足綱	ツメタガイ				1		殻幅 40mm以上	6
172	SK23	腹足綱	ツメタガイ				1		殻幅 29mm以上	
173	SK23	二枚貝綱	カガミガイ			右	1		殻高 34.7、殻長 35.8mm	7
174	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 41.2	
175	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 38.7、殻長 44.7	
176	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 35.6 以上	
177	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻高 37.2、殻長 44.3	
178	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻高 40.55	
179	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻高 38.8 以上、殻長 44.8	
180	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			左	1	計測不可		
181	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			左	1	計測不可		
182	SK23	二枚貝綱	ハマグリ				3	破片		
183	SK23	二枚貝綱	ハイガイ			右	1		殻高 29.9、殻長 34.3	
184	SK23	二枚貝綱	ハイガイ			左	1		殻高 26.6、殻長 32.64	
185	SK23	二枚貝綱	サルボウガイ			右	1		殻長 36.33	
186	SK23	二枚貝綱	サルボウガイ			右	1		殻高 23.9、殻長 32.12	7
187	SK23	二枚貝綱	サルボウガイ			右	1		殻高 21.6、殻長 29.35	
188	SK23	二枚貝綱	サルボウガイ			左	1		殻高 29.4、殻長 35.38	
189	SK23	二枚貝綱	サルボウガイ			左	1		殻高 25.94、殻長 32.11	
190	SK23	二枚貝綱	サルボウガイ			左	1		殻高 26.7、殻長 34.56	7
191	SK23	二枚貝綱	サルボウガイ			左	1		殻高 23.12	
192	SK23	二枚貝綱	サルボウガイ			左	1		殻高 21.92、殻長 29.26	
193	SX27	腹足綱	アカニシ				6	破片		

第８表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (3)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値＊（単位：mm）	写真番号
194	SK23	腹足綱	ツメタガイ				1	破片		
195	SK23	腹足綱	不明巻貝	殻軸			6	破片		
196	SK23	腹足綱	アカニシ？				6	破片		
197	SK23	腹足綱	サザエ？				1	破片		
198	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ				複数	破片（左右不明、殻頂部欠損のもの）		
199	SK23	腹足綱	サザエ？				1	破片		
200	SK23	不明	不明				1	骨類、焼け（白色）		
201	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻長 23.44	
202	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
203	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
204	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
205	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
206	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 22.54、殻長 23.6	
207	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
208	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
209	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
210	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
211	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ				6			
212	SK23	腹足綱	アカニシ				1	殻頂部付近に孔（斜め下方直線状も欠損）	殻長 136.48	
213	SK23	腹足綱	アカニシ				1	殻体欠損あり	殻長 111.78	
214	SK23	腹足綱	アカニシ				1	破片		
215	SK23	腹足綱	ツメタガイ				1		殻幅 37.03	
216	SK23	二枚貝綱	マガキ			左?	1			
217	SK23	二枚貝綱	ハイガイ			左	1		殻高 23.19、殻長 27.13	
218	SK23	二枚貝綱	ハイガイ			右	1	欠損のため計測不可		
219	SK23	二枚貝綱	サルボウガイ			右	1		殻高 24.73、殻長 32.29	
220	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 23.4、殻長 24.14	
221	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 26.03、殻長 27.17	
222	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 19.75、殻長 21.9	
223	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 18.34、殻長 19.04	
224	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 43.85、殻長 50.97	
225	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 40.21	
226	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			右	1			
227	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 39.23	
228	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 33.02	
229	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻高 38.63、殻長 45.26	
230	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			左	1			
231	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻高 32.87	
232	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			左	1			
233	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			左	1			
234	SK23	腹足綱	アカニシ				1	殻頂部欠損、殻体部孔（外側から打ち欠いた状態で外唇部も欠損）		
235	SK23	腹足綱	アカニシ	殻体破片			2			
236	SK24	腹足綱	アカニシ				1	完形	殻長 134.93、殻幅 115.04	
237	SK24	腹足綱	アカニシ				1	完形、殻頂部カキ付着	殻長 129.77、殻幅 102.37	
238	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻体一部焼け（灰色）	殻長 94.8、殻幅 75.66	
239	SK24	腹足綱	サザエ				1	外唇部欠損あり	殻長 82.48、殻幅 66.72	
240	SK24	腹足綱	サザエ				1	殻頂部・外唇部欠損		
241	SK24	腹足綱	サザエ蓋				1		長径 34.27、短径 30.24	6
242	SK24	腹足綱	サザエ蓋				1		長径 34.48、短径 31.5	
243	SK24	腹足綱	サザエ	殻軸			1			
244	SK24	腹足綱	ツメタガイ				1		殻幅 32.39	
245	SK24	腹足綱	ウミニナ				1	殻頂部やや欠損	殻長 33、殻幅 16.28	6
246	SK24	腹足綱	ウミニナ				1		殻長 27.01、殻幅 11.36	
247	SK24	腹足綱	コシダカガンガラ				1		殻幅 23.38	6
248	SK24	腹足綱	コシダカガンガラ				1		殻幅 22.07	6
249	SK24	二枚貝綱	ハマグリ	破片			1			
250	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 38.36、殻長 43.2	
251	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 41.5	
252	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1			
253	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻長 37.55	
254	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻高 71.53、殻長 88.03	
255	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻長 44.89	
256	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			左	1			
257	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			左	1			
258	SK24	二枚貝綱	ハイガイ			右	1		殻高 28.93、殻長 34.16	
259	SK24	二枚貝綱	イタボガキ			右	1	檜皮状の縁辺消失か	残：殻高 66.82、殻長 56.26	
260	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 26.12、殻長 27.41	
261	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 23.17、殻長 26.47	
262	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 24.63、殻長 27.11	
263	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 23.48	
264	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 25.96、殻長 29.84	
265	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 26.29、殻長 28.98	
266	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.43、殻長 24.84	
267	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 24.57、殻長 26.97	
268	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻長 30.84	
269	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 23.46、殻長 24.86	
270	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 18.75、殻長 21.92	
271	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 17.07、殻長 19.01	
272	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.57	
273	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
274	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
275	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 16.55	
276	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 145.85、殻幅 117	
277	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻頂部・外唇部欠損	殻長 117.5	
278	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻体穿孔（外側からか）	殻長 118.35、殻幅 101.76	
279	SK24	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
280	SK24	腹足綱	アカニシ	殻体破片			1			
281	SK24	二枚貝綱	不明	腹縁破片			1			
282	SK24	二枚貝綱	イタボガキ			左	1		殻長 53.61	
283	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 29.53	
284	SK24	腹足綱	サザエ？	殻体破片			1			
285	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻頂部欠損	殻幅 107.77	
286	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻頂部・外唇部欠損	殻幅 104.77	
287	SK24	腹足綱	アカニシ	破片			6			
288	SK24	腹足綱	サザエ蓋	破片			1			
289	SK24	腹足綱	サザエ	破片			1	焼け（灰色）		
290	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻頂部欠損	残：殻長 47.28	
291	SK24	腹足綱	イシダタミ				1		殻長 15.1、殻幅 15.09	
292	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻体部欠損、殻頂部やや欠損	殻長 143.4	

第９表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (4)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値＊（単位：mm）	別番号
293	SK24	腹足綱	アカニシ				1	殻軸端部欠損	殻幅 86.84	
294	SK24	腹足綱	サザエ				1		殻長 82.19、殻幅 66.8	
295	SK24	腹足綱	サザエ				1	外唇部欠損あり	殻長 83.4、殻幅 65.23	
296	SK24	腹足綱	サザエ				1	欠損あり		
297	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 69.05、殻長 92.32	
298	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1	297 と同大		
299	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 43.3、殻長 52.71	
300	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 38.6	
301	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻高 40.39、殻長 49.38	
302	SK24	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 26.32、殻長 29.33	
303	SK24	二枚貝綱	カガミガイ			右	1		殻高 56.1、殻長 59.07	
304	SK24	腹足綱	サザエ	破片			1			
305	SK24	腹足綱	アカニシ	破片			1			
306	SK18	腹足綱	アカニシ				1	殻頂部・外唇部欠損	残：殻長 129.64、殻幅 116.55	
307	SK18	腹足綱	アカニシ				1	外唇部・殻軸端部欠損あり	残：殻幅 102.8	
308	SK18	腹足綱	アカニシ				1	殻頂部・外唇部欠損	残：殻長 109.24、殻幅 73.85	
309	SK18	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
310	SK18	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
311	SK18	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
312	SK18	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
313	SK18	腹足綱	アカニシ	破片			10			
314	SK18	腹足綱	サザエ				1		殻長 80.88	
315	SK18	腹足綱	サザエ				1	欠損あり	殻長 79.45	
316	SK18	腹足綱	サザエ	殻軸			1			
317	SK18	腹足綱	サザエ蓋				1		長径 35.08、短径 31.6	
318	SK18	腹足綱	サザエ	破片			1			
319	SK18	二枚貝綱	ハマグリ			左	1			
320	SK18	二枚貝綱	ハマグリ	破片			1			
321	SK18	二枚貝綱	ハマグリ	破片			2			
322	SK23 北西	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 16.34、殻長 17.6	
323	SK23 北西	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 17.25	
324	SK23 北西	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1		殻高 22.08、殻長 25.9	
325	SK23 北西	二枚貝綱	ヤマトシジミ	殻頂部			13	他左右不明殻体破片多数		
326	SK23 北西	腹足綱	アカニシ	破片			多数			
327	SK23 北西	腹足綱	アカニシ	殻軸			1	焼け（部分的に黒色）		
328	SK23 北西	腹足綱	アカニシ	破片			多数			
329	SK23 北西	腹足綱	サザエ	破片			3			
330	SK23 北西	腹足綱	イシダタミ				2			
331	SK23 北西	腹足綱	不明巻貝蓋				17	スガイか？		
332	SK23 北西	腹足綱	不明巻貝	殻軸			25			
333	SK23 北西	腹足綱	不明巻貝				1			
334	SK23 北西	腹足綱	ウミニナ？				1			
335	SK23 北西	腹足綱	不明				1	イボニシ／レイシ（より小）	殻長 15mm程度	
336	SK23 北西	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.8、殻長 24.56	
337	SK23 北西	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 22.27、殻長 24.46	
338	SK23 北西	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 20.46、殻長 22.35	
339	SK23 北西	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 13.22、殻長 14.4	
340	SK23 北西	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
341	SK23 北西	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
342	SK23 北西	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
343	SK23 北西	二枚貝綱	ヤマトシジミ	殻頂部			20	他左右不明殻体破片多数		
344	SK23 北西	二枚貝綱	ハマグリ				1			
345	SK23 北西	不明	不明	不明			5	石？（灰色）		
346	攪乱	腹足綱	アカニシ	殻軸、殻体			1	破片		
347	攪乱精査中	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 23.12、殻長 25.29	
348	攪乱精査中	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1	縁辺欠損		
349	攪乱精査中	腹足綱	サザエ蓋				1		長径 32、短径 29.83	
350	攪乱	不明	不明	不明			2	石？（灰色、白色）		
351	南壁面かべ切中	二枚貝綱	イタヤガイ			左	1	破片		7
352	南壁面かべ切中	二枚貝綱	イチョウシラトリ			右	2		殻長 17.83	7
353	南壁面かべ切中	脊椎動物門	骨？				3	焼け（灰色、褐色）		
354	SD04 ②③境アゼ中	腹足綱	ツメタガイ				1		殻幅 56.24	
355	攪乱	二枚貝綱	ハマグリ				1	縁辺		
356	SD04	二枚貝綱	ハマグリ			左	1			
357	攪乱	腹足綱	アカニシ	殻軸			1	他破片 1	殻長 82.44	
358	攪乱	腹足綱	サザエ	殻軸			1	他破片 1		
359	攪乱	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻幅 60mm程度	
360	攪乱	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻幅 27mm程度	
361	SP52	腹足綱	アカニシ	殻体			1			
362	SP38	腹足綱	アカニシ	殻体			1			
363	SD04	腹足綱	アカニシ	殻体			1			
364	攪乱	腹足綱	アカニシ	殻体			1			
365	SE02、SK23 上面	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
366	SK12	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
367	SE02、SK23 上面	腹足綱	アカニシ	殻軸			2			
368	SE02、SK23 上面	腹足綱	アカニシ	殻体			1			
369	SK18 上層	腹足綱	アカニシ	殻体			2			
370	SK10	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
371	SE05	腹足綱	アカニシ	殻軸			1	他破片 1		
372	SK23(南)	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
373	SK23(南)	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
374	SK24	腹足綱	サザエ	殻軸			1			
375	SK24	腹足綱	サザエ	殻軸			1			
376	SK24	腹足綱	サザエ蓋				1		長径 35.11、短径 31.93	
377	SK24・25 境アゼ中	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
378	SK24・25 境アゼ中	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
379	SK24・25 境アゼ中	腹足綱	アカニシ	殻体			3			
380	SK24・25 境アゼ中	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 22.42、殻長 25.49	
381	SK24・25 境アゼ中	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 23.96、殻長 24.96	
382	SK24 付近攪乱上精査	腹足綱	サザエ	殻体			1			

第10表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (5)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値＊（単位：mm）	写真番号
383	SK24	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
384	SK24	腹足綱	アカニシ	殻体			3			
385	SK24	腹足綱	サザエ	殻軸			1			
386	SK24	腹足綱	アカニシ				1		殻長 132.7	
387	SK24	腹足綱	アカニシ	殻体			2			
388	SK24	腹足綱	サザエ	殻軸			1		殻長 52.7	
389	SK24	腹足綱	サザエ蓋				1		長径 42.1、短径 37.83	
390	SK24	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 51.65、殻長 64.17	
391	SK24	二枚貝綱	ハマグリ				1			
392	SK18	腹足綱	アカニシ				1	外面焼け（褐色）あり、表面カキ付着あり	殻長 113.34、殻幅 96.91	
393	SK18	腹足綱	アカニシ	殻体			7	破片		
394	SK18	腹足綱	レイシガイ				1		殻長 45.81、殻幅 28.3	6
395	SK18	腹足綱	サザエ	殻体			1			
396	SK18	腹足綱	イシダタミ				1		殻長 19.34、幅 18.3	6
397	SK18	腹足綱	カワニナ				1		残：殻幅 8.88	
398	SK18	腹足綱	スガイ	殻軸			1			
399	SK18	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻高 40.8	
400	SK18	二枚貝綱	ハマグリ			左	1			
401	SK18	二枚貝綱	ハマグリ			左	1			
402	SK18	二枚貝綱	ハマグリ	殻長			3	他殻体破片 2		
403	SK18	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 19.91、殻長 21.27	
404	SK18	二枚貝綱	ヤマトシジミ	殻頂			2	他殻体破片 2		
405	SK23	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻高 38.01	
406	SK23	腹足綱	アカニシ				1			
407	SK23	腹足綱	アカニシ				1	他殻体破片 2		
408	SX26	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
409	SK23(南)	腹足綱	アカニシ	殻体			2	破片		
410	SK23(南)	腹足綱	サザエ	殻軸			1			
411	SK23(南)	二枚貝綱	サルボウガイ			右	1		殻高 27.24	
412	SK23(南)	二枚貝綱	ハマグリ	殻体			1	破片		
413	SK23(東)	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 20.77、殻長 23.87	
414	SK23(東)	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 20.86、殻長 22.56	
415	SK23(東)	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
416	SK23(東)	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
417	SK23(東)	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.86	
418	SK23(東)	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 24.08	
419	SK23(東)	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 22.86	
420	SK23(東)	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1		殻高 21.21	
421	SK23(東)	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1		殻高 19.14	
422	SK23(東)	腹足綱	アカニシ				1			
423	SK23(東)	腹足綱	アカニシ	殻体			3	破片		
424	SK23(東)	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1	破片		
425	SK23(東)	二枚貝綱	ハマグリ			左	1			
426	SK23(東)	腹足綱	ウミニナ				1		殻幅 11.59	
427	SK23(東)	腹足綱	ウミニナ				1			
428	SK23(東)	腹足綱	サザエ				1			
429	SK23(東)	腹足綱	サザエ蓋				1		短径 30.89	
430	SK23(東)	腹足綱	アカニシ				1			
431	SK23(東)	腹足綱	ツメタガイ				1			
432	SK23(東)	腹足綱	ツメタガイ				1			
433	SK23(北西)	腹足綱	アカニシ				1		殻長 112.56、殻幅 98.71	
434	SK23(北西)	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
435	SK23(北西)	腹足綱	アカニシ	殻体			5	破片		
436	SK23(北西)	腹足綱	サザエ				1		殻長 71.74	
437	SK23(北西)	腹足綱	サザエ				1			
438	SK23(北西)	腹足綱	サザエ				1			
439	SK23(北西)	腹足綱	サザエ	殻体			1	破片		
440	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 20.03	
441	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 21.57	
442	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 19.93	
443	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1		殻高 17.75	
444	SK23	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1			
445	SK23	二枚貝綱	ハマグリ				1	左右不明		
446	SK23	腹足綱	ツメタガイ				1			
447	SK23	腹足綱	ツメタガイ				1			
448	SK23	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
449	SK23	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
450	SK23	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
451	SK23	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
452	SK23	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
453	SK23	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
454	SK23	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
455	SK23	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
456	SK23	腹足綱	アカニシ	殻体			5			
457	SK23	腹足綱	サザエ	殻軸			1	他殻体破片 3		
458	SK23（北）	腹足綱	アカニシ				1		殻長 119.01、殻幅 94.31	
459	SK23（北）	腹足綱	アカニシ				1			
460	SK23（北）	腹足綱	アカニシ				1			
461	SK23（北）	腹足綱	アカニシ				1			
462	SK23（北）	腹足綱	アカニシ				1			
463	SK23（北）	腹足綱	アカニシ				1			
464	SK23（北）	腹足綱	アカニシ	殻体			2	破片		
465	SK23Tr	腹足綱	アカニシ				1	穿孔あり（内側から）	殻長 119.64、殻幅 97.45	
466	SK23Tr	腹足綱	アカニシ				1		殻長 76.03	
467	SK23Tr	腹足綱	アカニシ				1			
468	SK23Tr	腹足綱	テングニシ				1		殻長 95.83	6
469	SK23Tr	腹足綱	ツメタガイ				1		殻幅 38.33	6
470	SK23Tr	腹足綱	サザエ	殻軸			1			
471	SK23Tr	腹足綱	サザエ蓋				1		長径 34.34、短径 31.28	
472	SK23Tr	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 20.48、殻長 23.18	
473	SK23Tr	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 21.64	
474	SK23Tr	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 16.45、殻長 20.49	
475	SK23Tr	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 18.34	
476	SK23Tr	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 23.94、殻長 26.52	
477	SK23Tr	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻長 22.84	
478	SK23Tr	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻長 20.46	
479	SK23Tr	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻長 24.59	
480	SK23Tr	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
481	SK23Tr	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
482	SK23Tr	二枚貝綱	ヤマトシジミ				4	左右不明		
483	SK23Tr	二枚貝綱	ハマグリ			右	1			
484	SK23Tr	腹足綱	アカニシ	殻体			2			
485	SK23	腹足綱	アカニシ				1	穿孔あり（内側からか）	殻長 114.33	

第 11 表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (6)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値＊（単位：mm）	写真番号
486	SK23	腹足綱	アカニシ				1	穿孔あり（内側からか）		
487	SK23	腹足綱	アカニシ	殻体			4			
488	SK23	腹足綱	サザエ				1			
489	SK23（西）	腹足綱	アカニシ				1		殻幅 100.39	
490	SK23（西）	腹足綱	アカニシ				1			
491	SK23（西）	腹足綱	アカニシ				1			
492	SK23（西）	腹足綱	アカニシ				1			
493	SK23（西）	腹足綱	アカニシ				2			
494	SK23（西）	腹足綱	サザエ				1		殻長 90.14	
495	SK23（西）	腹足綱	アカニシ				1	穿孔あり（外側からか）		
496	SK23（西）	腹足綱	アカニシ				1	穿孔あり（方向不明）		
497	SK23（西）	腹足綱	アカニシ				1		殻長 96.08	
498	SK23（西）	腹足綱	サザエ蓋				1		短径 25.08	
499	SK23（西）	腹足綱	アカニシ	殻体			6	破片		
500	SK23（西）	腹足綱	サザエ	殻体			20	破片		
501	SK23（西）	腹足綱	不明蓋				2			
502	SK23（西）	硬骨魚綱	不明	鰓蓋骨？			1			
503	SK23（西）	腹足綱	アカニシ				1			
504	SK23（西）	腹足綱	テングニシ				2			
505	SK23（西）	腹足綱	サザエ	殻軸			10			
506	SK23（西）	腹足綱	サザエ	殻頂部			8			
507	SK23（西）	腹足綱	不明巻貝	殻軸			6			
508	SK23（西）	腹足綱	コシダカガンガラ				1		殻長 18.24、殻幅 25.36	
509	SK23（西）	腹足綱	コシダカガンガラ				1		殻長 17.12、殻幅 23.44	
510	SK23（西）	腹足綱	コシダカガンガラ				1		殻長 16.2、殻幅 23.9	
511	SK23（西）	腹足綱	コシダカガンガラ	殻頂部			1			
512	SK23（西）	腹足綱	カワニナ				1		殻幅 8.42	
513	SK23（西）	腹足綱	ウミニナ				1		殻長 28.29	
514	SK23（西）	腹足綱	ウミニナ				1		殻長 26.6	
515	SK23（西）	腹足綱	イシダタミ				1			
516	SK23（西）	腹足綱	スガイ？				1			
517	SK23（西）	腹足綱	スガイ？				1			
518	SK23（西）	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 49.66	
519	SK23（西）	二枚貝綱	ハマグリ				8			
520	SK23（西）	腹足綱	サザエ	殻体			1	破片		
521	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 20.99、殻長 23.43	
522	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 23.18	
523	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 19.3、殻長 21.24	
524	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 19.79、殻長 22.05	
525	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 23.2、殻長 25.44	
526	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 19.69	
527	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.85	
528	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 20.22	
529	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.16、殻長 23.00	
530	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
531	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
532	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.03	
533	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 20.87、殻長 22.74	
534	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 18.18	
535	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.79	
536	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.12	
537	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻長 27.93	
538	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻長 18.56	
539	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 18.3、殻長 19.41	
540	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 22.66、殻長 24.67	
541	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻長 21.25	
542	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 19.59	
543	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻長 26.39	
544	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 20.22	
545	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
546	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
547	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 23.47、殻長 26.24	
548	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.58	
549	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
550	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
551	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.75	
552	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
553	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
554	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 20.61、殻長 22.73	
555	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 23.57	
556	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 17.61、殻長 20.42	
557	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.93	
558	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 23.34	
559	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 23.94、殻長 25.29	
560	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 25.03	
561	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 22.46	
562	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.87、殻長 23.55	
563	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
564	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 19.91	
565	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 21.16	
566	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 25.8	
567	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
568	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
569	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 21.91	
570	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
571	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 22、殻長 24.01	
572	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻長 23.45	
573	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 23.55、殻長 26.22	
574	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻長 22.7	
575	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 21.82	
576	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 19.31	
577	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 20.19	
578	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 24.16	
579	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 25.06、殻長 27.43	
580	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 21.42、殻長 23.1	
581	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
582	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
583	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
584	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 19.65、殻長 21.9	
585	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
586	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
587	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
588	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 20.01	
589	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			

第 12 表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (7)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値＊（単位：mm）	写真番号
590	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 23.86、殻長 25.43	
591	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
592	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
593	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
594	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
595	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
596	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 16.87、殻長 18.37	
597	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
598	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 20.76	
599	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
600	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
601	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
602	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 19.51	
603	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1		殻高 19.95	
604	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
605	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
606	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
607	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
608	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.27	
609	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
610	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1			
611	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1			
612	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	7			
613	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	3			
614	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ				62	左右不明、殻頂部含む		
615	SK23（西）	二枚貝綱	ヤマトシジミ				複数	破片		
616	SK23（西）	二枚貝綱	カガミガイ？	殻頂部		右	1			
617	SK23（西）	二枚貝綱	ハマグリ？	殻頂部		右	1			
618	SK23	硬骨魚綱	不明	棘			3			
619	SK23	硬骨魚綱	不明	第一血管間棘			1			
620	SK23	鳥綱	サギ科	脛足根骨	骨幹部～遠位	右	1	アオサギ標本とほぼ同大	Bd:12.67	12
621	SK23	不明	不明				3	うち１点焼け（白色）		
622	SK23Tr	硬骨魚綱	不明	不明			1	マグロ属の棘？		
623	SK23(南)	硬骨魚綱	タイ科	椎骨			1	尾椎	縦径 11.82	
624	SK23(南)	硬骨魚綱	マダイ亜科	歯骨			1		① 25.08、② 8.87、③ 21.06、⑩ 14.91	
625	SK23(南)	硬骨魚綱	不明	脛足根骨	近位～骨幹部	右	1	オオワシ、コハクチョウ大		
626	SK23(南)	不明	不明	不明			1			
627	SK23(北)	哺乳綱	ニホンジカ	大腿骨	近位～遠位	左	1	近位遠位ともに未化骨、遠位後方に刃物が入ったような痕跡？		
628	SK23(北)	鳥綱	ニワトリ	手根中手骨		左	1	蓑曳オスよりやや大	GL:47.07,Bp:14.12,Did:8.56	12
629	SK18	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1		③ 55.01、④ 5.38	
630	SK18	哺乳綱	ニホンジカ	尺骨		左	1		DPA:29.65,BPC:15.44	
631	SE05	哺乳綱	イヌ	上腕骨	近位部～遠位	右	1	近位部内側に斜めの切創？。遠位化骨済	SD:10.62,Bd:27.85,BT:17.97	13
632	SK23	硬骨魚綱	スズキ	主鰓蓋骨		右	1		⑬ 5.71	
633	SK23	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	中央部左右に切断		
634	SK23	鳥綱	キジ科	上腕骨	近位	左	1	キジ雄と同大	Bp17.73	
635	SK23	鳥綱	ニワトリ	足根中足骨	遠位	左	1	雄、蓑曳オスよりやや小	Bd15.8	
636	SK23	鳥綱	ニワトリ	脛足根骨	近位～遠位部	左	1	蓑曳オスと同大	Dip24.66	12
637	SK23	鳥綱	ニワトリ	大腿骨		左	1	白色レグホンメスより小	SC6.19,Bd13.93	
638	SK23(東)	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1		③ 42.81、④ 3.29、⑤ 15.64	
639	SK23(東)	鳥綱	不明	頭骨			1	ニワトリ大		
640	SK23(東)	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	下顎体	右	1	M_2M_3	M_2(長・幅):13.74,10.38,M_3:21.92,10.89, C（下顎体幅）:22.89, 摩滅指数 M_2=2,M_3=2	
641	SK18	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎		1		前方縦径 11.97	
642	SK18	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎		1		前方縦径 8.51	
643	SE02、SK23 上面	哺乳綱	ニホンジカ	脛骨		左	1	近位未化骨	Bd:28.6	
644	SE02、SK23 上面	哺乳綱	ニホンジカ	橈骨		左	1	両端部化骨済	Bp:33.24,Bd:27.63	
645	SE02、SK23 上面	硬骨魚綱	スズキ属	歯骨		左	1		③ 35.23, ④ 34.99、⑦ 12.81、⑨ 15.77	
646	SE02、SK23 上面	硬骨魚綱	スズキ属	歯骨		右	1		③ 34.68、④ 34.22、⑦ 12.3	
647	SE02、SK23 上面	硬骨魚綱	スズキ属	前上顎骨		右	1	645 ～ 647 は同一個体か	② 14.58、④ 8.58、⑤ 2.6、⑧ 4.63	
648	SK23(南)	哺乳綱	ニホンジカ	上腕骨		右	1	近位未化骨、遠位はわずかに未化骨の線のみ残	GL:166.82、Bp:41.4,BT:32.81	
649	SK23(南)	哺乳綱	ニホンジカ	基節骨			1	両端部化骨済	GL:40.33,Bp:13.14,Bd:12.37	
650	SK23(南)	哺乳綱	ニホンジカ	基節骨			1	両端部化骨済	GL:40.32,Bp:13.4,Bd:11.97	
651	SK23(南)	哺乳綱	ニホンジカ	中手／中足骨	遠位端		1	未化骨、一方の滑車		
652	SK23(南)	哺乳綱	ニホンジカ	肋骨		右	1			
653	SK23(南)	鳥綱	ニワトリ	上腕骨		左	1	蓑曳オスよりやや大	GL:90.19,Bp:23.5,Bd:19.13,SC:8.52	12
654	SK23(南)	鳥綱	ニワトリ	脛足根骨		左	1	蓑曳オスよりやや大	La:141.26,Dip:28.26,Dd:14.14, SC:8.81	12
655	SK23(南)	鳥綱	ニワトリ？	胸骨			1			
656	SK23(南)	鳥綱	不明	四肢骨	骨幹部		1			
657	SK23(南)	鳥綱	不明	不明			4			
658	SK23(南)	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1	前後に切断	⑤ 13.41	
659	SK23(南)	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	中央で左右に切断		
660	SK23(南)	硬骨魚綱	マダイ亜科	前上顎骨		左	1		① 37.26、⑥ 14.13、⑦ 9.56、⑧ 9.28、⑪ 6.15、⑫ 5.49、⑬ 5.57、⑭ 6.68	
661	SK23(南)	硬骨魚綱	マダイ亜科	前上顎骨		右	1		⑥ 11.87、⑦ 8.4、⑧ 8.37、⑪ 5.81、⑫ 4.74、⑬ 4.9、⑭ 6.49	
662	SK23(南)	硬骨魚綱	マダイ亜科	方骨		左	1		⑥ 6.83、⑦ 7.22、⑧ 8.59、⑨ 2.37、⑩ 6.14	
663	SK23(南)	硬骨魚綱	マダイ亜科	主鰓蓋骨		右	1	関節部分前後に切断か	⑩ 2.12	
664	SK23(南)	硬骨魚綱	マダイ	上鎖骨		左	1			
665	SE02、SK23 上面	硬骨魚綱	フグ科	歯骨		左	1	トラフグ大	① 16.81, ② 5.45, ③ 21.97	
666	SK17	哺乳綱	イノシシ類	脛骨	遠位	左	1	化骨済、欠損あり		13
667	SK17	哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部		3			
668	SK12 上層	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	右側片		1	中央で左右に切断		
669	SK12 上層	硬骨魚綱	マダイ亜科	主鰓蓋骨		右	1	関節部分に刃物が途中で止まったような痕跡	④ 7.39、⑤ 2.73、⑥ 3.07、⑦ 3.01	
670	SK12 上層	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	筋突起	右	1	筋突起外側に切創？		
671	SK12 上層	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	下顎体後方	左	1			
672	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	中央で左右に切断		

第 13 表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (8)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値 *（単位：mm）	別番号
673	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ亜科	主上顎骨		右	1		① 38.26、② 37.15、③ 14.87、④ 11.37、⑤ 10.07、⑥ 4.61、⑦ 10.32、⑧ 6.02、⑨ 7.21、⑩ 7.53、⑪ 4.35	
674	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ亜科	主鰓蓋骨		右	1		④ 6.36、⑤ 2.42、⑥ 2.87、⑦ 2.9、⑧ 5.29、⑩ 2.08	
675	SK23 北西	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎		1	後方破片、前後で切断か	後方縦径 9.27	
676	SK23 北西	硬骨魚綱	ハタ科	角舌骨		左	1		① 36.14、② 37.28、③ 6.6、④ 35.2、⑤ 26.46、⑥ 2.71、⑦ 2.92、⑧ 4.51、⑩ 4.88	
677	SK23 北西	哺乳綱	ニホンジカ / イノシシ類	椎骨	胸椎突起		1			
678	SK23 北西	鳥綱	コウノトリ	大腿骨	近位～骨幹部	右	1	奈文研標本メスと同大	Bp:27.97	
679	SK23 北西	鳥綱	コウノトリ	脛足根骨	近位部～遠位	左	1	滑車部一部欠損あり (外側前方部は切断か？)、奈文研標本オスよりやや大：長（Bd はわずかに標本より小）	Bd:17.08,Dd:20.83	12
680	SK23 北西	鳥綱	コウノトリ	脛足根骨	近位部・遠位	右	1	接合はせず、奈文研標本オスと同大	Bd:16.96,Dd:21.35	
681	SK23 北西	鳥綱	カモ科	尺骨	近位端欠損	左	1	奈文研標本のトモエガモ大	Did:6.23	12
682	SK23 北西	鳥綱	ニワトリ	足根中足骨		左	1	雄、683 と同一個体か	GL:101.26,Bp:17.19,Bd:16.07,SC:8.45	
683	SK23 北西	鳥綱	ニワトリ	足根中足骨		右	1	雄、糞曳オスより大	GL:101.59,Bp:17.46,Bd:15.94,SC:8.46	12
684	SK23 北西	鳥綱	ニワトリ	足根中足骨	近位～遠位部	左	1	682 と同大	Bp:16.66	
685	SE02、SK23 上面	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	中央やや左よりで左右に分断		
686	SE02、SK23 上面	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	先端部	右	1	(P_2)		
687	SE02、SK23 上面	哺乳綱	ニホンジカ	大腿骨	遠位	左	1	未化骨、一方の滑車		
688	SE02、SK23 上面	哺乳綱	ニホンジカ	脛骨	近位部～遠位部	左	1			
689	SE02、SK23 上面	哺乳綱	ネコ	下顎骨	下顎体	左	1	M_1		13
690	SE02、SK23 上面	硬骨魚綱	ハタ科	主鰓蓋骨		左	1	内側面斜の切創 2 本	② 42.09、④ 7.55、⑤ 5.8	10
691	SE02、SK23 上面	硬骨魚綱	タイ科	上鎖骨		右	1	大型なのでマダイか。ほぼ中央部分が前後に切断		
692	SE02、SK23 上面	哺乳綱	ニホンジカ / イノシシ類	肋骨		右	2	同一個体か。接合はせず		
693	SE02、SK23 上面	鳥綱	ニワトリ	上腕骨	近位部～遠位部	右	1			
694	SE02、SK23 上面	哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部		1	斜めに複数の切創		
695	SE02、SK23 上面	硬骨魚綱	フグ科	主上顎骨		右	1			
696	SK23-B 延長部攪乱	哺乳綱	ニホンジカ	距骨		右	1	内側面底部に切創	GLl:35.9,Bd:23.7	
697	SK23-B 延長部攪乱	哺乳綱	ニホンジカ	踵骨		右	1	外側面に焼け（褐色）、鈍い幅広の切創？		
698	SK23-B 延長部攪乱	哺乳綱	ニホンジカ	中 手 / 中足骨	遠位滑車部		1	未化骨		
699	SK23-B 延長部攪乱	哺乳綱	ニホンジカ	上腕骨	遠位端滑車部	右	1	咬み痕？複数	BT:30.84	
700	SK23-B 延長部攪乱	哺乳綱	ニホンジカ	大腿骨	遠位端	右	1	滑車部破片		
701	SK23-B 延長部攪乱	哺乳綱	クマネズミ属	大腿骨		右	1	両端部未化骨		
702	SK23-B 延長部攪乱	鳥綱	不明	脛足根骨	近位部～骨幹部	左	1	コアホウドリ大		
703	SK23-B 延長部攪乱	哺乳綱	不明	不明			複数	破片		
704	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	角骨		右	1	先端部欠損	② 7.26, ④ 29.37、⑥ 8.05、⑦ 4.04、⑧ 5.24	
705	SK23	鳥綱	コウノトリ	大腿骨		右	1	近位部前方面（骨頭下方）に下方殻の切創複数、奈文研標本メスと同大	GL:111.76,Bp:28.6,Bd:25.41	12
706	SK18 上層	硬骨魚綱	フグ科	主上顎骨		左	1	トラフグか	全長 50.65	
707	SK18 上層	硬骨魚綱	マダイ亜科	主鰓蓋骨		左	1	後方部分が斜めに切断	④ 7.2、⑤ 2.27、⑥ 2.82、⑦ 2.73、⑧ 5.02、⑩ 2.74	
708	SK18 上層	硬骨魚綱	マダイ亜科	主鰓蓋骨		左	1	関節部外側面が欠損しているが切断か？	④ 8.35、⑤ 3.38、⑧ 5.65	
709	SK18 上層	硬骨魚綱	マダイ亜科	前上顎骨		右	1	前方上部欠損（切断かどうか不明）	① 29.69、⑤ 8.92、⑥ 12.31、⑦ 8.28、⑧ 9.08、⑩ 6.3、⑪ 5.84、⑫ 4.81、⑬ 4.93、⑭ 7.28	
710	SK18 上層	硬骨魚綱	マダイ亜科	主上顎骨		右	1		① 38.95、③ 13.83、④ 10.23、⑤ 10.43、⑥ 4.32、⑦ 10.11、⑧ 5.69、⑨ 6.67	
711	SK18 上層	硬骨魚綱	マダイ亜科	口蓋骨		左	1		① 22.0、③ 5.66、⑤ 8.25、⑥ 13.06、⑦ 3.89、⑨ 12.31	
712	SK18 上層	硬骨魚綱	マダイ亜科	角骨		右	1		① 30.11、② 7.43、③ 5.23、④ 6.29、⑤ 12.22、⑩ 25.71	
713	SK18 上層	硬骨魚綱	不明	底後頭骨			1	大型ハタ科か？	横径 15.28、縦径 13.02	
714	SK23Tr	軟骨魚綱	サメ類	椎骨			1	大型、側面に切創	長径 31.06、短径 30.55	8
715	SK23Tr	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	中央		1	両側面が縦に切断された中央部	① 30.99、② 37.0	9
716	SK23Tr	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨		右	1	P_2 ～ M_1,M_1 の摩滅指数 0	a:17.76,b:20.83,PL:32.61, 舌側歯冠高 2.63、P_2:8.64,5.99,P_3:11.9,7.48,P_4:12.39,8.61,M_1:12.6,9.12	13
717	SK23Tr	哺乳綱	アナグマ	尺骨		左	1	遠位未化骨、標本より小	SDO:11.03,DPA:12.26,BPC:7.96	13
718	SK23Tr	哺乳綱	ニホンジカ / イノシシ類	肋骨		右	2	接合はしないが同一個体。関節に近い部分（内湾側）切創		
719	SK23Tr	鳥綱	ニワトリ	足根中足骨		左	1	メス、東天紅と同大	GL:90.38,Bp:14.56,Bd:14.71,SC:7.37	12
720	SK23Tr	鳥綱	コウノトリ	足根中足骨	近位～骨幹部	右	1	近位部前方面に横方向の切創 2 本	Bp:20.35	
721	SK23Tr	鳥綱	ニワトリ	大腿骨		左	1	近位欠損、糞曳オスよりやや大	Bd:19.81	12
722	SK23Tr	鳥綱	サギ科	脛足根骨	骨幹部～遠位	右	1	アオサギ標本よりやや小	Bd:10.92	
723	攪乱	鳥綱	キジ科	上腕骨	近位部～遠位部	左	1	キジ雄大、近位部に下方から刃物が入った切創あり	SD:7.16	
724	攪乱	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	右側片		1	中央部で左右に、前方部が垂直（左側面からみて右上から左下の斜目方向）に切断		
725	攪乱	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1	前方部が上から見て右上から左下への斜に、左側面からみて左上から右下の斜に切断	⑤ 12.51	
726	攪乱	哺乳綱	ニホンジカ	寛骨	腸骨	右	1	前方部分噛まれた痕跡あり	SH:18.0,SB:8.26	
727	攪乱	鳥綱	コウノトリ	足根中足骨	骨幹部～遠位	左	1	標本メスと同大	Bd:22.68	12

第 14 表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (9)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値＊（単位：mm）	写真番号
728	攪乱	鳥綱	コウノトリ	足根中足骨	遠位	右	1	720 と同一個体か（欠損部分あり、接合はせず）, 遠位端近く前方面・後方面に垂直方向の切創複数、奈文研標本メスと同大		
729	攪乱	哺乳綱	ニホンジカ	環椎			1	計測不可であるが標本大		
730	攪乱	哺乳綱	ニホンジカ	軸椎			1	計測不可であるが標本大		
731	攪乱	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1	右側面が切断		
732	攪乱	鳥綱	不明	脛足根骨	骨幹部～遠位部	右	1	大型（ハクチョウ類か）		
733	攪乱	哺乳綱	ニホンジカ	中手骨	遠位	左	1	化骨済	Bd:24.53	
734	攪乱	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	下顎体	右	1	M_1 ～ M_3、摩滅指数すべて 2、M_3 後方立ち上がり部分に横方向の切創、下顎体外側面に擦れたような痕跡	b:23.49,c:26.55,M_1M_2L:30.05、M_1:13.16,9.53,M_2:15.2,10.38,M_3:22.26,9.96, 頬側咬合面 M_1 から 5.36,4.43,4.37, 下側歯冠長 M_1 から 5,17,7.53,8.67	
735	攪乱および上面精査	哺乳綱	ニホンジカ	上腕骨	骨幹部～遠位	左	1	化骨済 , 遠位部内側面に浅い斜（右上から左下方向）の切創複数	Bd:33.64,BT:31.24	
736	攪乱および上面精査	哺乳綱	ニホンジカ	大腿骨	遠位	右	1	後方から内側片		
737	SP46	鳥綱	ニワトリ	尺骨		左	1	近位端関節面に切創、蓑曳オスよりやや大	GL:89.3,Bp:11.0,Did:10.37	12
738	SP46	鳥綱	不明	胸骨			1	ニワトリか		
739	SP46	硬骨魚綱	スズキ属	主上顎骨		右	1		⑥ 22.45	
740	SP46	硬骨魚綱	スズキ属	主上顎骨		右	1			
741	SP46	硬骨魚綱	クロダイ属	歯骨		右	1		② 7.33, ③ 21.58, ④ 5.14、 ⑤ -2:4.24, ⑧ 5.54, ⑩ 15.58、⑪ 18.58, ⑫ 6.3	9
742	SP46	爬虫綱	スッポン	大腿骨		左	1			11
743	SP46	爬虫綱	スッポン	中腹骨板		右	1			
744	SK01	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	右側片		1	中央で左右に切断		
745	SK01	硬骨魚綱	マダイ亜科	角舌骨		右	1		① 24.75、 ③ 9.1、 ④ -1:22.32, ④ -2:25.25, ⑥ 3.97、⑦ 3.41、	
746	SK01	硬骨魚綱	マダイ亜科	角舌骨		左	1		⑥ 4.15	
747	SK23	哺乳綱	ニホンジカ	椎骨	5 頸椎		1	左側面に切創、それによって突起も切断		
748	SK23	爬虫綱	スッポン	背甲			1			11
749	SK23	爬虫綱	スッポン	肩甲骨＋前烏口骨		左	1			11
750	SK23	爬虫綱	スッポン	脛骨		右	1	後方（下方）に切創多数		11
751	SK23	爬虫綱	スッポン	腓骨		左	1	大きさが異なるため 750 とは別個体		11
752	SK23	爬虫綱	スッポン	脛骨		左	1			
753	SK23	爬虫綱	スッポン	不明部位			2	左右対		
754	SK23	鳥綱	不明	橈骨	遠位	右	1		Bd:6.55	
755	SK23	軟骨魚綱	エイ・サメ類	椎骨			1		縦径 8.51、横径 8.96	8
756	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨		左	1	② 5.17、④ 18.66、⑥ 4.73、⑦ 7.34、⑧ 6.08		
757	SK23	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎 2、尾椎 1		3			
758	SK23	硬骨魚綱	不明	不明			3	焼け（灰色・白色）		
759	SK23	硬骨魚綱	不明	棘			1			
760	SE02	哺乳綱	ニホンジカ	頭蓋骨	前頭骨・頭頂骨		1	雄、鹿角を切断した痕跡あり（刃物を何度も打ち付けた状態）		13
761	SE02	哺乳綱	ニホンジカ	中手骨		右	1		GL:173.61,Bp:24.64,Bd:24.8	
762	SE02	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	下顎体	左	1	(P_2 ～ P_4)M_1 ～ M_3	a:14.83,b:18.23,c:22.02,PL:36.64,M_1M_2L:30.06,M_1:13.74,8.33,M_2:17.44,9.02,M_3:19.91,9.08	
763	SE02	哺乳綱	ニホンジカ	上顎骨		左	1	M^1 ～ M^3	M^1:13.24,15.0,M^2:15.93,15.25,M^3:16.24,15.76	
764	SE02	哺乳綱	ニホンジカ	肋骨		左	1			
765	SE02	鳥綱	ニワトリ？	上腕骨	近位部～遠位部	右	1	蓑曳オスと同大		
766	SE02	鳥綱	不明	手根中手骨	骨幹部～遠位	左	1	ブラウンレグホンと同大	Did:7.89	
767	SE02	鳥綱	不明	不明四肢骨	骨幹部		1			
768	SE02	哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部		1			
769	SE02	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	中央で左右に切断	① 28.09、② 38.96	
770	SE02	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	中央でさゆう	① 19.75、② 33.9	
771	SE02	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	右側片		1	中央やや右寄りで左右に切断		
772	SE02	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1		⑤ 15.38	
773	SE02	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1		④ 3.07、⑤ 15.0	
774	SE02	硬骨魚綱	フグ科	前上顎骨		左	1		① 25.25、② 6.4、③ 22.1、④ 7.09、⑥ 39.27	10
775	SE02	硬骨魚綱	フグ科	前上顎骨		右	1		① 23.98、 ② 6.02、 ④ 6.01、 ⑥ 35.51	10
776	SE02	硬骨魚綱	フグ科	部位名不明		右	1			10
777	SE02	硬骨魚綱	ハタ科	歯骨		右	1		① 49.55、 ② 44.62、 ③ 27.9、 ④ 24.46、⑥ 8.19、⑦ 6.92	10
778	SE02	硬骨魚綱	ハタ科	前鰓蓋骨		右	1		① 50.82、② 29.2、③ 2.6、④ 3.1、⑤ 9.77	10
779	SE02	硬骨魚綱	サワラ属	歯骨		右	1	後方上部片が右側面からみて左上から右下方向に切断（口先を上にして上から見て右上から左下方向の切断）	⑤ 4.74、⑥ 9.16、⑦ 9.88、⑧ 3.86	10
780	SE02	硬骨魚綱	ハタ科	尾下骨			1			
781	SE02	硬骨魚綱	不明	部位不明			1			
782	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	口蓋骨		右	1	大きさ的にはマダイ	① 28.36、② 29.98、④ 12.86、⑤ 10.48、⑥ 18.33、⑦ 4.8、⑨ 16.45	9
783	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	口蓋骨		左	1	大きさ的にはマダイ	① 23.1 ② 24.15 ④ 10.75、⑤ 9.19、⑦ 4.59 ⑨ 13.48	
784	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	口蓋骨		左	1	大きさ的にはマダイ	① 28.2 ② 29.5 ④ 11.33 ⑤ 9.65 ⑦ 4.82 ⑨ 15.58	
785	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	主鰓蓋骨		左	1	大きさ的にはマダイ	① 37.07 ② 34.09 ④ 7.84 ⑤ 2.4 ⑥ 2.53 ⑦ 3.49 ⑧ 6.57	
786	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	主鰓蓋骨		左	1	下方部分焼けか（褐色）、大きさ的にはマダイ	⑤ 3.19 ⑥ 3.37 ⑦ 4.24 ⑧ 7.19	
787	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	舌顎骨		左	1	大きさ的にはマダイ	① 14.01 ② 4.62 ③ 7.22 ④ 4.65 ⑤ 4.59 ⑥ 3.76 ⑦ 3.54 ⑧ 4.05	
788	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨		右	1	上方部切断か不明瞭であるが、右側面からみて右上から左下（垂直に近い）方向に切断、大きさ的にはマダイ	② 5.45 ④ 19.81 ⑥ 7.06	
789	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨		右	1	横（右外側）から見てくびれ部より上が右上から左下方向に切断、大きさ的にはマダイ		
790	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	擬鎖骨		左	1	大きさ的にはマダイ		
791	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	上鎖骨		右	1	表面やや焼けありか（黒色）、大きさ的にはマダイ		

第 15 表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (10)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値 *（単位：mm）	別番号
792	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	間鰓蓋骨		右	1	前方部が右上から左下方向に切断、大きさ的にはマダイ		
793	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	間鰓蓋骨		左	1	大きさ的にはマダイ		
794	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ亜科	前上顎骨		右	1	大きさ的にはマダイ、後端部が上から見て左上～右下方向に切断	③ 35.11, ④ -1:33.09、 ④ -2:32.68, ⑥ 15.83, ⑦ 10.16、⑧ 10.77、⑪ 7.12、⑫ 5.72、⑬ 6.37、⑭ 7.97	
795	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ亜科	前上顎骨		右	1		⑦ 6.28、⑧ 6.82、⑪ 5.23、⑫ 3.86、⑬ 4.63、⑭ 5.28	
796	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	おそらく中央部分で左右に切断		
797	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	おそらく中央部分で左右に切断. 前後にも切断か		
798	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨		右	1		② 3.88、⑧ 5.59	
799	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ亜科	口蓋骨		右	1		③ 3.38、⑥ 11.17	
800	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ亜科	口蓋骨		左	1		① 16.34、④ 7.23、⑤ 5.58、⑦ 2.21、⑨ 9.82	
801	SK23 北西	硬骨魚綱	スズキ属	歯骨		右	1		⑩ 9.34、⑪ 9.24、⑬ 3.19、⑭ 5.1	
802	SK23 北西	硬骨魚綱	スズキ属	主鰓蓋骨		左	1	小型	⑧ 1.71、⑨ 1.44、⑩ 1.79、⑪ 2.0	
803	SK23 北西	硬骨魚綱	不明	口蓋骨		右	1			
804	SK23 北西	硬骨魚綱	不明	棘			複数			
805	SK23 北西	硬骨魚綱	タイ科	椎骨			9			
806	SK23 北西	硬骨魚綱	スズキ属	椎骨			1	前後に（ほぼ垂直）切断		
807	SK23 北西	硬骨魚綱	不明	椎骨			9	うち 2 点切断痕（前後切断のものと、左後方が左上～右下に切断のもの）		
808	SK23 北西	鳥綱	ニワトリ	脛足根骨	近位	左	1			
809	SK23 北西	鳥綱	不明	椎骨			6			
810	SK23 北西	鳥綱	不明	不明			3			
811	SK23 北西	両生綱？	不明	不明			2	1 点は脛腓骨？		
812	SK23 北西	哺乳綱	不明	四肢骨			14	基節骨から先、タヌキ大前後		
813	SK23 北西	不明	不明	不明			複数	破片、鳥類・魚類含む		
814	SK23 北西	鳥綱	コウノトリ	上腕骨	遠位	左	1	遠位部内側面に鈍い切創複数	Bd:33.36	12
815	SK23 北西	鳥綱	コウノトリ	烏口骨	近位	右	1			12
816	SK23 北西	鳥綱	不明	椎骨			5	大型		
817	SK23 北西	鳥綱	不明	頭蓋骨			1			
818	SK23 北西	鳥綱	不明	複合仙骨			4			
819	SK23 北西	鳥綱	不明	不明			8			
820	SK23 北西	鳥綱	不明	椎骨			1	ニワトリか		
821	SK23 北西	哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部		1			
822	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	中央で左右に分割		
823	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ亜科	主上顎骨		右	1		③ 12.68、④ 8.86、⑤ 9.07、⑥ 3.89、⑦ 9.16、⑧ 5.15、⑨ 5.06、⑩ 7.23、⑪ 3.43、⑫ 8.12	
824	SK23 北西	硬骨魚綱	タイ科	椎骨			5			
825	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ亜科	前上顎骨		右	1		② 20.2、③ 19.45、④ 18.38、⑤ 5.18、⑥ 8.28、⑦ 5.34、⑧ 5.13、⑩ 3.51、⑪ 3.22、⑫ 2.58、⑬ 3.53、⑭ 3.92	
826	SK23 北西	硬骨魚綱	マダイ亜科	前上顎骨		左	1		⑥ 10.13、⑦ 5.93、⑧ 5.83、⑪ 3.93、⑫ 2.79、⑬ 3.73、⑭ 4.06	
827	SK23 北西	硬骨魚綱	タイ科	擬鎖骨		右	1			
828	SK23 北西	硬骨魚綱	タイ科	擬鎖骨		左	1			
829	SK23 北西	硬骨魚綱	タイ科	主上顎骨		左	1		⑦ 8.5、⑧ 4.36、⑪ 3.59	
830	SK23 北西	硬骨魚綱	タイ科	舌顎骨		左	1		① 11.56、3.9、 ③ 5.37、 ④ 3.92、⑤ 3.59、⑥ 2.83、⑨ 15.04	
831	SK23 北西	硬骨魚綱	タイ科	主鰓蓋骨		左	1	やや後方が縦に切断		
832	SK23 北西	硬骨魚綱	タイ科	方骨		左	1		⑥ 4.1、⑦ 5.14、⑧ 5.58、⑨ 1.24、⑩ 3.8	
833	SK23 北西	硬骨魚綱	タイ科	後側頭骨		右	1			
834	SK23 北西	硬骨魚綱	タイ科	上鎖骨		右	1			
835	SK23 北西	硬骨魚綱	スズキ	主鰓蓋骨	下方部破片	左	1			
836	SK23 北西	硬骨魚綱	メバル科／フサカサゴ科	上舌骨		右	1		① 11.67、 ② 15.01、 ③ 11.52、 ④ 12.73、⑥ 1.06	10
837	SK23 北西	硬骨魚綱	メバル科／フサカサゴ科	主鰓蓋骨		右	1		① 15.94	10
838	SK23 北西	硬骨魚綱	メバル科／フサカサゴ科	主鰓蓋骨		左	1		① 16.04	
839	SK23 北西	硬骨魚綱	メバル科／フサカサゴ科	前上顎骨		左	1			
840	SK23 北西	硬骨魚綱	タイ科	肩甲骨		左	1			
841	SK23 北西	硬骨魚綱	スズキ属	椎骨			2			
842	SK23 北西	硬骨魚綱	ブリ属？	椎骨			1			
843	SK23 北西	硬骨魚綱	スズキ属	擬鎖骨		左	1			
844	SK23 北西	硬骨魚綱	コチ科？	椎骨			4			
845	SK23 北西	硬骨魚綱	不明	棘			7			
846	SK23 北西	硬骨魚綱	タイ科	椎骨			4			
847	SK23 北西	硬骨魚綱	不明	椎骨			4			
848	SK23 北西	硬骨魚綱	フナ属？	前鰓蓋骨		左	1			
849	SK23 北西	硬骨魚綱	不明	椎骨			6			
850	SK23 北西	硬骨魚綱	不明	椎骨			1			
851	SK23 北西	硬骨魚綱	不明	不明			複数			
852	SK23 北西	硬骨魚綱	不明	歯骨			1			
853	SK23 北西	硬骨魚綱	不明	不明			2			
854	SK23 北西	哺乳綱	不明	基節骨？			1			
855	SK23 北西	鳥綱？	不明	椎骨			1			
856	SK23 北西	不明	不明	不明			複数			
857	SK23	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨			1	前方部欠損	⑥ 15.06、⑧ 8.93	
858	SK23	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨			1			
859	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	前上顎骨		右	1		③ 34.93、④ 33.16、④ -2:32.58, ⑤ 10.11、⑥ 14.44, ⑦ 9.62、⑧ 9.55、⑨ 11.67、⑩ 6.92、⑪ 6.66、⑫ 5.58、⑬ 5.62、⑭ 7.68	9
860	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	擬鎖骨		左	1			
861	SK23	硬骨魚綱	タイ科	間鰓蓋骨			1	中央で縦に切断		
862	SK23	爬虫綱	スッポン	背甲			1			
863	SK23	鳥綱	ニワトリ	足根中足骨		右	1	東天紅とほぼ同大		
864	SK23	鳥綱	不明	橈骨	近位	右	1	大型（アオサギ、ヒシクイ大）		
865	SK23	哺乳綱	ニホンジカ	脛骨		右	1	近位・遠位未化骨 , 骨幹部内側左上から右下の鋭い切創	Bp:45.81,SD:19.64	
866	SK23	哺乳綱	ニホンジカ	脛骨		左	1	近位未化骨	Bd:28.97,SD19.04	13
867	SK23	哺乳綱	ニホンジカ	脛骨	近位	左	1	内側面破片、未化骨		
868	SK23	哺乳綱	ニホンジカ	踵骨		右	1	後方端部未化骨	GB:24.06	13
869	SK23	哺乳綱	ニホンジカ	距骨		左	1		GLl:34.79,GLm:31.5,Bd:22.1	13
870	SK23	哺乳綱	ニホンジカ	足根骨		左	1		距骨接する面の幅：27.96	
871	SK23	哺乳綱	ニホンジカ	肋骨		右	1	内側面垂直方向に切創、それにより切断か？		
872	SK23	哺乳綱	イノシシ類	椎骨	腰椎		2	前方は椎骨板外れている。後方はあるが未化骨		13
873	SK23	哺乳綱	ニホンジカ	大腿骨	骨頭		1	未化骨		

第 16 表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (11)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値＊（単位：mm）	資料番号
874	SK23	哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部		1			
875	SK23	哺乳綱	不明	不明			1	海綿質破片		
876	SK23	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	中央		1	両側面が縦に切断された中央部	① 27.07、② 33.70、⑥ 9.08	
877	SK23	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	中央で左右に切断	① 23.05、② 32.05	
878	SK23	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨			1	中央から前方が切断、上から見てやや左上から右下に刃物が入り途中で割れたよう	⑥ 9.55、⑦ 24.97、⑧ 14.0	
879	SK23	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1	右側面の膨らみが前方から刃物が入って途中で折れた状態	④ 1.84、⑤ 11.48	
880	SK23	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1		⑤ 9.49	
881	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	歯骨		左	1		① 30.9、② 10.08、③ 26.53、④ 6.23、⑥ 6.18、⑦ 4.59、⑧ 5.01、⑩ 18.39、⑪ 17.34、⑫ 7.9、⑬ 10.15	9
882	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	前上顎骨		右	1		① 34.48、② 33.15、⑥ 13.92、⑦ 9.0、⑧ 8.94、⑪ 5.71、⑫ 4.72、⑬ 4.72、⑭ 7.0	
883	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	前上顎骨		右	1	口先上にして上から見て右上から左下に切断	⑦ 9.17、⑧ 9.58、⑫ 5.18、⑬ 5.39、⑭ 7.2	
884	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	前上顎骨		左	1		① 24.85、④ -1:22.18, ④ -2:22.14, ⑤ 6.64、⑥ 9.87、⑦ 5.88、⑧ 6.21、⑩ 4.88、⑪ 3.82、⑫ 3.17、⑬ 3.77、⑭ 4.84	
885	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	前上顎骨		左	1		⑦ 6.36、⑧ 7.25、⑫ 3.82、⑬ 4.63、⑭ 5.23	
886	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	歯骨		右	1		② 33.38、⑤ 5.32、⑥ 6.17、⑦ 6.0、⑨ 7.78、⑬ 2.56、⑭ 3.59、⑮ 3.92	10
887	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	歯骨		左	1	口先端部切断（左側面から見て左上～右下、上から見て左上から右下に切断）	⑮ 3.95、⑯ 3.06	
888	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	前上顎骨		右	1	後方部切断か（右側面から見て右上から左下に切断）	② 8.0、④ 4.97、⑥ 3.35、⑦ 2.43	
889	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	前上顎骨		左	1		② 7.89、③ 7.52、④ 4.61、⑥ 3.01、⑦ 2.34	10
890	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	口蓋骨		左	1			
891	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	主上顎骨		左	1	前方外側切断か（左側面から見て縦に切断）	③ 13.37、④ 9.8、⑤ 8.79、⑥ 3.38、⑦ 9.14、⑧ 5.06、⑨ 6.02、⑩ 6.9、⑪ 3.65、	9
892	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	主上顎骨		左	1		⑦ 7.87、⑧ 4.8、⑨ 5.97	
893	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	主上顎骨		右	1		⑧ 5.58、⑨ 6.12	
894	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	主上顎骨		左	1	後方部切断（左側面から見て右上から左下、上から見て左上から右下に切断）	② 6.96、③ 6.16、④ 4.01、⑤ 6.9、⑦ 3.38、⑧ 2.61、⑩ 1.76	10
895	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	主上顎骨		右	1	中央部切断（口先を上にして右上から左下に切断）	② 7.02、③ 6.26、④ 4.3、⑤ 6.86、⑦ 3.51、⑧ 2.55、⑩ 1.61	
896	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	前鰓蓋骨		左	1		② 2.8、③ 2.17、④ 3.68、⑤ 4.21、⑩ 9.27	
897	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	前鰓蓋骨		右	1		② 2.83、③ 1.76、④ 3.71、⑤ 4.28、⑩ 9.18	10
898	SK23	硬骨魚綱	不明	鱗			4			
899	SK23	硬骨魚綱	スズキ	主鰓蓋骨		右	1	下方部が右側面から見て横に切断	① 28.61、④ 21.46、⑤ 4.09、⑧ 2.23、⑨ 2.31、⑩ 2.81、⑪ 3.82	
900	SK23	硬骨魚綱	スズキ	主鰓蓋骨		左	1	左側面から見て上方部が左上から右下に切断、上から見て右上から左下に切断）	⑤ 4.11、⑧ 1.95、⑨ 2.06、⑩ 2.83、⑪ 3.75、⑬ 3.38	
901	SK23	硬骨魚綱	スズキ	主鰓蓋骨		左	1	下方部破片		
902	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	口蓋骨		左	1		① 20.2、② 21.35、④ 8.95、⑤ 7.12、⑨ 11.6	
903	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	烏口骨		右	1		① 5.89	
904	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	口蓋骨		右	1		① 15.95、② 17.0、④ 6.6、⑤ 4.98、⑨ 9.17	
905	SK23	硬骨魚綱	タチウオ科	歯骨／前上顎骨			1	歯列破片		10
906	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	角骨		左	1		② 4.76、③ 3.45、④ 4.26、⑤ 8.5、⑦ 13.15、⑨ 9.64	
907	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	角骨		右	1		② 5.53、③ 4.12、④ 4.81、⑨ 9.95、⑪ 13.86	
908	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	舌顎骨		右	1		① 17.73、② 5.68、③ 6.95、④ 5.84、⑤ 5.32、⑥ 5.09、⑨ 22.4	
909	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	舌顎骨		右	1		① 14.42、② 4.35、③ 6.65、④ 4.32、⑤ 4.75、⑥ 3.82、⑦ 3.13、⑨ 18.77	
910	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	角骨		右	1		① 33.6、② 5.1、③ 19.97、④ 15.55、⑤ 15.86、⑥ 4.36、⑦ 2.19、⑧ 3.03	10
911	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	角骨		左	1		② 4.68、④ 15.63、⑥ 4.46、⑦ 2.37、⑧ 2.82	
912	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	舌顎骨		右	1		① 13.06、② 3.43、③ 6.51、④ 4.2、⑦ 2.01、⑧ 3.66、⑨ 20.62、⑩ 1.79、⑪ 5.94	
913	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	舌顎骨		右	1		① 8.69、② 2.23、③ 4.71、④ 3.3、⑥ 1.78、⑦ 1.55、⑧ 2.6、⑨ 14.26、⑩ 1.41	
914	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	舌顎骨		右	1		② 2.52、④ 3.36、⑥ 1.92、⑧ 2.47、⑨ 13.8、⑩ 1.59、⑪ 4.18	
915	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	舌顎骨		左	1		① 8.8、② 2.77、③ 4.74、④ 3.19、⑥ 1.81、⑦ 1.52、⑧ 2.58、⑨ 14.54、⑩ 1.68	
916	SK23	硬骨魚綱	不明	棘			25			
917	SK23	硬骨魚綱	タイ科	椎骨			18	うち１点背側の棘先端切断（横から見て縦、上から見て横）		
918	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	椎骨			18			
919	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	環椎			1		横径 6.19	
920	SK23	硬骨魚綱	サケ属	椎骨			1		横径 10.52、縦径 9.37	10
921	SK23	硬骨魚綱	不明	不明			19			
922	SK23	硬骨魚綱	タイ科	上鎖骨		左	1	左側面から見て右上から左下（縦に近い）に切断		
923	SK23	硬骨魚綱	タイ科	上鎖骨		右	1			
924	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	方骨		右	1		① 17.55、② 17.69、③ 16.79、⑥ 5.82、⑦ 6.56、⑧ 7.98、⑨ 2.03、⑩ 5.82	
925	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	角舌骨		右	1		① 24.97、② 24.35、③ 8.02、④ 22.51、⑤ 15.22、⑥ 4.37、⑦ 3.1、⑧ 5.98	
926	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	角舌骨		左	1		① 24.52、② 24.29、③ 8.09、④ 22.03、⑤ 15.27、⑥ 4.59、⑦ 3.4、⑧ 5.58	
927	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	上舌骨		左	1	口先を上にして上から見て左上から右下、後ろから見て右上から左下（縦に近い）に切断	④ 13.88、⑤ 4.64	
928	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	方骨		右	1		⑦ 4.66、⑧ 4.58、⑨ 3.68、⑩ 1.25	

第 17 表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (12)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値＊（単位：mm）	写真番号
929	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	角舌骨		右	1	右側面から見て後方上部が右上から左下に切断、後ろから見て左上から右下に切断	③ 8.85、⑦ 2.81、⑧ 3.87、⑩ 4.86	
930	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	角舌骨		左	1	左側面から見て、前端上方が右上から左下に切断、下方は左上から右下に切断（口先を上、上から見て右上から左下に切断）	③ 8.03、 ⑦ 2.77、 ⑩ 4.73、 ⑬ 18.26	
931	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	角舌骨		左	1		① 24.34、 ② 24.55、 ③ 5.3、 ④ 24.4、 ⑦ 1.65、 ⑧ 2.58、 ⑩ 3.4、⑫ 13.75、⑬ 11.39	
932	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	角舌骨		左	1		⑧ 3.3、⑩ 2.55、	
933	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	上舌骨		左	1	後方端部切断か（右上から左下に切断）	⑨ 2.52、⑩ 3.16	
934	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	上舌骨		右	1	後方端部（後方から見て左上から右下、上から見て縦方向（やや右上から左下）に切断	② 26.08、⑦ 8.22、⑧ 3.37、⑨ 2.45、⑩ 3.43	
935	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	上舌骨		右	1		② 16.48、⑤ 11.09、⑦ 6.32、⑧ 2.05、⑨ 1.58、⑩ 1.98	
936	SK23	硬骨魚綱	ヒラメ	角舌骨		左	1		③ 13.05、⑦ 2.83、⑧ 3.38	10
937	SK23	硬骨魚綱	ヒラメ	上舌骨		左	1		⑧ 3.58、⑨ 2.61	10
938	SK23	硬骨魚綱	ヒラメ	上舌骨		左	1		⑧ 3.71	
939	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨	上部先端	右	1	右側面から見て右上から左下（ほぼ横）方向に切断、前から見てほぼ横に切断		
940	SK23	硬骨魚綱	スズキ目	主上顎骨			1	ハタ科やフサカサゴ科タイプ		
941	SK23	硬骨魚綱	不明	不明			複数	魚類以外（鳥類？）含む		
942	SK23	硬骨魚綱	不明	不明			複数	棘		
943	SK23	硬骨魚綱	不明	不明			複数	切断など解体痕含むもの		
944	SK23	鳥綱	ニワトリ？	複合仙骨			1			
945	SK23	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1	左側面から見て左上から右下に切断、後方から見て右上から左下（ほぼ横）に切断		
946	SK23	哺乳綱	ネズミ亜科	下顎骨		右	1	クマネズミ属の一種か		
947	SK23	鳥綱／哺乳綱	不明	不明			1			
948	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	方骨		右	1	右側面から見て後方下部が左上から右下に切断、前から見て右上から左下	① 14.01、② 13.82、③ 12.73、⑥ 4.46、⑦ 4.81、 ⑧ 5.73、⑨ 1.43、⑩ 3.76	
949	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	上舌骨		右	1	後方端部切断（右側面から見て右上から左した、口先を上にして上から見て右上から左下（縦に近い）切断		
950	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	主上顎骨		右	1	中央付近が右側面から見て縦(やや左上から右下）口先を上にしてほぼ横に切断。切り口の内側面が切れていない残りあり	⑥ 2.97、⑩ 6.86、⑫ 7.34	
951	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	擬鎖骨	後方端部	右	1	後方先端部切断（横に近い右上から見左下に切断。952 と接合せず		
952	SK23	硬骨魚綱	マダイ亜科	擬鎖骨	中央部分	右	1	後方端部切断（内側面に何度も刃物が入った痕跡、左上から右下の切創・切断痕あり）951 と接合はせず		
953	SK23	硬骨魚綱	フナ属	舌顎骨		左	1		① 11.79、② 9.33、③ 4.8	10
954	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	口蓋骨		右	1		① 23.16、② 6.95、③ 5.75、④ 5.55	
955	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	口蓋骨		左	1		③ 5.71、④ 5.14	
956	SK23	硬骨魚綱	コチ科	基鰭棘		左	1			10
957	SK23	硬骨魚綱	アジ科	椎骨			1	マアジに似る		10
958	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	部位名不明		左	1			
959	SK23	硬骨魚綱	スズキ属	部位名不明		右	1			
960	SK23	硬骨魚綱	不明	椎骨			3			
961	SK23	硬骨魚綱	不明	椎骨			1			
962	SK23	硬骨魚綱	不明	椎骨			2			
963	SK23	硬骨魚綱	不明	不明			1	頭部か、切断痕あり		
964	SK23	硬骨魚綱	不明	不明			2			
965	SE05	腹足綱	アカニシ	殻体			2	破片		
966	SE02 内	腹足綱	アカニシ	殻体			1	破片		
967	SE04	腹足綱	アカニシ	殻体			1	破片		
968	SE05 桶内	腹足綱	サザエ	殻軸			1			
969	SE02	硬骨魚綱	ナマズ	擬鎖骨		左	1		① 12.26、② 7.54、③ 11.29	10
970	SE02	哺乳綱	ニホンジカ	頭蓋骨	前頭骨・頭頂骨		1	破片		
971	SE02	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
972	SE02	腹足綱	アカニシ	殻軸			1	軸上部		
973	SE02	二枚貝綱	ヤマトシジミ				1	左右不明	殻高 21.28	
974	SE02	二枚貝綱	サルボウガイ			右	1		殻高 25.75、殻長 34.97	
975	SE02	二枚貝綱	サルボウガイ			右	1		殻高 26.54、殻長 32.41	
976	SE02	二枚貝綱	サルボウガイ			右	1		殻高 21.92、殻長 29.93	
977	SE07	腹足綱	アカニシ				1		殻長 101.88、殻幅 96.39	
978	SE02 南北アゼはずし（桶掘方）	腹足綱	サザエ				1		殻長 81.42、殻幅 66.47	
979	SE02 南北アゼはずし（桶掘方）	腹足綱	サザエ				1		殻長 80.52、殻幅 66.19	
980	SE02 南北アゼはずし（桶掘方）	腹足綱	サザエ				1		殻長 75.05	
981	SE02 南北アゼはずし（桶掘方）	腹足綱	サザエ				1		殻長 77.21	
982	SE02 南北アゼはずし（桶掘方）	二枚貝綱	ハマグリ	殻縁部		右	1	破片		
983	SE02 南北アゼはずし（桶掘方）	二枚貝綱	ハマグリ	殻頂部		右	1	破片		
984	SE02 南北アゼはずし（桶掘方）	二枚貝綱	ハマグリ	殻頂部		左	1	破片		
985	SE02 南北アゼはずし（桶掘方）	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻高 21.2、殻長 22.79	
986	SE02	腹足綱	アカニシ	殻軸先端			1	破片		
987	SE02 桶内	腹足綱	サザエ蓋				1		長径 33.49、短径 29.95	
988	SE02 桶内	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 36.67	
989	SE02 桶内	二枚貝綱	ハマグリ			左	1		殻高 50 以上	
990	SE02	腹足綱	サザエ				1			
991	SE02	腹足綱	アカニシ	殻体			2	破片		
992	SE02	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 36.59	
993	SE02	二枚貝綱	ハマグリ				1	破片		
994	SE07	腹足綱	アカニシ				1	穿孔あり方向不明	殻長 108.34	

第18表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧(13)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値*（単位：mm）	図番号
995	SE07	腹足綱	アカニシ				5	破片		
996	SE07	二枚貝綱	ハマグリ	殻縁部			1	破片		
997	SE05	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
998	SE05	腹足綱	アカニシ				1	小型	殻長47程度	
999	SE05	腹足綱	アカニシ				1	小型	殻幅25.27	
1000	SE05	腹足綱	アカニシ	殻軸上部			1	破片		
1001	SE05	腹足綱	アカニシ				2			
1002	SE05	腹足綱	サザエ		殻軸		1			
1003	SE05	腹足綱	サザエ蓋				1			
1004	SE05	腹足綱	サザエ		殻体		1	破片		
1005	SE05	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右?	1		殻高26.17	
1006	SE05	二枚貝綱	ハマグリ			右	1			
1007	SE05	二枚貝綱	ハマグリ			左	5			
1008	SE05	二枚貝綱	ハマグリ				2			
1009	SE02	腹足綱	アカニシ				1		殻長90.0	
1010	SE02	腹足綱	アカニシ				1		殻長101.83	
1011	SE02	腹足綱	アカニシ		殻軸		1	ほか破片1	殻長98以上	
1012	SE02	腹足綱	サザエ		殻軸		1		殻長79.08	
1013	SE02	腹足綱	サザエ		殻軸		1			
1014	SE02	二枚貝綱	イタボガキ			右	1			
1015	SE02（2段目井戸内）	腹足綱	アカニシ				1		殻長80程度	
1016	SE02（2段目井戸内）	腹足綱	アカニシ				1			
1017	SE02（2段目井戸内）	腹足綱	サザエ				2			
1018	SE02（2段目井戸内）	二枚貝綱	ハマグリ			右	1	破片	殻高50以上	
1019	SE02（2段目井戸内）	腹足綱	アワビ類				1	破片		
1020	SE02内井戸内	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎		1			
1021	SE02	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1	膨らみ部分左側面が口先を上にして上から見て縦、後方から見て縦に切断	③38.71、④4.09	
1022	SE02	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		左	1	非常に大型個体	①48.51、②15.26、④9.53、⑤-2.7.591、⑥9.0、⑦6.08、⑧8.49、⑩28.51、⑪28.24、⑫13.39、⑭44.54、⑮14.58	
1023	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	主上顎骨		右	1	前方上部切断？	⑤10.02、⑥3.93、⑦10.51、⑧5.78、⑪4.46	
1024	SE02	硬骨魚綱	マダイ亜科	間鰓蓋骨		右	1			
1025	SE02	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	下顎体	左	1	P_2～M_2、摩滅指数 M_1=3,M_2=3	PL:32.94,M_1M_2L:30.14,a:17.74,b:20.63、舌側高 M_1:6.48、M_2:7.18,頬側幅 M_1:4.07,M_2:3.85	
1026	SE02部分南北アゼはずし（桶掘方）	哺乳綱	ニホンジカ	肋骨		右	1	近位切断（長軸に対して垂直）、破片中央よりやや腹側外側面に浅くて鈍い切創複数あり		
1027	SE02部分南北アゼはずし（桶掘方）	哺乳綱	ニホンジカ	肋骨		左	1	腹側折れた先端内側面に長軸に対して斜めの浅くて鈍い切創1		
1028	SE02部分南北アゼはずし（桶掘方）	硬骨魚綱	フグ科	前上顎骨		右	1	トラフグ標本より大	①27.88、②5.92、④5.37、⑥42.84	
1029	SE02部分南北アゼはずし（桶掘方）	硬骨魚綱	タイ科	主鰓蓋骨	前方下方破片	左	1	関節下方が左外側から見て右上から左下に切断、前から見て横に切断		
1030	SE07	哺乳綱	ニホンジカ	中足骨		左	1	完形	GL:187.64,Bp:24.2,Bd:28.63	
1031	SE05	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	中央で左右に分割	①24.3、②35.14	
1032	SE05	硬骨魚綱	マダイ亜科	角骨		右	1		①30.26、②6.5、③5.12、④6.1、⑤12.79、⑧3.67、⑨13.02、⑩26.85	
1033	SE05	硬骨魚綱	スズキ	主鰓蓋骨		左	1	後方上部破片		
1034	SK24	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1	右側面が口先側から刃物が入り途中までの切断（後端までは切れている）	③46.11、④3.72	
1035	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	主鰓蓋骨		右	1	下方端横方向に切断	①36.74、②33.99、④8.64、⑤3.57、⑥3.74、⑦4.52、⑧6.31	
1036	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	環椎	右側片		1	標本よりやや大		
1037	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	肋骨		左	1	外側面に長軸に対して垂直の切創複数		
1038	SK24	哺乳綱	ネコ	大腿骨		左	1	両端部とも化骨済	GL:107.42,Bp:20.7,Bd:19.39	13
1039	SK24	鳥綱	ニワトリ	烏口骨		左	1	下方端部切断（内側から見て左上から右下方向）、糞曳オスと同大	Lm:60.91	
1040	SX38	硬骨魚綱	マダイ亜科	口蓋骨		左	1		②23.09、④9.94、⑥13.99、⑩2.94	
1041	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	中足骨		右	1	近位の外側面、遠位部の内外側面に長軸に対して垂直の切創あり	GL:190.72,Bp:21.82,Bd:24.18	
1042	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	肋骨		右	1	近位側切断？内側面に幅広の切創。遠位端部両側から噛まれたような押圧痕あり		
1043	SK24	哺乳綱	イヌ？	椎骨	腰椎		1	椎体下方面に長軸に対して垂直の鋭い切創あり		
1044	SK24	鳥綱	ニワトリ	尺骨		左	1	遠位端斜めに切断、糞曳オスよりわずかに大	GL:88.69,Bp:11.34	
1045	SK24	鳥綱	カモ科	上腕骨	近位	左	1	オナガガモより大、カルガモより小、内側面に左上から右下の切創複数	Bp:19.96	
1046	SK24	鳥綱	カモ科	上腕骨	近位部～遠位	右	1	近位部に噛まれたような押圧痕、骨幹部外側面に左上から右下の複数の切創、遠位端関節部分横から見て縦に切断、オナガガモ大	Bd:12.19	
1047	SK24	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1		④2.91、⑤13.67	
1048	SK24	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨			1		①24.76、②32.38、⑥10.55、⑧16.93、⑨28.98、⑩22.63	
1049	SK24	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	右側片		1	中央で左右に分割、先端部も上から見て左上から右下に切断		
1050	SK24	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	中央部分		1	ほぼ中央と右側面の両方が中央で切断		
1051	SK24	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	中央やや左寄りで左右に切断、上から見てやや左上から右下方向		

第 19 表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (14)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値＊（単位：mm）	別番号
1052	SK24	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	中央やや左よりで左右に切断、上から見ててて、後方から見て左上から右下に切断		
1053	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨		右	1	右側面から見て上部が右上から左下に切断、前方から見て横に切断	② 5.33、④ 20.84、⑥ 7.52、⑦ 9.16	
1054	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	主鰓蓋骨		右	1	内側面から見て後方部が右上から左下に切断、上から見て左上から右下方向に切断	④ 9.32、⑤ 3.35、⑥ 3.73、⑦ 4.06、⑧ 7.36	9
1055	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	主鰓蓋骨		左	1	関節部上の端部内側面から見て縦、上から見てやや左上から右下（横に近い）に切断。下端部も内側面から見て横、前から見て横（やや右上から左下）切断	② 28.12、④ 7.06、⑤ 1.91、⑥ 2.75、⑦ 2.56、⑧ 5.95、⑩ 1.47	
1056	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	舌顎骨		左	1	外側面から見て下方端部が右上から左下に切断、前から見て横に切断	① 15.86、② 4.92、③ 6.87、④ 5.1、⑤ 4.52、⑥ 2.94、⑦ 3.11、⑧ 4.03、⑨ 20.64	
1057	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	擬鎖骨		左	1	くびれやや前方が上から見て横、左外側面から見て縦（やや左上から右下）に切断		
1058	SK24	硬骨魚綱	スズキ	主鰓蓋骨		右	1	後方端部切断か？（右外側面から見て縦：やや左上から右下に切断	③ 39.72、④ 38.81、⑤ 5.82、⑦ 5.99、⑧ 3.37、⑨ 2.88、⑩ 5.79、⑪ 6.15、⑫ 8.31、⑬ 5.27	10
1059	SK24	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎		1			
1060	SK24	硬骨魚綱	フグ科	前鰓蓋骨		左	1	トラフグ大。後方上部切断（左上～右下方向	② 9.04、③ 36.68	10
1061	SK24	硬骨魚綱	ハタ科	尾舌骨			1		② 47.78、③ 12.23、④ 8.6、⑤ 4.29	10
1062	SK24	硬骨魚綱	不明	主鰓蓋骨		左	1			10
1063	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	上顎骨		右	1	P^3 ～ M^2（歯列部幅 49.47）		
1064	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	肩甲骨		右	1	近位側、食肉目による噛みか、噛まれた痕跡あり	SLC:18.22	
1065	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	前頭骨	右側片		1			
1066	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	椎骨	胸椎		1	椎骨板は未化骨か？、表面の風化顕著		
1067	SK24	哺乳綱	ニホンジカ？	肋骨		右	1	関節面切断、内湾側に切創あり		
1068	SK24	哺乳綱	ニホンジカ？	肋骨		左	1	中間部分か、外側面に長軸に対して垂直の切創複数あり		
1069	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨		左	1	くびれより上の後方が左側面から見て縦、上から見て横に切断	② 4.39、④ 18.29、⑥ 4.78、⑦ 8.02	
1070	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨		右	1	くびれより上の破片であるが、上下とも切断。上方端部は右側面から見て左上から右下に切断。下方は右上から左下に切断	⑤ 5.17（大型）	
1071	SE02	腹足綱	アカニシ	殻軸			1		殻長：92.59	
1072	SE02	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
1073	SE02	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
1074	SE02	腹足綱	アカニシ	殻軸			1			
1075	SE02	腹足綱	アカニシ	殻体	破片		7			
1076	SE02	腹足綱	サザエ	殻軸			1		残（殻長：70.1、殻幅：62.61）	
1077	SE02	腹足綱	サザエ	殻軸			1		残（殻長：80. 0）	
1078	SE02	腹足綱	サザエ	殻軸			1		残（殻幅：59.6）	
1079	SE02	腹足綱	サザエ	殻軸			1	カキ殻が付着	殻長：67.6	
1080	SE02	腹足綱	サザエ	殻軸			1			
1081	SE02	腹足綱	サザエ	殻軸			1			
1082	SE02	腹足綱	サザエ蓋		破片		1			
1083	SE02	腹足綱	ツメタガイ				1			
1084	SE02	腹足綱	コシダカガンガラ				1		殻幅：25.34	
1085	SE02	腹足綱	ウミニナ				1		残（殻長：28.9）	
1086	SE02	二枚貝綱	サルボウガイ			左	1		殻高 27.1、殻長 33.26	
1087	SE02	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1	1088 と合わせ貝	殻長 20.83	
1088	SE02	二枚貝綱	ヤマトシジミ			右	1	1087 と合わせ貝	殻高 18.52、殻長 20.40	
1089	SE02	二枚貝綱	ヤマトシジミ			左	1		殻長 21.44	
1090	SE02	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		殻高 44.21	
1091	SE02	二枚貝綱	ハマグリ	殻頂部		右	1			
1092	SE02	二枚貝綱	ハマグリ	殻頂部		右	1			
1093	SE02	二枚貝綱	ハマグリ			右	1		残（殻長 44.1）	
1094	SE02	二枚貝綱	ハマグリ	殻頂部		左	1			
1095	SE02	二枚貝綱	ハマグリ	殻頂部		左	1			
1096	SE02	二枚貝綱	ハマグリ	殻頂部		左	1			
1097	SE02	二枚貝綱	ハマグリ	殻腹縁部			2			
1098	SE05	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎		1			
1099	SE05	哺乳綱	ニホンジカ	環椎			1	背側右側頭方に脊柱方向に 3 本切創あり	GB:60.98,GL:49.72,GLF:44.77,BFcd:39.72	13
1100	SE05	哺乳綱	ニホンジカ	頸椎			1	椎体未化骨		
1101	SE05	哺乳綱	ニホンジカ	大腿骨	遠位端	左	1	一部未化骨あり	Bd:46.51	
1102	SE05	哺乳綱	ニホンジカ	尺骨	近位～遠位部	左	1		BPC:18.15,DPA:28.32	13
1103	SE05	哺乳綱	ニホンジカ	肋骨		左	1	外側面に鈍い切創あり		
1104	SE05	哺乳綱	イヌ	橈骨	近位部～遠位	右	1	近位の破片もあり、接合はせず.両端部化骨済	SD11.6	
1105	SE05	哺乳綱	ニホンジカ	頭蓋骨	上顎骨か	右	1			
1106	SE05	爬虫綱	スッポン	背甲			1			
1107	SE05	鳥綱	ニワトリ	烏口骨		右	1	名古屋コーチンよりやや小	GL:68.46,BF:16.37,Bb:19.2,Lm:65.09	12
1108	SE05	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨			1	右側面が少しだけ口先から後方（縦）に切断、後ろから見てやや左上から右下	① 29.8、⑥ 11.74、⑧ 16.6、⑩ 22.12	9
1109	SE05	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1	左側面に右上から左下の切創 1 本（浅く細い）	⑤ 14.12	
1110	SE05	硬骨魚綱	タイ科	上後頭骨			1	膨らみが弱い		
1111	SE05	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨		左	1	くびれよりやや上が左側面から見て左上から右下に切断、上から見てほぼ横に切断。くびれより前方（下方）も欠損しているが切断かは不明	② 4.34、⑥ 6.08、⑦ 9.86	
1112	SE05	硬骨魚綱	マダイ亜科	上鎖骨		左	1	大型個体		
1113	SE05	硬骨魚綱	マダイ亜科	間鰓蓋骨		左	1			
1114	SE05	硬骨魚綱	マダイ亜科	主鰓蓋骨	下方破片	右	1	右側面から見て左上から右下に切断。前から見て左上から右下に切断		
1115	SE05	硬骨魚綱	マダイ亜科	舌顎骨		左	1		③ 7.01、⑦ 3.52	
1116	SE05	硬骨魚綱	タイ科	棘	先端		1			
1117	SE05	硬骨魚綱	タイ科	鰓条骨			1			
1118	SE05	硬骨魚綱	スズキ	主鰓蓋骨		左	1	中央部分が左側面から見て右上から左下に切断、前から見て右上から左下（横に近い）切断		
1119	SE05	硬骨魚綱	スズキ属	舌顎骨		左	1		① 15.65、② 4.62、③ 7.29、⑥ 2.06、⑦ 2.53、⑩ 2.98、⑪ 6.61	
1120	SE05	硬骨魚綱	メバル科／フサカサゴ科	歯骨		左	1		④ 4.95、⑤ 4.6	10

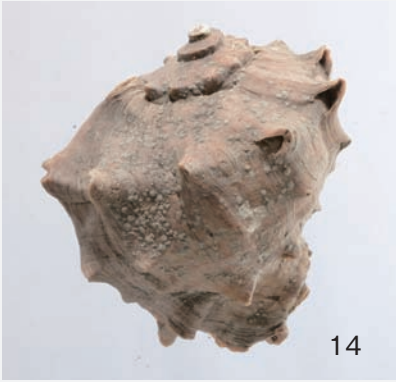
第20表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧(15)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値*（単位：mm）	写真番号
1121	SE05	硬骨魚綱	フグ科	角骨		右	1			
1122	SE05	硬骨魚綱	フグ科	歯骨	後方破片	右	1	トラフグ標本大		
1123	SE05	硬骨魚綱	メバル科／フサカサゴ科	擬鎖骨		左	1			
1124	SE02	鳥綱	ニワトリ	上腕骨	近位部～遠位部	右	1	蓑曳オスと同大	SD:8.61	
1125	SE07(SK24)掘方	哺乳綱	イヌ	脛骨		左	1	近位外側欠損、両端部化骨済	GL:141.75,Bd:18.79,SD:10.54	13
1126	SE07(SK24)掘方	哺乳綱	ニホンジカ	大腿骨	近位部～遠位部	右	1	骨幹部各所に横方向の複数の切創	SD:16.84	
1127	SX38	硬骨魚綱	マダイ亜科	歯骨		左	1		② 11.09、④ 6.7、⑤ -1:5.64, ⑨ 8.91、⑪ 19.77、⑬ 10.79	
1128	SK25	硬骨魚綱	クロダイ属	歯骨		左	1		① 36.37、 ② 11.39、 ④ 6.41、⑤ -1:5.78, ⑧ 7.69、 ⑨ 7.92、 ⑩ 18.58、⑪ 23.45、⑭ 31.16	
1129	SK24	鳥綱	ニワトリ	上腕骨		左	1	ほぼ完形	GL:88.83,Bp:25.11,Bd:20.25	
1130	SK24	硬骨魚綱	タイ科	上後頭骨			1	膨らみが弱い		
1131	SK24	硬骨魚綱	スズキ	主鰓蓋骨		右	1	内側から見て右上から左下、前からみて左上から右下に切断		
1132	SK24	爬虫綱	スッポン	内腹骨板			1			11
1133	SK24	爬虫綱	スッポン	中腹骨板		左	1	1134・1135 と同一個体。1136 ～ 1138 の左	① 5.69、② 8.76	11
1134	SK24	爬虫綱	スッポン	下腹骨板		左	1	外側突起部切断、腹側から見て縦、尾方向・腹を上にして右上から左下方向に切断。1133・1135 と同一個体。1136 ～ 1138 の左	① 56.57、② 9.95	11
1135	SK24	爬虫綱	スッポン	剣上腹骨板		左	1	外側突起切断、腹側から見て縦、尾方向・腹を上にして右上から左下に切断。1133・1134 と同一個体。1136 ～ 1138 の左	① 56.4、② 8.07、③ 32.86	11
1136	SK24	爬虫綱	スッポン	中腹骨板		右	1	外側突起先端部切断、尾方向から見て左上から右下に切断。突起の基部側内側面に前足方向から縦の切創。1137・1138 と同一個体。1136 ～ 1138 の右	① 56.37、② 9.85	
1137	SK24	爬虫綱	スッポン	下腹骨板		右	1	外側突起が尾方向から刃物が入った状態（左右下から左上）、尾方向から見て左上から右下。内側面にも背側から見て右上から左下、また尾方向から見て右上から左下に刃物が入った状態の切創。1136・1138 と同一個体。1136 ～ 1138 の右	① 56.68、② 8.12、③ 32.9	
1138	SK24	爬虫綱	スッポン	剣上腹骨板		右	1	1136・1137 と同一個体。1136 ～ 1138 の右	① 22.45、② 32.54	
1139	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	大腿骨	近位～遠位部	右	1	近位化骨済、大転子欠損。遠位部外側面に左上から右下に複数の切創。内側後方にも左上から右下の切創あり	DC:21.68,SD:17.84	
1140	SK24	鳥綱	カモ科	上腕骨		右	1	オナガガモよりやや大。カルガモよりやや小。骨幹部中央に左上から右下の複数の切創、遠位端左上から右下方向に複数の切創	GL:93.03,Bp:21.37,Bd:14.82	12
1141	SK24	硬骨魚綱	ハタ科	腹椎			1	左側面に軸に対して垂直に深い切創あり。非常に大型個体（クエか）	横径 37.04、縦径 26.0	
1142	SK24	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1		③ 36.59、④ 2.81、⑤ 18.25	
1143	SK24	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	中央で左右に切断。上から見ても前から見ても縦に切断。大型個体		
1144	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	主上顎骨		左	1		① 40.24、⑥ 4.96、⑩ 8.6、⑪ 3.99、⑫ 9.81	
1145	SK24	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎		1		横径 9.38、縦径 10.13	
1146	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨		左	1	上部先端左側面から見てやや左上から右下（横に近い）、後ろから見てやや右上から左下（横に近い）に切断	② 2.85、④ 12.87、⑤ 2.49、⑦ 6.38、⑧ 4.24	
1147	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	椎骨	腰椎		1			
1148	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	椎骨	胸椎		1			
1149	SK24	硬骨魚綱	フグ科	前鰓蓋骨		右	1			
1150	SK24	硬骨魚綱	タイ科	主鰓蓋骨		左	1	中央部分が右側から見て縦、上から見て左上から右下に切断。上方も右側から見て左上から右下、下方も横方向に切断		
1151	SK23 西半	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	下顎体	右	1	P_2 ～ M_3	a:16.39,b:20.34,c:25.0,PL:35.18, M_1M_2L:30.34	13
1152	SK23 西半	爬虫綱	スッポン	肩甲骨＋前烏口骨		左	1		① 35.34、② 36.55、③ 5.27、④ 8.23	
1153	SK23 西半	爬虫綱	スッポン	大腿骨		右	1		① 36.0、② 6.63、③ 9.7、④ 4.38	
1154	SK23 西半	鳥綱	ニワトリ	脛足根骨	遠位	左	1	キジより大	Bd:11.99	12
1155	SK23 西半	鳥綱	ニワトリ	大腿骨	骨幹部～遠位	右	1	遠位部後方面に縦に近い右上から左下に複数の切創、ハッカンよりやや大	Bd:19.41	
1156	SK23 西半	鳥綱	ニワトリ？	足根中足骨	骨幹部～遠位	左	1			
1157	SK23 西半	硬骨魚綱	フナ属	主鰓蓋骨		右	1	1158 と同一個体反対側か	① 27.18、④ 2.82、⑤ 5.06、⑥ 4.57、⑦ 28.45	10
1158	SK23 西半	硬骨魚綱	フナ属	主鰓蓋骨	下方破片	左	1	1157 と同一個体反対側か		
1159	SK23 西半	硬骨魚綱	タイ科	第2臀鰭棘	基部		1	接合面を上にして内湾側からみて左上から右下に切断		
1160	SK23 西半	硬骨魚綱	タイ科	第1血管間棘	基部		1	大型、先端部切断	基部幅 14.96、前後幅 15.8	
1161	SK23 西半	硬骨魚綱	不明	背鰭棘			1			
1162	SK23 西半	硬骨魚綱	不明	担鰭棘			1			
1163	SK23 西半	硬骨魚綱	不明	頭部の一部か			3	2つは接合		
1164	SK23 西半	硬骨魚綱	コチ科	椎骨			1			
1165	SK23 西半	硬骨魚綱	フナ属	尾舌骨			1			10
1166	SK23 西半	硬骨魚綱	不明	棘？			1			
1167	SK23 西半	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨			1		① 14.9、 ② 21.71、 ⑥ 8.18、 ⑦ 18.34、⑨ 15.56、⑩ 13.68	
1168	SK23 西半	硬骨魚綱	マダイ亜科	歯骨		右	1		② 14.8、④ 7.89、⑤ -1:5.85, ⑧ 7.36、⑩ 24.65、⑪ 23.66、⑫ 12.84、⑬ 13.79、	9
1169	SK23 西半	硬骨魚綱	マダイ亜科	角骨		左	1		① 33.27、② 7.58、③ 5.0、④ 5.84、⑤ 11.98、⑨ 12.86、⑩ 29.31	
1170	SK23 西半	硬骨魚綱	マダイ亜科	方骨		左	1	後方下部が右上から左下に切断	③ 17.94、⑥ 5.69、⑦ 6.22, ⑧ 8.12、⑨ 2.33、⑩ 4.93	
1171	SK23 西半	硬骨魚綱	スズキ属	角骨		左	1			
1172	SK23 西半	硬骨魚綱	不明	主上顎骨		右	1	大型		
1173	SK23 西半	硬骨魚綱	不明	不明			1			
1174	SK23 西半	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎		4			
1175	SK23 西半	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎		3			

第 21 表　高松城跡（高松北警察署）出土動物遺存体観察一覧 (16)

No.	遺構名	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値＊（単位：mm）	年齢
1176	SK23 西半	硬骨魚綱	スズキ属	椎骨	腹椎		1			
1177	SK23 西半	硬骨魚綱	スズキ属	椎骨	尾椎		2	うち 1 点は前後方向に切断		
1178	SK23 西半	硬骨魚綱	サケ属	椎骨			1		横径 12.14、縦径 10.49	10
1179	SK23 西半	硬骨魚綱	コチ科	椎骨	腹椎		1	大型	横径 9.27、縦径 7.85、前後長 9.32	10
1180	SK23 西半	硬骨魚綱	ハモ属	椎骨			1			10
1181	SK23 西半	鳥綱	不明	椎骨			5	大型（ハクチョウやツル類、コウノトリ類か）		
1182	SK24	鳥綱	カモ科	上腕骨	近位	右	1	カルガモ大	Bp:21.66	12
1183	SK23 西半	哺乳綱	ウサギ	肩甲骨	近位	左	1		GLP:10.97,BG:9.22,	13
1184	SK23 西半	爬虫綱	スッポン	背甲			4			
1185	SK23 西半	爬虫綱	スッポン	中腹骨板		右	1	1186 より小	① 40.78、② 7.64	
1186	SK23 西半	爬虫綱	スッポン	下腹骨板		左	1	1185 より大	① 48.74、② 6.2	
1187	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨		左	1	上部先端が左側面から見て左上から右下に、前から見て左上から右下に切断	② 3.8、④ 14.91、⑦ 8.67、⑧ 5.27	
1188	SK24・25 境アゼ中	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨		右	1	右側面から見て上方部が左上から右下に切断、下方前方部が右上から左下（縦に近い）に切断。上から見て両社とも横に切断	② 5.76、⑦ 11.64	
1189	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	頭蓋骨		左右	1	前上顎骨＋上顎骨＋側頭骨＋前頭骨＋頭頂骨。左：P^2 ～ M^3, 右：P^2	P^2 ～ P^4 長：37.73、M^1 ～ M^3:45.67	
1190	SK23 西半	哺乳綱	ニホンジカ	中足骨	近位～遠位	右	1	遠位未化骨	Bp:22.33,(Bd:24.92,GL:174.98)	
1191	SK23 西半	哺乳綱	ニホンジカ	椎骨	頸椎		2			
1192	SK23 西半	哺乳綱	ニホンジカ／イノシシ類	肋骨		右	1	脊柱方向外側面、腹側内側面に長軸に対して垂直の切創多数		
1193	SK23 西半	哺乳綱	ニホンジカ／イノシシ類	肋骨		右?	1			
1194	SK23 西半	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	ほぼ中央が左右に切断		
1195	SK23 西半	軟骨魚綱	サメ類	椎骨			1	側面に軸方向に対して垂直に切創複数	縦径 31.27, 横径 30.56, 前後長 18.4	
1196	SK23 西半	鳥綱	ニワトリ	脛足根骨	近位～骨幹部	右	1	ブラウンレグホンよりやや大	Dip:27.41	
1197	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	肋骨		左	1	関節部化骨済		
1198	SK24	鳥綱	キジ科	上腕骨	近位部～遠位部	右	1			
1199	SK24	硬骨魚綱	スズキ	主鰓蓋骨		右	1	1200 と同一個体か（接合はせず）。内側面下方に横と縦方向の切創あり。	（① 49.56）、④ 33.28、⑤ 6.41、⑦ 6.36、⑧ 3.69、⑨ 3.48、⑩ 5.53、⑪ 6.1、⑫ 10.58、⑬ 6.05	
1200	SK24	硬骨魚綱	スズキ	主鰓蓋骨		右	1	1199 と同一個体か（接合はせず）、破片の上方は切断（横方向）か		
1201	SK24	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1	左側面後方に下方から刃物が入った痕跡か？。左側面（膨らみより下方）口先から尾方向に切断あり	③ 51.57、④ 4.14、⑤ 11.46	
1202	SK24	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨＋上後頭骨			1	前頭骨：両側側面が口先から尾方向に切断。上後頭骨：左側面（膨らみよりも下方外側）に口先から尾方向に切断	① 25.51、② 33.09、③ 33.63、④ 2.09、⑤ 10.17、⑥ 10.55、⑧ 11.67	
1203	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	主鰓蓋骨		右	1	やや下方が左側面から見て横、前から見て横に切断。関節部上突起左側面から見て右上から左下（縦に近い）、上から見て横に切断。関節部突起後方下右上から左下方向に切創 1 本	② 47.33、④ 13.74、⑤ 4.33、⑥ 5.54、⑦ 5.72、⑧ 9.15、⑩ 4.01	
1204	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨		左	1	上方やや欠損	② 3.21、④ 14.81、⑤ 2.83、⑦ 6.85、⑧ 5.7	
1205	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	前鰓蓋骨		左	1	左側面から見てくびれよりやや上方が左上から右下に切断、前から見てほぼ横に切断	② 3.92、④ 16.25、⑦ 8.78	
1206	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	基後頭骨	右側片		1	口先から尾方向に切断痕あり		
1207	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科	間鰓蓋骨		右	1	口先側が内側から刃物が入った痕跡（縦方向）。非常に大型なのでマダイか		
1208	SK24	硬骨魚綱	マダイ亜科？	頭部の一部			1	1201 もしくは 1202 の一部か？		
1209	SK24	硬骨魚綱	メバル科／フサカサゴ科	主鰓蓋骨		左	1		① 24.73、② 23.38、③ 3.12、④ 4.13	
1210	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	中足骨		右	1	両端部化骨済、遠位端前方面や遠位部の全周に横方向の幅広の切創？	GL:202.29,Bp:22.94,Bd:25.71	13
1211	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	橈骨		右	1		GL:178.76,PL:174.05,Bp:34.08,Bd:28.05,SD:21.32	13
1212	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	椎骨	腰椎		1	椎体前方欠損。左側横突起の前方上面や下方面基部にも軸方向の切創複数。噛まれた痕跡も。椎体右側面に軸に対して垂直の切創、棘突起右側面後方にも複数の浅い切創あり		
1213	SK24	哺乳綱	ニホンジカ	椎骨	腰椎		1	椎骨板頭方はある（未化骨あり）が尾方は外れている。左横突起の先端は噛まれた痕跡		
1214	SK24	哺乳綱	ネコ	脛骨		左	1		GL:110.24,Bp:18.95,Bd:13.32	13
1215	SK24	鳥綱	ニワトリ	鎖骨			1			
1216	SK24	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨＋後頭骨周辺			1		④ 7.44、⑤ 20.22	9
1217	SK24	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨			1		③ 35.99、④ 4.1、⑤ 12.28	9
1218	SK24	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	左側片		1	中央やや左より部分が左上から右下方向に切断か		
1219	SK24	硬骨魚綱	不明	耳石			1	割れて破片		

＊計測値欄の数値は石丸（2016a）、アルファベットは Driesch(1976) の場所に準ずる。
ただし、魚類については個別の計測場所を設定しているものがある。



アカニシ

0　(1/3)　10cm

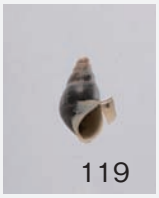
テングニシ

0　(1/2)　5cm

サザエ

マダカアワビ

ウミニナ



カワニナ

ツメタガイ

コシダカガンガラ

レイシガイ

イシダタミ

写真６　動物遺存体　腹足綱

写真７　動物遺存体　二枚貝綱

写真８　動物遺存体　軟骨魚綱

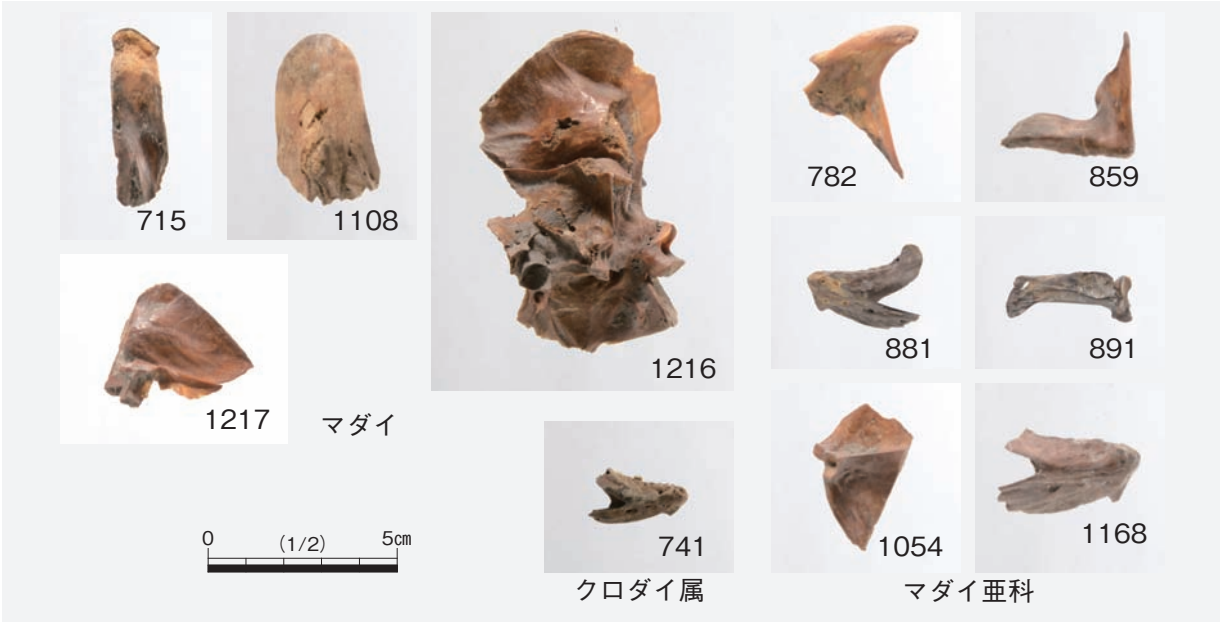


写真９　動物遺存体　硬骨魚綱 (1)

写真 10　動物遺存体　硬骨魚綱 (2)

写真 11　動物遺存体　爬虫綱

写真 12　動物遺存体　鳥綱

写真 13　動物遺存体　哺乳綱

第3節　高松城跡（高松北警察署）出土金属製品の材質分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

1. はじめに

高松城跡（高松北警察署）より出土した金属製品について、元素マッピング分析を行い、その材質を検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、金属製品8点である。調査地点は、17～18世紀の武家屋敷跡とみられている。

試料番号	報文番号	出土遺構	器種	部位
1	155	SE04	かんざし	
2	785	SK24	キセル	吸口
3	607	SK23 SE02上面	キセル	吸口
4	782	SK24	キセル	雁首
5	783	SK24	不明	本体
6	784	SK24	キセル	吸口
7	406	SK18	キセル	雁首
8	409	SK20	刀装具	栗尻

第22表　分析対象一覧

分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置である（株）堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type Ⅱを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1.00mAのロジウム（Rh）ターゲット、X線ビーム径が100μmまたは10μm、検出器は高純度Si検出器で、検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）である。また本装置では、試料ステージを走査させながら測定する元素マッピング分析も可能である。

分析では、最初に元素マッピング分析を行った。さらに、マッピング図を基に特徴的な箇所を選び、ポイント分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析が50kV、1.00mA、ビーム径100μm、測定時間10000sを1回走査、ポイント分析が50kV、電流自動設定、ビーム径100μm、測定時間1000sに設定し、いずれも非破壊で行った。定量分析は、ファンダメンタル・パラメーター法（FP法）による半定量分析を装置付属ソフトで行った。

蛍光X線分析は、表面分析であり、均一とは限らない金属製品の正確な組成比を必ずしも示しているとはいえないが、おおよその組成、含まれている微量元素を知る上では非常に有効な手法である。

3. 結果および考察

元素マッピング分析により得られた銅（Cu）、亜鉛（Zn）、スズ（Sn）、鉛（Pb）等のマッピング図を写真14～17に示す。各マッピング図に示されたa、b…のポイント分析により得られた半定量値を第23表に示す。試料1～7からは、銅（Cu）、亜鉛（Zn）、スズ（Sn）、鉛（Pb）が主に検出された。試料8からは、銅（Cu）、銀（Ag）、金（Au）が検出された。

試料1のかんざしは、銅（Cu）と亜鉛（Zn）を主成分とする真鍮製品であった（第23表）。鑞接の痕跡

試料	位置		Cu	Zn	Sn	Pb	Ag	Au
1	a	本体	81.15	17.92	0.24	0.69	—	—
	b		87.47	11.24	0.31	0.98	—	—
	c		94.19	5.13	0.27	0.42	—	—
2	a	吸口	61.33	35.69	0.58	2.40	—	—
	b		80.24	17.50	0.43	1.83	—	—
	c	鑞	69.62	3.54	24.50	2.34	—	—
3	a	吸口	81.97	10.15	0.49	7.39	—	—
	b		96.42	2.34	0.29	0.95	—	—
	c	鑞	30.05	6.48	57.41	6.06	—	—
4	a	雁首	76.84	21.91	0.71	0.53	—	—
	b		69.95	13.98	1.81	14.25	—	—
	c		95.55	3.02	0.77	0.66	—	—
	d	火皿	65.85	29.99	—	4.16	—	—
	e		98.42	0.68	0.19	0.71	—	—
	f	鑞	66.34	10.80	15.28	7.58	—	—
	g		71.47	2.73	16.95	8.84	—	—
5	a	本体	73.28	25.54	—	1.18	—	—
	b		93.16	6.06	—	0.78	—	—
	c	鑞	21.99	6.62	9.31	62.08	—	—
	d		35.79	57.82	0.82	5.57	—	—
6	a	吸口	77.77	21.46	—	0.77	—	—
	b		90.70	9.00	—	0.30	—	—
	c	鑞	32.25	6.73	50.36	10.43	0.23	—
7	a	雁首	78.01	21.03	—	0.96	—	—
	b		90.78	8.36	—	0.87	—	—
	c	鑞	73.87	7.81	14.01	4.32	—	—
	d		67.91	13.74	13.23	5.11	—	—
8	a	本体	1.30	—	—	—	11.23	87.47
	b		2.23	—	—	—	15.57	82.21
	c	鑞	7.54	—	—	—	31.61	60.85

第23表　半定量分析結果

は確認されなかった（写真 14-1）。

試料２～７は、銅（Cu）と亜鉛（Zn）を主成分とする真鍮製品であった。試料５は器種不明、他はキセルである。試料３のように、鉛（Pb）がやや多く含まれる製品もみられる（第 23 表）。また、いずれも吸口・雁首の継ぎ目や、雁首と火皿が接合されている箇所に鑞接が確認された（写真 14 ～ 17）。

鑞接部は、いずれもスズ（Sn）が多く検出された。スズ単体での鑞接である可能性のほかに、砂張鑞（銅（Cu）、スズ（Sn）を主成分とした鑞）、はんだ（スズ（Sn）、鉛（Pb）を主成分とした鑞）である可能性が考えられる。銀（Ag）はほぼ検出されないため、銀鑞ではない。元素マッピング図の分布をみる限りでは、試料 2、3 の鑞はスズ単体、試料４～７の鑞はスズ（Sn）、鉛（Pb）合金のはんだと推定される（写真 14 ～ 17）。ただし、試料５の鑞接部には、亜鉛（Zn）が多い箇所が一部認められており（写真 16-1）、例えば真鍮鑞など亜鉛を主成分とする鑞が併用されている可能性が考えられるが、軟鑞（融点の低い鑞）であるはんだとでは融点が大きく異なると予想され、どのような形で使用されていたのか、課題が残った。

試料１～７の真鍮製品は、いずれも本体から銀（Ag）やヒ素（As）などがほぼ検出されなかった。原材料となる銅は、南蛮絞りと呼ばれる銅中の銀などの分離抽出技術を経ていると考えられる。

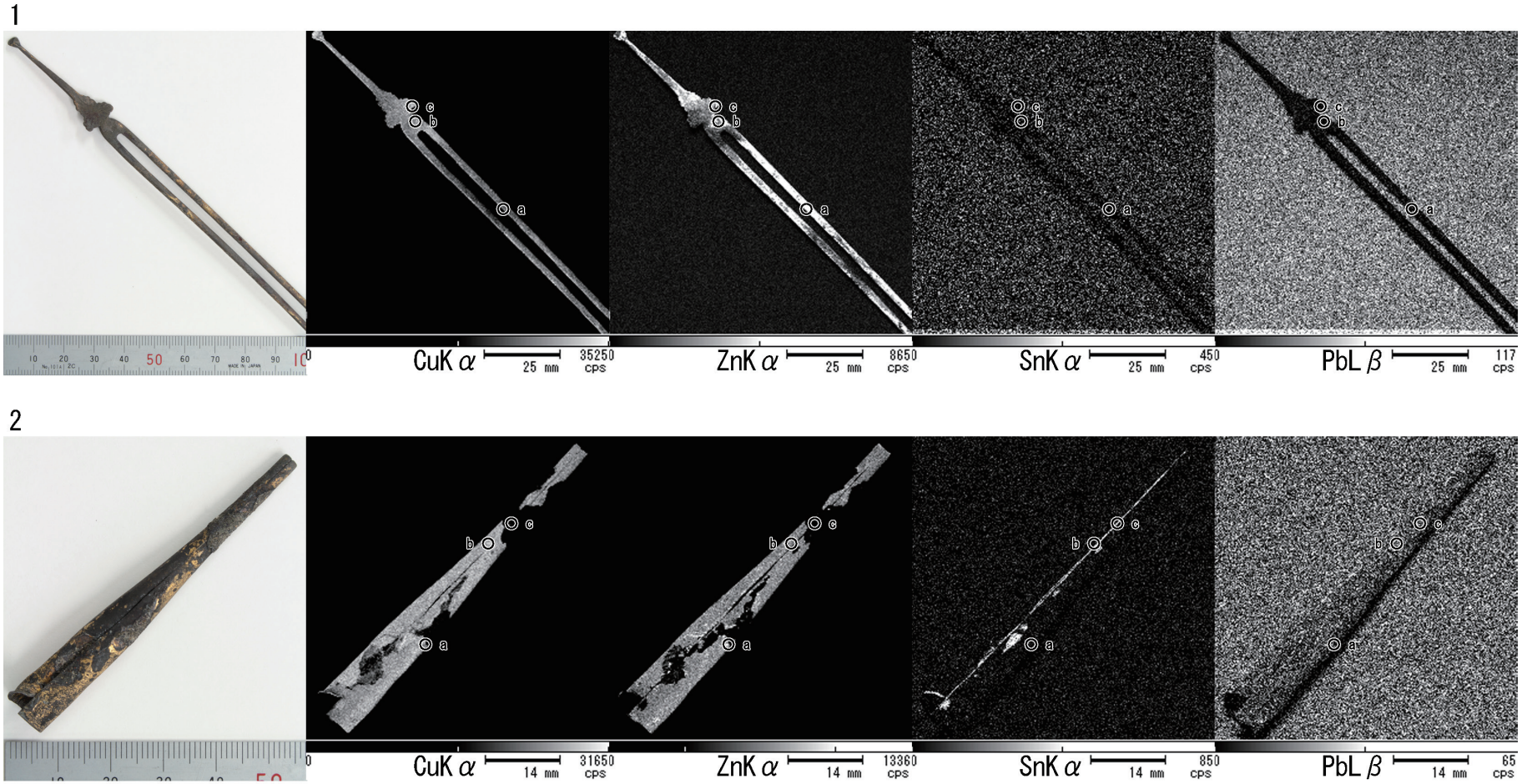
試料８の刀装具は、金（Au）を主成分とする金製品であった。ほかに銀（Ag）、銅（Cu）を含んでおり、分析結果からおおよそ二十金程度に相当するとみられる（第 23 表）。継ぎ目には、鑞接が確認された。鑞には銀（Ag）と銅（Cu）が多く含まれており、金鑞（金を主成分とした鑞）ないし銀鑞（銀を主成分とした鑞）と考えられる。

5. おわりに

高松城跡より出土した金属製品の材質を分析した結果、かんざしおよびキセルはいずれも真鍮製であった。キセルは、スズ（および鉛）を主成分とした鑞での鑞接が確認された。刀装具は、金製で銀、銅を含み、金鑞ないし銀鑞で継ぎ目を鑞接されていた。

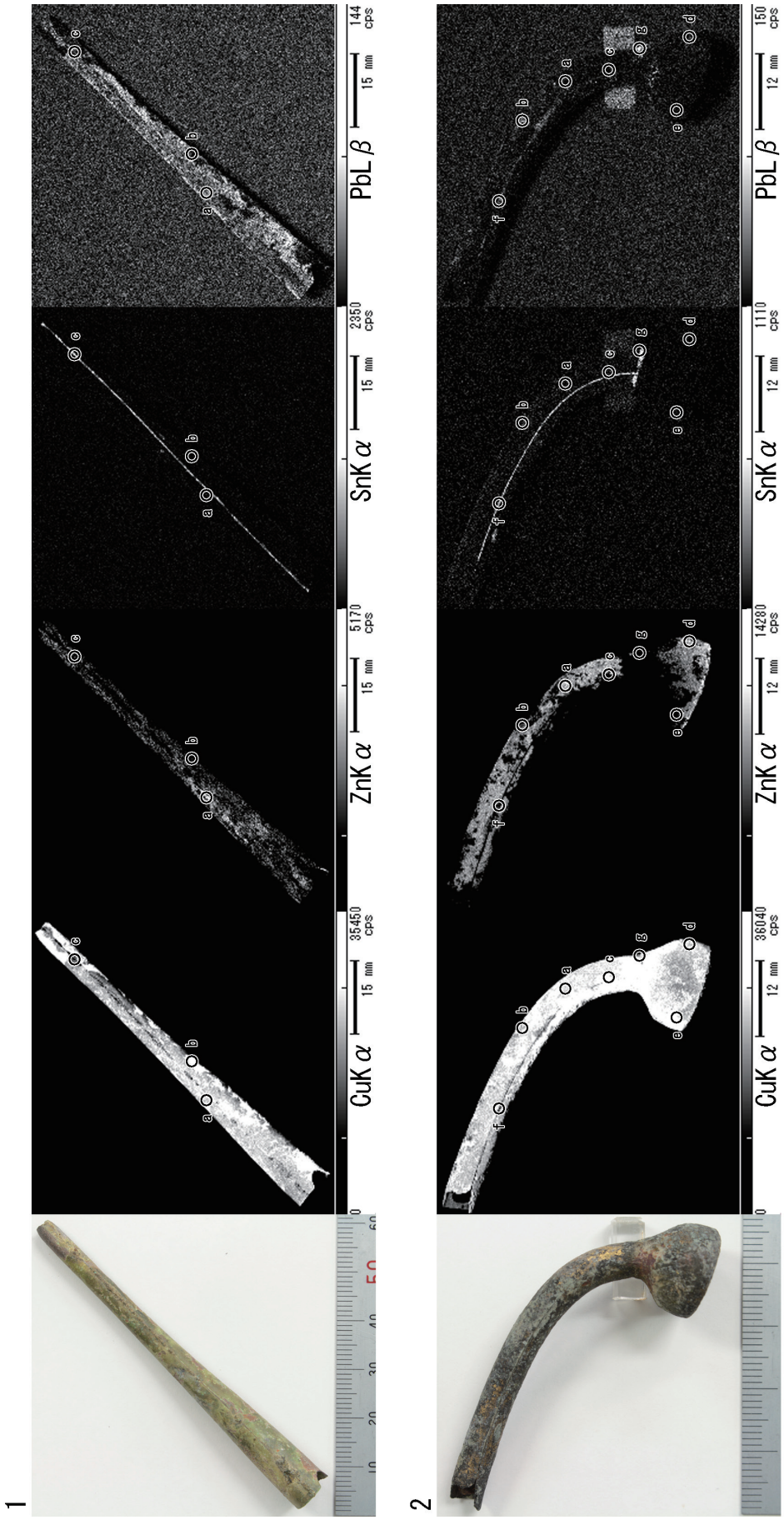
参考文献

香取正彦・井尾敏雄・井伏圭介（1986）金工の伝統技法．230p，理工学社.
村上　隆（2003）金工技術．日本の美術，443，98p，至文堂.
長野　裕・井尾建二（1998）金工の着色技法．157p，理工学社.
中井　泉編（2005）蛍光 X 線分析の実際．242p，朝倉書店.



1．試料番号１　2．試料番号２
Cu：銅　Zn：亜鉛　Sn：スズ　Pb：鉛

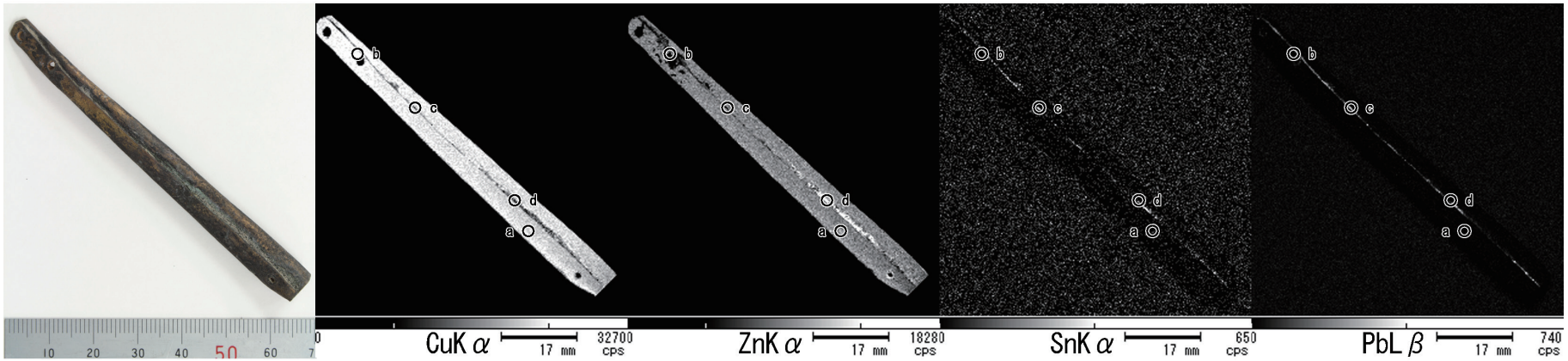
写真 14　金属製品の元素マッピング図（1）



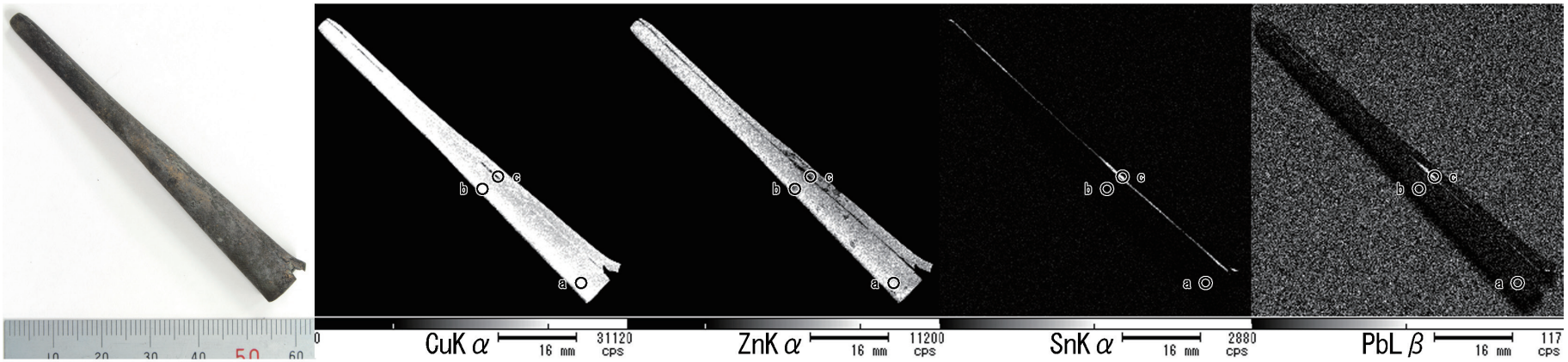
1. 試料番号３　2. 試料番号４
Cu：銅　Zn：亜鉛　Sn：スズ　Pb：鉛

写真 15　金属製品の元素マッピング図（2）

1

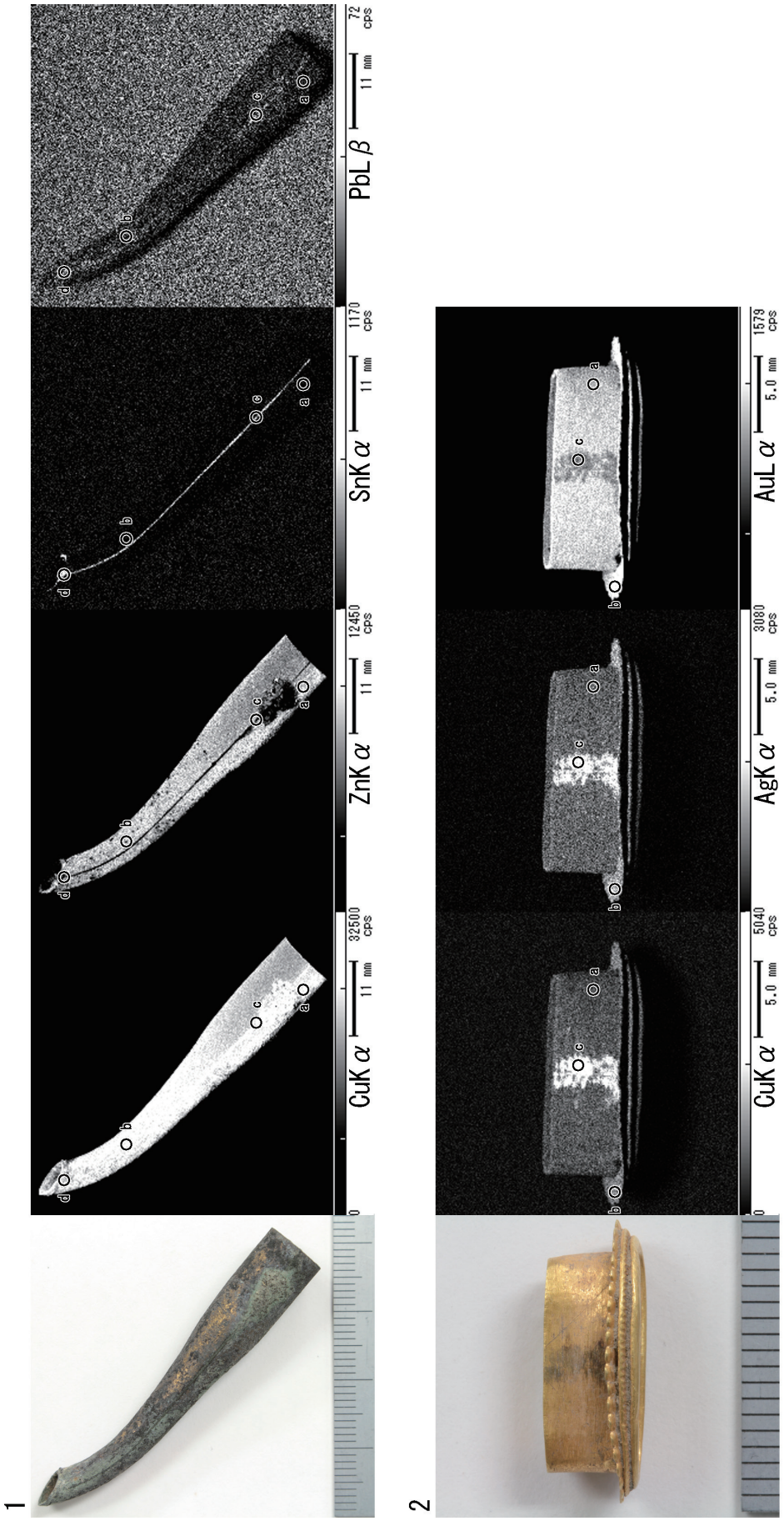


2



1. 試料番号５　2. 試料番号６
Cu：銅　Zn：亜鉛　Sn：スズ　Pb：鉛

写真 16　金属製品の元素マッピング図（3）



1. 試料番号７　2. 試料番号８
Cu：銅　Zn：亜鉛　Sn：スズ　Pb：鉛　Ag：銀　Au：金

写真 17　金属製品の元素マッピング図（4）

第 4 節　高松城跡（高松北警察署）出土の大型植物遺体

佐々木由香・バンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

1. はじめに

高松市西内町に所在する高松城跡（高松北警察署）は、高松平野の北端で、高松城外堀と中堀の間に立地する、近世を中心とした上級武士団の屋敷跡と推定されている。ここでは、17 世紀中葉の遺構堆積層から得られた種実や葉などの大型植物遺体を同定し、利用された植物や当時の植生について検討する。

2. 試料と方法

試料は、香川県埋蔵文化財センターで水洗された 1 試料である。試料は、トイレ遺構と推定されている SK23 から採取された。遺構の時期は、 17 世紀中葉である。水洗量は、コンテナ 4 箱ほど分である。1.0mm 目の篩を用いた水洗選別法により、試料から残渣物が回収されていた。

大型植物遺体の同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても 1 個体とみなせるものは完形として数え、1 個体に満たないものは破片とした。同定された試料は、香川県埋蔵文化財センターに保管されている。

3. 結果

木本植物の針葉樹ではモミ葉とアカマツ球果・炭化球果・葉の 2 分類群、広葉樹ではアオツヅラフジ核とモモ核、アンズ核、ウメ核、クリ果実、ヤマモモ核、サンショウ種子、センダン核、カキノキ炭化種子の 9 分類群、草本植物では、イネ籾殻、オオムギ炭化種子、トウガン種子、スイカ種子、メロン仲間種子、ワタ炭化種子、ナス種子の 7 分類群の、計 18 分類群が得られた。このほかに、科以上の詳細な同定ができなかった不明 A 種実？が得られた。種実以外には、骨遺体が含まれていた（第 24 表）

以下、産出した大型植物遺体について記載する。

SK23 からは、メロン仲間が 500 点以上で非常に多く、モモとイネ、トウガン、不明 A 種実？が少量、モミとアカマツ、アオツヅラフジ、アンズ、ウメ、クリ、ヤマモモ、サンショウ、センダン、カキノキ、オオムギ、スイカ、ワタ、ナスがわずかに得られた。

次に、得られた主要な分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

	遺構	SK23	
	時期	17 世紀中葉	
分類群	水洗量	コンテナ 4 箱	
モミ	葉		(4)
アカマツ	球果	1	
	炭化球果	1	
	葉		(4)
アオツヅラフジ	核	1	
モモ	核	11	(3)
アンズ	核	1	(1)
ウメ	核	1	(1)
クリ	果実		(1)
ヤマモモ	核	4	
サンショウ	種子	9	
センダン	核	1	
カキノキ	炭化種子	1	
イネ	籾殻	16	
オオムギ	炭化種子	4	
トウガン	種子	9	(3)
スイカ	種子	1	
メロン仲間	種子	500 点以上	
ワタ	炭化種子	1	
ナス	種子	1	(1)
不明 A	種実？	20	(3)

括弧内は破片数

第 24 表　高松城跡（高松北警察署）から出土した大型植物遺体

なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠し、APG Ⅲリストの順とした。

(1) モモ　*Amygdalus persica* L.　核　バラ科

茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。また、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。高さ 25.8mm、幅 18.9mm、厚さ 14.3mm。

(2) アンズ　*Armeniaca vulgaris Lam. var. ansu* (Maxim.) T.T.Yü et L.T.Lu　核　バラ科

茶褐色で、上面観は扁平、側面観は円形。一方の側面では縫合線が発達する。表面には網目状の模様がある。縫合線付近には不規則な縦皺がある。高さ 16.0mm、幅 15.7mm、厚さ 12.0mm。

(3) ウメ　*Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese　核　バラ科

淡褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は卵円形。表面には全体的に不規則で深く小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。高さ 15.1mm、幅 11.8mm、厚さ 8.0mm。

(4) クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　果実　ブナ科

黒褐色で、完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。下端に鱗状の殻斗着痕があるが、残存していない。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。残存高 24.8mm、残存幅 16.3mm。

(5) ヤマモモ　*Morella rubra Lour.*　核　ヤマモモ科

赤褐色で、いびつな凸レンズ型の扁平な球体。木質で、表面は粗い。長さ 7.4mm、幅 5.6mm、厚さ 4.3mm。

(6) カキノキ　*Diospyros kaki* Thunb.　炭化種子　カキノキ科

黒褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。基部がやや曲がり、突出する。表面にはちりめん状のしわが見られる。明らかに大型の果実であったと想定される種子をカキノキとした。高さ 15.7mm、幅 8.6mm。

(7) イネ　*Oryza sativa* L.　籾殻　イネ科

黄褐色で、完形ならば上面観が楕円形で、側面観は長楕円形。産出したのは小穂軸で、肥厚する果柄を中心にわずかに残る。残存長 5.6mm、残存幅 2.0mm。

(8) オオムギ　*Hordeum vulgare* L.　炭化種子（頴果）　イネ科

側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る 1 本の溝があるが、溝の両端は欠損している。背面の中央部下端には三角形の胚がある。断面は楕円形。長さ 4.6mm、幅 2.4mm、厚さ 1.9mm。

(9) トウガン　*Benincasa hispida* (Thunb.) Cogn.　種子　ウリ科

淡褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚があり、中央部は窪む。長さ 11.1mm、幅 6.1mm。

(10) スイカ　*Citrullus lanatus* (Thunb.) Matsum. et Nakai　種子　ウリ科

淡褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚がわずかに見られる。長さ 12.4mm、幅 7.4mm。

(11) メロン仲間　*Cucumis melo* L.　種子　ウリ科

	長さ	幅
種子 10 点	7.8	3.5
	7.9	3.4
	7.7	3.5
	6.6	3.4
	8.0	3.7
	8.0	3.5
	8.2	3.4
	7.7	3.7
	7.7	3.3
	7.9	3.4
最小	6.6	3.3
最大	8.2	3.7
平均	7.8	3.5
標準偏差	0.4	0.1

単位 mm

第 25 表　メロン仲間種子の大きさ

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は狭卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。長さ 8.0mm、幅 3.7mm。藤下（1984）は、種子の大きさからおおむね次の 3 群に分けられるとしている。長さ 6.0mm 以下の雑草メロン型、長さ 6.1 ～ 8.0mm のマクワウリ・シロウリ型、長さ 8.1mm 以上のモモルディカメロン型である。今回産出した 10 点の大きさは、長さ 6.6 ～ 8.2（平均 7.8 ± 0.4）mm、幅 3.3 ～ 3.7（平均 3.5 ± 0.1）mm で、モモルディカメロン型が 1 点、マクワウリ・シロウリ型が 9 点であった。平均値はマクワウリ・シロウリ型であった（第 25 表）。

(12) ワタ　*Gossypium arboreum* L. var. obtusifolium (Roxb.) Roberty　炭化種子　アオイ科

倒卵形体。端部が又状に分岐する。基部は中央からややずれた位置につく。先端と基部を結ぶ浅い稜線が縦方向に 1 周する。表面はざらつく。長さ 7.0mm、幅 5.0mm、厚さ 4.4mm。

(13) ナス　*Solanum melongena* L.　種子　ナス科

黄褐色で、完形ならば上面観は扁平、側面観は長楕円形。着点は明瞭に窪む。種皮細胞の細胞壁が屈曲し、それが網目状隆線を構成する。長さ 3.3mm、幅 4.3mm。

(14) 不明 A　*Unknown* A　種実？

黒褐色で、上面観は円形、側面観は楕円形。下端は緩やかに尖り、腹面の下端ではやや扁平になる。表面は平滑。種実？皮は薄い。長さ 9.8mm、幅 7.2mm。

4. 考察

17 世紀中葉のトイレ遺構と推定された SK23 から出土した大型植物遺体を同定した結果、種実を中心とした大型植物遺体が多種類得られた。栽培植物では、果樹のモモとアンズ、ウメ、カキノキ、水田作物のイネ、畑作物のオオムギとトウガン、スイカ、メロン仲間、ワタ、ナスが得られた。野生植物で食用可能な種実としては、クリとヤマモモ、サンショウが得られた。便に含まれていたと推定されるメロン仲間は平均値でマクワウリ・シロウリ型の大きさの種子であったが、モモルディカメロン型の大きさの種子も含まれていた。食用にならないモミとアカマツの葉や球果（いわゆる松ぼっくり）、アオツヅラフジ、センダンは周辺に生育していたものが遺構内に堆積した可能性がある。また、モモやアンズなどの大きな果樹の核やイネの籾殻、クリの果皮なども、利用された後に、同層から出土している木片などと共に遺構内に堆積した可能性がある。

今回得られた種実は食用可能な種実がほとんどであったが、微小な雑穀類やマメ類は得られなかった。また、草本植物もほとんど含まれていなかった。前者は生の状態であると食用部位が残存しにくいという理由、後者は篩の目のサイズが 1.0mm とやや大きかったため、微小な種実が回収されなかったことに起因する可能性がある。今後、大量の堆積物を水洗する必要がある場合には、100cc の堆積物を別に分けて目の細かい篩で水洗し、残りを目の粗い篩で水洗するなど、大型の種実と微小な種実の両方を回収する方法で水洗を行えば、周辺の環境復元も含めた、より精度の高い解析が可能になると考えられる。

引用文献

藤下典之（1984）出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法．渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学―総括報告書」：638-654，同朋舎出版.

米倉浩司・梶田　忠（2003-）BG Plants 和名－学名インデックス（YList），http://ylist.info

スケール 1-6,9-11,14:5mm,7,8,12,13:1mm

1. モモ核、2. アンズ核、3. ウメ核、4. クリ果実、5. ヤマモモ核、6. カキノキ炭化種子、7. イネ籾殻、8. オオムギ炭化種子、9. トウガン種子、10. スイカ種子、11. メロン仲間種子、12. ワタ炭化種子、13. ナス種子、14. 不明 A 種実？

写真 18　高松城跡（高松北警察署）SK23 から出土した大型植物遺体

第 5 節　高松城跡（高松北警察署) 出土木材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

1. はじめに

高松平野に位置する高松城跡（高松北警察署）から出土した木材の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、井戸跡である SE01、SE04、SE05、SE06、SE07、土坑である SK18、SK23、SK24、SK25 から出土した生の木材 118 点である。発掘調査所見での時期は、17 世紀前半～ 18 世紀前半と考えられている。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行った。

樹種同定は、材の横断面（木口)、接線断面（板目)、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行った。

ただし、試料番号 96 の紐については、試料が微細で切片の切り出しが行えなかった。そのため、走査型電子顕微鏡を用いて同定を行った。まず試料を乾燥させ、試料の横断面、側面について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製　VE-9800）にて検鏡および写真撮影を行った。

3. 結果

同定の結果、針葉樹ではモミ属とマツ属複維管束亜属、コウヤマキ、スギ、ヒノキ、アスナロの 6 分類群、広葉樹ではコナラ属アカガシ亜属（以下、アカガシ亜属と呼ぶ)、カエデ属、トネリコ属シオジ節（以下、シオジ節と呼ぶ）の 3 分類群、単子葉のシュロ 1 分類群の、計 10 分類群がみられた。また、材の状態が悪く、広葉樹までの同定に留めた試料が 1 点みられた。スギが 39 点と最も多く、アスナロが 32 点、モミ属が 24 点、ヒノキが 7 点、シオジ節が 6 点、マツ属複維管束亜属が 5 点コウヤマキとアカガシ亜属、カエデ属、広葉樹、シュロが各 1 点みられた。同定結果を第 26 表に、一覧を第 27 ～ 28 表に示す。

樹種 / 器種	下駄	下駄の歯	把手	容器	曲げ物側板	箱の台	箱の側板？	桶の側板	蓋	底板	箸	折敷の脚	栓	人形頭部	紐	木簡	薄い板材	加工部材	井戸枠	金隠し	へら状木製品	楊枝	釘状木製品	不明	合計
モミ属		1							1	1	14	1							1	1		2		2	24
マツ属複維管束亜属		2											1						1					1	5
コウヤマキ													1												1
スギ	2			1	1		1	2		12	5	2	1	1		3	1		1		2		1	3	39
ヒノキ									1	5														1	7
アスナロ			1			1			1	10	2	3	4			1		1	1		1			6	32
コナラ属アカガシ亜属																								1	1
カエデ属	1																								1
トネリコ属シオジ節	3	3																							6
広葉樹		1																							1
シュロ															1										1
合計	6	7	1	1	1	1	1	2	3	28	21	6	7	1	1	4	1	1	4	1	3	2	1	14	118

第 26 表　高松城跡（高松北警察署）出土木製品の樹種同定結果

次に、同定された材の特徴を記載し、写真 19・20 に光学・走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) モミ属　*Abies*　マツ科　写真 19　1a-1c(No.106)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ１～８列となる。分野壁孔は小型のスギ型で、1 分野に 2 ～ 4 個みられる。また放射組織の末端壁は、数珠状に肥厚する。

モミ属には高標高域に分布するシラビソ、オオシラビソ、ウラジロモミと、低標高域に分布するモミなどがあり、いずれも常緑高木である。材はやや軽軟で、切削その他の加工は容易、割裂性も大きい。

(2) マツ属複維管束亜属　*Pinus subgen. Diploxylon*　マツ科　写真 19　2a-2c(No.18)

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射柔細胞および放射仮道管で構成される針葉樹である。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管によって構成される。放射仮道管の内壁の肥厚は鋸歯状であり、分野壁孔は窓状となる。

マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育しやすい。材質は類似し、重硬で切削等の加工は容易である。

(3) コウヤマキ　*Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Siebold et Zucc.　コウヤマキ科　写真 19　3a-3c(No.42)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ１～５列となる。分野壁孔は窓状となる。

コウヤマキは温帯から暖帯にかけて隔離分布をしている１科１属１種の常緑高木の針葉樹で、日本の固有種である。材はやや軽軟、切削などは容易で、水湿に耐朽性がある。

(4) スギ　*Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don　ヒノキ科　写真 19　4a-4c(No.87)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ２～ 15 列となる。分野壁孔は孔口が大きく開いた大型のスギ型で、1 分野に普通 2 個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で、切削などの加工が容易な材である。

(5) ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl.　ヒノキ科　写真 19　5a-5c(No.16)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ１～ 15 列である。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、1 分野に 2 個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

(6) アスナロ　*Thujopsis dolabrat*a (L.f.) Siebold et Zucc.　ヒノキ科　写真 19・20　6a-6c(No.83)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行はやや急である。放射組織は単列で、高さ２～ 13 列となる。分野壁孔は小型のヒノキ～スギ型で、1 分野に 2 ～ 4 個みられる。

アスナロは温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。針葉樹の中では比較的軽軟で、切削等の加工は比較的容易である。また精油分が多く、耐朽性に優れている。

(7) コナラ属アカガシ亜属　*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*　ブナ科　写真 20　7a-7c(No.82)

厚壁で丸い大型の道管が、放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属アカガシ亜属は、材組織の観察では道管の大きなイチイガシ以外は種までの同定ができない。したがって、本試料はイチイガシ以外のアカガシ亜属である。アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがあり、暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬かつ強靭で、耐水性があり、切削加工は困難である。

(8) カエデ属　*Acer*　ムクロジ科　写真 20　8a-8c(No.55)

小型の道管が単独ないし 2 ～ 3 個複合してやや疎らに散在する散孔材である。木部繊維の壁の厚さの違いで、木口面に雲紋状の文様がみられる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、幅 1 ～ 6 列となる。

カエデ属にはイタヤカエデやウリハダカエデなどがあり、代表的なイタヤカエデは各地に普通にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で、切削加工はやや困難である。

(9) トネリコ属シオジ節　*Fraxinus* sect. *Fraxinuster*　モクセイ科　写真 20　9a-9c(No.99)

年輪の始めに大型で丸い道管が 3 ～ 4 列並び、晩材部では小型の道管が単独ないし 2 個複合する環孔材である。軸方向柔細胞は周囲型である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、1 ～ 3 列である。

トネリコ属シオジ節にはシオジとヤチダモがあり、現在の植生ではシオジは関東以西の温帯に、ヤチダモは中部以西の亜寒帯から温帯の河岸や湿地などの肥沃な湿潤地に分布する、落葉高木の広葉樹である。材の性質はどちらも中庸ないしやや重硬で、乾燥は比較的容易、切削加工等も容易である。

(10) 広葉樹　Broadleaf-wood　写真 20　10b-10c(No.90)

道管を有する広葉樹であるが、材組織の保存が悪いため他の特徴が確認できず、広葉樹までの同定に留めた。

(11) シュロ　*Trachycarpus fortunei* (Hook.) H.Wendl.　ヤシ科　写真 20　11a・11d(No.95)

繊維状遺物の断面は円形で、直径は 0.3mm 程度である。断面を構成している細胞は繊維細胞で、厚壁で細胞間隙なく密集している。試料中には維管束を持つものはなかった。

シュロはヤシ科の中で最も北まで分布する種の一つで、九州南部から中国大陸にかけて分布する。繊維はシュロ縄や漉過材などに利用される。

4. 考察

下駄はスギとカエデ属、シオジ節、下駄の歯はモミ属とマツ属複維管束亜属、シオジ節、広葉樹であった。香川県の東山崎・水田遺跡から出土した戦国～江戸時代前期の下駄では、マツ属複維管束亜属とヒノキ科、クリ、オニグルミ？、キリ？といった広葉樹がみられ、針葉樹と広葉樹が共に利用されていた（伊藤・山田編，2012）。高松城跡の下駄および下駄の歯でも、針葉樹と広葉樹が共に利用されており、傾向は一致する。

紐の素材は、シュロであった。シュロの葉柄の下部に生ずる繊維を利用した紐であった。シュロの繊維は耐水性が高く、ロープや縄、蓑などとして利用されることが多い（下中，2002）。

その他の木製品では、不明でアカガシ亜属が 1 点みられた以外は、いずれも針葉樹であった。針葉樹は木理通直で真っ直ぐに生育し、加工性が良い（伊東ほか，2011）。ただし、多くの試料は分析試料数

が少なく、樹種の利用傾向が確認できなかった。そのため、分析試料数の多い器種について、傾向を確認する。

分析試料数の最も多い底板では、スギとアスナロが多く、モミ属やヒノキもみられた。東山崎・水田遺跡から出土した戦国～江戸時代前期の底板ではモミ属とスギ、ヒノキ属がみられ（伊東・山田編，2012)、傾向は一致する。

箸ではモミ属とスギ、アスナロもみられ、モミ属を多く利用する傾向が確認できた。

栓ではアスナロとマツ属複維管束亜属、コウヤマキ、スギがみられ、アスナロを多く利用する傾向が確認できた。

折敷脚部ではスギとアスナロ、モミ属がみられた。香川県域の戦国～江戸時代前期では、ヒノキとサワラが利用されており（伊東・山田編，2012)、高松城と傾向は異なっていた。

井戸枠では、モミ属とマツ属複維管束亜属、スギ、アスナロがみられたが、いずれも１点のみの産出であり、傾向は確認できなかった。

引用文献

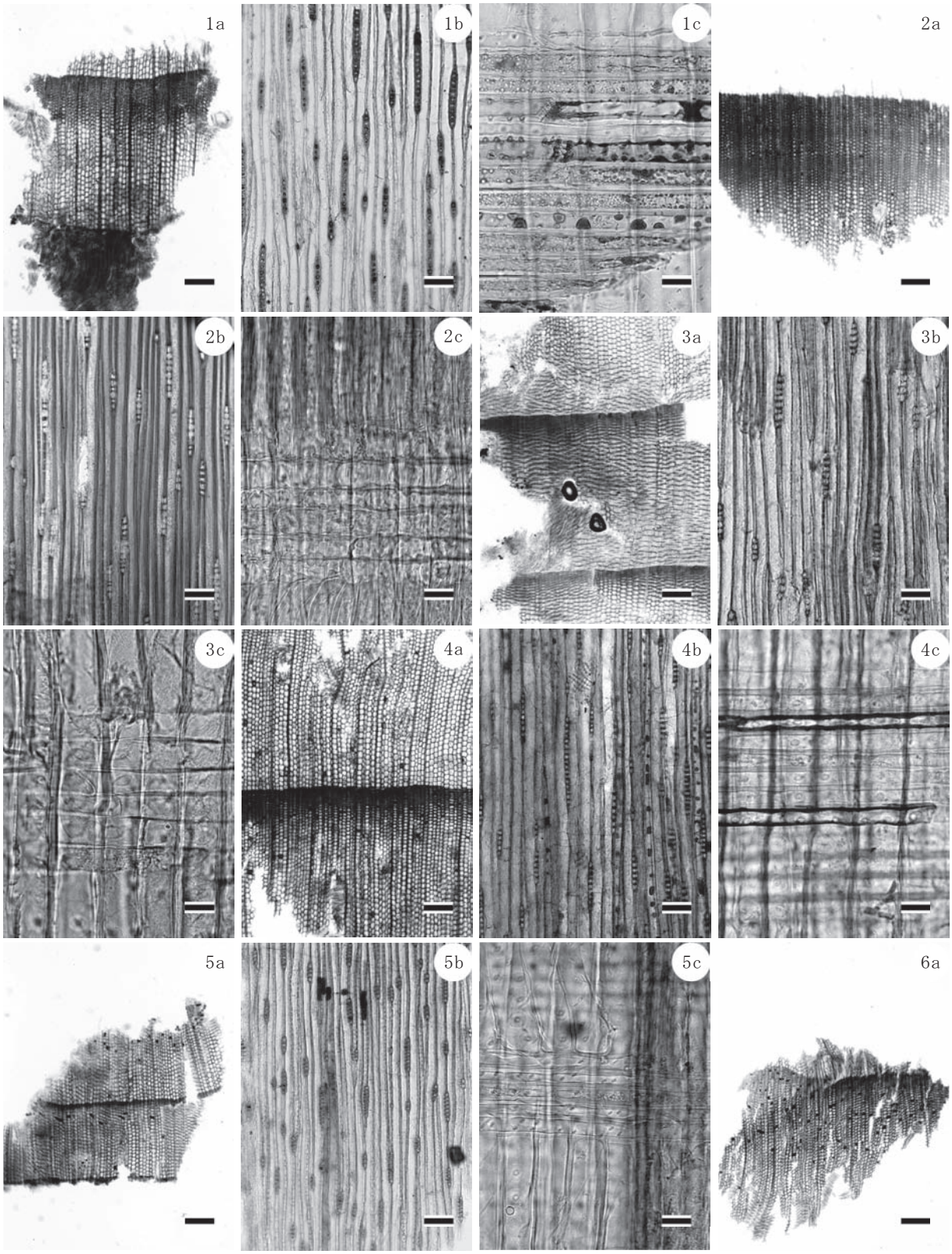
伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌，238p，海青社.
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学―出土木製品用材データベース―．449p，海青社.
下中直人（2002）世界有用植物辞典．1499p，平凡社

試料番号	報文番号	出土遺構	器種	樹種	木取り	時期
14	943	SK24	木簡	スギ	板目	17 世紀後半
15	827	SK24	蓋又は底板	モミ属	追柾目	17 世紀後半
16	828	SK24	蓋又は底板	ヒノキ	板目	17 世紀後半
17	972	SK24	下駄の歯	トネリコ属シオジ節	追柾目	17 世紀後半
18	971	SK24	下駄の歯	マツ属複維管束亜属	追柾目	17 世紀後半
19	870	SK24	楊枝	モミ属	芯去削出	17 世紀後半
20	966	SK24	下駄	スギ	板目	17 世紀後半
21	868	SK24	釘状木製品	スギ	芯去削出	17 世紀後半
22	869	SK24	楊枝	モミ属	芯去削出	17 世紀後半
23	941	SK24	木簡	アスナロ	柾目	17 世紀後半
24	958	SK24	下駄	トネリコ属シオジ節	追柾目	17 世紀後半
25	957	SK24	下駄	トネリコ属シオジ節	追柾目	17 世紀後半
26	973	SK24	下駄の歯	モミ属	追柾目	17 世紀後半
27	974	SK24	下駄の歯	マツ属複維管束亜属	追柾目	17 世紀後半
28	940	SK24	木簡	スギ	柾目	17 世紀後半
29	968	SK24	下駄	トネリコ属シオジ節	追柾目	17 世紀後半
30	975	SK24	不明	モミ属	芯去削出	17 世紀後半
31	925	SK24	人形頭部	スギ	芯去削出	17 世紀後半
32	249	SE07	蓋又は底板	モミ属	柾目	17 世紀後半
33	250	SE07	栓	アスナロ	芯去削出	17 世紀後半
34	555	SK23	蓋又は底板	スギ	柾目	17 世紀中葉
35	840	SK24	蓋又は底板	アスナロ	板目	17 世紀後半
36	846	SK24	蓋又は底板	スギ	板目	17 世紀後半
37	156	SE04	手桶側板	スギ	柾目	19 世紀以降
38	157	SE04	手桶側板	スギ	板目	19 世紀以降
39	158	SE04	蓋又は底板	スギ	柾目	19 世紀以降
40	556	SK23	蓋又は底板	スギ	柾目	17 世紀中葉
41	1000	SK25	金隠し	モミ属	柾目	17 世紀後半
42	855	SK24	栓	コウヤマキ	芯去削出	17 世紀後半
43	845	SK24	蓋又は底板	スギ	柾目	17 世紀後半
44	852	SK24	栓	アスナロ	角材	17 世紀後半
45	837	SK24	蓋又は底板	スギ	板目	17 世紀後半
46	983	SK24	不明	モミ属	板目	17 世紀後半
47	558	SK23	折敷の脚	モミ属	柾目	17 世紀中葉
48	557	SK23	蓋又は底板	アスナロ	追柾目	17 世紀中葉
49	831	SK24	蓋又は底板	アスナロ	柾目	17 世紀後半
50	978	SK24	不明	スギ	追柾目	17 世紀後半
51	865	SK24	調度品の部材か？	アスナロ	柾目	17 世紀後半
52	826	SK24	容器の把手？	アスナロ	柾目	17 世紀後半
53	834	SK24	蓋又は底板	ヒノキ	柾目	17 世紀後半
54	835	SK24	蓋又は底板	ヒノキ	柾目	17 世紀後半
55	964	SK24	下駄	カエデ属	板目	17 世紀後半
56	853	SK24	栓	マツ属複維管束亜属	芯去削出	17 世紀後半
57	873	SK24	へら状木製品	スギ	柾目	17 世紀後半
58	874	SK24	へら状木製品	スギ	板目	17 世紀後半
59	984	SK24	不明	アスナロ	芯去削出	17 世紀後半
60	209	SE06	蓋又は底板	アスナロ	柾目	17 世紀後半
61	210	SE06	蓋又は底板	アスナロ	柾目	17 世紀後半
62	956	SK24	下駄	トネリコ属シオジ節	追柾目	17 世紀後半
63	407	SK18	栓	アスナロ	追柾目	19 世紀以降
64	843	SK24	蓋又は底板	ヒノキ	柾目	17 世紀後半
65	841	SK24	蓋又は底板	アスナロ	柾目	17 世紀後半
66	830	SK24	蓋又は底板	スギ	板目	17 世紀後半
67	829	SK24	蓋又は底板	ヒノキ	柾目	17 世紀後半
68	842	SK24	蓋又は底板	ヒノキ	柾目	17 世紀後半
69	875	SK24	ヘラ状木製品	アスナロ	柾目	17 世紀後半
70	939	SK24	木簡	スギ	柾目	17 世紀後半
71	988	SK24	不明	アスナロ	柾目	17 世紀後半
72	850	SK24	蓋又は底板	スギ	板目	17 世紀後半
73	866	SK24	調度品の部材か？	スギ	追柾目	17 世紀後半
74	979	SK24	不明	アスナロ	芯去削出	17 世紀後半
75	980	SK24	不明	ヒノキ	芯去削出	17 世紀後半
76	990	SK24	不明	マツ属複維管束亜属	柾目	17 世紀後半
77	976	SK24	板状木製品	アスナロ	柾目	17 世紀後半
78	862	SK24	折敷の脚	アスナロ	柾目	17 世紀後半
79	851	SK24	栓	アスナロ	芯去削出	17 世紀後半
80	987	SK24	不明	スギ	板目	17 世紀後半

第 27 表　高松城跡（高松北警察署）出土木製品の樹種同定結果一覧 (1)

試料番号	報文番号	出土遺構	器種	樹種	木取り	時期
81	967	SK24	下駄	スギ	追柾目	17 世紀後半
82	991	SK24	不明	コナラ属アカガシ亜属	芯去削出	17 世紀後半
83	986	SK24	不明	アスナロ	角材	17 世紀後半
84	833	SK24	蓋又は底板	アスナロ	柾目	17 世紀後半
85	848･849	SK24	蓋又は底板	アスナロ	柾目	17 世紀後半
86	838	SK24	蓋又は底板	アスナロ	柾目	17 世紀後半
87	839	SK24	蓋又は底板	スギ	柾目	17 世紀後半
88	844	SK24	蓋又は底板	スギ	柾目	17 世紀後半
89	836	SK24	蓋又は底板	アスナロ	柾目	17 世紀後半
90	969	SK24	下駄の歯	広葉樹	柾目	17 世紀後半
91	854	SK24	栓	スギ	芯去削出	17 世紀後半
92	861	SK24	折敷の脚	アスナロ	柾目	17 世紀後半
93	84	SE01	蓋又は底板	スギ	板目	17 世紀前半
94	823･824･825	SK24	曲げ物　側板	スギ	柾目	17 世紀後半
95	-	SK24	紐	シュロ	-	17 世紀後半
96	832	SK24	蓋又は底板	アスナロ	柾目	17 世紀後半
97	847	SK24	蓋又は底板	スギ	柾目	17 世紀後半
98	977	SK24	加工円盤（容器？）	スギ	横木取り	17 世紀後半
99	970	SK24	下駄の歯	トネリコ属シオジ節	柾目	17 世紀後半
100	863	SK24	折敷の脚	スギ	柾目	17 世紀後半
101	858	SK24	折敷の脚	スギ	追柾目	17 世紀後半
102	985	SK24	不明	アスナロ	柾目	17 世紀後半
103	989	SK24	不明	スギ	板目	17 世紀後半
104	860	SK24	調度品の部材か	アスナロ	柾目	17 世紀後半
105	981	SK24	不明	アスナロ	柾目	17 世紀後半
106	888	SK24	箸	モミ属	芯去削出	17 世紀後半
107	880	SK24	箸	モミ属	芯去削出	17 世紀後半
108	-	SE04	井戸枠	マツ属複維管束亜属	板目	19 世紀以降
109	-	SE05	井戸枠	スギ	板目	18 世紀前半
110	898	SK24	箸	アスナロ	芯去削出	17 世紀後半
111	879	SK24	箸	モミ属	芯去削出	17 世紀後半
112	-	SE06	井戸枠	モミ属	追柾目	17 世紀後半
113	-	SE07	井戸枠	アスナロ	追柾目	17 世紀後半
114	-	SK24	薄い板材	スギ	板目	17 世紀後半
115	893	SK24	箸	モミ属	芯去削出	17 世紀後半
116	901	SK24	箸	スギ	芯去削出	17 世紀後半
117	899	SK24	箸	モミ属	芯去削出	17 世紀後半
118	900	SK24	箸	モミ属	芯去削出	17 世紀後半
119	897	SK24	箸	モミ属	芯去削出	17 世紀後半
120	912	SK24	箸	スギ	芯去削出	17 世紀後半
121	917	SK24	箸	スギ	芯去削出	17 世紀後半
122	916	SK24	箸	アスナロ	芯去削出	17 世紀後半
123	895	SK24	箸	モミ属	芯去削出	17 世紀後半
124	887	SK24	箸	スギ	芯去削出	17 世紀後半
125	564	SK23	チュウ木	モミ属	芯去削出	17 世紀中葉
126	561	SK23	チュウ木	モミ属	芯去削出	17 世紀中葉
127	565	SK23	チュウ木	スギ	芯去削出	17 世紀中葉
128	560	SK23	チュウ木	モミ属	芯去削出	17 世紀中葉
129	563	SK23	チュウ木	モミ属	芯去削出	17 世紀中葉
130	562	SK23	チュウ木	モミ属	芯去削出	17 世紀中葉
131	559	SK23	チュウ木	モミ属	芯去削出	17 世紀中葉

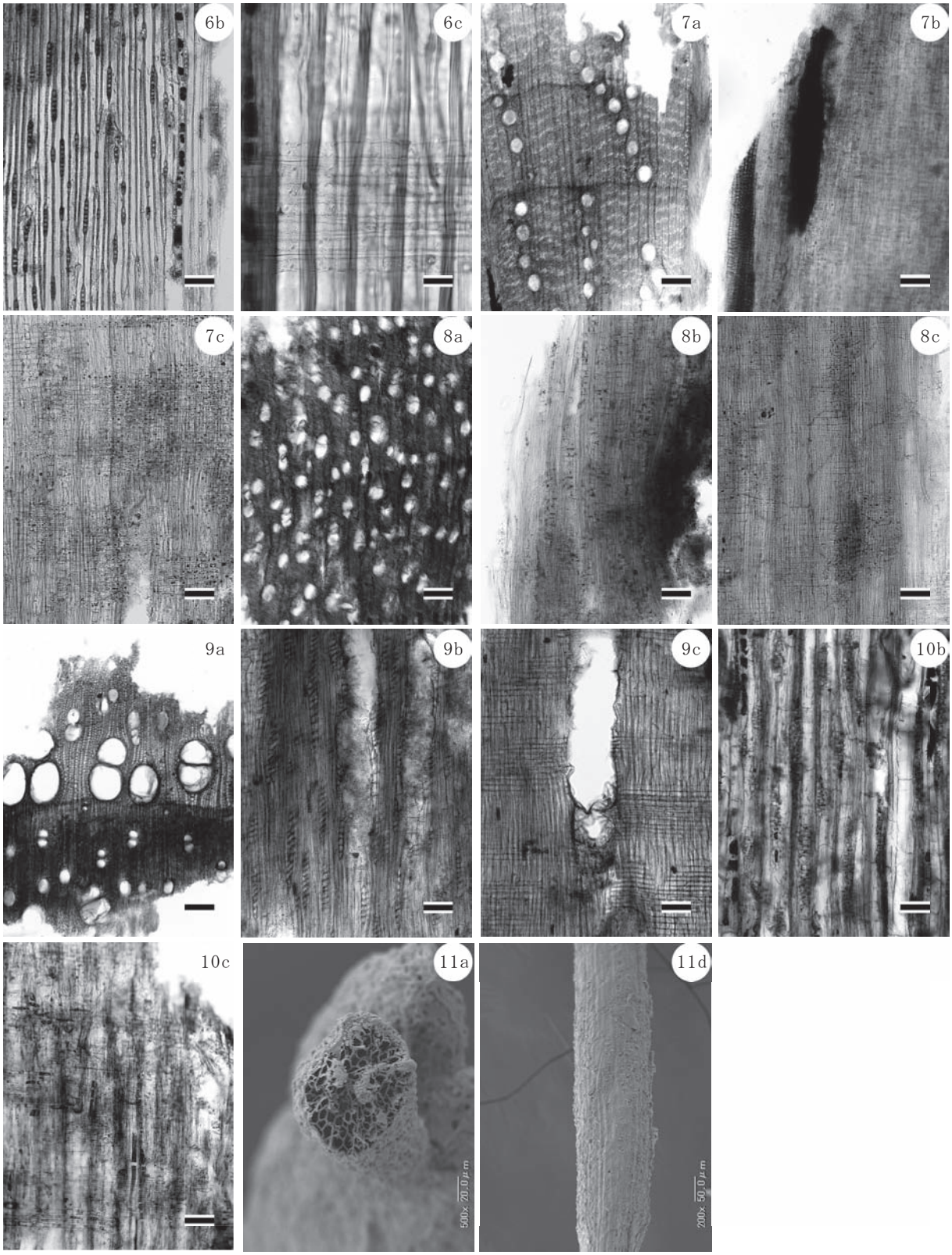
第 28 表　高松城跡（高松北警察署）出土木製品の樹種同定結果一覧 (2)



1a-1c. モミ属(No. 106)、2a-2c. マツ属複維管束亜属(No. 18)、3a-3c. コウヤマキ(No. 42)、4a-4c. スギ(No. 87)、5a-5c. ヒノキ(No. 16)、6a. アスナロ(No. 83)

a:横断面(スケール=250 μm)、b:接線断面(スケール=100 μm)、c:放射断面(スケール=25 μm)

写真 19　高松城跡（高松北警察署）出土木材の光学顕微鏡写真 (1)



6b-6c. アスナロ(No. 83)、7a-7c. コナラ属アカガシ亜属(No. 82)、8a-8c. カエデ属(No. 55)、9a-9c. トネリコ属シオジ節(No. 99)、10b-10c. 広葉樹(No. 90)、11a・11d. シュロ(No. 95)
a:横断面(スケール=250 μm)、b:接線断面(スケール=100 μm)、c:放射断面(スケール=6:25 μm・7-10:100 μm)、d:側面

写真 20　高松城跡（高松北警察署）出土木材の光学顕微鏡写真 (2)・走査型電子顕微鏡写真

第 6 節　高松城跡 (高松北警察署）出土木製品の樹種調査結果

（株）吉田生物研究所

1. 試料

試料は香川県高松城跡（高松北警察署）から出土した容器 1 点、文房具 13 点、遊戯具 4 点、雑具 1 点の合計 19 点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面)、柾目（放射断面)、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果（針葉樹 5 種、広葉樹 1 種）を第 29 表と写真 21 ～ 27 に示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

１）マツ科モミ属（*Abies sp.*）

（遺物 No.1,4,8,11,12）

（写真 No.1,4,8,11,12）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は比較的ゆるやかで晩材部の幅は狭い。柾目では放射組織の上下縁辺部に不規則な形状の放射柔細胞がみられる。放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁になっている。放射組織の分野壁孔はスギ型で 1 分野に 1 ～ 4 個ある。板目では放射組織は単列であった。モミ属はトドマツ、モミ、シラベがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

２）マツ科マツ属 [二葉松類]（*Pinus sp.*）

（遺物 No.21）

（写真 No.21）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が細胞間隙としてみられる。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内腔に向かって鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で 1 ～ 15 細胞高のものと、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属 [二葉松類] はクロマツ、アカマツがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。

３）スギ科スギ属スギ（*Cryptomeria japonica D.Don*）

（遺物 No.31,32）

（写真 No.31,32）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で 1 分野に 1 ～ 3 個ある。板目では放射組織

はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

４）ヒノキ科ヒノキ属（*Chamaecyparis sp.*）

（遺物 No.2,3,5,6,20）

（写真 No.2,3,5,6,20）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～２個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州 (福島以南)、四国、九州に分布する。

５）ヒノキ科アスナロ属（*Thujopsis sp.*）

（遺物 No.7,9,10,29,30）

（写真 No.7,9,10,29,30）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

６）ニレ科ケヤキ属ケヤキ（*Zelkova serrata Makino*）

（遺物 No.16）

（写真 No.16）

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（～ 270 μ m）が１列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織)。放射組織は１～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の１～３列のものと大部分を占める６～７細胞列のほぼ大きさの一様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

◆参考文献◆
林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所（1991）
伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）
島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）
北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社（1979）
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

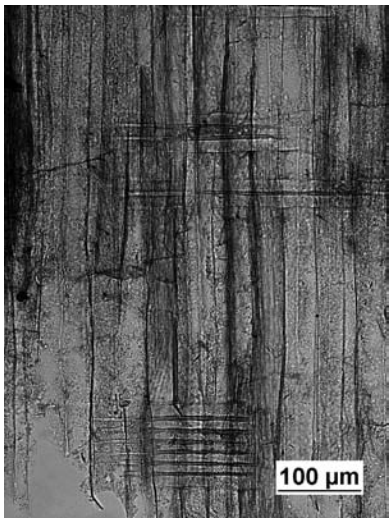
◆使用顕微鏡◆
Nikon DS-Fi1

No.	報文番号	器種	樹種
1	571	木簡	マツ科モミ属
2	568	木簡	ヒノキ科ヒノキ属
3	566	木簡	ヒノキ科ヒノキ属
4	248	木簡	マツ科モミ属
5	569	木簡	ヒノキ科ヒノキ属
6	932	木簡	ヒノキ科ヒノキ属
7	949	木簡	ヒノキ科アスナロ属
8	260	木簡	マツ科モミ属
9	931	木簡	ヒノキ科アスナロ属
10	933	木簡	ヒノキ科アスナロ属
11	946	木簡	マツ科モミ属
12	935	木簡	マツ科モミ属
16	821	容器	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
20	856	折敷の脚（墨書）	ヒノキ科ヒノキ属
21	934	木簡	マツ科マツ属［二葉松類］
29	922	人形頭部	ヒノキ科アスナロ属
30	921	人形頭部	ヒノキ科アスナロ属
31	923	人形頭部	スギ科スギ属スギ
32	924	人形頭部	スギ科スギ属スギ

第 29 表　高松城跡 (高松北警察署) 出土木製品同定表（1）

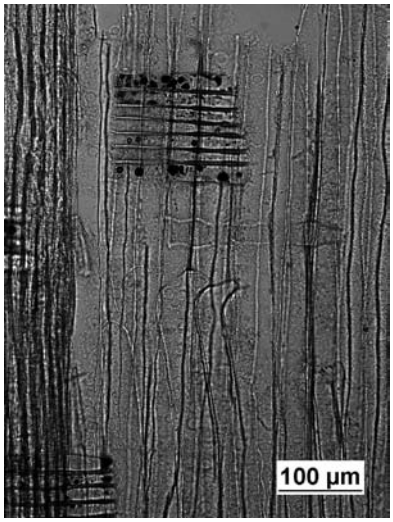
柾目

No-1　　マツ科モミ属

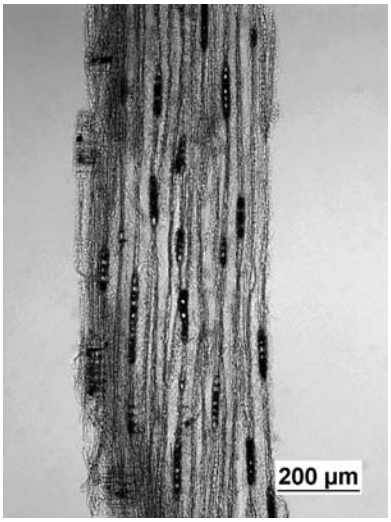


柾目

No-2　　ヒノキ科ヒノキ属



柾目



板目

No-3　　ヒノキ科ヒノキ属

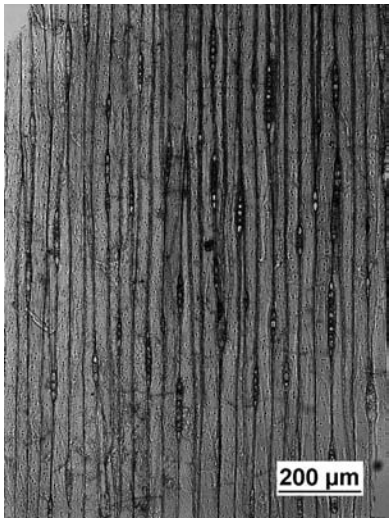
写真 21　高松城跡（高松北警察署）出土木材の顕微鏡写真 (1)

柾目　　板目

No-4　　マツ科モミ属

柾目

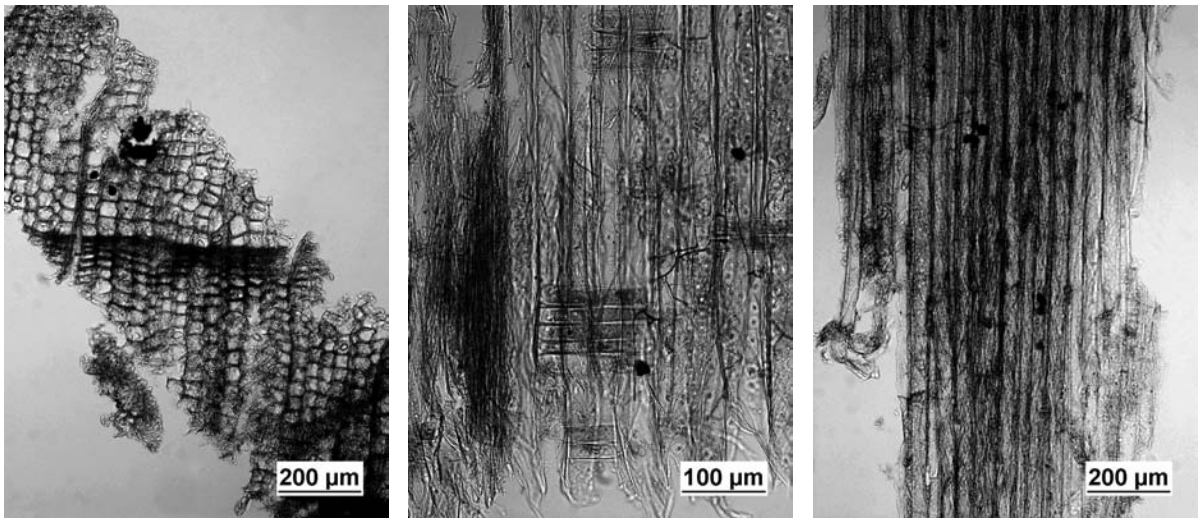
No-5　　ヒノキ科ヒノキ属



柾目　　板目

No-6　　ヒノキ科ヒノキ属

写真 22　高松城跡（高松北警察署）出土木材の顕微鏡写真 (2)

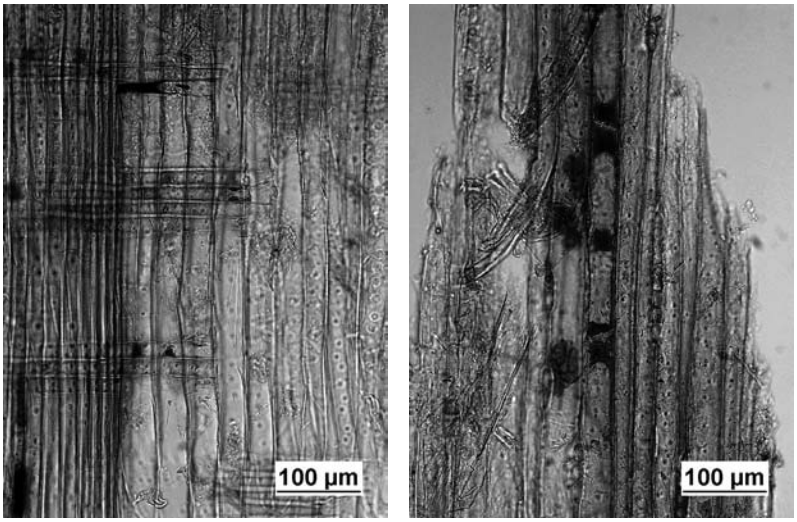


木口　　柾目　　板目

No-7　　ヒノキ科アスナロ属

柾目

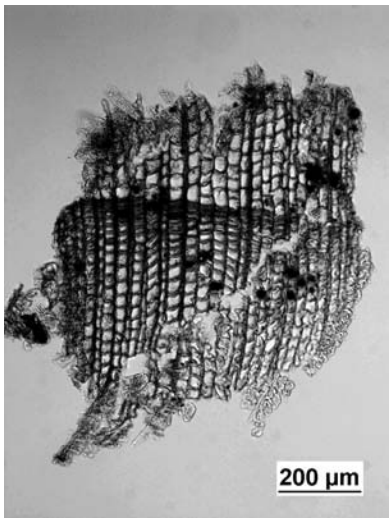
No-8　　マツ科モミ属

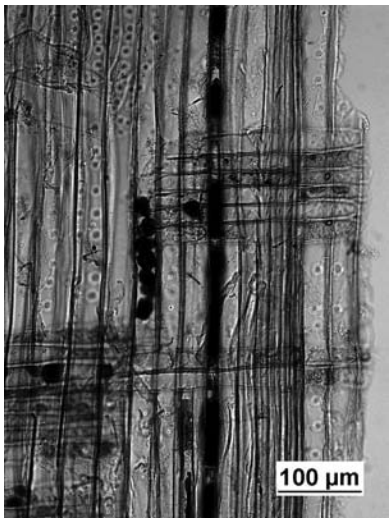


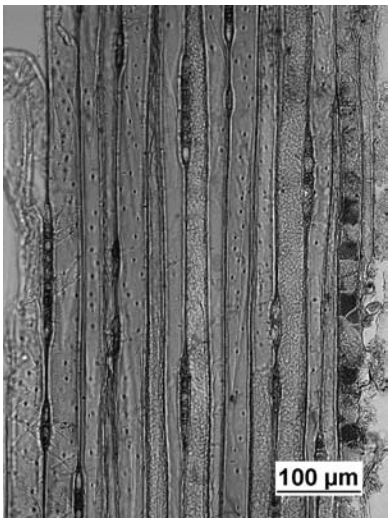
柾目　　板目

No-9　　ヒノキ科アスナロ属

写真 23　高松城跡（高松北警察署）出土木材の顕微鏡写真 (3)

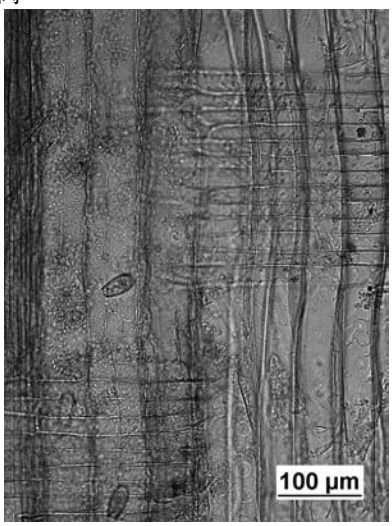






木口　　柾目　　板目

No-10　ヒノキ科アスナロ属



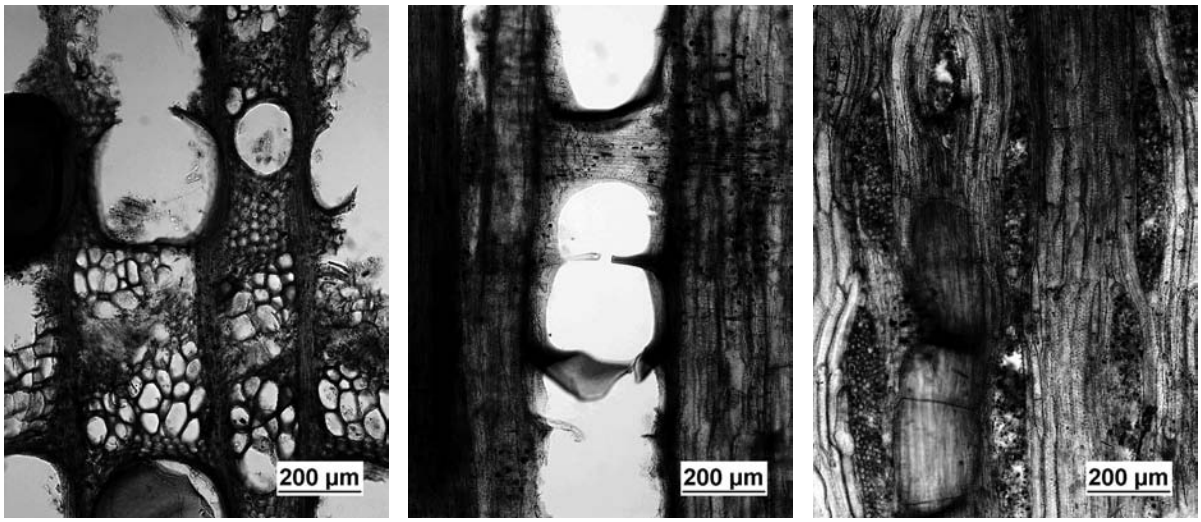
柾目

No-11　マツ科モミ属

柾目　　板目

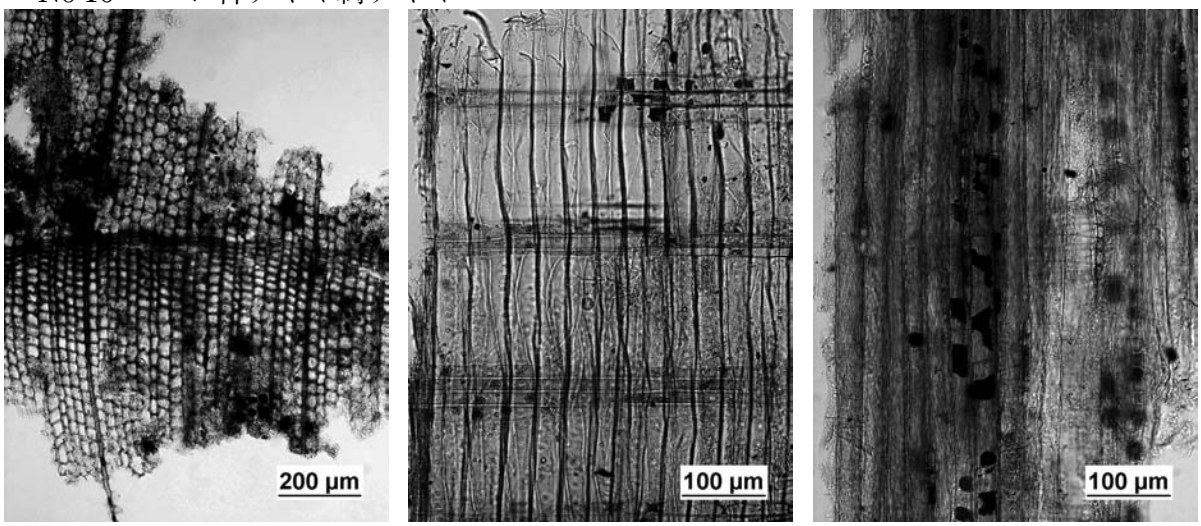
No-12　マツ科モミ属

写真 24　高松城跡（高松北警察署）出土木材の顕微鏡写真 (4)



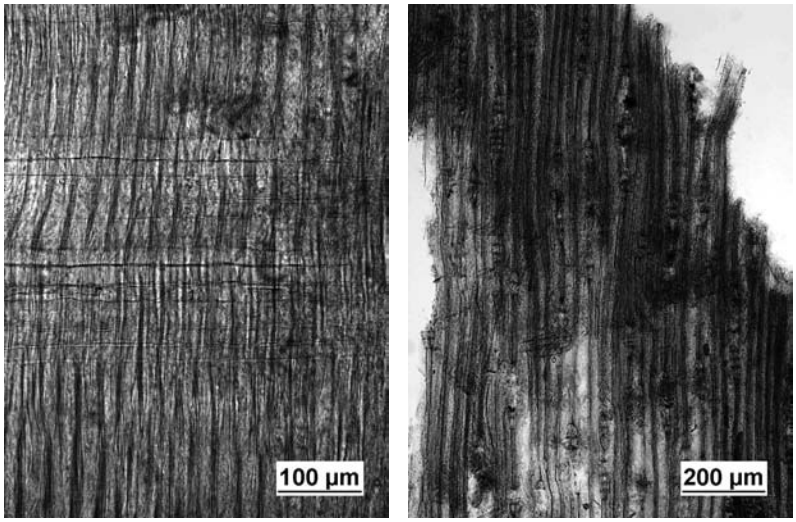
木口　　柾目　　板目

No-16　ニレ科ケヤキ属ケヤキ



木口　　柾目　　板目

No-20　ヒノキ科ヒノキ属



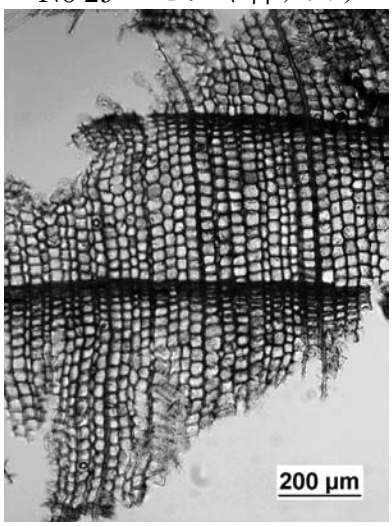
柾目　　板目

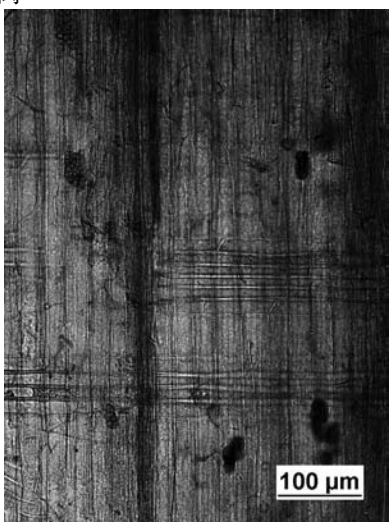
No-21　マツ科マツ属 [二葉松類]

写真 25　高松城跡（高松北警察署）出土木材の顕微鏡写真 (5)

木口　　柾目　　板目

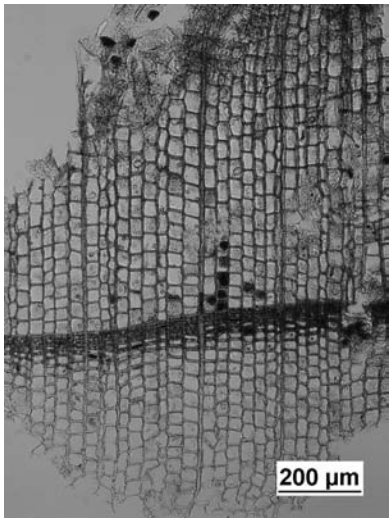
No-29　ヒノキ科アスナロ属

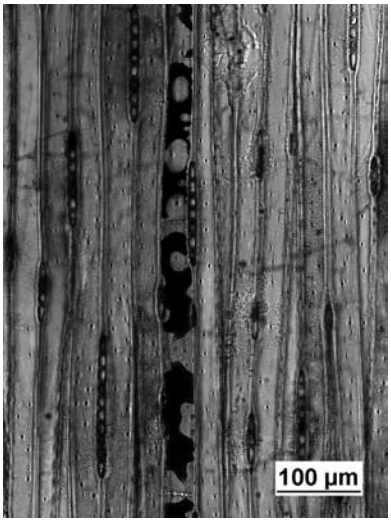




木口　　柾目　　板目

No-30　ヒノキ科アスナロ属

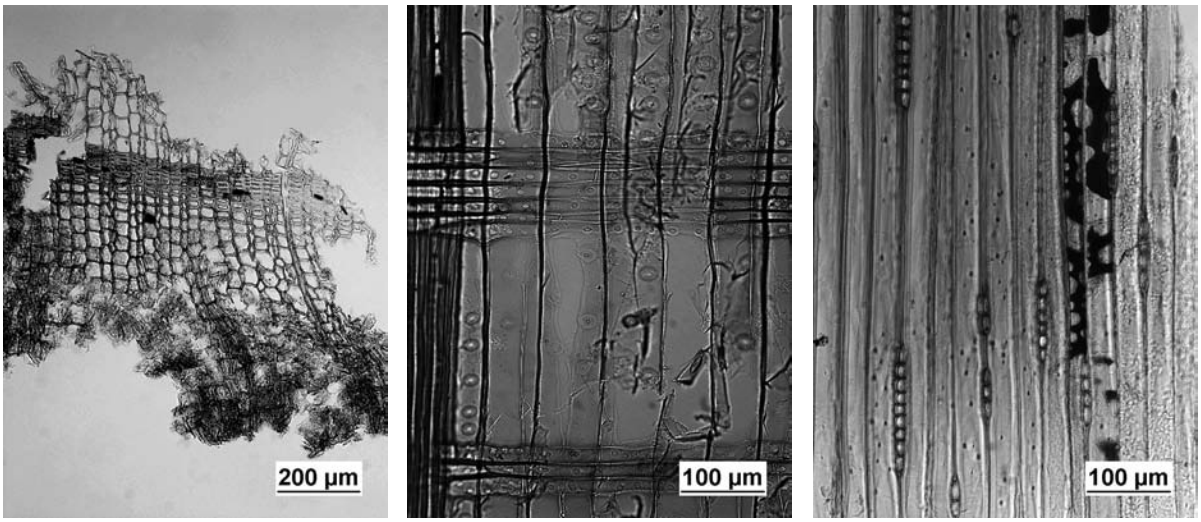




木口　　柾目　　板目

No-31　スギ科スギ属スギ

写真 26　高松城跡（高松北警察署）出土木材の顕微鏡写真 (6)



木口　　柾目　　板目

No-32　スギ科スギ属スギ

写真 27　高松城跡（高松北警察署）出土木材の顕微鏡写真 (7)

第 7 節　高松城跡（高松北警察署）に係る樹種同定結果

株式会社文化財サービス

1　はじめに

高松城跡（高松北警察署）より出土した木製品 43 点、保存処理を実施した。また、合わせて樹種同定を実施した。

2　保存処理工程

(1) 処理前調査 (保存処理前観察表作成)

処理前調査として、デジタルカメラによる写真撮影と遺物の状 態を把握するための肉眼観察を行い、合わせて樹種同定を行った。

処理方法は、高松城跡 245 ～ 247･871･872 は PEG 含浸法で行い、その他の遺物は真空凍結乾燥法で行った。

(2) 洗浄

蒸留水を用いて実施した。

(3) 脱色処理

エチレンジアミン四酢酸 -2 ナトリウム 2 水和物 (EDTA-2Na)0.1％水溶液に 24 時間浸漬した。その後、脱 EDTA-2Na 処理として、流水にて 36 時間程度洗浄した。ただし、木簡等墨書のあるものは、脱色処理を行うと文字が流れる可能性があったため、脱色処理を行わなかった。

(4) 樹脂含浸・真空凍結乾燥

PEG 含浸法は、以下の工程を実施した。 樹脂含浸は、遺物を不織布を用いて養生し、漆器に関しては個別に容器に入れ実施した。PEG 濃度は最初 20％から開始し、段階的に 20％ずつ上昇させ、最終的には PEG 濃度を 100％まで上昇させた。PEG 含浸完了後、溶液から取り上げ余分な PEG を拭き取り 5 日間自然 乾燥させた。

各濃度含浸期間は、20％・40％・60％は 15 日間、80％・100％は一か月間である。 真空凍結乾燥法は、以下の工程で実施した。

樹脂含浸は、遺物を不織布を用いて養生し、実施した。PEG 濃度は 遺物の状態等を確認しながら 20％、40％と段階的に含浸を行った。 PEG 濃度 40％含浸完了後、真空凍結乾燥を行った。

含浸期間は 20％・40％共に一か月間、真空凍結乾燥は 5 日間である。

写真 28　樹脂含浸作業

(5) 表面処理

60℃に加温したエタノール用いて遺物表面に析出した余分な PEG を可能な限り除去した。その後 3 日間自然乾燥させた。

写真 29　真空凍結乾燥

(6) 接合

高松城跡 85･962 はエポキシ系接着剤 (クイック 5：コニシ株式会社) を用いて行った。

(7) 処理後調査

保存処理後の調査としてデジタルカメラによる撮影を行った。また、保存処理前観察表を用いて遺物の変形等が発生していないかの確認を行った。

3　樹種同定

(1) 分析方法

資料の木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

(2) 結果及び考察

樹種同定試料

保存処理を実施したものに合わせて 952･954･959 は下駄の台と前歯、953 は下駄の台と前歯と後歯を実施した。ただし、組合せ式箱（867）の一部、864 は実施していない。

結果

樹種同定結果を第 30 表に示す。木製品は、針葉樹 7 分類群 (マツ属複維管束亜属・モミ属・ツガ属・スギ・ヒノキ・アスナロ・ヒノキ科) と広葉樹 4 分類群 (カツラ・イスノキ・バラ科ナシ亜科・トネリコ属) に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属（Pinus subgen. Diploxylon） マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1 ～ 15 細胞高。

・モミ属（Abies） マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材

部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で 1 分野に 1 ～ 4 個。放射組織は単列、1 ～ 20 細胞高。

・ツガ属（Tsuga） マツ科

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞は、年輪界近くに認められるが、数が少なく目立たない。放射組織は仮道管と柔細胞で構成される。柔細胞壁は滑らかで、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はヒノキ型で、1 分野に 1 ～ 4 個。放射組織は単列、1 ～ 20 細胞高。

・スギ（Cryptomeriajaponica (L. f.) D. Don） スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。 樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2-4 個。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。

・ヒノキ（Chamaecyparis obtusa(Sieb. et Zucc.) Endlcher）ヒノキ科

ヒノキ属軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。 樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1 分野に 1 ～ 3 個。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。

・アスナロ（Thujopsis dolabrata Sieb. et Zucc.） ヒノキ科アスナロ属

軸方向組織は仮道管と材部付近に認められる。 放射組織は柔細胞のみで構成され、内壁には茶褐色の樹脂が顕著に認められる。分野壁孔はヒノキ型で、1 分野に 1 ～ 4 個。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。

・ヒノキ科（Cupressaceae） 軸方向組織は仮道管と樹脂細

報文番号	報告遺構	器種	部位	樹種
85	SE01	卒塔婆	-	モミ属
245	SE07	櫛	-	イスノキ
246	SE07	櫛	-	広葉樹
247	SE07	櫛	-	イスノキ
259	SE07	木簡	-	スギ
261	SE07	下駄	台	カツラ
			後歯	カツラ
567	SK23	木簡	-	モミ属
572	SK23	木簡	-	ヒノキ
573	SK23	刷毛の柄	-	スギ
574	SK23	下駄	-	トネリコ属
857	SK24	折敷の脚	-	スギ
859	SK24	折敷の脚	-	ヒノキ
867	SK24	箱 (底板)	-	モミ属
		箱 (側板)	-	モミ属
		箱 (側板)	-	モミ属
871	SK24	櫛	-	イスノキ
872	SK24	櫛	-	広葉樹
876	SK24	へら状木製品 (墨書)	-	モミ属
877	SK24	へら状木製品	-	スギ
926	SK24	人形頭部 (耳)	-	トネリコ属
927	SK24	将棋の駒	-	バラ科ナシ亜科
928	SK24	舟形木製品	-	ツガ属
930	SK24	木簡	-	アスナロ
936	SK24	木簡	-	スギ
938	SK24	木簡	-	モミ属
942	SK24	木簡	-	モミ属
944	SK24	木簡	-	ヒノキ
947	SK24	木簡	-	ヒノキ科
950	SK24	木札 (墨書)	-	モミ属
951	SK24	木簡	-	スギ
952	SK24	下駄	台	トネリコ属
			前歯	トネリコ属
953	SK24	下駄	台	モクレン属
			前歯	モクレン属
			後歯	モクレン属
954	SK24	下駄	台	トネリコ属
			前歯	トネリコ属
955	SK24	下駄	-	トネリコ属
959	SK24	下駄	台	マツ属複維管束亜属
			前歯	カツラ
960	SK24	下駄	-	ヒノキ科
961	SK24	下駄	-	ヒノキ科
962	SK24	下駄	-	マツ属複維管束亜属
963	SK24	下駄	-	モミ属
965	SK24	下駄	-	アスナロ

第 30 表　高松城跡 (高松北警察署) 出土木製品同定表（2）

胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。 上記、ヒノキやアスナロを含むヒノキ科のいずれかであるが、保存状態が悪く、分野壁孔が観察できないために属や種の区別できず、ヒノキ科とした。

・カツラ（Cercidiphyllum japonicum Sieb. et Zucc.） カツラ科カツラ属

散孔材で、道管はほぼ単独で散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1 ～ 2 細胞幅、1 ～ 30 細胞高。

・イスノキ（Distylium racemosum Sieb. et Zucc.） マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1 ～ 3 細胞幅、1 ～ 20 細胞高。柔組織は、独立帯状または短接線状で、放射方向にほぼ等間隔に配列する。

・バラ科（Rosaceae subfam. Maloideae）ナシ亜科

散孔材で、道管は単独または 2 ～ 5 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の 分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1 ～ 2 細胞幅、1 ～ 20 細胞高。

・トネリコ属（Fraxinus） モクセイ科

環孔材で、孔圏部は 1 ～ 3 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、厚壁の道管が単独または 2 個が放射 方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1 ～ 2 細胞幅、1 ～ 20 細胞高。

考察

木製品は、木簡、下駄 (差歯下駄を含む)、舟形木製品、木札、ヘラ状木製品、櫛、箱、将棋の駒、人形頭部、刷毛、折敷脚部、木簡がある。これらの木製品は、伊東・山田 (2012) の木器分類を 参考にすれば、工具 (ヘラ状木製品・刷毛)、容器 (箱)、食事具 (折敷脚部)、服飾具 (櫛・下駄)、遊戯具・日用品 (将棋の駒、人形頭部)、計量具・文房具 (木簡)、祭祀具 (舟形木製品) に分けられる。これらの木製品には、合計 11 種類が認められた。各種類の材質をみると、針葉樹のマツ属複維管束亜属は、いわゆるニヨウマツ類である。木材は、針葉樹としては重硬な部類に入り、強度と保存性が高い。モミ属は、木理が通直で割裂性が高く、強度と保存性は低い。ツガ属は、やや重硬な部類に入り、強度が比較的高い。スギは、木理がこの結果から直で割裂性と耐水性が比較的高い。ヒノキ、アスナロ、ヒノキ科は、木理が通直で割裂性と耐水性が高い。広葉樹のカツラは、木理が通直で割裂性が高く、強度と保存性は低い。イスノキは、極めて重硬・緻密で強度が高い。ナシ亜科は、重硬・緻密で強度が高い。トネリコ属は、重硬で強度が高い。器種別にみると、ヘラ状木製品と刷毛は、いずれも板状を呈する製品である、ヘラ状木製品はモミ属とスギ、刷毛はスギに同定され、割裂性が高く、板状の加工が容易な樹種の選択が推定される。同様の傾向は、容器の箱 (モミ属)、食事具の折敷脚部 (スギとヒノキ)、計量具・文房具の木簡 (モミ属、スギ、ヒノキ、アスナロ、ヒノキ科) など、板状を呈する資料で認められる。

下駄は、針葉樹 (モミ属、アスナロ、ヒノキ科) が利用される資料と、広葉樹 (モクレン属、トネリコ属) が利用される資料がある。資料別にみると、針葉樹は連歯下駄に多く、広葉樹は差歯下駄に多い

ことから、下駄の形態によって木材利用が異なる可能性がある。なお、差歯下駄の中で、歯が残存している資料について、台と歯の樹種をみると、マツ属複維管束の台にカツラの歯の資料、台も歯もモクレン属の資料、台も歯もトネリコ属の資料、台も歯もカツラの資料があり、この結果から、差歯下駄の台と歯の用材選択には多様性があり、様々な組み合わせが存在したことが推定される。 櫛は、いずれも横櫛である。全て広葉樹であり、イスノキが確認された。なお、広葉樹としたうち、952 は、少なくともイスノキではないと判断されることから、少なくとも 2 種類以上の木材が利用されていたことが推定される。イスノキは、重硬・緻密で加工は困難であるが、一方で細かな加工が可能であり、櫛としてはツゲに次ぐ良材とされる。伊東・山田 (2012) のデータベースによれば、出土した櫛の用材では、イスノキが圧倒的に多く、かつてはツゲよりも多く利用されていた可能性があ る。

将棋の駒は、ナシ亜科であり、重硬・緻密な木材が利用されている。伊東・山田 (2012) のデータデースで将棋の駒について樹種を調べた例をみると、中世から近代までの資料で合計 26 点の報告例がある。樹種をみると、スギやカヤなどの針葉樹が多く、広葉樹ではニシキギ属、カツラ属、種類不明の広葉樹の 3 点が報告されている。ニシキギ属は重硬・緻密な点ではナシ亜科と共通点がある。今回の結果から、ナシ亜科も利用されていたことが推定される。

第５章　まとめ

第１節　絵図資料との対比（第 120 図、第 31 表）

調査地は中堀と外堀の間で、中堀の南西外側に位置する。絵図資料によれば、築造当初の大手である常盤橋付近から南へ延びる太い街路（第 120 図の鍵型街路①と記した付近）から西側では、中堀と外堀の間は東西方向の街路により、屋敷地は大きく３ブロックに分かれる。街路は現在の地割にも踏襲される。調査地は北ブロックの西隅付近で、調査地の東北隅が中堀外縁ライン屈曲部の南西角と街路を挟んで対峙する位置にある。

当時の地割を推測し遺構の理解の一助とするため、17 世紀～ 18 世紀の絵図資料について、中堀や高松城跡（西の丸町地区）で調査した鍵型街路との位置関係、調査地を含むブロックの屋敷地割、調査地に該当する拝領者を確認する。

絵図の内容、年代等については「『高松市埋蔵文化財調査報告　第 122 集　史跡高松城跡整備報告書　第４冊　高松城史料調査報告書』2009 年３月　高松市　高松市教育委員会」に拠った。

絵図は第 121 図との比較のため部分拡大しており、図版 50 ～ 54 にさらに広い範囲について別途掲載した。

１．絵図資料の概要

①生駒家時代讃岐高松城屋敷割図（高松市歴史資料館所蔵）（写真 30）

生駒期の絵図。生駒期後半の家臣名がみられる。寛永 15 ～ 16(1638 ～ 39) 年頃作製。

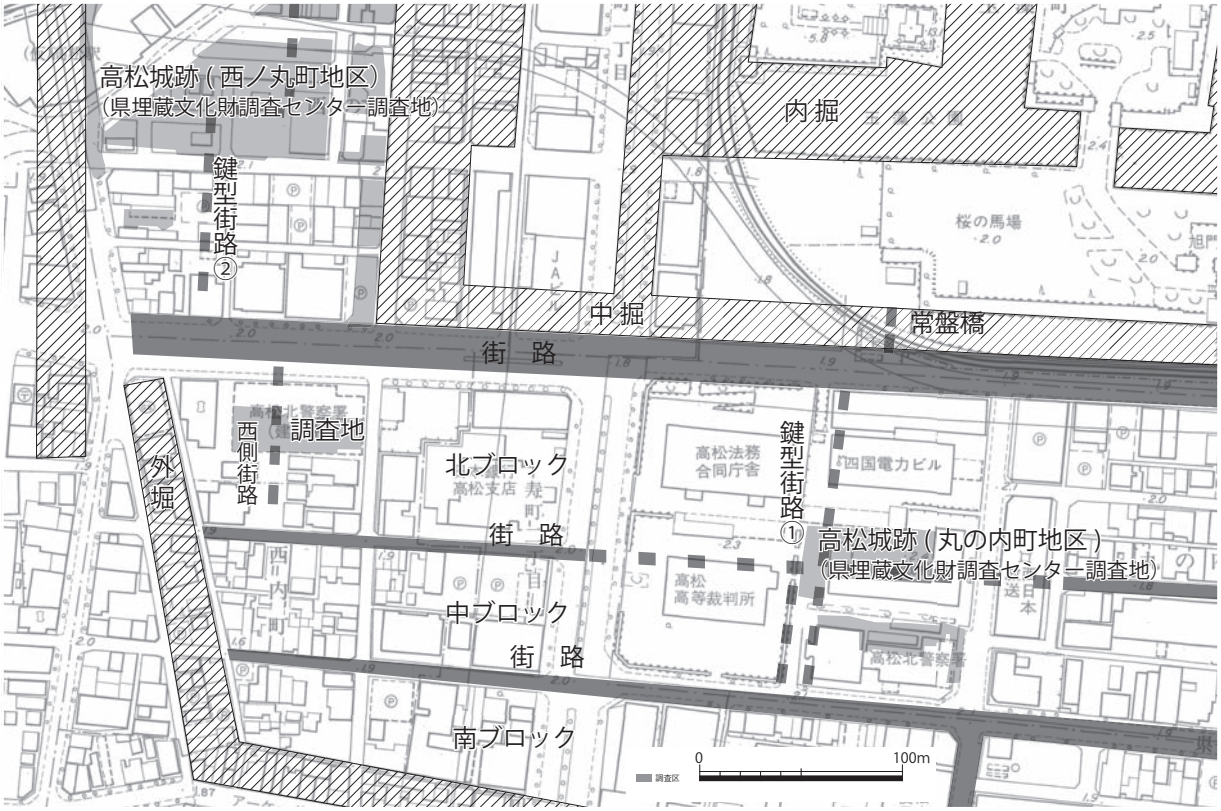
北ブロックの西側を限る街路は、中堀の外側のラインの延長上にある。中堀と北ブロックの位置関係については、他の絵図と異なり中堀が西側へ寄っている。これが、実際の位置関係を反映しているのか、何らかの理由で、例えば城内を大きく描いたために中堀の位置が西へ寄ったか、或いは後述する簡略化の結果かは明らかではない。常盤橋南には鍵型街路が描かれるが、これは高松城跡（丸の内地区）で検出した「鍵型街路２」（第 121 図では鍵型街路①）が想定されている。（財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　2003『高松家庭裁判所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡 (丸の内地区)』香川県教育委員会ほか）

北ブロックは南北列に細分され、北列は５軒、南列は７軒の屋敷地がある。この北ブロックの西側は、北半は空閑地、南半から中ブロックにかけて宮部右馬之丞の屋敷地である。更にこの北の西湊舟入と中堀に挟まれた地区は直線の街路により東西に分けられ、街路の西・東とも５軒の屋敷地がある。しかし、この絵図の内容が高松城跡（西の丸町地区）の調査成果と合致しないことが明らかとなっており、屋敷の拝領者名を記すことを目的とした絵図であるため表現は簡略化された可能性が高いとされている。(財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　2003『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第４冊　高松城跡Ⅱ』香川県教育委員会ほか）

中堀と屋敷地の位置関係が絵図のとおりであれば、調査地は北ブロックの西側の空閑地に相当するが、上述のように、中堀の位置が実際より西側に位置しているとすれば、北ブロック西側の空閑地および北ブロック北西隅の屋敷地（西島八兵衛と記載）の一部が調査地に該当することになる。

②讃州高松城之図（国立国会図書館所蔵）（写真 31）

生駒期の絵図。拝領者などの記載は一部に留まり、特に城下の外側に近い位置では記載は省略され



第 121 図　調査位置図および周辺の現状地割（高松市都市計画図№ 20 高松市街に加筆）

る。写真 30 との絵図の拝領地の記載を比べると、

(1) 北ブロック北列の拝領者名は写真 30 と同じ。西湊舟入と中堀の間の地区の東半部は写真 30 が 5 軒であるのに対し、写真 31 は 4 軒、西半部については記載がかなり省略される。

(2) 中堀と北ブロックの位置関係は写真 30 と異なり、中堀の西外縁の南北ラインは屋敷地半分ほど東側へ寄る。西側街路の西には宮部右馬丞屋敷地が広がる。鍵型街路①と常盤橋の位置関係、鍵型街路①の表現は写真 30 の絵図と同様である。

(3) 西湊舟入と中堀の間の地区の南北方向の街路が鍵型に表現される。

拝領者名や北ブロック・西湊舟入と中堀の間の地区の屋敷地割については写真 30 とよく似ており、近い時期を表すと考えられる。西湊舟入と中堀の間の地区の南北道路が鍵型（鍵型道路②）に表現されていること、外堀が斜行することなど表現内容は写真 30 より写真 32 ～写真 34 に近い。

調査地は、絵図資料の記載からは北ブロックの西島八兵衛の屋敷地及び西側街路、宮部右馬之丞の屋敷地に相当しよう。

③諸国当城之図（広島市立中央図書館）（写真 32）

生駒期～寛文 10 年と考えられる絵図。中堀と北ブロックの位置関係は写真 31 に近い。家臣名の記載はなく、「士」の記載がある屋敷地がみられ、北ブロックの北列にはすべて「士」と記される。北ブロック北列は 5 軒、南列は 6 軒である。調査地は北ブロックの西隅の屋敷地及び西側街路とそれを挟んだ西側の「士」と記載された屋敷地に相当すると考えられる。西湊舟入と中堀の間の地区の南北街路は鍵型であるが、街路両側の屋敷地割は写真 31 と写真 32 はやや異なる。南北鍵型街路の北側ラインの延長線上に北ブロック西側街路のラインがある。

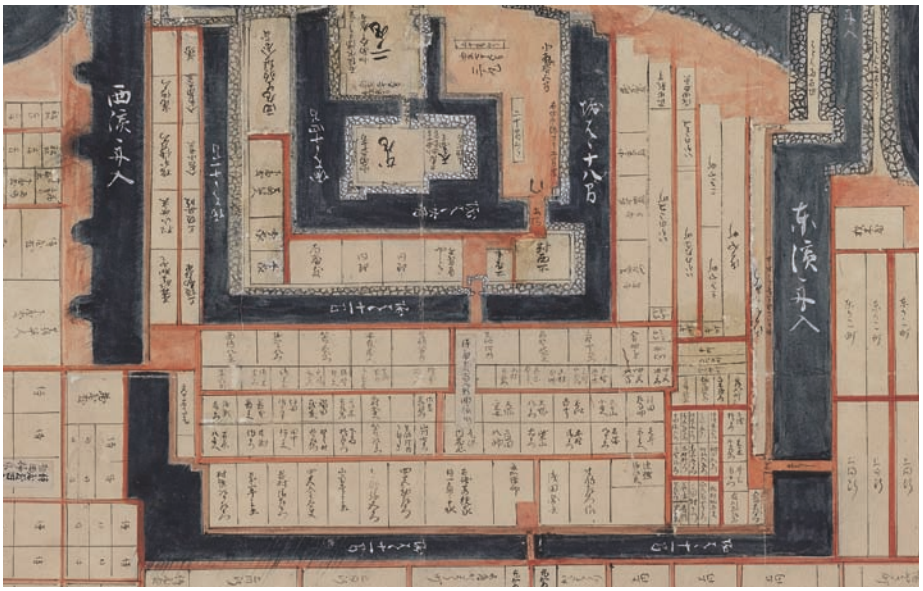


写真 30
生駒家時代讃岐高松城
屋敷割図
(高松市歴史資料館所蔵)

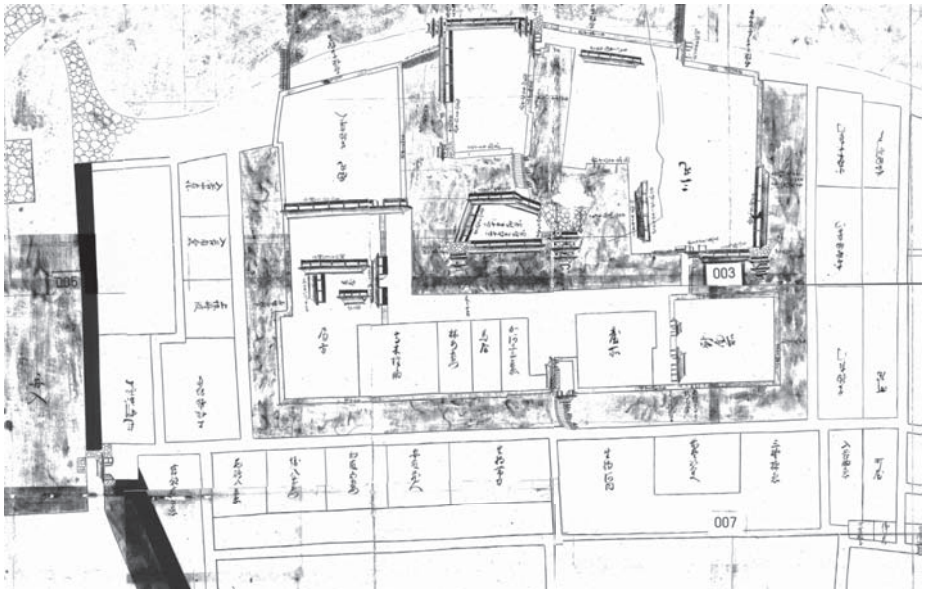


写真 31
讃州高松城之図
(国立国会図書館所蔵)

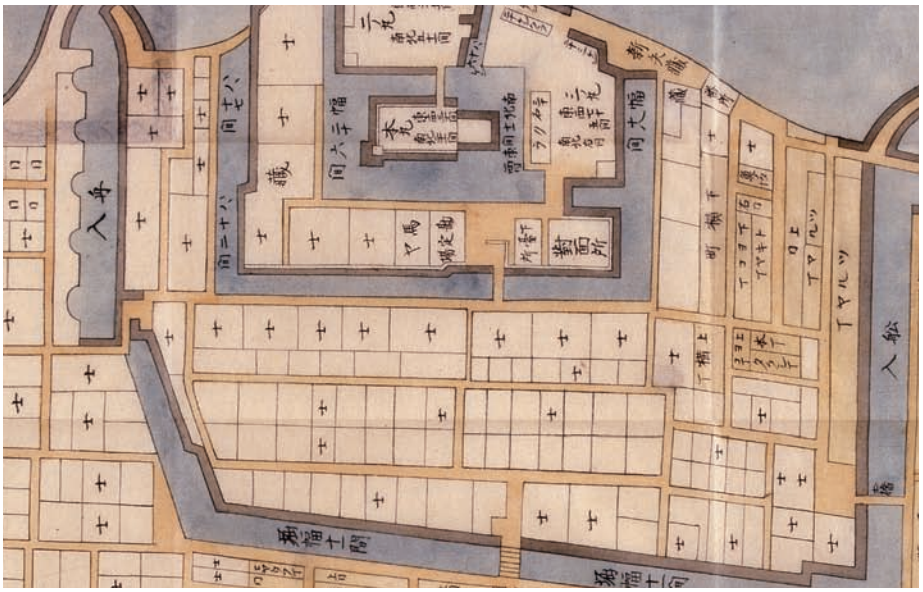


写真 32
諸国当城之図
(広島市立中央図書館所蔵)

鍵型街路①より東については、常盤橋との位置関係、鍵型表現など写真 30、写真 31 と同様である。

④高松城下図屏風（香川県立ミュージアム所蔵）（写真 33）

17 世紀中葉、松平期初期の様子を描いたとされる。中堀との位置関係はこれまでの絵図資料と異なり、北ブロックの西端の屋敷地の東北隅と中堀の南西角が対峙し、写真 30 ～写真 32 に比べ中堀のラインは東へ寄る。西湊舟入と中堀の間の地区を東西に分ける南北街路は鍵型で、北側ラインの南延長上は北ブロック西側街路のラインよりやや東側へ寄る。

北ブロックは引き続き南北に分割され、北列は 5 軒、南列は 7 軒である。

鍵型街路①周辺と常盤橋の位置関係はおおむね①～③と同じで、街路は鍵型に表現される。

⑤讃州高松城図（国立国会図書館所蔵）（写真 34）

松平初期の寛永 19 年～寛文 10 年 (1642 ～ 1670) の様子を描いたと考えられる。東の丸はまだ描かれず、常盤橋は描かれて高松城の大手は南側にある。表記は簡略化され、屋敷地割が記載されない個所や拝領者の記入がないものが多い。

一方、北ブロックの屋敷地割には大きな変化がある。南北列の細分がなくなり 1 軒当たりの屋敷地が広がる。東西方向に 5 軒に分割していたものが 3 軒へと減少する。北ブロックについては、その後の絵図資料では 5 軒に記載されており、写真 34 の絵図は記載を簡略化させたものの可能性もある。

中堀と北ブロック西端の屋敷地との位置関係は写真 33 及びそれ以後の絵図と同じである。

鍵型街路①と常盤橋の位置関係、鍵型街路①の表現も写真 30 ～写真 33 と同じである。

西湊舟入と中堀の間の地区の鍵型街路②も引き続き表現される。

調査地には小早川式部の記載がある。小早川式部は「高松藩記」によれば正保 3 年に千石を与えられ大番頭となるが、継嗣がなく後に断絶となる。

⑥日本輿地図讃州高松地図（独立行政法人　国立公文書館所蔵）（写真 35）

正徳享保年間 (1711 ～ 1736) の様子を描いたと考えられる。東の丸の建造後であるが、城内の様子は詳しくは描かれない。中堀と北ブロックの位置関係は写真 33、写真 34 と同じで、北ブロックは 5 軒の屋敷地割に戻っている。西側街路は中ブロック中程から外堀ラインに沿って南東方向へ曲がる。常盤橋の記載はなくなり、鍵型街路①は直線街路に表現が変化する。

西湊舟入と中堀の間の地区の屋敷地割は大きく変わる。鍵型街路②はなくなり、西半の広大な敷地を大久保飛騨守の屋敷地が占めるようになる。北ブロックの西側街路は、大久保家南半の敷地が東へ張り出す部分の延長上に位置する。

調査地に該当すると考えられる屋敷地には稲田求馬の名が記載される。また、西側街路の西側には屋敷地はなくなり、番所となる。

⑦享保年間高松城下図（高松市歴史資料館所蔵）（写真 36）

享保年間（1718 ～ 36）の様相を示す。写真 35 とはほぼ同時期の絵図である。東の丸が描かれ、写真 35 と同じく北ブロックは南北に細分されていない。北ブロックは 5 軒の屋敷地に分けられる。中堀と北ブロックの位置関係、西側街路、東側の直線街路の位置は写真 35 と同じである。西湊舟入と中堀の間の地区の屋敷地割も写真 35 とほぼ変わらないが、東半北部は新たな拝領者名が記載される。

調査地に該当すると考えられる屋敷地は、写真 35 と同じく稲田求馬と記載され、西側街路の西側は建物の絵が描かれるのみである。

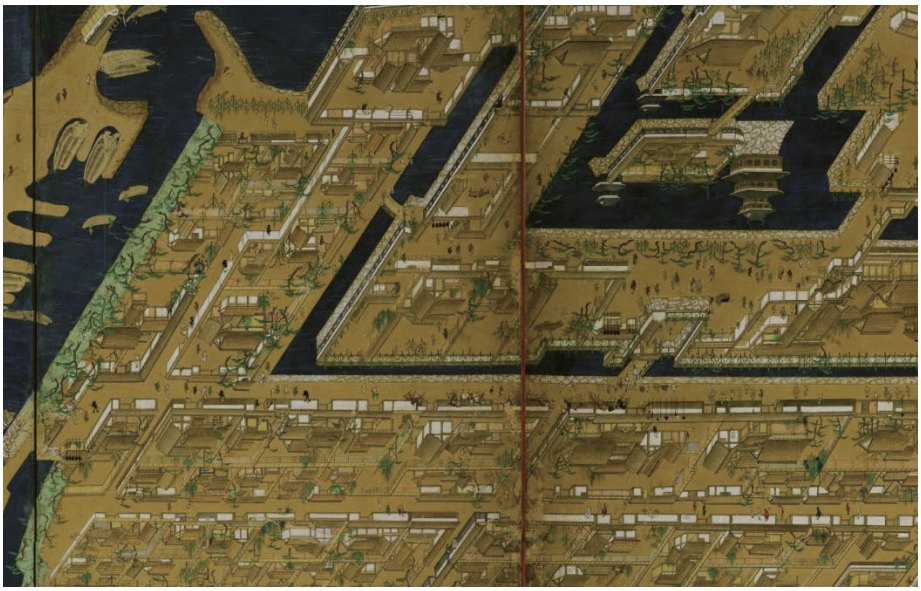


写真 33
高松城下図屏風
(香川県立ミュージアム
所蔵)

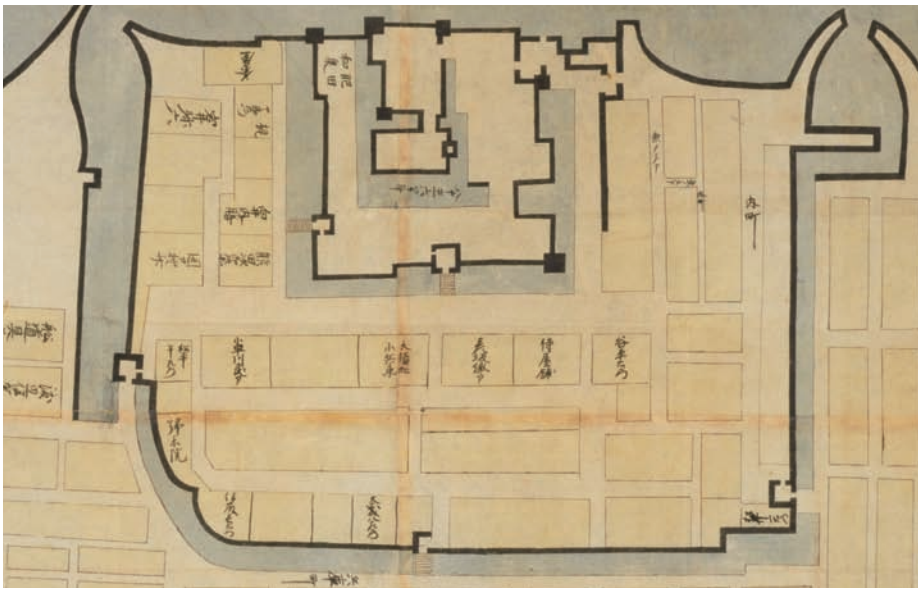


写真 34
讃州高松城図
(国立国会図書館所蔵)

写真 35
日本輿地図讃州高松地図
(独立行政法人
　国立公文書館所蔵)

⑧高松地図（県立ミュージアム所蔵）（写真 37）

元文 5 年 (1740) とされる。中堀との位置関係、西湊舟入と中堀の間の地区の屋敷地割、北ブロック屋敷地割、西側・東側の直線街路の表現など写真 35・写真 36 の記載内容とあまり変化はない。

調査地に該当すると考えられる屋敷地は引き続き稲田求馬の記載がある。

⑨寛政元年己酉五月高松之図 (公益財団法人鎌田共済会郷土博物館所蔵)（写真 38）

寛政元年 (1789) の記載がある。中堀との位置関係、北ブロックの屋敷地割、東側の直線街路の表現に変化はないが、西側街路は、記載上は西湊舟入と中堀の間の地区大久保家屋敷地のラインより西へ寄り、北ブロックと中ブロックの境から外堀に沿って南東方向へ向く。

調査地の屋敷には「稲田」と記載される。

今回の調査では、18 世紀前半までの遺構・遺物が主であったので、19 世紀以降の絵図資料は掲載しなかった。19 世紀以降の絵図資料の概要は第 31 表に記載した。

２．西側街路の位置について

中堀との位置関係について、生駒期あるいはそれに近い絵図資料では、西側街路は中堀外側ラインより屋敷地 1/2 軒分西側にある。高松城下図屏風及びそれ以降と考えられる絵図では西側街路は中堀外側ラインより屋敷地 1 軒分西側に位置する。絵図の記載内容が不正確なのか、実際を反映しているのかは検討を要する。

西側街路は、おおむね中ブロック中程まで周囲の地割に沿う方向で、それより南側では外堀ラインに沿う方向へ屈曲させるが、絵図資料によりばらつきがある。

写真 34 以前は西側街路の西側は屋敷地であったのに対し、写真 35 以降は幕末まで屋敷地はなく「番所」あるいは建物のみの記載となっている。

３．北ブロックの屋敷地割について

生駒期は南北列に細分されており、松平期の初期のころを描いたとされる城下図屏風でも南北列に細分されている。北列は記録のある限り 5 軒だが、南列は流動的である。写真 32 によれば、北列は「士」の記載があり、武士が居住したことが考えられようが、南列は「士」記載がない。写真 34 では南北の境界がなくなり、３軒の屋敷地として描かれる。写真 35 以降は 5 軒の屋敷地として描かれる。

４．拝領者について

調査地の拝領者は、生駒期は、写真 30 によれば空閑地となるが、写真 31 によれは西島八兵衛、松平初期は写真 34 によれば小早川式部、小早川家断絶後は幕末までは稲田家であった。

５．その他

北ブロックの屋敷地割が大きく変化した写真 34 の時期の直後に高松城下は大きく姿を変える。写真 35 では東の丸の造成をはじめ、 大手門である常盤橋の撤去と鍵型街路①から直線街路への変更、西湊舟入と中堀の間の地区では鍵型街路②の消滅と大久保屋敷の建造、西側街路の西では屋敷地に代わり番所が建てられる。

調査地近辺である北ブロックでは、この直前に南北列に細分する境界がなくなり、屋敷地が広くなるという大きな改変があったが、写真 35 以降拝領者は稲田氏へと変わり、幕末まで踏襲される。

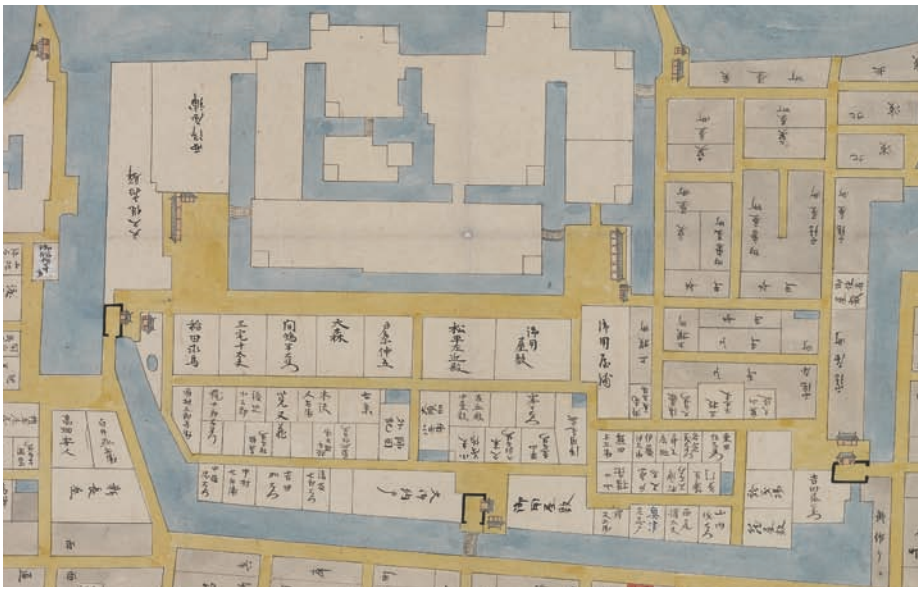


写真 36
享保年間高松城下図
(高松市歴史資料館所蔵)

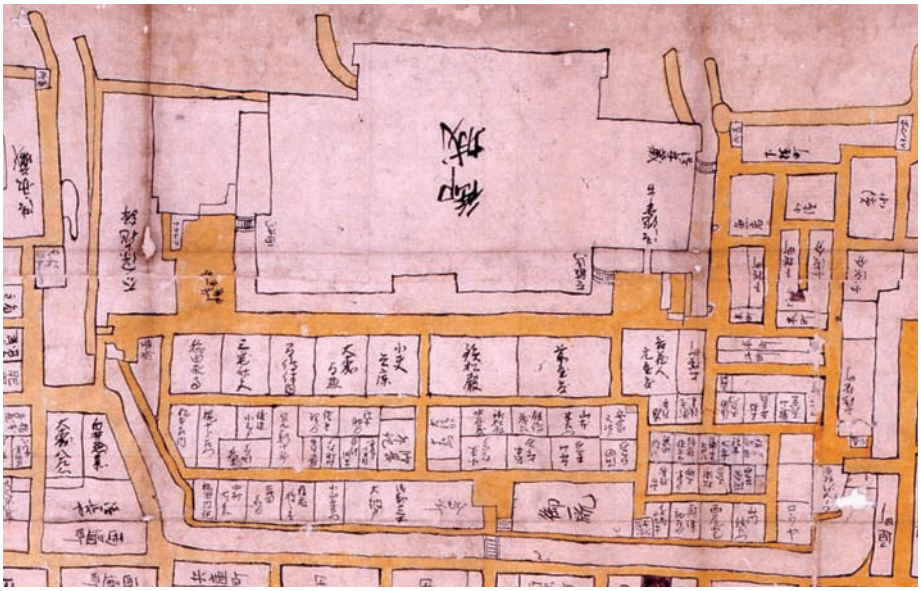


写真 37
高松地図
(香川県立ミュージアム
所蔵)

写真 38
寛政元年己酉五月
高松之図
(公益財団法人鎌田共済会
郷土博物館所蔵)

主要参考文献

胡光　2007「「高松城下図屏風」の歴史的前提」『調査研究報告第 3 号』香川県歴史博物館

高松市教育委員会　2002「香川県弁護士会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡 (松平大膳家中屋敷跡)」

大嶋和則　2007「高松城の発掘成果から」『四国村落研究会シンポジウム　港町の原像―中世港町・野原と讃岐の港町―』四国村落遺跡研究会

高松市教育委員会　2012『高松市埋蔵文化財調査報告　第 140 集　史跡高松城跡整備報告書第 6 冊　史跡高松城跡（天守台）－発掘調査編ー』

高松市教育委員会　2004『新ヨンデンビル別館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡 (松平大膳家上屋敷跡』

高松市教育委員会　2007『寿町二丁目テナントビル建設に伴う埋蔵文化財発掘調査　高松城跡（寿町二丁目地区)』

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　1999『香川県歴史博物館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査　高松城跡』香川県教育委員会ほか

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　2003『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 4 冊　高松城跡（西の丸町地区）Ⅱ』香川県教育委員会ほか

佐藤竜馬 2007「考古学の視点から見た「高松城下図屏風」」『調査研究報告第 3 号』香川県歴史博物館

佐藤竜馬 2007「初期高松城下町の材地的要素」『四国村落研究会シンポジウム　港町の原像―中世港町・野原と讃岐の港町―』四国村落遺跡研究会

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　2004『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 6 冊　浜ノ町遺跡』香川県教育委員会ほか

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　2003『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 3 冊　高松城跡（西の丸町地区）Ⅰ』香川県教育委員会ほか

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　2003『高松家庭裁判所移転に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（丸の内地区)』香川県教育委員会ほか

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　2003『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 5 冊　高松城跡（西の丸町地区）Ⅲ』香川県教育委員会ほか

森下友子 1996「高松城下の絵図と城下の変遷」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅳ』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

香川県教育委員会　1987『高松城東ノ丸跡発掘調査報告書』

高松市教育員会　2009『高松市埋蔵文化財調査報告　第 122 集　史跡高松城跡整備報告書　第 4 冊　高松城史料調査報告書』

番号	絵図名	描写年代（推定）	中堀と西側街路の位置関係	西側街路の形状	西側街路の西の土地利用	北ブロックの様相	東側街路の様相	西の丸町地区の様相	調査地	所蔵
①	生駒家時代讃岐高松城屋敷割図	寛永 15 ～ 16 (1638 ～ 1639) 年	西側街路は中堀外側ラインと同じ	北ブロックから南ブロックロックまで南北方向	宮部屋敷地	南北に分かれる 北は 5 軒、南は 7 軒	常盤橋のやや西側中ブロックで鍵型にさらに西へ折れる	南北方向に直線街路		高松市歴史資料館
②	讃州高松城之図	生駒期	西側街路は中堀外側ラインの 1/2 軒分西側	中ブロック中程まで南北方向 以南は外堀ラインに沿う	宮部屋敷地	南北に分かれる 北は 5 軒、南は記載なし	常盤橋のやや西側中ブロックで鍵型にさらに西へ折れる	南北方向で鍵型街路	西島八兵衛、西側街路	国立国会図書館
③	諸国当城之図	生駒期？～ 寛文 10(1670) 年	西側街路は中堀外側ラインの 1/2 軒分西側	北ブロックの西側のみ南北方向　中ブロック以南は外堀ラインに沿う	「士」	南北に分かれる 北は 5 軒、南は 6 軒	常盤橋のやや西側中ブロックで鍵型にさらに西へ折れる	南北方向で鍵型街路	士	広島市立中央図書館
④	高松城下図屏風	17 世紀中葉	西側街路は中堀外側ラインの 1 軒分西側	中ブロックまで南北方向	屋敷地が描かれる	南北に分かれる 北は 5 軒、南は変則 7 軒	常盤橋のやや西側中ブロックで鍵型にさらに西へ折れる	南北方向で鍵型街路		香川県立ミュージアム
⑤	讃州高松城之図	寛永 19 年 ～寛文 10 (1642 ～ 1670) 年	西側街路は中堀外側ラインの 1 軒分西側	中ブロックまで南北方向	松平半左衛門屋敷地	南北の区画無し　3 軒	常盤橋のやや西側中ブロックで鍵型にさらに西へ折れる	南北方向で鍵型街路	小早川式部	国立国会図書館
⑥	日本輿地図讃州高松地図	正徳享保年間 (1711 ～ 1736)	西側街路は中堀外側ラインの 1 軒分西側	中ブロック中程まで南北方向 以南は外堀ラインに沿う	北側に番所	南北の区画無し　5 軒	常盤橋はない　鍵型街路から直線街路へ	鍵型街路はない 西半は大久保屋敷 東半北部は記載なし	稲田求馬	独立行政法人国立公文書館
⑦	享保年間高松城下図	享保年間 (1718 ～ 1736)	西側街路は中堀外側ラインの 1 軒分西側	中ブロック中程まで南北方向 以南は外堀ラインに沿う	北側に建物の絵	南北の区画無し　5 軒	常盤橋はない　鍵型街路から直線街路へ	西半は大久保屋敷 東半北部は西御屋敷	稲田求馬	高松市歴史資料館
⑧	高松地図	元文 5 年 (1740)	西側街路は中堀外側ラインの 1 軒分西側	中ブロック中程まで南北方向 以南は外堀ラインに沿う	北側に番所	南北の区画無し　5 軒	常盤橋はない　鍵型街路から直線街路へ	西半は大久保屋敷 東半北部は記載なし	稲田求馬	香川県立ミュージアム
⑨	寛政元年己酉五月高松之図	寛政元年 (1789)	西側街路は中堀外側ラインの 1 軒分西側	北ブロックのみ南北方向　中ブロック以南は外堀ラインに沿う	北側に建物の絵	南北の区画無し　5 軒	常盤橋はない　鍵型街路から直線街路へ	西半は大久保屋敷 東半北部は記載なし	稲田	公益財団法人鎌田共済会郷土博物館
	高松市街古図	文化年間 (1804 ～ 1818)	西側街路は中堀外側ラインの 1 軒分西側	中ブロックまで南北方向 北ブロックに対し中ブロックのラインが東へずれる	北側に番所	南北の区画無し　5 軒	常盤橋はない　鍵型街路から直線街路へ	南北街路あり 西半は大久保屋敷 東半北部は原・籾蔵・西下馬	稲田外記	高松市歴史資料館
	天保十五年高松之図	天保 15 年 (1844)	西側街路は中堀外側ラインの 1 軒分西側	北ブロック部分のみ南北方向　中ブロック以南は外堀ラインに沿う。	北側に番所	南北の区画無し　5 軒	常盤橋はない　鍵型街路から直線街路へ	南北街路はなし　西半は大久保屋敷東半北部は籾蔵・長屋敷	稲田外記	公益財団法人鎌田共済会郷土博物館
	安政四未年高松之図	安政 4 年 (1857)	西側街路は中堀外側ラインの 1 軒分西側	外堀ラインに沿う	なし	南北の区画無し　5 軒	常盤橋はない　鍵型街路から直線街路へ	南北街路あり 西半は大久保屋敷 東半北部は御用地	稲田数馬	公益財団法人鎌田共済会郷土博物館

第 31 表　高松城下絵図一覧

第２節　遺構の変遷

今回の調査区は高松城跡（西の丸町地区）の南側、高松城外曲輪に当たる。中堀外縁から南側、当初の大手門に当たる常盤橋（後に撤去）から西側のラインは、絵図資料によれば、生駒期から幕末に至るまで街路により大まかに南北に３つのブロックに分けられている（第 121 図）。調査地は最も北のブロックの北西の屋敷地付近に位置し、北側と西側が街路がある。

各遺構を通じて 17 世紀中頃～後半の破片の大きい遺物が多量に出土し、19 世紀代まで下ることが確実な遺構からでもこの時期の遺物が多量に出土する。17 世紀前半の優品が混じることも多い。屋敷地拝領者の家格を反映している可能性がある。また、上部は攪乱が著しく、近代以降の遺物が混入する場合もある。

攪乱や重複する遺構から混入する遺物を除去しながら、遺構の前後関係、出土遺物が示すと考えられる時期などをもとに変遷を考えた。

ただし、出土遺物の少ない遺構については、出土遺物が時期を示すものとは言い切れず、時期は不明とせざるを得ないものもある。

① 17 世紀前半～中葉

区画施設として SD02-1、SD02-2、SD09、SD04 が挙げられる。

SD02-1、SD02-2 は規模・埋土がほぼ同じで、約 5mの間隔で平行して検出した。2 条の溝は街路の側溝で、溝の間が街路と考えられる。この街路は高松城跡（西の丸町地区）Ⅱの第 6 面で検出した鍵型街路の北半部側の延長線上に相当し、讃州高松城之図（写真 31、生駒期）、諸国登城之図（写真 32、～ 1670 年頃）などのような絵図資料にも見える街路の可能性が考えられる。

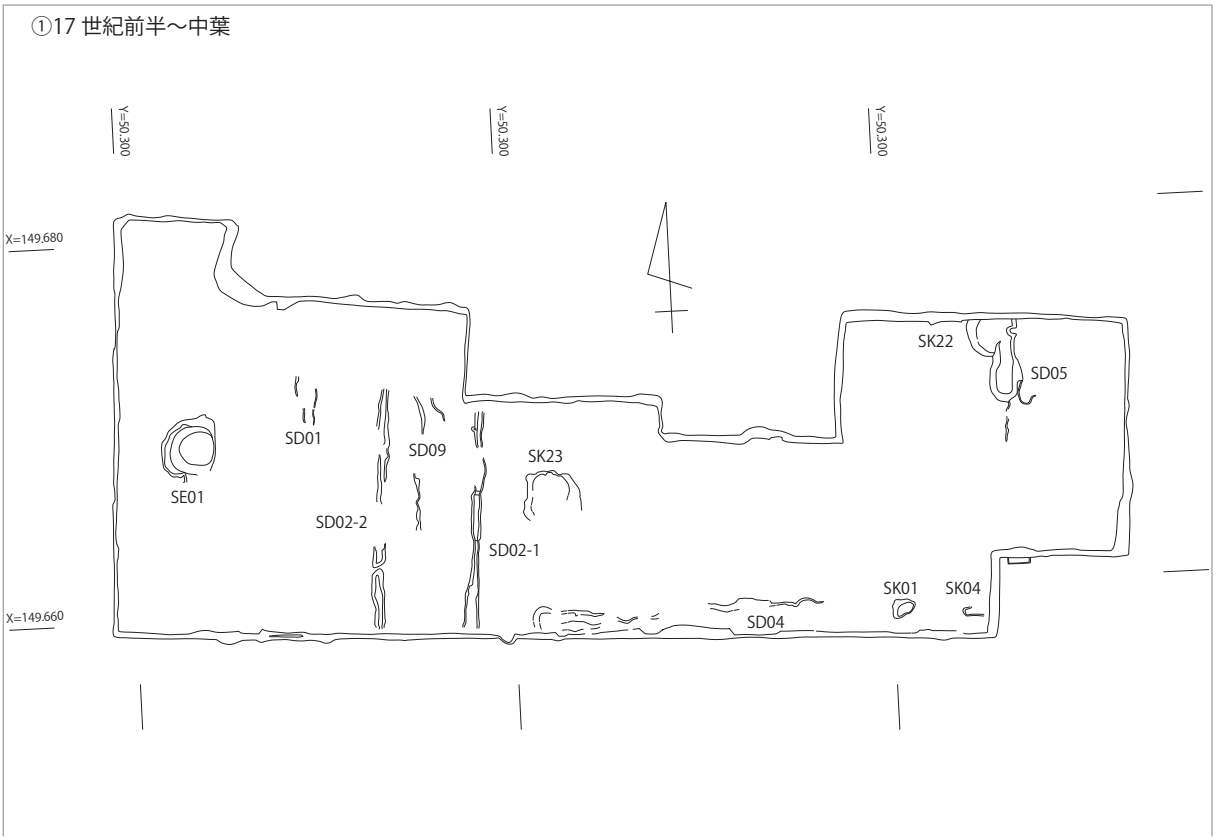
SD04 は SD02 に直交する溝である。調査区南辺を東西方向で検出した。溝の南肩は調査区外へ延びるため検出できなかったが、南壁断面から SD02-1 より西側へは延びないと考えられる。絵図資料によれば、生駒家時代讃岐高松城屋敷割図（写真 30、1638 ～ 1639 年頃）、諸国当城之図 (写真 32、～ 1670 年頃)、高松城下図屏風（写真 33、17 世紀中頃）では調査地を含む屋敷地のブロックは北側と南側の列に分かれており、次の讃州高松城図（写真 34、1642 ～ 1670 年頃以降）の絵図では南北の区画は撤去されている。SD04 はこのブロックの南北を分ける境界と考えられる。SD04 からは同文の軒平瓦 6 点が出土した。区画施設を改変する際の廃棄物と考えられる。

SD09 は SD02 のほぼ中間に位置する。調査区南部で大規模な攪乱により消失し、攪乱の南側では検出できなかった。また調査区南壁の土層観察では攪乱による遺構面の削平により確認ができなかった。SD02-1 と SD02-2 の中心付近に位置するので SD02 と同時併存ではないことは確実であるが、出土遺物から 17 世紀中葉前後と考えられる。SD09 と SD02-1･2 の前後関係は不明である。

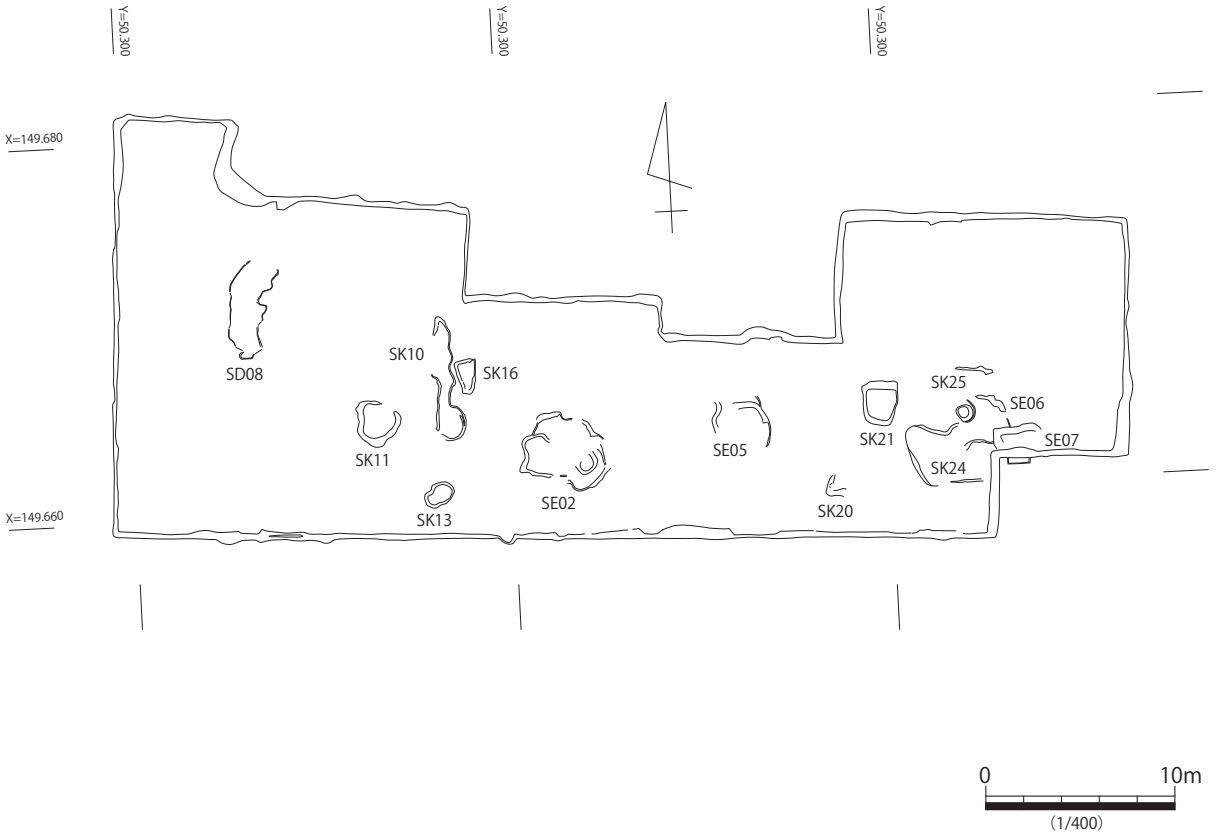
SK23 は SD02-1 の西側で検出した隅丸方形の土坑で、検出状況からトイレ遺構と考えられる。SD02-1、SD04 で区画された屋敷地の西南隅に当たる。埋土中からは多量のウリの種、食物残滓が出土した。最終的には陶磁器・瓦類が多量に投棄されている。瓦は 2 種類の同范の棟込瓦がそれぞれ 4 点、6 点出土しており、瓦の年代観から見ても SK23 は土地改変に伴い最終的には廃棄土坑とされたのだろう。

SE01 は街路の西側にある石組み井戸である。17 世紀前半まで遡る可能性もある。井戸内から卒塔婆

①17 世紀前半～中葉

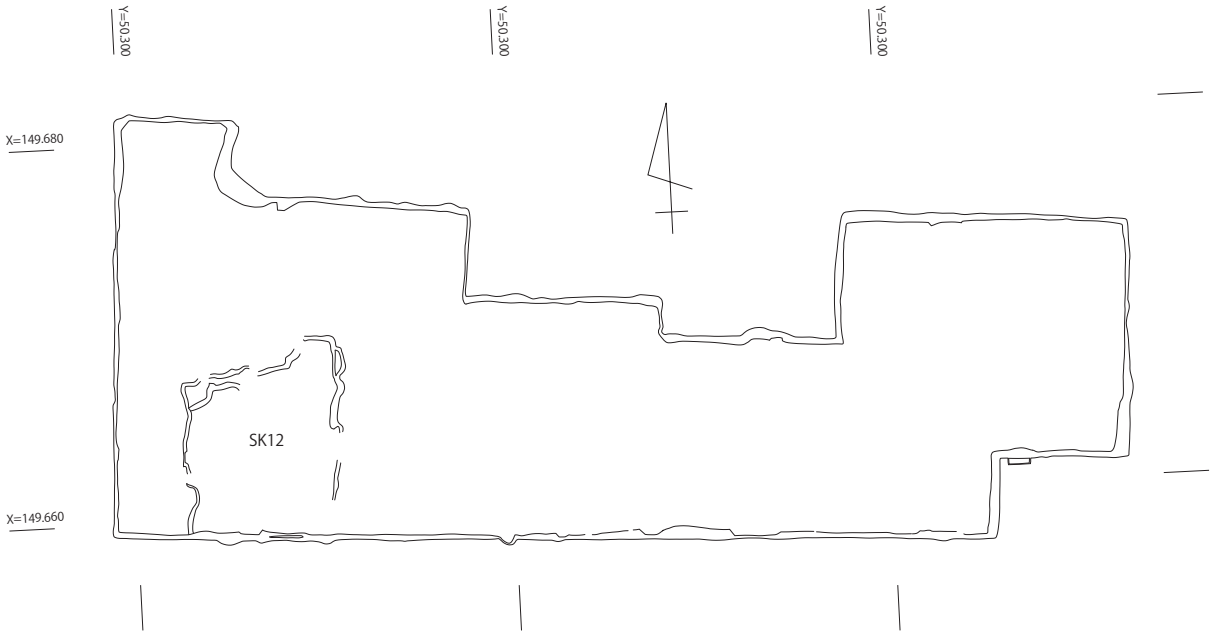


②17 世紀後半～ 18 世紀前半

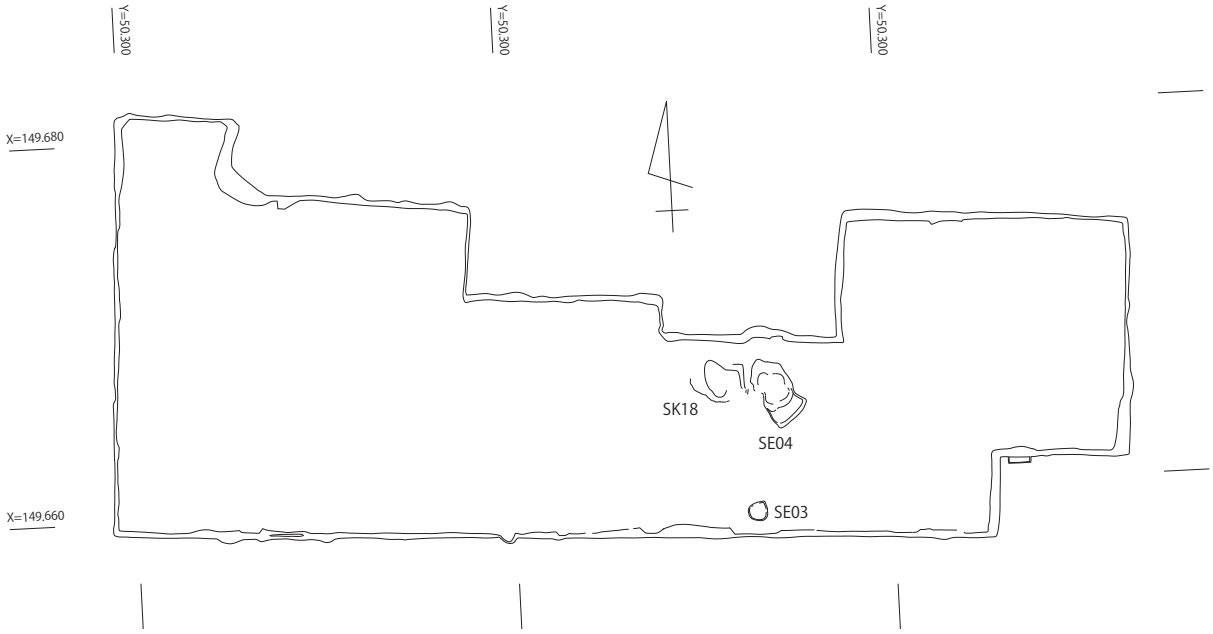


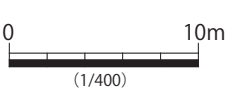
第 122 図　遺構変遷図 (1)

③18 世紀中葉～ 18 世紀後半

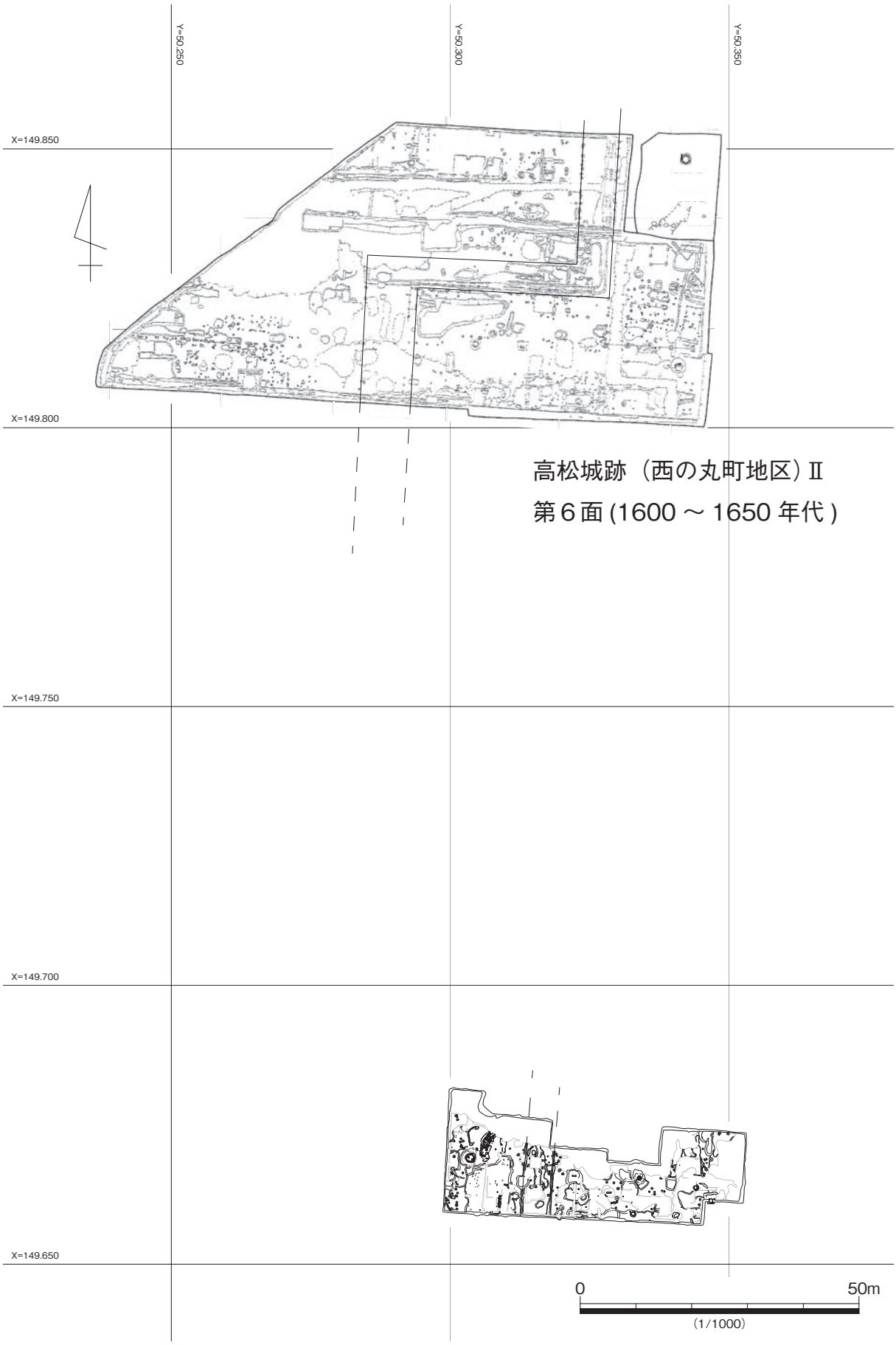


④19 世紀以降

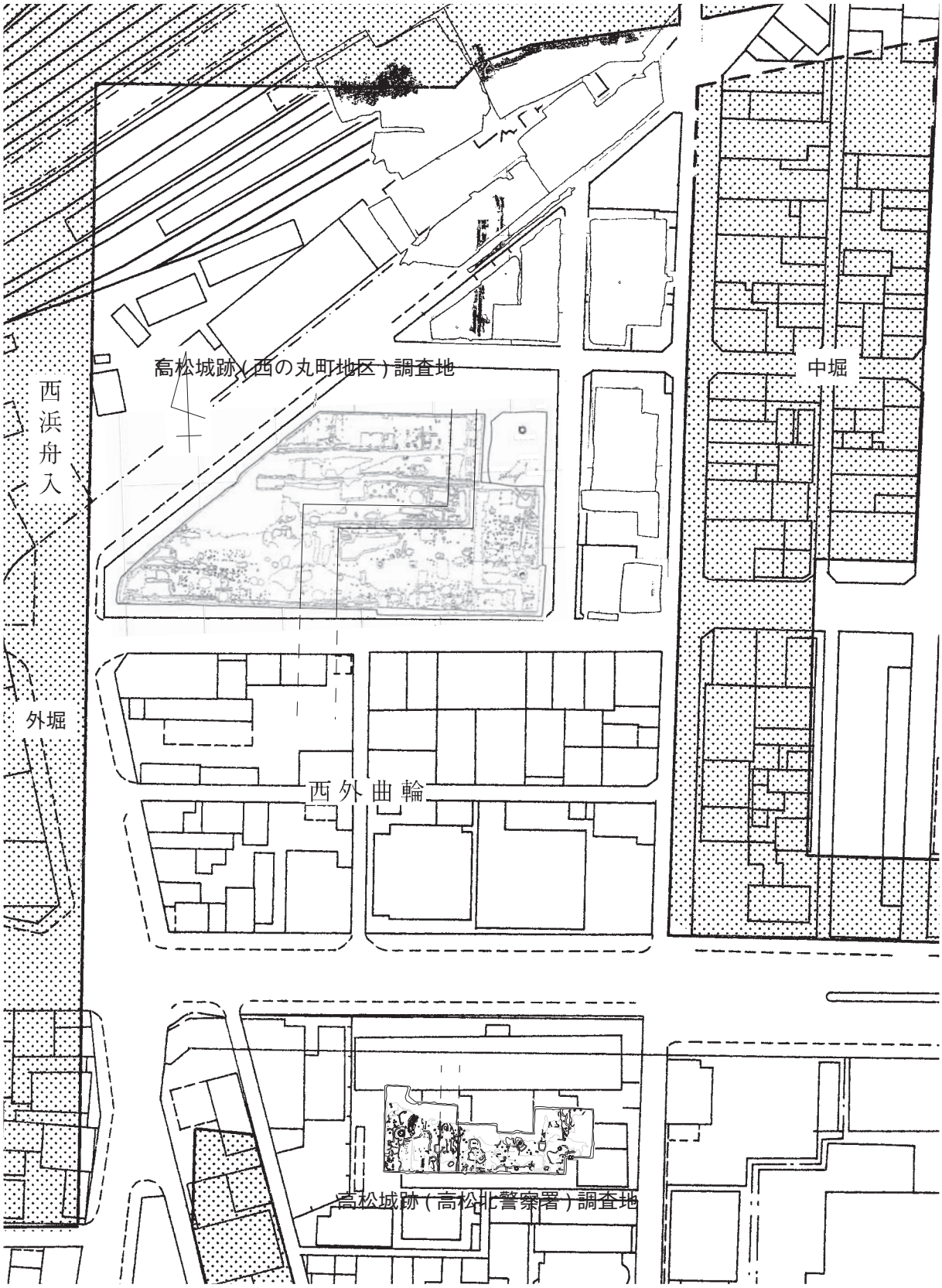




第 123 図　遺構変遷図 (2)



第 124 図　高松城跡 (西ノ丸町地区）との位置関係 (1)



「サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第５冊　高松城跡(西の丸町地区)Ⅲ」第３図を一部改変

0　100m
(1/1500)

第 125 図　高松城跡 (西ノ丸町地区）との位置関係 (2)

が出土したが詳細な内容は不明である。SD02-1、SD02-2 の間の街路の存在から屋敷地は西島八兵衛の可能性が考えられ、SE01 は空閑地もしくは宮部馬之丞邸の井戸と考えられる。

② 17 世紀後半～ 18 世紀前半

屋敷地の区画割が改変され、北ブロックを南北に細分する区画がなくなった時期である。

SD02-1・SD02-2 を側溝とする街路は廃絶し、その位置には SK10・SK11・SK13・SK16 など廃棄土坑が連なる。区画改変に伴う廃棄土坑と考えられる。

絵図でもこの時期に周辺の地割との関係から、西側街路が西にずれたことが窺える。西側街路西の屋敷地を変更するに合わせ、小早川式部に屋敷地を広げて与えたことが想定できる。

新たな区画施設の一部となる可能性があるのは SD08 と考えられる。やや湾曲しながら南北方向に流れる石組み溝である。高松城跡（西の丸町地区）Ⅱでは高松大火 (1710) の後石組み水路が多く築造されたことが明らかなったが、それよりやや古い遺構面第 5 面 (17 世紀後半）頃にやや小さめの石材で石組み溝が築造されることが判明しており、SD08 も石材の大きさからこの頃の溝と考えられる。ただ、讃州高松城図（写真 34）によれば、西湊舟入と中堀の間の地区の鍵型街路の位置に対し小早川家の西側の街路の位置が西側に移動している。その位置関係を重視すれば、小早川家の西側の街路は調査地外となり、SD08 は小早川家屋敷地内の施設とも考えることもできよう。

絵図資料によれば、松平藩初期に屋敷地を拝領した小早川式部の名が記される「讃州高松城図」までは街路を挟んだ西側は武家屋敷として描かれるが、稲田家の拝領地となる「日本輿地図讃州高松地図」以降は建物や番所などの記載があるのみで、屋敷地としては利用されないようである。この土地利用の変更の際に屋敷地の西側の区画も若干改変があったのではないだろうか。

南東隅で検出した SK24 は大型の廃棄土坑である。出土遺物の時期は 17 世紀前半～ 18 世紀前半までと幅広いが、17 世紀前半の遺物は一定量の出土遺物が他の遺構からも相当量出土しており、遺構の存続時期を示すものではないと考えられる。漆器の顔料分析結果から漆器の時期が 17 世紀後半と考えられ、この時期の土坑と考えられる。出土遺物の内容から饗宴後の廃棄土坑の可能性も考えられる。

SK24 と重複するが、SE06・07 も SK24 とほぼ同時期の遺物が出土する。遺構の前後関係から SE06・SE07 が後出するが、時期差はあまりないと思われる。両者とも井戸の構造はほぼ同じである。

SE02 は SK23 埋没後に掘削した井戸である。出土遺物からは最終的な埋没は 18 世紀前半と考えられる。

③ 18 世紀中葉～後半

SK12 の整地層により SD08 による区画施設が廃される。現在の高松北警察署と香川銀行の地境付近が日本輿地図、讃州高松地図（写真 35、1711 ～ 1736）以降の稲田家の屋敷地の西側の街路の候補となる可能性があろう。SK12 は拝領者が小早川家から稲田家に変更された際の造作であるとも考えられる。地境付近には不均等ながら南北へ並ぶピットがあり、これらが柵列に、西壁土層にベースとした土層の上面に堆積する灰色シルト層（3 層）が街路の側溝に相当する可能性もあろう。

④ 19 世紀以降

SE03、SE04、SK18 がある。

SE03 は桶 2 段に加え、最上部に豊島石による井戸枠を設ける。最終的な埋没は 19 世紀代であるが、2 段目の桶は上半部が壊れており、構築年代はやや古い可能性もある。

SE04 は土師質土器の井戸枠である。SK18 は SE04 に接して検出されたものである。

第 3 節　木製品について

今回の調査では多種多様な木製品が出土した。特に SK24 から多量の木製品が出土した。器種の特定ができなかったものも多く、傾向を捉えきれなかった恐れもあるが、今回出土した木製品の様相について概観する。

①漆器（第 32 表）

漆椀は実測可能の遺物は全点 (18 点）図化した。すべて SK24 から出土した。概ね 4 グループに分類した。

A. 口径 12cm前後、器高 9 ～ 10cm、底径 6cm前後で器壁は厚めで大振りなものである。高台内の刳りがの深さによりさらに①, ②に細分される。SK24 出土遺物に限れば、概ね刳りの深い①は体部に紋が描かれトチノキを使用、刳りの浅いものは無文でブナを使用する。汎用性があるかどうかは更に類例を検討する必要があろう。1 点のみケヤキを使用する製品があり、草花文を描く。

B. 口径 10.5cm前後、器高 7cm前後、底径 5cm足らず、器壁は薄く高台も低い。体部に紋を描くものはトチノキを使用するのは A と同様である。

漆椀　18 点

報文番号	口径	器高	底径	高台内刳り	文様	材質	漆　内 / 外	分類	備考
793	11	8.6	5.8	小さい	草花文	ｹﾔｷ	赤 / 黒	A ①	口径 12cm前後 / 器高 9 ～ 10cm / 底 6cm前後　高台内の刳りが小さいものと大きいものがある。大きいものは紋が描かれ、小さいものは無地か。その他の模様はない。
795	11.8	9.9	6.2	大きい	紋	ﾄﾁﾉｷ	赤 / 黒		
796	11	9	5.9	大きい	紋	ﾌﾞﾅ	赤 / 赤		
797			(6.0)	大きい	紋	ﾄﾁﾉｷ	赤 / 黒		
798				不明	紋	ﾄﾁﾉｷ	赤 / 黒		
802			5.8	大きい	無文か				
799	12.4	9.5	6	小さい	無文			A ②	
800			6.6	小さい	無文	ﾌﾞﾅ	赤 / 赤		
801			6.2	小さい	無文	ﾌﾞﾅ	赤 / 黒		
804			6	小さい	不明	ﾌﾞﾅ	赤 / 黒		
805			5.9	小さい	不明	ﾌﾞﾅ	赤 / 黒		
803	10.4	(6.9)	(6.0)		無文	ﾌﾞﾅ	赤 / 黒	B	口径 10.5cm前後 / 器高 7cm前後か / 底径 6cm弱か　器壁は薄く高台も低い
806			(5.7)		紋	ﾄﾁﾉｷ	赤 / 黒		
809			5.3		無文	ﾌﾞﾅ	赤 / 黒		
810			(5.7)		無文	ﾄﾁﾉｷ	赤 / 黒		
794	10.2	6.9	4.6		松葉文	ﾄﾁﾉｷ	赤 / 黒	C	壺椀
807	(10.4)	(4.3)	5.3		抱き茗荷文	広葉樹散孔材	赤 / 黒	D	口径 11cm程度 / 器高 4 cm程度 / 底径 5.5cm程度　浅い器形
808	11	(4.0)	(5.5)		抱き茗荷文	広葉樹散孔材	赤 / 黒		

漆椀蓋 (9 点)

報文番号	口径	器高	底径	文様	材質	漆　内 / 外	分類	備考
244	(11.2)		(5.2)	無文	ﾌﾞﾅ	赤 / 赤	A	
812	12.0	(4.0)	(6.2)	草花文	ﾎｵﾉｷ	黒 / 黒		
813	11.0	(3.7)	(5.8)	草花文	ﾄﾁﾉｷ	赤 / 黒		
814	12.0	(4.0)	(7.2)	草花文	ﾄﾁﾉｷ	赤 / 黒		
815	12.6	4.1	6.6	紋	ﾎｵﾉｷ	赤 / 黒		
816	11.5	3.9	5.0	無文	ﾌﾞﾅ	赤 / 黒		
811	10.6	2.8	5.4	草花文	ｹﾔｷ	黒 / 黒	B	
817	10.8	2.5	5.0	無文	ﾌﾞﾅ	赤 / 赤		
818	10.0	2.2	3.6	無文	広葉樹材	赤 / 赤		

第 32 表　漆器一覧

C. 壺椀。1 点のみ出土した。

D. 口径 11cm程度、器高 4 cm程度、底径 5.7cm程度で浅い器形である。両者は同一個体ではないが、揃いの漆器である可能性が高い。

漆椀蓋は 9 点図化した。1 点は SE07、他は SK24 である。

口径により概ね 2 グループに分けられる。

A. 口径 11 ～ 12.5cm、器高 4cm前後、底径 5 ～ 6cmを測る。概ね漆椀 A グループに組み合う大きさであるが、抽出した遺物では無文のものは少なく草花文を描くものが多い。

B. 口径 10cm台で A より小振りである。

大きさに関わらず、無文のものはブナを使用するのは漆椀と同様で、文様を入れるものはトチノキの他ホオノキ、ケヤキが使用される。

自然科学分析の結果（第 4 章第 1 節参照）、堅牢で加工が難しいが寸法安定性が高いケヤキはほとんど使用されず (793･811 のみ)、出土した漆器の大半は加工がしやすく容易に入手できるが寸法安定性の低いブナ、トチノキが多く使用されることがわかった。上級武士の拝領地と想定されるが、それほど高級品を所持しておらず、安価な漆器を多く使用した様子が窺える。

②底板または蓋 (第 33 表)

出土量が多かったため、選別して抽出した。未抽出遺物については計測をしておらず、抽出遺物からわかる傾向を記述する。

SK23 をはじめ 6 遺構から 32 点を図化した。形状は楕円形（3 点）、方形 (1 点) の他はすべて円形である。

直径は概ね 6 センチ前後、8 ～ 10cm、13 ～ 15cm、17.5 ～ 18cm、21 ～ 25cm、33 ～ 35cmに分けられ、8 ～ 10cm、13 ～ 15cmの個体数が多い。用途による使い分けが考えられよう。

表面に中央付近に貫通する小孔がある個体は摘みが付くと考えられる。827 は摘みが付くと考えられるホゾが残されていたことからも裏付けられよう。847 は端から中央へ向けて 4 孔残されるが、釜の蓋のような方柱状の把手が付けられたのではないだろうか。

断面にホゾ孔があるものはもともと数個体に分かれていたと考えられる。836 のように小さな個体でもホゾ孔を持つものもあるが、概ね大きくて厚い個体に目立つ。848、849 はホゾ孔同士が合うもので、同一個体と考えられる。これには栓で塞ぐ孔がある。

直径	厚さ	個数	特徴	SE01	SE04	SE06	SE07	SK23	SK24	
6cm程度	0.5	2	なし						1	
			孔、摘み						1	楕円形
7.9 ～ 10cm	0.5 ～ 0.7cm	10	なし			1		1	5	うち 1 は楕円形
			孔、摘み						2	うち 1 は方形
			ホゾ＋孔						1	孔とホゾ両方
11.8	1.1	1	側縁が段状						1	
13.0 ～ 15.2	0.4 ～ 0.9	10	なし	1		1	1	2	4	
			摘み						1	
17.4 ～ 17.8	1.2 ～ 1.4	2	なし	1						
			ホゾ		1					ホゾ 2 か所
21.4 ～ 25.0	0.6 ～ 0.7	5	なし						2	
			孔						3	うち 1 は楕円形
32.7 ～ 34.2	1.1 ～ 1.6	2	ホゾ						2	うち 1 は栓の孔
合　計		32	小　計	2	1	2	1	3	23	

第 33 表　底板または蓋一覧

樹種の選択については、ほとんどがスギ(11 点) とアスナロ (12 点) で占められ、ヒノキ（5 点)、モミ属 (2 点) が続く。大きさや孔、ホゾの有無と樹種選択は特に関係性は認められない。

③折敷脚部（第 34 表）

折敷脚部は 9 点図化した。8 点は SK24 から、1 点は SK23 から出土した。

脚部上部を膳の幅と考えれば、15cm四方（1 点)、20cm四方（4 点)、25cm四方（3 点)、40cm四方（ 1 点）に分けられよう。最も大きいものは SK23 から出土し、他は SK24 から出土した。

脚部の形態については、花形で比較的精巧なもの (856・859)、円形または楕円形のもの（558・861･862)、方形でのもの (857･858･861）があり、後者ほど作りは簡単である。859 は金具を付けた穴が２カ所に残る。

樹種の選択については、SK24 出土遺物については脚部の形態が花形で作りが精巧なもの (856･859) はヒノキ、脚部の形態が円形のもの (861･862) はアスナロ、脚部の形態が方形のもの（857・858・863) はスギを使用しており、ある程度形態と樹種選択の間に関連があると考えられる。SK23 のものはサイズが大きくモミ属の樹種を使用していた。樹種選択の違いは何によるものかは今後の検討課題である。

④箱

箱の側板と考えられるものが 3 点（864 ～ 866)、箱に組み立てられるものが 1 点 (867) 出土した。867 は 5 点の部品から成る箱である。縦 11.7cm×横 12.5cm×高さ 4.5cmで厚さ 1.0cmである。小孔とホゾによりたがいに組み合うが、底板の小孔は 1 辺のみ 5 孔で他の 3 辺は 4 孔、側板の形態もそれぞれ異なる。864 は「工」字型の部品で、幅 18.7cm、高さ 4.7cm、厚さ 0.7cmである。漆が塗られる。長辺側の断面に不均等に 4 箇所小孔があり、867 の例から底板が接続し、短辺側の中央付近が側板を嵌め込むと考えられる。865･866 は前 2 者より作りは粗雑であるが、形状や端に小孔があることから箱の側板とした。

樹種は 867 がモミ属、864･866 はスギ、865 はアスナロで、折敷の脚部や底板または蓋と概ね同じ傾向であるが、漆塗りの製品である 864 がスギを選択するのはやや違和感がある。

⑤櫛 (第 35 表)

SE07 から 3 点 (245 ～ 247)、SK24 から 2 点（871･872)、合計 5 点出土した。このうち 245 のみ櫛上部が直線に近く、漆塗りで厚みや大きさが異なり他とは異質である。247 は遺存状態が悪く櫛の状態がわかりづらいが、この 1 点のみ歯がやや疎である可能性がある。

報文番号	遺構名	台の幅	台の高さ	厚さ	樹種	脚の形状	台との装着方法	備考
856	SK24	15.3	4.1	0.6	ヒノキ属	花形	上部 2 か所に小孔	墨書
858	SK24	20.5	4.6	1.3	スギ	方形	中央上部に切れ込み	857･858 は形態は酷似
857	SK24	20.6	4.7	1.4	スギ	方形	中央上部に切れ込み ホゾ孔 4 箇所	
861	SK24	(20.6)	7.1 ～	0.7	アスナロ	楕円	中央上部に切れ込み	
862	SK24	(18.6 ～)	6.5 ～	0.7	アスナロ	円	不明	
860	SK24	24.1	9.5 ～	0.5	アスナロ	山形？	不明	裏面中央縦に切れ込み（器種が違いの可能性もあり）
859	SK24	25,6	4.5 ～	1	ヒノキ	花形	不明	2 か所で金具装着か
863	SK24	(25 程度か)	8.8	0.9	スギ	方形	ホゾ孔 1 ヶ所残	
558	SK23	40.4	9.4	2	モミ属	方形	中央上部に切れ込み	

第 34 表　折敷脚部一覧

報文番号	器種	櫛の歯の密度	幅	長さ	厚み	樹種	装飾	上部の形態
245	横櫛	密	9.7	4.7	0.5	イスノキ	漆	やや直線的
246	横櫛	密	8.9	3.5	1.2	広葉樹	なし	緩く丸みを帯びる
247	横櫛	疎？	－	－	1.3	イスノキ	なし	緩く丸みを帯びる
871	横櫛	密	(4.1)	9	1.2	イスノキ	なし	緩く丸みを帯びる
872	横櫛	密	(4.4)	－	0.9	広葉樹	なし	緩く丸みを帯びる

第 35 表　櫛一覧

樹種は判明したものではいずれもイスノキである。他の２点も広葉樹であり、同種の木材を意図的に選択している可能性もあろう。

⑥箸・チュウ木（第 36 表）

SK24 から大量に出土した。SK24 出土の遺物については、図化した個体の他欠損のない個体については 356 点全点について計測を行った。

SK24 出土のものについては長さは 19.1 ～ 24.5cmまで認められたが、その中で 21.0 ～ 22.4cmに収まるものが 240 点 (67.4%)、次いで 23.9 ～ 24.8cmが 74 点（20.8％）であった。幅は概ね 0.6 ～ 0.9cmに収まるもので、長さによる幅の違いは特に認められない。大きさの規格が揃う傾向にあるのは、用途によるものであるのか、あるいは同一規格の消耗品を大量に準備した結果であるかは今後検討する必要があろう。

樹種同定は 12 点について実施した。モミ属６点、スギ４点、アスナロ２点で、スギ、アスナロは出土個体数の多い底板または蓋でも多く選択される樹種で、折敷の脚部でも装飾性の低いものに使用される。長さによる選択の違いは明確にはないが、傾向としては 24.7cm以上の長いものはアスナロまたはスギ、22cm程度までの比較的短いものはスギ、アスナロも選択されるがモミ属が多く使用される傾向がみられる。

SK23 から出土した個体は折損のあるものが多く、折損のなかった７点を図化した。565 を除けば 22.3 ～ 23.1cm、幅 0.7 ～ 0.9cmに収まる。抽出した個体数が少なく正確な傾向がつかめていない可能性も高いが、SK24 出土のものと長さがわずかに異なる。

樹種については、23.75cmの最も長い個体のみスギ、22.3 ～ 23.1cmに収まる６点は全てモミ属であった。

長さ（cm）	SK24		SK23	
	個数	割合（%）	個数	割合（%）
19.0 ～ 19.5 未満	2	0.5		
～ 20.0 未満	2	0.5		
～ 20.5 未満	4	1		
～ 21.0 未満	7	2		
～ 21.5 未満	57	16		
～ 22.0 未満	122	34		
～ 22.5 未満	61	17	2	29
～ 23.0 未満	9	3	3	43
～ 23.5 未満	3	1	1	14
～ 24.0 未満	18	5	1	14
～ 24.5 未満	26	7		
～ 25.0 未満	36	10		
～ 25.5	9	3		
合計	356	100	7	100

第 36 表　箸・チュウ木一覧

⑦人形頭部

４体 (921 ～ 924) 出土した。このうち３体 (921･923・924) は頸部に首の下部にカマ孔があり、うち 924 はカマ孔に操り具と考えられる棒が残されていた。922 はカマ孔がなく、後頭部に孔がある。921・922 は長さが３寸 (9 ～ 9.4cm) 程度、923 は３寸５分程度 (10.5cm)・924 は小型で 2.4 寸 (7.2 cm) 程度である。

顔の表情は、921･922 が豊かであるのに対し 923･924 はほとんど凹凸がなく、彩色により顔を表現していたと考えられる。樹種は前者がア

報文番号	器種	上部形状	下部形状	切れ込み	報告遺構名	現存長	最大幅	最大厚	木取り	材質	備考
85	卒塔婆	圭頭	平ら	なし	SE01	47.0	11.0	0.7	板目	マツ科モミ属	□□　南無 [　釋 [　　/ 願主
248	木簡	平ら	平ら (やや先細り)	あり	SE07	14.5	2.9	0.5	柾目	マツ科モミ属	三木郡水上
259	木簡	平ら	平ら	なし	SE07	10.0	2.2	0.5	板目	ヒノキ科スギ	主参
260	木簡	平ら	平ら	あり	SE07	12.1	2.4	0.8		マツ科モミ属	戸祭主水 / 番つつら
566	木簡	平ら	斜め	あり	SK23	13.5	1.9	0.8	柾目	ヒノキ科ヒノキ属	野左衛門 / 不明
567	木簡	平ら	平ら	あり	SK23	12.3	1.7	0.5	板目	モミ属	□忝
568	木簡	平ら	不明	あり	SK23	9.9	1.8	0.4	柾目	ヒノキ科ヒノキ属	田中右兵衛 /(文様) 宮ノ□□
569	木簡	平ら	平ら	なし	SK23	9.9	2.0	0.4	柾目	ヒノキ科ヒノキ属	(墨書あり)
570	木簡	かまぼこ型	平ら	なし	SK23	7.6	2.3	0.2	柾目		
571	木簡	不明	平ら	不明	SK23	8.6	2.1	0.2	板目	マツ科モミ属	山田郡西上田 / 甚三郎分
572	木簡	不明	平ら	不明	SK23	5.5	2.0	0.2	板目	ヒノキ	]　銑右衛門□
856	折敷の脚 (墨書)	—	—	—	SK24	4.1	15.3	0.6	柾目	ヒノキ科ヒノキ属	墨書「物　てわき」
929	木簡	平ら	尖らせる	あり	SK24	12.7	2.1	0.4	板目		
930	木簡	平ら	尖らせる	あり	SK24	9.8	2.8	0.3	板目	ヒノキ科アスナロ属	□筆
931	木簡	平ら	平ら　中央に切れ込み	あり	SK24	11.2	3.0	0.4	柾目	ヒノキ科アスナロ属	南条郡新石西　善七 / 八月四日
932	木簡	平ら	不明	あり	SK24	10.9	1.6	0.5	柾目	ヒノキ科ヒノキ属	山田郡□めん？　與次衛門
933	木簡	平ら	尖らせる + 平ら	あり	SK24	13.6	2.3	0.5	柾目	ヒノキ科アスナロ属	南条嶋木
934	木簡	平ら	不明	あり	SK24	11.2	2.0	0.5	柾目	マツ科マツ属【二葉松類】	(墨書あり)
935	木簡	不明	不明	あり	SK24	13.4	2.2	0.3	柾目	マツ科モミ属	山田郡宮 [　/ 弥八
936	木簡	平ら？	不明	不明	SK24	22.0	2.6	0.5	柾目	ヒノキ科スギ	花□□左衛門
937	木簡	平ら	不明	あり	SK24	18.0	1.8	0.5	板目		
938	木簡	平ら	丸み	あり	SK24	21.2	2.3	0.6	板目	マツ科モミ属	
939	木簡	中央に切れ込み	尖らせる	なし	SK24	18.3	2.7	0.3	柾目	ヒノキ科スギ	
940	木簡	不明	不明	不明	SK24	14.6	2.8	0.5	柾目	ヒノキ科スギ	
941	木簡	不明	不明	不明	SK24	16.7	1.6	0.1	柾目	アスナロ	
942	木簡	不明	平ら	不明	SK24	9.5	2.8	0.3	柾目	マツ科モミ属	] 東彦左衛門
943	木簡	平ら	平ら	なし	SK24	8.5	3.0	0.5	板目	ヒノキ科スギ	
944	木簡	平ら？	平ら	なし	SK24	9.3	1.9	0.3	柾目	ヒノキ科ヒノキ	[　] 蔵
945	木簡	平ら　角丸み	不明	なし	SK24	7.4	2.1	0.3	板目		
946	木簡	平ら？	平ら？	なし	SK24	8.3	2.3	0.3	板目	マツ科モミ属	南条郡 / 八分五り　数右衛門
947	木簡	不明	不明	不明	SK24	4.1	2.2	0.3	板目	ヒノキ科	門
948	木簡	角をとる	不明	なし	SK24	3.2	2.1	0.6	板目		南〔　　/ 八月
949	木簡	平ら　孔 2 か所	平ら	なし	SK24	27.1	3.4	0.6	柾目	ヒノキ科アスナロ属	十二月六日　[　] 三右衛門 / 不明
950	木札 (墨書)	不明	平ら	不明	SK24	24.0	6.5	0.6	板目	マツ科モミ属	家内安穏 [
951	ヘラ状木製品 (墨書)	—	—	—	SK24	18.1	1.3	0.25	板目	ヒノキ科スギ	人名か　字はあるがワレのため判読不能

第 37 表　木簡一覧

下駄　19 点

報文番号	遺構名	形状	歯の装着	長さ	幅	厚さ	樹種	備考
261	SE07	方形	構造下駄（露卯下駄）	20.8	8.9	2.3	カツラ	
574	SK23	方形	構造下駄（露卯下駄）	21.3	8.7	2.5	トネリコ属	かかと部分に五葉文
952	SK24	方形	構造下駄（露卯下駄）	21.6	8.5	2.8	トネリコ属	
953	SK24	方形	構造下駄（露卯下駄）	21.2	8.2	2.6	モクレン属	歯のホゾ孔が２個ずつある
954	SK24	方形	構造下駄（露卯下駄）	21.6	8.9	2.7	トネリコ属	
955	SK24	方形	構造下駄（露卯下駄）	20.8	8.1	2.1	トネリコ属	
956	SK24	方形	構造下駄（露卯下駄）	21.1	8.4	2.5	トネリコ属 シオジ節	
957	SK24	方形	構造下駄（露卯下駄）	(20.8)	8.7	2.2	トネリコ属 シオジ節	
958	SK24	方形	構造下駄（露卯下駄）	(20.8)	7.7	2.4	トネリコ属 シオジ節	
959	SK24	楕円形	構造下駄（露卯下駄）	21.0	7.8	2.3	マツ属複維管束亜属	
960	SK24	楕円形	構造下駄（露卯下駄）	21.1	7.6	2.5	ヒノキ科	
961	SK24	楕円形	構造下駄（露卯下駄）	16.4	6.0	1.7	ヒノキ科	漆付着
962	SK24	方形	一木下駄（連歯下駄）	22.0	9.4	1.5	マツ属複維管束亜属	
963	SK24	方形	一木下駄（連歯下駄）	20.8	9.2	1.5	モミ属	
964	SK24	方形	一木下駄（連歯下駄）	－	8.5	0.9	カエデ属	
965	SK24	楕円形	一木下駄（連歯下駄）	15.4	6.0	1.1	アスナロ	漆付着
966	SK24	方形	一木下駄（刳り下駄）	21.7	(8.4)	1.7	スギ	
967	SK24	方形	一木下駄（刳り下駄）	－	9.2	1.1	スギ	
968	SK24	方形	一木下駄（刳り下駄）	－	8.2	2.3	トネリコ属 シオジ節	

第 38 表　下駄一覧 (1)

長さ	種類	形状	SE07	SK23	SK24	合計	
21cm前後	構造下駄	方形	261	574	952 ～ 958	9	
	構造下駄	楕円形			959,960	2	
	連歯下駄	方形			962、963	2	
	刳り下駄	方形			966	1	
15 ～ 16cm	構造下駄	楕円形			961	1	漆付着
	連歯下駄	楕円形			965	1	漆付着

※２点は長さの計測不能

第 39 表　下駄一覧 (2)

スナロ属、後者がスギであり、異なる製作者による可能性もが高い。

925 は顔の表現はないものの、上部にわずかに毛髪と考えられる墨が残されることや頭部と頸部が作られていることなどから人形頭部の可能性を考えた。樹種はスギであり後者と同じである。

⑧木簡（第 37 表）

35 点を抽出した。内容は第 37 表のとおりである。卒塔婆 (85) や転用品 (951)、他製品の墨書 (856) を除けば大半は荷札木簡と考えられる。上部に平らで上部側縁に切れ込みがあるものが多い (10 点) が、上部に切れ込みを入れるもの (939) もある。郡名では山田郡（571・932･935）、南条郡（931･933･946）、三木郡（248）が認められる。ただ発掘調査から 18 年が経過し、調査時には墨痕が認められたもので整理時には認められなかったもの、または薄くなって判読が難しくなったものが相当数あった。

樹種はモミ属が 10 点、ヒノキ 7 点 (折敷脚部の墨書を除く)、スギ 6 点、アスナロ 5 点である。モミ属が多く、スギ、アスナロが一定量使用される傾向は箸状木製品と類似するが、ヒノキの使用が多い点では異なる。

⑨下駄（第 38･39 表）

下駄 18 点、差込下駄の歯 6 点出土した。出土した遺構は SE07･SK23 が各 1 点、他は歯も含め SK24 から出土した。

下駄は大きく構造下駄と一木下駄に分類できる。構造下駄は歯と本体を別の材で作るもので、本体へ歯を差し込む。構造下駄の中で、歯の材が本体の表面に出るものを露卯下駄、表面に出ないものを陰卯下駄という。一木下駄は一つの材で作るもので、前後 2 枚の歯を切り出す連歯下駄、台裏の一部を刳り抜いて作る刳り下駄がある。

18 点中構造下駄が 12 点、連歯下駄が 4 点、刳り下駄が 2 点で、構造下駄はすべて露卯下駄であった。形状は楕円形が 4 点、他は方形であった。大きさは、長さ 21cm前後、幅 8 ～ 9cm前後が 16 点、16cm前後が 2 点で、下駄の種類や形状を問わず概ね同じ長さであり、規格は 21cm前後と 15 ～ 16cmの 2 通りあったと考えられる。構造下駄に比べ一木下駄の幅は 9cm強でやや広め、厚さは 1 ～ 1.5cmでやや薄めである。規格の小さい 2 点は作りが丁寧でわずかに漆の付着が見られた。

下駄の歯は 7 点を図化した。概ね露卯下駄に対応するものであるが、970 はホゾがないことから陰卯下駄もあった可能性がある。

樹種の選択については、構造下駄はトネリコ属が多数を占める。トネリコ属の使用は他では認められないものであり、一木下駄でも 968 が 1 点あるのみである。方形の構造下駄は意図的にトネリコ属を使用したと考えられるものの、SK24 出土の方形・構造下駄 (露卯下駄)・トネリコ属の組合わせは 6 点あり、同じ商品を購入した結果とも考えられ、樹種選択の基準については類例を待ちたい。

方形の構造下駄の中で、歯のホゾの形状が異なるもの（953) はモクレン属を、楕円形の構造下駄 (959) はマツ属複維管束亜属を使用している。いずれも他の製品には見られない樹種であるが、下駄の規格と樹種選択には関連がある可能性もあろう。構造下駄の歯の樹種についても下駄本体の樹種とおおむね一致するが、973 のみモミ属であり、モミ属の構造下駄もあったことがわかる。また、ヒノキ科のものが 2 点あった。いずれも楕円形で作りが他に比べ丁寧であり、961 は漆が残されていた。品質の良いものはヒノキ科の樹種が選択されたのではないか。

一木下駄では刳り下駄 1 点 (968) にトネリコ属シオジ節が使用されるほかは刳り下駄 2 点はスギ、連歯下駄 4 点はマツ属複維管束亜属、モミ属、カエデ属、アスナロであり、統一性が認められない。

第 4 節　SK24 出土遺物について

大型の土坑である SK24 からは陶磁器類や土師質土器、木製品など 17 世紀後半を中心とする大量の遺物が出土した。陶磁器・土師質土器類の出土が他の遺構に比べて多いだけでなく、大量の木製品や貝・骨類などの食物残滓が出土したこと、それに比して瓦の出土量が少ないことが特徴として挙げられる。本報告書では、陶磁器、土師質土器類、瓦については実測可能な遺物については極力図化した。

磁器は 53 点図化した。中世の輸入陶磁器 2 点を除き、小坏が 4 点、碗が 25 点、皿が 11 点、大型の鉢が 2 点、香炉 4 点、その他 5 点である。産地は中国・景徳鎮窯が 1 点、他は肥前系である。

陶器は 25 点を図化した。碗が 10 点、皿が 5 点、大型の鉢が 1 点、擂鉢 5 点、茶入れ 1 点、その他 3 点で、磁器に比べ碗・皿などの供膳形態が占める割合が少ない。産地は瀬戸美濃産の碗が 1 点あるほかは碗・皿・大型の鉢はすべて肥前系である。擂鉢はすべて備前焼である。

陶磁器類では、景徳鎮窯のものが１点出土したのの、奢侈品や、多人数が参加する宴会に使用される大皿や揃いの食器は認められず、概ね日常使いの食器が廃棄されたと考えられる。茶道具である茶入れが出土しており、武家に茶の湯が浸透した様子が認められる。

土師質土器では皿が多く出土し、32 点を図化した。このうち 18 点には煤が認められ、食器としてではなく灯明皿として利用されたことが窺える。

多量に出土した木製品のうち大半を占めるのが漆器椀、容器の底板または蓋と考えられる円形または方形の板、折敷脚部、箸、ヘラなど食事に関わる道具であった。漆器の材質・技法を調査した結果（第４章　第１節参照）、材質には加工や入手が容易だが質の良くないブナやトチノキが多く使用され、漆の塗りは簡略化されたものであった。高級品があまり認められないのは陶磁器類にも共通する傾向である。

大量に出土したのは容器の底板または蓋と考えられる円形または方形の板と箸であった。前者については、摘みや断面のほぞの有無、大きさにバリエーションがあり、今後用途の違いについて明らかにできれば本遺跡の居住者の生活がより一層明らかになろう。箸については欠損のないものが 356 点、欠損するものを含めればさらに多量の個体数が出土した。日常生活での不用品の廃棄にしては量が多すぎると考えられる。

SK24 からは貝・骨などの食物残滓も出土した（第４章　第２節参照）。骨類については、土壌の水洗選別をしておらず、小さい骨は検出できなかった可能性もあるが、食事内容の傾向を窺うことができる。貝はアカニシが最も多く、サザエ、シジミ、ハマグリと合わせて貝全体の８割に達する。魚類の骨を確認できたのは５種類であったが、マダイ亜科、スズキが多くを占め、その他ハタ科、フグ科、フサカサゴ科が確認された。鳥類はニワトリ、カモ亜科、獣類は二ホンジカが主に認められた。

木簡と考えられる木製品は 23 点出土した。劣化のため判読の難しいものが多いが、地名や人名を記載するものが認められる。荷札木簡として利用され、廃棄されたのであろう。

SK24 出土遺物の特徴は多量の木製品が出土したことで、特に消耗品である箸の出土量が目立つ。食物残滓の出土も含め、多人数による食事後の廃棄土坑と考えられるのではないか。屋敷の規模は全く違うが、加賀藩江戸屋敷跡（東京大学遺跡調査室 1990「東京大学本郷構内の遺跡　医学部附属病院地点」東京大学遺跡調査室発掘調査報告書３）の池状遺構からは大量の土師質土器皿、白木の箸や折敷が出土し、伴出した木簡の年号から将軍の御成に伴う饗宴後の廃棄土坑とされている。SK24 は食器としての土師質土器皿はほとんど出土しておらず、折敷の出土量もそれほど多くないが、箸が大量に出土した点は類似する。SK24 からは他には上述のように陶磁器や漆器の食器類、櫛や下駄など服飾具、人形頭部や船形木製品などの遊戯具が出土した。何らかの会食（饗宴）後の廃棄に合わせて日常の廃棄も行った土坑とは考えられないだろうか。饗宴に使う食器などは陶磁器類・漆器類など恒常的な使用を見込めるものを選択しているとも考えられる。荷札木簡は饗宴の準備に関わる内容である可能性もあろう。食物残滓からは、貝ではアカニシ、ハマグリ、サザエ、シジミを使ったもの、魚はマダイ亜科、スズキなどが主に供されたと考えられる。

第 40 表　土器観察表（1）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
1	SP12		土師質土器 皿	7.9	1.4	5.3			2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄		砂粒：細・多	回転ナデ、 糸切り？	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 4	A Ⅳ
2	SP20		土師質土器 椀	-	-	5.4			2.5Y8/1 灰白	10YR6/2 灰黄褐		砂粒：細・少	回転ナデ、ナデ、 貼付け高台	ナデ（マメツ）	底部 4/8		
3	SP20		土師質土器 椀	-	-	6.6			7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白		砂粒：中・少	回転ナデ、 ヘラ切り、 貼付け高台	ヘラミガキ	底部 2/8		
4	SP45		土師質土器 擂鉢	-	-	-			10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙		砂粒：中・多	ナデ、板ナデ	ナデ、板ナデ	口縁部 1/8 以下	様相 3	外面スス付着
5	SP45		土錘	長さ 3.2	幅 1.2	厚み -			7.5YR4/3 褐			砂粒：細・多	ナデ		4/8		
6	SP46		肥前・陶器 皿	14.9	-	-	5Y7/1 灰白	5Y5/3 灰オリーブ				砂粒：細・少	施釉	施釉（鉄絵）	口縁部 1/8	17c 前	口縁部 1 ヶ所 凹ませる
7	SP46		土師質土器 皿	13.0	1.9	7.6			7.5YR8/2 灰白	2.5Y8/1 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ、 回転糸切り のち板状圧痕	回転ナデ、ナデ	口縁部 2/8	様相 5	内面火だすき、 外面スス付着、 灯明皿、A Ⅴ
8	SP52		肥前系 磁器・碗	-	-	4.0	N8/ 灰白	N8/ 灰白				砂粒：細・少	削出高台、施釉	施釉	底部 1/8	様相 3	高台内無釉
9	SP52		土師質土器 焙烙	28.0	8.7	1.3			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙		砂粒：粗・多	ナデ	回転ナデ	口縁部 2/8		口縁歪みあり 外型成形
10	SP65		中国 磁器・碗	-	-	4.8	N9/ 白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施 釉　高台内 「富貴□□」	底部 8/8	16c 前	景徳鎮
11	SD01		瓦器・椀	(14.6)	6.0	(5.8)			N5/ 灰	N4/ 灰		砂粒：細・少	回転ナデ、指オサエ	ヘラミガキ	口縁部 4/8	12c 後	和泉型
12	SD01		瓦器・椀	-	-	(5.0)			2.5Y4/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰		砂粒：細・少	マメツ、指オサエ	マメツ	底部 2/8	12c 後	和泉型
13	SD02		土師質土器 内耳付鍋	25.6	-	-			N6/ 灰 7.5Y7/1 灰白	10YR8/4 浅黄橙		砂粒：中・多	ナデ、指オサエ のち板ナデ	ナデ、指オサエ のち板ナデ	1/8 以下	様相 3	
15	SD04		須恵器・杯	-	-	9.8			N4/ 灰	7.5GY5/1 緑灰		砂粒：中・多	回転ナデ	回転ナデ	底部 3/8		
16	SD04		肥前系 磁器・小杯	(5.8)	3.6	2.1	N9/ 白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉、 回転ヘラケズリ、 削出高台	回転ナデ、施釉	口縁部 7/8	1630 -1650	高台内無釉
17	SD04		肥前系 磁器・碗	-	-	(4.9)	N9/ 白	10GY8/1 明緑灰				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	底部 2/8	1630 -1650	高台畳付部に 砂付着
18	SD04		肥前系 磁器・碗	-	-	-	N8/ 灰白	10GY8/1 明緑灰				砂粒：細・少	施釉	施釉	1/8 以下		
19	SD04		中国 青磁・碗	-	-	4.0	N6/ 灰	7.5GY7/1 明緑灰				砂粒：細・多	施釉、削出高台	施釉	底部 3/8	14 c 末 -15 c 初	
20	SD04		肥前系 白磁・碗	-	-	3.7	N8/ 灰白	5Y8/1 灰白				砂粒：細・少	施釉	施釉	底部 4/8	17c 後	焼成不良 釉にムラあり
21	SD04		肥前 陶器・皿	-	-	3.6	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR5/2 灰褐				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、 回転ヘラケズリ	回転ナデ、施釉、 胎土目積	底部 4/8	～ 1630	
22	SD04		肥前 陶器・皿	(11.9)	3.3	(4.6)	5Y7/1 灰白	5Y6/2 灰オリーブ				砂粒：無	回転ナデ、施釉、 削出高台	回転ナデ、施釉、 胎土目積 1 ヶ所	口縁部 1/8	様相 1	
23	SD04		肥前 陶器・皿	-	-	(8.4)	10YR7/2 にぶい黄橙	7.5Y6/2 灰オリーブ				砂粒：無	回転ヘラケズリ、 削出高台	回転ナデ、施釉、 砂目積	底部 2/8	17c 中	

第 41 表　土器観察表（2）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
24	SD04		備前 陶器・擂鉢	24.6	-	-			10R4/1 暗赤灰	N5/ 灰		砂粒 : 中・多	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8 以下	17c 中、 近世 1b	
25	SD04		備前 陶器・擂鉢	(29.0)	-	-			10R5/3 赤褐	7.5YR6/4 にぶい橙、 10R5/3 赤褐		砂粒 : 粗・少	回転ナデ、溶着痕	回転ナデ、 回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8	17c 初、 近世 2b	
26	SD04		肥前 陶器・花生	7.5	13.8	5.5	N6/ 灰	2.5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰				砂粒 : 細・少	施釉	施釉、回転ナデ	口縁部 7/8	17c 中	
27	SD04		備前 陶器・建水	-	-	15.6	7.5Y7/1 灰白	7.5R2/2 極暗赤褐				砂粒 : 粗・多	施釉	施釉	底部 3/8		
28	SD04		土師質土器 杯	8.6	-	-			10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙		赤色粒 : 細・少 砂粒 : 細・少	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 1 ～ 2	
29	SD04		土師質土器 皿	-	-	4.6			7.5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙		砂粒 : 細・少	回転ナデ、 静止糸切り	回転ナデのちナデ	底部 8/8	様相 1	A Ⅱ
30	SD04		土師質土器 皿	9.4	2.0	5.4			5YR6/6 橙	5YR6/6 橙		赤色粒 : 中・多 砂粒 : 中・多	回転ナデ、マメツ	回転ナデ	口縁部 3/8	様相 1	A Ⅰ
31	SD04		土師質土器 皿	-	-	5.6			5YR7/6 橙	5YR7/6 橙		砂粒 : 中・少	回転ナデのちナデ、 静止糸切り	回転ナデ	底部 2/8		A Ⅱ
32	SD04		土師質土器 把手付鍋	28.0	-	-			10YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙		石英・長石 : 中・多 雲母 : 細・少	ナデ、板ナデ	ナデ、ハケ目	口縁部 1/8 以下	17c 中	外面スス付着
33	SD04		土師質土器 鍋	-	-	-			10YR5/2 灰黄褐	7.5YR7/3 にぶい橙		赤色粒 : 細・少 雲母 : 細・並 砂粒 : 中・多	ナデ、指オサエ、 板ナデ	ナデ、板ナデ	口縁部 1/8 以下	様相 3	外面スス付着
34	SD04		土師質土器 円盤状 土製品	長さ 4.0	幅 3.9	厚さ 0.8			7.5YR7/4 にぶい橙	10YR8/2 灰白		砂粒 : 中・多	板ナデ	板ナデ	8/8		甕の転用
50	SD05		備前 陶器・平鉢	23.0	-	-			7.5R4/2 灰赤	7.5R4/2 灰赤		砂粒 : 細・少	回転ナデ、 ヘラケズリ	回転ナデ	口縁部 1/8		
51	SD05		備前 陶器・壺	9.8	-	-			7.5R4/2 灰赤	7.5R4/2 灰赤		砂粒 : 細・少	回転ナデ、 くし描き沈線	回転ナデ	口縁部 1/8		
52	SD07		瓦器・小皿	9.4	2.3	4.5			N7/ 灰白	N7/ 灰白		砂粒 : 中・少	ナデ	ナデ、ヘラミガキ	口縁部 2/8		和泉型
53	SD07		土師質土器 皿	8.4	1.4	6.8			5YR6/6 橙	5YR6/6 橙		赤色粒 : 中・少、 砂粒 : 中・多	回転ナデ、 回転糸切り (マメツ)	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 3	A Ⅲ
54	SD07		土師質土器 円盤状 土製品	長さ 4.6	幅 4.3	厚さ 1.0			7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙		砂粒 : 中・多	板ナデ	指オサエ	8/8		甕の転用
55	SD08		瀬戸美濃 磁器・碗	-	-	5.5	N8/ 灰白	10Y8/1 灰白				砂粒 : 無	施釉	施釉	底部 4/8		
56	SD08		肥前系 磁器・碗	(9.0)	-	-	N9/ 白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8 以下	19c 末 -20c 初	銅板転写
57	SD08		肥前 陶器・皿	12.9	3.7	4.3	10YR6/3 にぶい黄橙	5Y6/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ 5Y8/1 灰白				砂粒 : 細・少	施釉 (灰釉)、 回転ナデ、削出高台	施釉 (灰釉)、 蛇の目釉剥ぎ	口縁部 5/8	17c 後	
58	SD09		肥前 陶器・碗	11.4	6.2	4.6	7.5YR7/3 にぶい橙	10YR3/2 黒褐				砂粒 : 細・少	施釉 (鉄釉)、 回転ナデ、削出高台	施釉 (鉄釉)	口縁部 4/8	17c1/4 ～ 30	天目碗

第 42 表　土器観察表（3）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
59	SD09		肥前 陶器・皿	-	-	4.3	5Y5/1 灰	7.5Y4/2 灰オリーブ				砂粒：細・少	回転ナデ、削出高台	施釉（灰釉）	底部 7/8	17c1/4	被熱痕あり
60	SD09		土師質土器 皿	8.0	-	-			7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙		赤色粒：細・少、 砂粒：細・少	回転ナデ、スス付着	回転ナデ、スス付着	口縁部 2/8	様相 3 ～ 4	A Ⅲ、 灯明皿
61	SD09		土師質土器 皿	7.6	1.8	5.2			7.5YR4/2 灰褐	10YR4/2 灰黄褐		赤色粒：細・少、 砂粒：細・多	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 3?	A Ⅲ
62	SD09		土師質土器 皿	12.0	-	-			10YR8/2 灰白	7.5YR8/3 浅黄橙		赤色粒：細・少	回転ナデ、 糸切り？（マメツ）	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 5 か？	A Ⅴ
63	SD09		土師質土器 焙烙	-	-	-			10YR5/2 灰黄褐	7.5YR4/1 褐灰		赤色粒：細・少	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ のち板ナデ	口縁 部 1/8 以下	様相 5	外面被熱
75	SE01	石組内	弥生・鉢	43.7	-	-			5YR4/4 にぶい赤褐	5YR4/4 にぶい赤褐		石英・長石：粗・並 赤色粒：中・並 角閃石：中・並	ナデ、ハケ目	ナデ、板ナデ	1/8 以下		
76	SE01	石組内	弥生・甕 底部	-	-	4.6			10YR5/4 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐		石英・長石：中・並 雲母：細・少	板ナデ、ナデ	指オサエ のち板ナデ	底部 4/8		
77	SE01	石組内	中国白磁 碗	15.0	-	-	10Y7/1 灰白	7.5Y7/2 灰白				砂粒：細・少	施釉	施釉	口縁部 1/8	12c 前	白磁Ⅳ類
78	SE01	石組内	中国白磁 碗	16.6	-	-	N8/ 灰白	2.5GY8/1 灰白				砂粒：細・少	施釉	施釉	口縁部 1/8	12c 前	白磁Ⅳ類
79	SE01	石組内	中国白磁 碗	-	-	-	10Y8/1 灰白	2.5GY8/1 灰白				砂粒：細・少	施釉	施釉 （くし描き文）	口縁部 1/8 以下	12c 前	白磁Ⅵ類
80	SE01	石組内	土師質土器 皿	-	-	4.4			2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/2 灰黄		砂粒：細・少	板ナデ、 静止糸切り	板ナデ、指ナデ	底部 4/8		A Ⅱ
81	SE01	石組内	土師質土器 皿	14.0	-	-			7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白		砂粒：中・少	ナデ	ナデ	口縁部 1/8		
82	SE01	石組内	土師質土器 足釜	-	-	-			10YR7/2 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙		砂粒：中・少	指オサエ、ナデ	指オサエ、板ナデ	1/8 以下		
86	SE01	石組上部	肥前 陶器・皿	32.2	-	-	10YR7/3 にぶい黄橙	5Y6/3 オリーブ黄				砂粒：中・少	施釉（灰釉）	施釉（灰釉）	口縁部 1/8 以下	17c 前	
87	SE01	石組上部	土師質土器 皿	-	-	6.6			10YR7/3 にぶい黄橙			石英・長石：中・少、 雲母：細・少	回転ナデ、 静止糸切り	回転ナデ	底部 4/8		A Ⅱ
88	SE01	石組上部	土師質土器 鍋	-	-	-			7.5YR7/3 にぶい橙	10YR2/1 黒		石英・長石：中・少、 雲母：細・少	ナデ、板ナデ	ナデ、指ナデ	口縁部 1/8 以下		体部外面スス 付着
89	SE02	井戸枠内	弥生 甕底部	-	-	4.0			10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄		石英・長石：細・並、 角閃石：細・少	ハケ目	板ナデ	底部 8/8		
90	SE02	井戸枠内	肥前系 磁器・碗	(12.6)	-	-	N9/ 白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 2/8	1650 -1690 か？	
91	SE02	井戸枠内	肥前系 磁器・碗	(12.4)	6.4	(4.6)	N9/ 白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉、 回転ナデ、山水文	回転ナデ、施 釉、梅花文	口縁部 3/8	1650-1690	(
92	SE02	井戸枠内	肥前系 青磁・香炉	(20.8)	6.3	(7.0)	N8/ 灰白	5GY7/1 明緑灰				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、 芭蕉文片彫り	回転ナデ、施釉	口縁部 6/8	1630-1650	口縁端部内側 に辰砂塗布
93	SE02	井戸枠内	備前 陶器・擂鉢	-	-	-			2.5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐		砂粒：中・多	回転ナデ、凹線 2 条	回転ナデ、 回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8 以下	17c 4/4 ～ 18c 初、 乗岡編年 近世 3 期	口縁部外面 火だすき痕

第 43 表　土器観察表（4）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
94	SE02	井戸枠内	土師質土器 皿	(8.8)	1.4	(6.2)			7.5Y7/4 浅黄	7.5Y7/4 浅黄		砂粒：細・少	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 3	A Ⅲ
95	SE02	掘り方	肥前系 磁器・碗	-	-	-	N9/ 白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施 釉、鳥文	回転ナデ、施 釉、四方襷文	口縁部 1/8 以下	1650-1690	
96	SE02	掘り方	肥前 陶器・碗	12.3	-	-	2.5Y6/3 にぶい黄	10YR4/3 にぶい黄褐				砂粒：中・少	施釉 (透明釉)	施釉 (透明釉)	口縁部 1/8	17c 後 ～ 18c 前	呉器手
97	SE02	掘り方	肥前 陶器・香炉	(14.3)	-	-	5YR4/2 灰褐	5Y8/1 灰白 2.5Y4/3 オリーブ褐				砂粒：無	回転ナデ、 施釉 (体部は無釉)	回転ナデ、 施釉 (体部は無釉)	口縁部 1/8	1650-1690	
98	SE02	掘り方	土師質土器 皿	13.4	2.7	6.4			N4/ 灰	7.5Y7/1 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 3	A X
99	SE02	井戸枠 上部	弥生・甕	13.6	-	-						石英・長石：粗・多 赤色粒：細・少 角閃石：細・少 雲母：中・少	ナデ、ハケ目	ナデ、板ナデ	口縁部 1/8		
100	SE02	井戸枠 上部	須恵器・杯	-	-	9.3			N5/ 灰	N5/ 灰		砂粒：細・少	回転ナデ、 回転ヘラ切り、 火だすきあり	回転ナデ	底部 1/8		
101	SE02	井戸枠 上部	中国 磁器・小杯	(6.2)	3.7	(2.8)	N9/ 白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8	17c 前	景徳鎮
102	SE02	井戸枠 上部	肥前系 磁器・小杯	-	-	(2.8)	N9/ 白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉、 ナデ、砂目積	回転ナデ、施釉	底部 3/8	17c 前後	高台畳に砂付着
103	SE02	井戸枠 上部	肥前系 磁器・碗	-	-	(4.6)	N9/ 白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	底部 3/8	17c 前	高台畳付に砂付着
104	SE02	井戸枠 上部	肥前系 磁器・碗	(12.0)	-	-	N9/ 白	10GY8/1 明緑灰				砂粒：無	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8		
105	SE02	井戸枠 上部	肥前系 磁器・碗	-	-	4.8	N8/ 灰白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	底部 6/8	17c 後	高台裏に銘
106	SE02	井戸枠 上部	肥前系 磁器・碗	-	-	(4.4)	N9/ 白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	底部 1/8	1650-1690	高台裏に銘
107	SE02	井戸枠 上部	肥前系 磁器・皿	(19.8)	-	-	N8/ 灰白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8	1650-1670	
108	SE02	井戸枠 上部	肥前系 磁器・皿	-	-	-	N9/ 白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8 以下		
109	SE02	井戸枠 上部	肥前系 青磁・皿	13.0	-	-	N8/ 灰白	7.5GY7/1 明緑灰				砂粒：無	施釉	施釉	口縁部 1/8	17 c 後 ～ 18c 前	
110	SE02	井戸枠 上部	肥前系 磁器・合子	(6.3)	4.3	(5.6)	2.5Y8/2 灰白	透明				砂粒：無	回転ナデ、回転ナデ、 施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 3/8	17c 前後	焼成不良
111	SE02	井戸枠 上部	肥前系 磁器 火入れ	-	-	4.8	N8/ 灰白	N8/ 灰白				砂粒：細・少	施釉、回転ナデ	回転ナデ	底部 3/8		
112	SE02	井戸枠 上部	肥前 陶器・碗	10.6	-	4.7	7.5Y8/1 灰白	5Y7/2 灰白				砂粒：細・少	施釉	施釉	底部 8/8		貫入著しい 呉器手
113	SE02	井戸枠 上部	肥前 陶器・碗	-	-	4.8	2.5Y7/2 灰黄	10YR7/3 にぶい黄橙				砂粒：細・少	施釉	施釉	底部 1/8	17 c 前 ～ 18c 後	貫入あり 呉器手
114	SE02	井戸枠 上部	肥前 陶器・碗	-	-	4.6	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y6/3 にぶい黄				砂粒：細・少	施釉	施釉	底部 3/8	様相 5 17c 後 ～ 18c 前	呉器手

第 44 表　土器観察表（5）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
115	SE02	井戸枠上部	肥前陶器・碗	(10.9)	-	-	7.5Y6/1 灰	N9/ 白				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8		釉の発が悪い、呉器手か？
116	SE02	井戸枠上部	肥前陶器・碗	11.0	-	-	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白				砂粒：細・少	施釉	施釉	口縁部 1/8	17c 後～ 18c 前	呉器手
117	SE02	井戸枠上部	肥前陶器・皿	(12.8)	2.7	(5.0)			2.5Y7/2 灰黄	5Y7/2 灰白		砂粒：無	回転ナデ、施釉、削出高台	回転ナデ、施釉、砂目積	口縁部 2/8	様相 3	浦緑皿、被熱あり
118	SE02	井戸枠上部	肥前陶器・皿	-	-	(4.1)	2.5Y7/3 浅黄	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、回転ヘラケズリ、削出高台	回転ナデ、施釉、砂目積	底部 3/8	様相 2	
119	SE02	井戸枠上部	肥前陶器・香炉	(15.6)	-	-	2.5YR4/6 赤褐	5Y8/1 灰白				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、回転ヘラケズリ	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8	17c 後（～ 18c 前）	
120	SE02	井戸枠上部	陶器・擂鉢	-	-	11.7			5YR6/6 橙	5YR6/6 橙		砂粒：中・少	回転ナデ、回転糸切り、一部当て具痕有り（4 ヶ所）	回転ナデ、卸し目（7 条 / 単位）	底部 8/8		内面磨滅
121	SE02	井戸枠上部	土師質土器皿	7.8	1.3	5.1			7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙		砂粒：細・少	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	口縁部 8/8	様相 3	A Ⅲ
122	SE02	井戸枠上部	土師質土器皿	8.4	1.6	5.5			7.5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙		砂粒：細・少	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	口縁部 3/8		A Ⅲ
123	SE02	井戸枠上部	土師質土器皿	9.1	2.1	5.4			10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙		赤色粒：細・少 砂粒：細・少	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8		A Ⅲ
124	SE02	井戸枠上部	土師質土器皿	-	-	(6.4)			5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	底部 2/8	様相 2 ～ 3	A Ⅴ
125	SE02	井戸枠上部	土師質土器皿	10.0	-	-			10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8		灯明皿
126	SE02	井戸枠上部	土師質土器皿	13.0	-	-			2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8		灯明皿
127	SE02	井戸枠上部	焼塩壺	5.8	9.1	4.5			5YR7/2 明褐灰	5YR7/6 橙		砂粒：粗・多	指オサエ、ナデ	指オサエ、ナデ	口縁部 5/8		内面：体部は調整痕がほとんど無い、在地系
128	SE02	井戸枠上部	土師質土器火鉢	15.0	-	-			7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白		砂粒：細・少	板ナデ	ナデ、板ナデ	口縁部 1/8		
129	SE02	井戸枠上部	土師質土器火鉢	-	-	2.3			2.5Y6/2 灰黄	2.5Y5/1 黄灰		砂粒：細・少	板ナデ、指ナデ、マメツ	指オサエ、指ナデ	8/8		穿孔 1 ヶ所剥離面に本体の接着面の刻み目がうつる
130	SE02	井戸枠上部	瓦質土器焙烙	-	-	-			2.5Y3/1 黒褐	2.5Y3/1 黒褐		砂粒：細・少	指オサエ、ナデ、板ナデ	指オサエ、ナデ	口縁部 1/8 以下	様相 5	内耳に穿孔 1 ヶ所残
131	SE02	井戸枠上部	瓦質土器鉢	23.4	-	-			N3/ 暗灰	N3/ 暗灰		砂粒：細・少	ナデ、ハケ目、ヘラミガキ	ナデ	口縁部 1/8		
141	SE03	桶の井戸枠内	肥前系磁器・皿	-	-	-	2.5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰	透明				砂粒：無	ナデ、施釉	ナデ、施釉、砂目積	口縁部 1/8 以下		型打ち成型
142	SE03	桶の井戸枠内	肥前陶器・碗	12.6	-	-	7.5Y6/1 灰	5YR7/2 明褐灰				砂粒：中・少	施釉（灰釉）	施釉（灰釉）	口縁部 1/8 以下	17c 中	
143	SE03	桶の井戸枠内	土師質土器皿	(10.8)	1.8	(7.7)			2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白		石英・長石：中・並 赤色粒：中・少	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 5	A Ⅴ　墨書土器（地鎮）

第 45 表　土器観察表（6）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
146	SE03	凝灰岩 井戸枠内	肥前系 磁器・碗	(10.4)	-	-	N9/ 白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 2/8	19 末	型紙摺り
147	SE03	凝灰岩 井戸枠内	肥前 陶器・皿	12.6	-	-	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙				砂粒 : 無	施釉 (灰釉)	施釉 (灰釉)	口縁部 1/8 以下	様相 3	溝縁皿
148	SE03	凝灰岩 井戸枠内	陶器・蓋	12.4	-	-	5YR6/8 橙	2.5YR5/8 明赤褐				砂粒 : 細・少	施釉 (透明釉)	施釉 (透明釉)	口縁部 3/8		
149	SE03	凝灰岩 井戸枠内	瓦質土器 火鉢	28.6	7.9	25.1			N3/ 暗灰	N3/ 暗灰		石英・長石 : 中・並 角閃石 : 細・少	回転ナデ、ハケ目、 ナデ	回転ナデ	1/8 以 下		
150	SE03	井戸枠 上面	肥前系 磁器・皿	(17.0)	-	-	N9/ 白	透明				砂粒 : 無	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施 釉、花唐草文	口縁部 1/8 以下	17c 末 ～ 18c 前	
151	SE03	井戸枠 上面	土師質土器 皿	12.0	-	-			2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白		石英・長石 : 中・少	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 5	A Ⅴ
159	SE04	井戸枠 上面	弥生・壺	15.8	-	-			7.5YR6/4 にぶい橙	5Y4/1 灰		石英・長石 : 粗・多 赤色粒 : 中・少	ナデ、ハケ目、 沈線一条	ナデ、板ナデ	口縁部 1/8		
160	SE04	井戸枠 上面	弥生・高坏	-	-	15.8			10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐		石英・長石 : 細・並 赤色粒 : 細・少	ナデ	ハケ目、ハクリ	底部 1/8		
161	SE04	井戸枠 上面	肥前 陶器・碗	10.4	-	-	7.5Y7/1 灰白	10Y7/1 灰白				砂粒 : 細・少	施釉 (灰釉)	施釉 (灰釉)	口縁部 1/8	17c 後	
162	SE04	井戸枠 上面	備前 陶器・擂鉢	-	-	-			7.5YR6/3 にぶい橙	N3/ 暗灰		砂粒 : 細・少	回転ナデ、凹線 2 条	回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8 以下	17c 前 ～ 3/4、 近世 3	口縁部外面に 自然釉
163	SE04	井戸枠 上面	陶器・鉢	35.6	-	-	7.5Y6/1 灰	7.5Y5/3 灰オリーブ				石英・長石 : 粗・多 砂粒 : 粗・多	施釉	回転ナデ	口縁部 1/8		
164	SE04	井戸枠 上面	土師質土器 皿	7.7	1.2	4.6			2.5Y7/3 浅黄			砂粒 : 細・少	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 4	A Ⅲ　灯明皿
165	SE04	井戸枠 上面	土師質土器 皿	11.8	-	-			5YR7/6 橙	2.5YR6/6 橙		砂粒 : 細・少	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8		A Ⅻ　灯明皿
166	SE04	井戸枠 上面	土師質土器 皿	11.8	-	-			5YR7/6 橙	2.5YR6/6 橙		砂粒 : 細・少	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8		A Ⅻ　灯明皿
167	SE04	井戸枠 上面	土師質土器 擂鉢	(11.9)	-	-			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙		砂粒 : 中・多	指オサエ、ナデ、 横ナデ	ハケ目、 卸し目 (4 条 / 単位)、 ヨコナデ	口縁部 1/8	様相 2	
168	SE04	井戸枠 上面	土師質土器 馬 (ﾐﾆﾁｭｱ)	-	-	-			10YR8/2 灰白	10YR7/4 にぶい黄橙		砂粒 : 無			-		型打ち成形
170	SE04		土師質土器 井戸枠	86.8	-	-			10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/3 黄褐		石英・長石 : 粗・多 雲母 : 中・少	ナデ、ハケ目	板ナデ、ハケ目、 指オサエ、ナデ	口縁部 3/8		
171	SE04		土師質土器 井戸枠	-	-	77.4			10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y5/3 黄褐		石英・長石 : 粗・多 雲母 : 中・少	ハケ目、指オサエ、 板ナデ、ヘラケヅリ	ハケ目、板ナデ、 指オサエ、 ヘラケズリ	底部 8/8		
172	SE04		土師質土器 井戸枠	71.4	-	-			10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y6/3 にぶい黄		石英・長石 : 粗・多 赤色粒 : 中・並 雲母 : 中・少	ナデ、ハケ目	ナデ、板ナデ	口縁部 4/8		
173	SE04		土師質土器 井戸枠	-	-	75.1			10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y6/3 にぶい黄		石英・長石 : 中・多 赤色粒 : 中・並 雲母 : 中・少	ハケ目、指オサエ、 板ナデ、ヘラケズリ	ハケ目、指オサエ、 ヘラケズリ	底部 4/8		
174	SE05	井戸枠内	磁器・狛犬	-	-	-	N9/ 白	透明				砂粒 : 無	型成形、施釉、 底部は無釉	無釉 (部分的に釉が 流れる)	-		型打ち成型
175	SE05	井戸枠内	肥前 陶器・碗	12.0	-	-	7.5Y8/1 灰白	5Y8/2 灰白				砂粒 : 細・少	施釉 (透明釉)	施釉 (透明釉)	口縁部 1/8	17c 中	

第 46 表　土器観察表（7）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
176	SE05	井戸枠内	備前 陶器・擂鉢	(31.4)	-	-			7.5YR5/2 灰褐	7.5YR6/2 灰褐		砂粒 : 中・少	回転ナデ、凹線 2 条	回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8 以下	17c 前 ～ 3/4、 近世 2a	口縁部下端 部に重ね焼き 痕有
180	SE05	井戸 掘り方	肥前系 磁器・碗	-	-	-	N9/ 白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8 以下		
181	SE05	井戸 掘り方	肥前 陶器・碗	-	-	4.6	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/3 淡黄				砂粒 : 細・少	施釉 (透明釉)、 貫入あり	施釉 (透明釉)、 貫入あり	底部 4/8	17c 後 ～ 18c 前	呉器手
182	SE05	井戸枠 上面	弥生・甕	12.4	-	-						石英・長石 : 中・並 雲母 : 中・少 雲母 : 細・少	ナデ、ハケ目	ハケ目、指オサエ、 板ナデ	口縁部 1/8		
183	SE05	井戸枠 上面	弥生・甕	20.4	-	-			10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐		石英・長石 : 中・多 赤色粒 : 中・並 角閃石 : 細・少	ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目、 板ナデ	口縁部 1/8		
184	SE05	井戸枠 上面	肥前 陶器・皿	(11.6)	3.0	4.3	10YR8/4 浅黄橙	2.5Y7/2 灰黄				砂粒 : 中・少	回転ナデ、施釉、 削出高台	回転ナデ、施釉 (灰釉)、砂目積	底部 8/8	様相 2	
185	SE05	井戸枠 上面	備前 陶器・壺	-	-	9.2			7.5R4/2 灰赤			砂粒 : 中・少	回転ナデ	回転ナデ			低部外面 ヘラ描き
186	SE05	井戸枠 上面	土師質土器 皿	14.0	-	-			2.5Y8/2 灰白			砂粒 : 細・少	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 4	A X
187	SE05	井戸枠 上面	土師質土器 皿	-	-	6.6			2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白		砂粒 : 中・少	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ、 回転ナデのちナデ	底部 3/8	様相 4	A X
188	SE05	井戸枠 上面	土師質土器 皿	(15.0)	2.8	(9.0)			2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白		砂粒 : 細・少	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ、回転ナデ、 仕上げナデ	口縁部 3/8	様相 4	A X
189	SE06	井戸枠内	中国 磁器・碗	-	-	4.3	5Y8/1 灰白	N8/ 灰白				砂粒 : 細・少	施釉	施釉	底部 3/8	17c 1/4	景徳鎮
190	SE06	井戸枠内	肥前系 磁器・碗	-	-	(5.8)	N9/ 白	透明				砂粒 : 細・少	削出高台、施釉	回転ナデ、施釉	底部 1/8	1650-1690	内外面に貫入 あり
191	SE06	井戸枠内	肥前系 磁器・碗	-	-	4.4	N8/ 灰白	N8/ 灰白				砂粒 : 無	施釉	施釉	底部 4/8		
192	SE06	井戸枠内	中国 磁器・皿	-	-	-	N9/ 白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	1/8 以下	17c 1/4	内外面も被熱、 景徳鎮
193	SE06	井戸枠内	肥前系 磁器・皿	(13.2)	3.6	6.2	7.5Y8/1 灰白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉、 削出高台、草花文	回転ナデ、施釉	口縁部 5/8	1630-1650	高台畳付に砂 付着
194	SE06	井戸枠内	肥前系 磁器・皿	-	-	4.9	5YR7/4 にぶい橙	5GY8/1 灰白				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉、 削出高台、 チョウ文	回転ナデ、施釉	底部 3/8	1630-1650	
195	SE06	井戸枠内	肥前系 磁器・皿	-	-	(7.8)	N9/ 白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉、 削出高台	回転ナデ、施釉	底部 1/8	1650-1690	
196	SE06	井戸枠内	瀬戸美濃 陶器・碗	-	-	3.5	7.5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白				砂粒 : 細・少	施釉	施釉	底部 2/8		
197	SE06	井戸枠内	肥前 陶器・碗	-	-	4.3	7.5Y7/1 灰白	7.5Y6/2 灰オリーブ				砂粒 : 細・少	施釉、回転ナデ、 削出高台	施釉 (透明釉)	底部 8/8	17c 前	被熱痕
198	SE06	井戸枠内	肥前 陶器・碗	-	-	3.8	N8/ 灰白	7.5Y3/1 オリーブ黒				砂粒 : 細・少	施釉、回転ナデ	施釉	底部 4/8		
199	SE06	井戸枠内	肥前 陶器・碗	-	-	(4.8)	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5Y8/2 灰白				砂粒 : 中・少	回転ナデ、施釉、 削出高台	回転ナデ、施釉	底部 2/8	1650-1690 様相 5	刷毛目唐津 釉の発色悪い
200	SE06	井戸枠内	肥前 陶器・鉢	-	-	(9.2)	7.5YR6/3 にぶい褐	5Y8/2 灰白				砂粒 : 細・少	回転ヘラケズリ、 削出高台	回転ナデ、施釉、 砂目積	底部 2/8		外面スス付着、 高台部一部打 ち欠き

第 47 表　土器観察表（8）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
201	SE06	井戸枠内	肥前・陶器 仏飯器	-	-	4.2	5Y6/2 灰オリーブ	7.5Y3/2 オリーブ黒				砂粒：細・少	施釉（鉄釉）、 回転ナデ、 回転糸切り、 削出高台	施釉（鉄釉）	底部 6/8	17c 末	
202	SE06	井戸枠内	備前 陶器・擂鉢	-	-	-			2.5YR5/2 灰赤	2.5YR5/2 灰赤		砂粒：細・少	回転ナデ、凹線２条	回転ナデ、 回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8 以下	17c 前 ～ 3/4、 乗岡編年 近世 2b	口縁部外面下端部に重ね焼き痕有
203	SE06	井戸枠内	備前 陶器・擂鉢	-	-	-			5YR4/3 にぶい赤褐	10YR4/2 灰黄褐		砂粒：中・少	回転ナデ	回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8 以下	様相 5、 乗岡編年 近世２ｂ	口縁部外面 自然釉
204	SE06	井戸枠内	陶器・鉢	-	-	16.9	2.5Y8/2 灰白	10GY7/1 明緑灰				砂粒：中・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	底部 3/8		
205	SE06	井戸枠内	土師質土器 皿	-	-	6.6			10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/3 にぶい橙		石英・長石：細・少 赤色粒：細・少 砂粒：細・少	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	底部 2/8	様相 3	A Ⅲ
211	SE07	井戸枠内	肥前系 磁器・碗	-	-	(7.6)	N7/ 灰白	7.5Y6/2 灰オリーブ				砂粒：無	回転ヘラケズリ、 一部施釉、 削出高台、砂目積	回転ナデ、施釉、 砂目積	底部 1/8	1610-1630	
212	SE07	井戸枠内	肥前系 磁器・Ⅲ	11.2	3.6	4.4	N9/ 白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、草花文、高台裏「大明」	回転ナデ、施釉	底部 5/8	1630-1650	口縁端部口錆
213	SE07	井戸枠内	肥前系 磁器 蓋	(15.8)	3.9	-	N9/ 白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 4/8	1630-1650	釉生掛け
214	SE07	井戸枠内	肥前 陶器・碗	14.0	-	-						砂粒：細・少	施釉	施釉	口縁部 1/8	17c 後 ～ 18c 前	呉器手
215	SE07	井戸枠内	肥前 陶器・碗	-	-	-	2.5Y7/2 灰黄	7.5GY5/1 緑灰				砂粒：細・少	施釉（銅緑釉）	施釉（銅緑釉）	底部 3/8	17c 後 ～ 18c 前	呉器手
216	SE07	井戸枠内	肥前 陶器・碗	-	-	4.3	2.5Y7/3 浅黄	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、 ナデ	回転ナデ、施釉	底部 7/8		刷毛目唐津
217	SE07	井戸枠内	肥前 陶器・碗	(9.7)	-	-	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/3 淡黄				砂粒：無	回転ナデ、 施釉（貫入）、山水文	回転ナデ、 施釉（貫入）	口縁部 1/8	様相 5	京焼風陶器
218	SE07	井戸枠内	備前 陶器・鉢	37.6	-	-	10R5/6 赤	7.5R4/4 にぶい赤					施釉	施釉	口縁部 1/8		
219	SE07	井戸枠内	土師質土器 皿	8.2	1.6	5.4			5Y6/2 灰オリーブ	5Y6/2 灰オリーブ		石英・長石：中・少 赤色粒：中・並 砂粒：中・少	回転ナデ、 回転糸切り（マメツ）	回転ナデ（マメツ）	口縁部 2/8	様相 4	A Ⅲ
220	SE07	井戸枠内	土師質土器 皿	10.0	2.1	5.2			5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 3	A Ⅴ
251	SE07	掘り方	肥前・陶器 皿	(30.0)	-	-	7.5YR6/4 にぶい橙	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8 以下	様相 3 ？	刷毛目唐津
252	SE07	井戸枠 上面	肥前系 磁器・碗	-	-	4.2	N9/ 白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施 釉、一重網目 文、高台裏に銘	回転ナデ、施釉	底部 6/8	17c 後	
253	SE07	井戸枠 上面	肥前系 磁器・Ⅲ	-	-	(4.8)	5Y7/1 灰白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	底部 2/8	様相 3	釉の発色が悪い、高台畳付部に砂付着
254	SE07	井戸枠 上面	肥前 陶器・碗	3.8	-	-	N8/ 灰白	2.5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰				砂粒：細・少	施釉、ヘラ切り	施釉	底部 8/8		

第 48 表　土器観察表（9）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
255	SE07	井戸枠上面	肥前陶器・皿	(25.0)	6.1	(9.4)	10YR6/2 灰黄褐	2.5Y8/2 灰白 5Y6/4 オリーブ黄 2.5GY6/1 オリーブ灰				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、回転ヘラケズリ	回転ナデ、施釉、砂目積、ハケ目	口縁部 3/8	様相３？	高台部、1 箇所に切れ込み
256	SE07	井戸枠上面	肥前陶器・片口	(9.6)	-	-	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y4/3 オリーブ褐 N9/ 白				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉（鉄釉）、指オサエ	回転ナデ、施釉（鉄釉）	口縁部 1/8	17c 後～18c 前	鉄釉の上から白色釉
257	SE07	井戸枠上面	瓦質土器火鉢	-	-	-			5Y6/1 灰	N3/ 暗灰		石英・長石：細・並 赤色粒：中・少 雲母：細・並 砂粒：細・少	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部 1/8 以下		
262	SK01		中国磁器・碗	(11.4)	5.8	(4.6)	N9/ 白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 3/8	17c 前	景徳鎮
263	SK01		瀬戸美濃陶器・碗	10.0	7.6	5.1	5Y8/1 灰白	7.5Y7/3 浅黄				砂粒：細・少	回転ナデ、貼付け高台、施釉（灰釉）	施釉（灰釉）	口縁部 6/8	17c 1/4 ～ 30	
264	SK01		土師質土器皿	9.6	2.1	5.3			2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	口縁部 3/8	様相３	ＡⅤ、灯明皿
265	SK01		土師質土器皿	9.4	1.9	5.0			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙		砂粒：細・少	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	口縁部 2/8	様相３	ＡⅤ
266	SK01		土師質土器皿	9.9	1.8	5.5			10YR8/3 浅黄橙	10YR4/1 褐灰		砂粒：粗・少	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	口縁部 2/8	様相３	ＡⅤ、灯明皿
267	SK01		土師質土器皿	10.4	-	5.4			10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		砂粒：中・少	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	口縁部 2/8	様相３	ＡⅤ、灯明皿
268	SK01		土師質土器皿	10.9	2.0	6.0			2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	口縁部 2/8	様相３	ＡⅤ
269	SK01		土師質土器皿	11.0	2.1	6.5			2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	口縁部 7/8	様相３	ＡⅤ、灯明皿
270	SK01		土師質土器焼塩壺　蓋	6.8	1.5	5.6			5YR7/4 にぶい橙	5YR7/6 橙		砂粒：中・多	ナデ、指オサエのち板ナデ	指オサエのちナデ	口縁部 7/8		在地産
272	SK04		肥前陶器・碗	10.6	-	-	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y6/2 灰黄				砂粒：細・少	施釉（鉄絵）		口縁部 1/8	17c 初	
273	SK04		土師質土器皿	9.0	-	-			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙		砂粒：細・少	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 2/8	様相２	ＡⅣ
274	SK04		土師質土器皿	10.4	2.7	6.0			2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	口縁部 3/8	様相３	ＡⅤ、灯明皿
275	SK04		瓦質土器火鉢	-	-	16.4			7.5Y2/1 黒	7.5Y2/1 黒		砂粒：細・少	ナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ	底部 4/8		
277	SK07		中国磁器・皿	-	-	-	N8/ 灰白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8 以下	16c 後	景徳鎮
278	SK07		土師質土器焙烙	31.5	-	-			7.5YR7/3 にぶい橙	10YR4/2 灰黄褐		砂粒：粗・多	ナデ、板ナデ、指オサエ	ナデ、板ナデ	口縁部 1/8		
279	SK08		備前円盤状土製品	最大長 4.1	最大幅 4.0	最大厚 1.3	5Y5/1 灰	2.5Y5/2 暗灰黄				砂粒：中・少	回転ナデ	卸し目、マメツが著しい	-	～ 17c 3/4	擂鉢からの転用
280	SK10		肥前系磁器・小杯	6.7	3.0	2.8	N8/ 灰白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉、削出高台、砂目積	回転ナデ、施釉	口縁部 8/8	18c 前	高台部砂付着
281	SK10		肥前系磁器・碗	(10.4)			N9/ 白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、草花文	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8	18c 前	

第 49 表　土器観察表（10）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
282	SK10		肥前系磁器・碗	-	-	3.3	N8/ 灰白	N8/ 灰白				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、削出高台、	蛇の目釉剥ぎ		17c 後～ 18c 前	
283	SK10		肥前系磁器・碗	-	-	6.2	5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白				砂粒：細・少	施釉	施釉	底部 2/8	17c 後	漆継ぎ痕跡あり
284	SK10		肥前系磁器火入れ	12.0	-	-	N8/ 灰白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉	回転ナデ、回転ナデ、施釉（体部上半まで）	口縁部 1/8		
285	SK10		肥前系青磁・花生	-	-	5.2	N8/ 灰白	10GY7/1 明緑灰				砂粒：細・少	施釉	回転ナデ	底部 2/8		高台部ハナレ砂付着
286	SK10		肥前陶器・碗	(11.8)	-	-	2.5Y7/1 灰白	5Y8/2 灰白				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 2/8	17c 末～ 18c 前	刷毛目唐津肥前（長崎）現川窯製品か
287	SK10		備前・陶器大平鉢	-	-	-	N7/ 灰白	7.5Y3/2 オリーブ黒				砂粒：細・少	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8 以下	様相 1	
288	SK10		備前陶器・擂鉢	(31.8)	-	-			2.5YR5/6 明赤褐	10YR4/4 褐		砂粒：中・少	ヘラケズリのち回転ナデ、凹線 (2 条)	回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8	18c 前 乗岡編年近世 3 期	
289	SK10		土師質土器皿	7.2	1.5	4.4			10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙		砂粒：細・少	回転ナデ、剥離、静止糸切り	回転ナデ	口縁部 4/8	様相 1	A Ⅱ
290	SK10		土師質土器皿	12.0	-	8.2			7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙		砂粒：中・多	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ、ナデ	口縁部 2/8	様相 5	A Ⅹ
291	SK10		土師質土器皿	-	-	9.3			10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙		砂粒：細・少	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ、ナデ	底部 4/8	様相 5	A Ⅹ
292	SK10		土師質土器焙烙	32.8	-	-			N5/ 灰	7.5Y4/1 灰		砂粒：中・少	ナデ、指オサエ	ナデ	口縁部 1/8	様相 5 か？	外面スス付着
293	SK10		土師質土器焙烙	45.3	10.6	8.3			7.5YR4/1 褐灰	5Y3/1 オリーブ黒		砂粒：中・多	指オサエ、タタキ目、ハケ目	ハケ目	口縁部 2/8	様相 5 か？	
294	SK10		土師質土器七輪の風口	最大長 19.3	最大幅 12.0	厚さ 1.0			10YR7/3 にぶい黄橙 5Y6/1 灰	2.5Y7/2 灰黄		砂粒：細・少	板ナデ	板ナデ	6/8		
299	SK10-SD09	土層観察用畦	肥前系磁器・碗	9.8	5.5	3.9	N9/ 白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉、唐草文砂目積	回転ナデ、施釉	口縁部 8/8	18c 前	外面の文線は 3 単位
300	SK10-SD09	土層観察用畦	肥前系磁器・碗	(9.9)	5.3	4.2	N9/ 白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉、高台裏「渦福」	回転ナデ、施釉	口縁部 5/8	17c 末～ 18c 初	
301	SK10-SD09	土層観察用畦	備前陶器・擂鉢	(29.8)					2.5YR4/4 にぶい赤褐	2.5YR5/6 明赤褐		砂粒：細・多	回転ナデ、凹線 (2 条)	回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8 以下	17c 3/4 ～ 18c 初	口縁部外面塗土
302	SK10-SD09	土層観察用畦	人形 (僧形)	-	-	-			2.5Y8/1 灰白	10YR7/6 明黄褐					7/8		透明釉に緑釉をかける
304	SK11		須恵器高杯	-	-	7.8			N7/ 灰白	N7/ 灰白		砂粒：中・多	回転ナデ	回転ナデ	底部 8/8		
305	SK11		中国・青磁碗	(10.7)	-	-	7.5Y8/1 灰白	5Y6/3 オリーブ黄				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、貫入、連弁	回転ナデ、施釉、貫入	口縁部 1/8 以下	16c 前～中	龍泉窯
306	SK11		肥前陶器・碗	-	-	3.8	N7/ 灰白	7.5YR4/4 褐				砂粒：細・少	施釉 (鉄釉)	施釉 (鉄釉)	底部 2/8	17c 末	
307	SK11		肥前陶器・皿	13.4	-	-	10YR7/3 にぶい黄橙	5Y7/2 灰白				砂粒：細・少	施釉 (灰釉)、回転ナデ	施釉 (灰釉)	口縁部 1/8	17c 2/4	

第 50 表　土器観察表（11）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
308	SK11		肥前 陶器・鉢	-	-	4.9	10R5/6 赤	5Y6/2 灰オリーブ 5Y8/1 灰白				砂粒：細・少	回転ナデ、 ヘラケズリ、 削出高台、灰釉	回転ナデ	底部 7/8	17c 2/4	高台部 3 か所に切れ込み
309	SK11		備前 陶器・擂鉢	-	-	-			7.5YR5/2 灰褐	7.5YR3/2 黒褐		砂粒：中・少	回転ナデ、 凹線 (2 条)、 自然釉、刻み目	回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8 以下	17c 前 ～ 3/4、 近世 2b	
325	SK12	下層	中国 磁器・小杯	-	-	(2.6)	N9/ 白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉、 削出高台	回転ナデ、施釉	底部 6/8	17c 前	景徳鎮
326	SK12	下層	肥前系 磁器・皿	(14.0)			N9/ 白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8	1680-1700	口縁端部口銹
327	SK12	下層	肥前 陶器・碗	-	-	(3.8)	10YR7/4 にぶい黄橙	5Y6/2 灰オリーブ				砂粒：細・少	回転ヘラケズリ、 削出高台	回転ナデ、施釉、 砂目積	底部 2/8	1610-1650	
328	SK12	下層	肥前 陶器・碗	-	-	(4.8)	2.5Y8/2 灰白	5YR8/2 灰白				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	底部 1/8	17c 後 ～ 18c 前	呉器手
329	SK12	下層	肥前 陶器・皿	(14.3)	4.2	4.1	7.5YR5/4 にぶい褐	5Y5/2 灰オリーブ				砂粒：無	回転ナデのち施釉、 削出高台のち施釉、 無釉	回転ナデ、施釉、 砂目積	口縁部 7/8	1610-1650	段皿
330	SK12	下層	肥前 陶器・皿	-	-	5.6	5Y7/1 灰白	透明				砂粒：粗・多	回転ナデ、 削出高台、施釉	回転ナデ、施釉、 砂目積	底部 7/8	1610-1650	
331	SK12	下層	肥前 陶器・皿	-	-	(4.0)	5Y7/1 灰白	7.5Y5/2 灰オリーブ				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、 砂目積、削出高台	回転ナデ、施釉、 砂目積	底部 2/8	1610-1650	
332	SK12	下層	肥前 陶器・皿	-	-	(4.6)	2.5Y7/2 灰黄	7.5Y6/1 灰				砂粒：細・少	削出高台	回転ナデのち施釉、 砂目積	底部 3/8	様相 2 ～ 3	
333	SK12	下層	肥前・陶器 円盤状 土製品	最大 長 5.4	最大 幅 5.4	最大 厚 1.8	10YR7/3 にぶい黄橙	N9/ 白				砂粒：無	回転ナデ、施釉、 砂目積	回転ナデ、施釉	底部 8/8	1610-1650	碗からの転用
334	SK12	下層	肥前・陶器 円盤状 土製品	最大 長 5.1	最大 幅 5.1	最大 厚 2.1	10YR8/4 浅黄橙	2.5Y7/2 灰黄				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、 削出高台	回転ナデ、施釉	底部 8/8	～様相 3	碗からの転用
341	SK12	上層	中国 磁器・小杯	(6.2)	3.8	2.3	N9/ 白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、 削出高台	回転ナデ、施釉	口縁部 3/8	17c 前	高台内無釉 景徳鎮
342	SK12	上層	中国 磁器・碗	(14.6)	5.1	(7.0)	N8/ 灰白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、 削出高台、花弁 文、高台内無釉	回転ナデ、施釉	口縁部 4/8	17c 前	景徳鎮
343	SK12	上層	肥前系 磁器・碗	-	-	(4.2)	N8/ 灰白	10BG7/1 明青灰				砂粒：無	回転ナデ、 施釉 (貫入)、 削出高台、施 釉、6-7 条 1 組の鎬 +「寿」 か？	回転ナデ、 施釉 (貫入)	底部 5/8	1610-1630	高台畳付部に砂付着
344	SK12	上層	肥前系 磁器・碗	(11.6)	-	-	N9/ 白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、削 出高台、施釉、唐 草文様は 2 単位	回転ナデ、施釉	口縁部 6/8		口縁部ゆがみあり
345	SK12	上層	肥前系 磁器・皿	-	-	(9.8)	N9/ 白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、 削出高台、花弁文	回転ナデ、施釉	底部 2/8	1630-1650	
346	SK12	上層	肥前 陶器・皿	(13.0)	3.8	(4.4)	7.5YR6/4 にぶい橙	透明				砂粒：中・少	回転ナデ、施釉、 削出高台、砂目積	回転ナデ、施釉、 砂目積	口縁部 2/8	1610-1650	
347	SK12	上層	肥前 陶器・皿	-	-	6.4	5Y7/2 灰白	5Y8/2 灰白				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、 回転ヘラケズリ、 削出高台、砂目積	回転ナデ、施釉、 砂目積	底部 8/8	1610-1650	高台部 1 ヶ所切り込み
348	SK12	上層	京焼 陶器・蓋	(6.4)	-	-	2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/2 灰白				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ	1/8	17c 後	349 とセット

第 51 表　土器観察表（12）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
349	SK12	上層	京焼 陶器・茶瓶	(7.3)	-	-	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/1 灰白				砂粒：無	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	2/8	17c 後	348 とセット
350	SK12	上層	備前 陶器・擂鉢	(30.6)	-	-			10YR5/2 灰黄褐	5YR5/4 にぶい赤褐		砂粒：中・多	回転ナデ、 凹線 (2 条)	回転ナデ、卸し目	口縁部 2/8	1650-1670 近世 2b	口縁端部外面に溶着痕あり
351	SK12	上層	陶器・不明			(16.9)	5Y7/2 灰白	透明				砂粒：無		回転ナデ	8/1 以下	19 c 代	上の破片と下の破片の位置関係は注意、理兵衛焼きか？
352	SK12	上層	土錘	最大長 10.4	最大幅 8.6	最大厚 4.4				5YR7/6 橙		砂粒：中・少	ナデ、指オサエ、 穿孔 4 ヶ所		8/8		有溝円孔
360	SK12	層位不明	弥生・高坏	-	-	12.8			7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐		石英・長石：粗・並 赤色粒：中・並 角閃石：中・並	ナデ	ヘラ削り	脚部 1/8		
361	SK12	層位不明	肥前系 磁器・碗	(12.2)	7.9	(6.0)	N9/ 白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、雷文、 6 条 1 細の縞、 「壽福」	回転ナデ、施釉、 砂目積	口縁部 1/8	1610-1630	高台畳付部に砂付着、
362	SK12	層位不明	肥前系 磁器・碗	-	-	4.3	2.5Y7/2 灰黄	7.5Y7/1 灰白				砂粒：細・少	施釉	施釉	底部 5/8	1630-1650	焼成不良
363	SK12	層位不明	肥前系 白磁・碗	-	-	2.9	5Y8/1 灰白	10Y8/1 灰白				砂粒：細・少	施釉	施釉	底部 8/8	1630-1650	
364	SK12	層位不明	肥前系 磁器・皿	13.6	3.5	4.2	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白				砂粒：細・少	施釉	施釉、砂目積	口縁部 5/8	17c 前	
365	SK12	層位不明	肥前系 磁器・皿	12.5	3.6	4.5	N8/ 灰白	7.5Y8/1 灰白				砂粒：無	施釉	施釉、 蛇の目釉剥ぎ	口縁部 4/8	17c 前 か？	
366	SK12	層位不明	肥前 陶器・碗	-	-	4.3	2.5Y5/1 黄灰	5GY6/1 オリーブ灰				砂粒：中・少	施釉 (灰釉)	施釉 (灰釉)	底部 5/8	17c 1/4	
367	SK12	層位不明	肥前 陶器・碗	-	-	3.7	N7/ 灰白	2.5GY6/1 オリーブ灰				砂粒：細・少	施釉 (灰釉)、 回転ナデ、削出高台	施釉 (灰釉)	底部 7/8	17c 1/4	
368	SK12	層位不明	肥前 陶器・碗	-	-	3.8	7.5Y6/1 灰	7.5Y5/2 灰オリーブ				砂粒：中・少	施釉、回転ナデ	施釉	底部 4/8	17c 1/4	
369	SK12	層位不明	肥前 陶器・碗	10.6	7.7	3.2			2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白		砂粒：細・少	施釉、回転ナデ、 削出高台、糸切り痕	施釉	口縁部 3/8	17c 中	天目碗、 肥前内野山窯
370	SK12	層位不明	肥前 陶器・碗	-	-	(4.4)	5YR6/6 橙	7.5Y8/1 灰白				砂粒：無	回転ヘラケズリ、 施釉、削出高台、 砂目積	回転ナデ、施釉、 砂目積	底部 4/8	1610-1650	
371	SK12	層位不明	京焼 陶器・碗	-	-	4.2	5Y7/2 灰白	2.5Y8/1 灰白				砂粒：無	施釉、回転ナデ	施釉	底部 4/8	17c 後	
372	SK12	層位不明	肥前 陶器・皿	-	-	4.9	2.5Y7/1 灰白	透明				砂粒：中・少	回転ナデ、 削出高台、施釉、 回転糸切り	回転ナデ、施釉、 砂目積	底部 5/8	1610-1650	
373	SK12	層位不明	肥前 陶器・皿	-	-	(4.6)	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/2 灰白				砂粒：細・少	回転ナデ、削出高台	回転ナデ、施釉、 砂目積	底部 4/8	1610-1650	
374	SK12	層位不明	肥前 陶器・皿	12.6	-	-	N7/ 灰白	10Y6/2 オリーブ灰				砂粒：粗・少	施釉、回転ナデ、 削出高台	施釉 (灰釉)、	口縁部 3/8	様相 3	高台内墨書
375	SK12	層位不明	肥前 陶器・皿	14.0	-	-	N7/ 灰白	7.5Y6/2 灰オリーブ				砂粒：細・少	施釉 (灰釉)、 回転ナデ	施釉 (灰釉)	口縁部 2/8	様相 3	
376	SK12	層位不明	肥前 陶器・皿	13.0	-	-	7.5Y7/1 灰白	7.5Y6/2 灰オリーブ				砂粒：細・少	施釉	施釉	口縁部 1/8	様相 3	

第 52 表　土器観察表（13）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
377	SK12	層位不明	肥前 陶器・皿	20.8	-	-	7.5Y7/1 灰白	5Y6/3 オリーブ黄				砂粒：無	施釉、回転ナデ	施釉、 蛇の目釉剥ぎ		18c 代	
378	SK12	層位不明	肥前 陶器・皿	-	-	9.0	5Y8/2 灰白	外）7.5Y6/2 灰オリーブ 内） 2.5YR4/1 赤灰				砂粒：細・少	施釉（灰釉）、 回転ナデ	施釉（鉄釉）	底部 4/8	18c 代	
379	SK12	層位不明	備前 陶器・擂鉢	(27.0)	-	-			7.5YR8/1 灰白	7.5YR5/3 にぶい褐		砂粒：細・少	回転ナデ	回転ナデ、卸し目	口縁 部 1/8 以下	17c 前 ～ 3/4、 乗岡編年 近世 2a	
380	SK12	層位不明	備前 陶器・建水	15.4	-	-	N5/ 灰	10R4/1 暗赤灰				砂粒：粗・多	施釉	施釉	口縁部 1/8	17c 中	
381	SK12	層位不明	土師質土器 皿	8.2	1.1	6.1			2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白		砂粒：中・少	回転ナデ、 糸切りか？ （マメツにより不明）	回転ナデ	口縁部 5/8	様相 3	A V、 灯明皿
382	SK12	層位不明	土師質土器 皿	8.6	-	-			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐		砂粒：細・少	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 3	A V、 灯明皿
383	SK12	層位不明	土師質土器 皿	9.0	-	-			7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙		砂粒：細・少	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 4	A VI
384	SK12	層位不明	土師質土器 皿	6.9	-	-			5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	底部 2/8	様相 3	A X
385	SK12	層位不明	土師質土器 鍋	32.0	-	-			5Y2/1 黒	7.5YR7/3 にぶい橙		砂粒：粗・多	ナデ、指オサエ	ナデ、板ナデ、 指オサエ	口縁部 1/8	様相 3	外面スス付着
386	SK12	層位不明	土師質土器 鍋	29.2	-	-			2.5Y2/1 黒	2.5Y7/2 灰黄		砂粒：中・多	ナデ、指オサエ のちナデ	ナデ	口縁部 1/8	様相 3	外面スス付着
387	SK12	層位不明	焼塩壺	6.0	-	-			5YR7/6 橙	2.5YR6/6 橙		石英・長石：中・多 雲母：細・少	ナデ、指オサエ、 マメツ	ナデ、指オサエ	口縁部 4/8		在地産
388	SK12	層位不明	土師質土器 鉢	13.0	-	-			7.5Y2/1 黒	10YR7/3 にぶい黄橙		砂粒：粗・多	ナデ、指オサエ、 板ナデ	ハケ目、指オサエ、 ナデ	口縁部 1/8		外面スス付着
389	SK12	層位不明	土錘	最大 長 10.5	最大 幅 8.3	最大 厚 4.4				7.5YR7/4 にぶい橙		石英・長石：粗・並 赤色粒：中・並 砂粒：中・少	ナデ、指オサエ、 穿孔 4 ヶ所		8/8		有溝円孔
390	SK12	層位不明	土錘	最大 長 10.5	最大 幅 8.4	最大 厚 4.9				7.5YR7/6 橙		砂粒：中・少	指オサエ、指ナデ、 穿孔 4 ヶ所		8/8		有溝円孔
393	SK14		備前 陶器・擂鉢	27.8	-	-			10R3/1 暗赤灰	10R4/2 灰赤		砂粒：細・少	回転ナデ	回転ナデ、卸し目、 回転ナデ	口縁 部 1/8 以下	16c 2/4 ～ 17c 初、 乗岡編年 近世 1a	
394	SK15		人形	-	-	-			10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙		砂粒：細・少			7/8		西行人形
400	SK16		土師質土器 杯	8.6	4.1	4.4						砂粒：細・少	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 1 ～ 2	
401	SK16		土師質土器 皿	10.6	-	-			7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙		砂粒：細・少	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 5	A V
402	SK18		肥前系 磁器・碗	(10.7)			N9/ 白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、 貫入、柳文	回転ナデ、施釉、 貫入	口縁部 5/8		

第 53 表　土器観察表（14）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
403	SK18		陶器・蓋	9.2	3.1	つまみ部 1.3	2.5Y5/6 黄褐	7.5Y5/2 灰オリーブ				砂粒：細・少	施釉、回転ナデ、回転糸切り		口縁部 3/8		
404	SK18		紡錘車	最大長 7.5	最大幅 7.2	最大厚 1.6			5Y8/1 灰白	5Y5/1 灰		砂粒：細・少	マメツ	マメツ	8/8		瓦転用
408	SK20		陶器 器種不明	10.7	-	-			7.5R4/1 暗赤灰	5YR4/2 灰褐		砂粒：粗・多	ナデ、くし描き沈線	ナデ、板ナデ			
410	SK21		土師質土器 皿	8.6	-	4.3			7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙		砂粒：細・少	回転ナデ、静止糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 2	A Ⅱ
411	SK21		土師質土器 皿	8.4	-	-			10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白			回転ナデ	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 4	A Ⅵ
412	SK21		土師質土器 擂鉢	19.8	-	-			7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/6 明黄褐		砂粒：粗・多	ナデ、指オサエのちハケ目	ナデ、ハケ目、卸し目	口縁部 2/8	様相 2 ～ 3	片口部一部残る
413	SK21		土師質土器 擂鉢	(24.0)	-	-			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙		砂粒：細・少	ナデ、指オサエ、ナデ	ナデ、ハケ目、卸し目	口縁部 1/8 以下	様相 3	
414	SK21		土師質土器 鉢	22.2	18.9	12.6			10YR8/4 浅黄橙			雲母：細・並 砂粒：粗・多	ナデ、指オサエのち板ナデ	ハケ目、ナデ	口縁部 4/8		
415	SK23		弥生 製塩土器	-	-	3.4	2.5YR4/4 にぶい赤褐		2.5YR4/6 赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐		2mm 程度の長石、石英粒やや多い	指オサエ、ナデ、剥離	板ナデ	底部 6/8		
416	SK23		須恵器・蓋	14.6	-	-	N8/ 灰白		N8/ 灰白	N8/ 灰白		1mm 程度の長石、石英粒、0.1mm 程度の黒粒含む	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8		
417	SK23		中国 磁器・小杯	6.4	3.5	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	すごく堅緻	回転ナデのち施釉、梅花文	回転ナデのち施釉	底部 4/8	17c 前	景徳鎮
418	SK23		肥前系 磁器・小杯	6.0	3.6	-	N8/ 灰白	透明釉			10BG3/1 暗青灰	堅緻	梅花文		ほぼ完存		
419	SK23		肥前系 磁器・小杯	(6.1)	-	-	5Y8/1 灰白	5GY8/1 灰白				砂粒：無	回転ナデ、施釉、梅花文	回転ナデ、施釉	口縁部 3/8		
420	SK23		肥前系 磁器・小杯	5.7	3.9	-	N8/ 灰白	透明釉				堅緻	縞をめぐらせる、高台内無釉		口縁部 2/8	1630-1650	
421	SK23		中国 磁器・碗	10.3	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	堅緻	草花文		口縁部 1/8	17c 前	景徳鎮
422	SK23		肥前系 磁器・碗	10.0	-	-	N8/ 灰白	2.5GY8/1 灰白、5YR8/1 灰白			7.5GY5/1 緑灰	堅緻			口縁部 3/8	1630-1650	
423	SK23		肥前系 磁器・碗	11.0	-	-	N8/ 灰白	10GY8/1 明緑灰			呉須	堅緻			口縁部 1/8	1630-1650	
424	SK23		肥前系 青磁・碗	10.8	-	-	N8/ 灰白		10GY6/1 緑灰、5Y6/2 灰オリーブ	10GY6/1 緑灰、10Y8/1 灰白		堅緻		口縁端部から下部は透明釉のみ	口縁部 1/8	1630-1650	
425	SK23		肥前系 磁器・碗	(9.9)			N7/ 灰白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8	1630-1650	筒型碗
426	SK23		肥前系 磁器・碗	10.6	5.9	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	堅緻	梅花文、高台内「大明」	見込に花文	口縁部 4/8	1640-1650	
427	SK23		肥前系 磁器・碗	-	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	堅緻	見込に草花文、高台内「製」	花唐草文	底部 4/8	17c 後	

第 54 表　土器観察表（15）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
428	SK23		肥前系 磁器・碗	-	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	堅緻	高台内「大朋 成化手製」	花唐草文	底部 5/8	17c 後	
429	SK23		肥前系 磁器・碗	-	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	堅緻	草花文	草花文	底部 4/8	17c 後	轆轤成型後 型打ち成型
430	SK23		肥前系 磁器・碗	9.8	-	-	7.5Y8/1 灰白	透明釉			呉須	細かい砂粒含む	貫入あり	貫入あり	口縁部 1/8 以下		内外面ともに 貫入著しい、 焼成不良
431	SK23		肥前系 磁器・碗	12.0	-	-	2.5Y8/1 灰白		2.5Y7/6 明黄褐、 5YR3/2 暗赤褐	2.5Y7/6 明黄褐、 5YR3/2 暗赤褐		堅緻	沈線二条、鉄釉	鉄釉	口縁部 1/8 以下	17c 後	
432	SK23		中国 磁器・皿	12.8	3.0	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	堅緻	高台内「」		底部 2/8	17c 前	口縁部輪花 景徳鎮
433	SK23		肥前系 磁器・皿	12.9	2.5	-	10YR8/1 灰白	10YR7/1 灰白			2.5Y4/1 黄灰	堅緻	高台畳付部砂付着	草花文？	口縁部 2/8	1630-1650	
434	SK23		肥前系 磁器・皿	13.0	3.4	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	堅緻	高台畳付部砂付着	ハリ支え痕１ヶ所	底部 3/8	1630-1650	
435	SK23		肥前系 磁器・皿	-	-	-	N8/ 灰白	透明釉			7.5GY2/1 緑黒	堅緻	高台畳付部砂付着		底部 完存	1630-1650	
436	SK23		肥前系 磁器・皿	-	-	-	N7/ 灰白	7.5Y6/1 灰			5BG3/1 暗青灰	ほとんど砂粒 を含まない	高台畳付部砂付着		底部 6/8	1630-1650	
437	SK23		肥前系 磁器・皿	-	-	-	N7/ 灰白、 N6/ 灰		N8/ 灰白	10G7/1 明緑灰	10G4/1 暗緑灰	ほとんど砂粒 を含まない			底部 1/8	1630-1650	
438	SK23		肥前系 磁器・皿	-	-	8.4	N8/ 灰白	透明釉			呉須		草花文、高台裏 「大明成化年製」		底部 1/8	17c 後	高台部ひび割 れ著しい
439	SK23		肥前系 磁器・皿	15.0	-	-	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/1 灰白			7.5GY3/1 暗緑灰	堅緻			口縁部 1/8	1630-1650	
440	SK23		肥前系 磁器・皿	-	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須			草花文	底部 4/8	1630-1650	
441	SK23		肥前系 磁器・皿	-	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	堅緻		草花文	底部 完存	1630-1650	轆轤成型後 型打ち成型
442	SK23		肥前系 磁器・皿	-	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	堅緻		花文	底部 2/8	1630-1650	轆轤成型後 型打ち成型
443	SK23		肥前系 青磁・皿	22.8	-	-	N8/ 灰白	5G7/1 明緑灰				堅緻		芭蕉文、片彫り	口縁部 2/8	1630-1650	
444	SK23		肥前系 磁器・花生	-	-	4.7	N8/ 灰白		2.5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰	2.5Y7/1 灰白	10BG4/1 暗青灰	堅緻	草花文	無釉	底部 3/8		
445	SK23		肥前系 磁器・香炉	最大 長 2.9	最大 幅 4.0		7.5Y7/1 灰白	7.5Y6/2 灰オリーブ				砂粒・無	施釉	施釉	獣脚 1 脚		
446	SK23		瀬戸美濃 陶器・碗	-	-	-	5Y8/1 灰白		2.5Y7/2 灰黄	5Y6/3 オリーブ黄		細かい砂粒含む	残存部は無釉	灰釉	底部 ほぼ 完存	17c	
447	SK23		肥前 陶器・碗	12.9	-	-	5YR8/1 灰白		5YR2/1 黒褐	5YR2/1 黒褐		ほとんど砂粒 を含まない			口縁部 1/8	17c 前後	
448	SK23		肥前 陶器・碗	-	-	-	5YR6/3 にぶい橙		5YR6/6 橙	2.5GY6/1 オリーブ灰		細かい砂粒含む	残存部は無釉	緑灰色釉	底部 5/8	17c 前後	
449	SK23		瀬戸美濃 陶器・碗	-	-	-	7.5Y7/1 灰白		7.5YR6/4 にぶい橙	N6/ 灰 N2/ 黒		砂粒少し含む	回転ナデのち施釉、 残存部は無釉	鉄釉	底部 完存	17c 中	天目碗
450	SK23		肥前 陶器・碗	10.2	-	-	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/3 浅黄				ほとんど砂粒 を含まない	貫入あり		口縁部 1/8	～ 1650	肥前内野山窯

第 55 表　土器観察表（16）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
451	SK23		瀬戸美濃 陶器・小皿	12.0	-	-	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/4 浅黄				細かい砂粒 少し含む	体部下半まで施釉	砂目積	口縁部 1/8	16c 後	
452	SK23		肥前 陶器・皿	-	-	-	7.5Y7/1 灰白		7.5Y6/1 灰 2.5Y7/2 灰黄	7.5Y6/1 灰		砂粒をほとん ど含まない	施釉	砂目積	底部 完存	1630-1650	割れ口が著しく磨滅
453	SK23		肥前 陶器・碗	-	-	-	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰 5Y5/3 灰オリーブ				細かい砂粒含む	回転ナデのち施釉、 砂目積	回転ナデのち施釉、 砂目積	底部 2/8	1630-1650	
454	SK23		肥前 陶器・皿	17.7	-	-	7.5YR5/1 褐灰		7.5YR4/2 灰褐、 2.5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐		0.1mm 程度の 砂粒含む			口縁部 1/8 以下		口縁端部にわずかにスス付着
455	SK23		肥前 陶器・皿	13.2	3.8	-	5Y7/1 灰白		5Y7/1 灰 白、5Y6/2 灰オリーブ	5Y6/2 灰オリーブ	5Y2/2 オリーブ黒	砂粒をほとん ど含まない	体部下半まで施釉、 高台部に砂付着	砂目積、鉄絵	底部 完存	1630-1650	
456	SK23		肥前 陶器・鉢	-	-	-	2.5YR5/4 にぶい赤褐		5YR5/2 灰褐	7.5Y8/2 灰白 2.5YR6/1 赤灰		0.1 ～ 1mm 程 度の砂粒含む	残存部は無釉	白泥による刷毛目、 砂目積	底部 2/8		
457	SK23		肥前 陶器・鉢	32.0	-	-	5Y7/1 灰白		7.5Y5/3 灰オリーブ 2.5Y3/1 黒褐	2.5Y8/1 灰白 5Y5/2 灰オリーブ		1mm 程度の長 石、石英粒含む		口縁部内面に白泥 による波状刷毛目	口縁部 1/8 以下		
458	SK23		産地不明 陶器 ・大皿か鉢	-	-	-	10YR8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白			10R4/4 赤褐		貫入多い	貫入多い	口縁部 1/8 以下		
459	SK23		備前 陶器・急須	(5.0)			2.5YR5/3 にぶい赤褐	透明				砂粒 : 無	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	3/8		
460	SK23		肥前 陶器・擂鉢	30.8	-	-	2.5YR4/2 灰赤		2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐		1mm 程度の長石、 石英粒含む	回転ナデ、自然釉	回転ナデ、自然釉、 卸し目	口縁部 4/8	1630-1650	
461	SK23		備前 陶器・擂鉢	30.8	-	-	10YR5/1 褐灰		5YR6/4 にぶい橙 5YR5/6 明赤褐 5YR5/8 明赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐 2.5YR5/8 明赤褐		1mm 程度の長石、 石英粒含む	回転ナデ、口縁部下 端に重ね焼き痕	回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8 以下	乗岡編年 近世 2b	
462	SK23		備前 陶器・擂鉢	35.6	-	-	10YR5/1 褐灰		2.5YR4/3 にぶい赤褐 2.5YR5/8 明赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐 2.5YR5/8 明赤褐		1 ～ 2mm 程度 の長石、石英 粒、黒色粒含む	回転ナデ、口縁部下 端に重ね焼き痕	回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8 以下	乗岡編年 近世 2b	
463	SK23		備前 陶器・擂鉢	-	-	12.0	N4/ 灰		2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐		1mm 程度の長石、 石英粒含む	回転ナデ、指オサエ	卸し目	底部 2/8	乗岡編年 近世 2b	使用による磨滅が著しい
464	SK23		信楽・陶器 ・灰落し	19.9	-	-	N8/ 灰白		7.5YR4/3 褐 7.5YR4/4 褐	10YR6/4 にぶい黄橙		1mm 程度の長石、 石英粒少し含む		無釉	口縁部 1/8	17c 後	
465	SK23		肥前・陶器 ・火入れ	17.0	-	-	2.5YR6/1 赤灰		2.5YR2/2 極暗赤褐、 2.5YR4/6 赤褐	2.5YR1.7/1 赤黒 2.5YR5/3 にぶい赤褐 10YR5/3 にぶい黄褐		0.1mm 程度の 砂粒少し含む	回転ナデち波状文	回転ナデ	口縁部 2/8	1650-1690	

第 56 表　土器観察表（17）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
466	SK23		土師質土器 皿	6.8	1.4	4.3	2.5Y7/2 灰黄		2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄		細かい砂粒、 赤色粒子少し	回転ナデ、糸切り のちナデ	回転ナデ	底部 ほぼ 完存		
467	SK23		土師質土器 皿	9.4	1.95	6.0	2.5Y6/2 灰黄		2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄		細かい砂粒、 赤色粒子	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 2	A Ⅳ
468	SK23		土師質土器 皿	10.3	2.4	6.9	2.5Y6/2 灰黄		2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄		1mm 程度の砂粒、 赤色粒子	剥離	剥離	口縁部 1/8	様相 2	A Ⅳ
469	SK23		土師質土器 皿	-	-	7.0	2.5Y8/1 灰白		2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白		細かい砂粒含む	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	底部 2/8	様相 3	A Ⅴ
470	SK23		土師質土器 皿	-	-	7.6	2.5Y7/2 灰黄		2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y2/1 黒		細かい砂粒、 赤色粒子含む	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	底部 2/8	様相 3	A Ⅴ 底部にスス付着
471	SK23		土師質土器 皿	9.9	2.2	4.8	2.5Y2/1 黒		2.5Y7/2 灰黄、 2.5Y5/1 黄灰	2.5Y7/2 灰黄		1mm 程度の長石、 石英粒少し含む	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 4	A Ⅵ 外面下半に多量のスス付着、灯明皿
472	SK23		土師質土器 皿	10.0	-	5.5	7.5YR8/2 灰白		7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙		細かい砂粒、 赤色粒子含む	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 3	A Ⅴ
473	SK23		土師質土器 皿	12.0	2.2	7.7	2.5Y5/1 黄灰		2.5Y7/1 灰白 2.5Y5/2 暗灰黄 2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y3/1 黒褐		細かい砂粒含む	回転ナデ、 回転糸切り のち板状圧痕	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 4	A Ⅴ、 内面全面に多量にスス付着 外面体部にスス付着、 灯明皿
474	SK23		土師質土器 皿	12.0	2.2	7.8	7.5Y6/1 灰		2.5Y8/1 灰白 2.5Y4/1 黄灰	2.5Y8/1 灰白 2.5Y2/1 黒		1mm 程度の 砂粒含む	回転ナデ、 回転糸切り のち板状圧痕	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 5	A Ⅴ、底部 内面～体部下半に大量のスス付着、底部外面スス付着、灯明皿
475	SK23		土師質土器 皿	12.0	1.5	7.0	10YR8/4 浅黄橙		10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙		1 ～ 2mm 程度の 長石、石英粒、 赤色粒子あり	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8 以下	様相 5	A Ⅴ
476	SK23		土師質土器 皿	12.6	-	-	2.5Y8/1 灰白		2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白		1mm 程度の長石、 石英粒含む	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 4-5	A Ⅴ
477	SK23		土師質土器 皿	12.2	2.45	6.4	2.5Y8/1 灰白		10YR8/1 灰白、 10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y8/1 灰白		砂粒をほとん ど含まない	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	底部 1/8	様相 3	A Ⅹ
478	SK23		土師質土器 皿	14.0	-	-	10YR7/2 にぶい黄橙		10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙		細かい砂粒、 赤色粒子少し	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 4	A Ⅹ
479	SK23		土師質土器 皿	14.0	-	-	2.5Y7/1 灰白		5Y7/1 灰白	10YR6/1 褐灰 10YR4/1 褐灰 10YR7/1 灰白		細かい砂粒含む	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 4-5	A Ⅹ、 内面に大量のスス付着 灯明皿
480	SK23		土師質土器 皿	13.9	-	-	7.5Y6/1 灰		7.5Y7/1 灰白	7.5Y5/1 灰		砂粒をほとん ど含まない	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 1/8		口縁部にスス付着、灯明皿
481	SK23		土師質土器 皿	-	-	9.0	2.5Y8/1 灰白		5YR7/6 橙 2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/1 灰白		砂粒をほとん ど含まない	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	底部 1/8	様相 4-5	A Ⅹ

第 57 表　土器観察表（18）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
482	SK23		土師質土器 焼塩壺	5.8	9.45	5.0	5YR8/1 灰白		10YR7/6 明黄褐 5YR7/6 橙 5YR6/6 橙	5YR7/4 にぶい橙		1 ～ 3mm 程度の 長石、石英粒含む	指オサエ、板ナデ、 ナデ	ヨコナデ、シボリ目、 ナデ	ほぼ 完存		在地産
483	SK23		土師質土器 焼塩壺	5.8	-	-	5YR7/2 明褐灰		7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙		1 ～ 3mm 程度の 長石、石英粒、 赤色粒子多く含む	指オサエ、マメツ	シボリ目、板ナデ、 マメツ	口縁部 3/8		在地産
484	SK23		土師質土器 焼塩壺　蓋	6.8	1.6	5.8	5YR8/2 灰白		5YR6/6 橙	2.5YR7/4 淡赤橙		1 ～ 3mm 程度の長 石、石英粒やや多い	ナデ	ナデ、板ナデ	底部 1/8		在地産
485	SK23		土師質土器 焼塩壺　蓋	6.8	-	5.6	2.5Y7/1 灰白		2.5YR6/6 橙	2.5YR6/4 にぶい橙		1 ～ 2mm 程度の 長石、石英粒多い	ナデ	ナデ	口縁部 1/8		在地産
486	SK23		土師質土器 焙烙	37.6	-	-	2.5Y8/2 灰白		10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y8/2 灰白		1mm 程度の長 石、石英粒含む	ナデ、指オサエ	ヨコナデ、指オサエ	口縁部 1/8 以下	様相 9	外型成形
487	SK23		土師質土器 火鉢	44.8	-	-	2.5Y7/4 浅黄		2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/2 灰黄		1mm 程度の長 石、石英粒、赤 色粒子やや多い	ナデ、指オサエ のちナデ、 体部に刻印	ナデ、ハケ目 のち指オサエ	口縁部 2/8		
488	SK23		瓦質土器 焙烙	41.1	-	-	5Y5/1 灰		5Y3/1 オリーブ黒	5Y5/1 灰		0.1 ～ 1mm 程度の 長石、石英粒やや多 い、赤色粒子含む	ナデ、ヘラミガキ、 指ナデ、指オサエ、 板ナデ	ナデ、ハケ目、 板ナデ	口縁部 3/8	様相 6	内耳残存
489	SK23		瓦質土器 焙烙	29.6	-	-	2.5Y3/1 黒褐		2.5Y3/1 黒褐	2.5Y3/1 黒褐			ヨコナデ、指オサエ のち板ナデ	ヨコナデ、ハケ目	口縁部 1/8 以下	様相 4	
490	SK23		瓦質土器 火鉢	35.8	-	-	N6/ 灰		N3/ 暗灰	N4/ 灰		1mm 程度の砂 粒、雲母含む	回転ナデ、 ヘラミガキ	回転ナデ、板ナデ	口縁部 1/8 以下		
575	SK23 SE02 上面		肥前系 磁器・小杯	(5.2)	3.6	(2.0)	N9/ 白	透明				砂粒 : 無	回転ナデ、 削出高台、施釉、 鎬 7 本 / 単位、 高台無釉	回転ナデ、施釉	口縁部 3/8	1630-1650	
576	SK23 SE02 上面		肥前系 磁器・小杯	-	-	(2.9)	N9/ 白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	底部 2/8		高台畳付部に 砂付着
577	SK23 SE02 上面		肥前系 磁器・碗	(9.8)	-	-	N9/ 白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8 以下	1630-1650	筒型碗
578	SK23 SE02 上面		肥前系 磁器・碗	-	-	(4.4)	N9/ 白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉、 削出高台	回転ナデ、施釉	底部 4/8	17c 中	
579	SK23 SE02 上面		肥前系 磁器・碗	-	-	4.6	7.5Y8/1 灰白	透明				砂粒 : 無	回転ナデ、 削出高台、施釉、 高台裏 「大明成化年製」銘	回転ナデ、施釉、 見込み梅花文	底部 8/8	17c 後	
580	SK23 SE02 上面		肥前系 磁器・碗	-	-	(5.0)	N9/ 白	透明				砂粒 : 無	回転ナデ、 削出高台、 施釉 (貫入)	回転ナデ、 施釉 (貫入)	底部 3/8	17c 後	
581	SK23 SE02 上面		肥前系 磁器・碗	-	-	6.6	N8/ 灰白	7.5Y8/1 灰白				砂粒 : 細・少	施釉、削出高台	施釉	底部 2/8	17c 後	
582	SK23 SE02 上面		肥前系 青磁・皿	-	-	(6.6)	N8/ 灰白	10GY8/1 明緑灰				砂粒 : 無	回転ナデ、施釉、 削出高台、砂目積	回転ナデ、施釉	底部 3/8	1630-1650	轆轤成型後 型打ち成型
583	SK23 SE02 上面		肥前系 磁器・蓋	(5.6)			N9/ 白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8		

第 58 表　土器観察表（19）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
584	SK23 SE02 上面		肥前系 磁器・蓋	(16.9)	-	-	10Y8/1 灰白	10GY8/1 明緑灰				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8	17c 後	歪みあり
585	SK23 SE02 上面		磁器・椀	10.5	-	-	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白				砂粒：細・少	施釉、回転ナデ、 「高松食堂」	施釉、回転ナデ	口縁部 1/8		
586	SK23 SE02 上面		肥前 陶器・碗	-	-	5.1	5Y8/1 灰白	2.5Y8/3 淡黄				砂粒：細・少	施釉	施釉	底部 7/8	17c 後 ～ 18c 前	呉器手、高台部大半が打ち欠いている
587	SK23 SE02 上面		肥前 陶器・碗	-	-	5.4	2.5Y5/2 暗灰黄	5Y6/4 オリーブ黄				砂粒：無	回転ナデ、施釉、 回転ナデ、 削出高台、砂目積	回転ナデ、施釉、 砂目積	底部 8/8	1610-1650	被熱痕あり
588	SK23 SE02 上面		肥前 陶器・碗	-	-	5.0	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/3 にぶい黄				砂粒：粗・多	施釉 (灰釉)、 削出高台	施釉 (灰釉)	底部 6/8	17c 1/4 ～ 30	
589	SK23 SE02 上面		肥前 陶器・皿	(12.0)	-	-	5Y7/1 灰白	5Y6/3 オリーブ黄				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉、 鉄絵	口縁部 2/8	17c 初	口縁部ゆがみあり
590	SK23 SE02 上面		肥前 陶器・皿	(13.8)	-	-	2.5Y6/1 黄灰	7.5Y7/1 灰白				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8	1610-1650	
591	SK23 SE02 上面		肥前 陶器・皿	(12.2)	3.7	(5.6)	5Y7/1 灰白	透明				砂粒：無	回転ナデ、施釉、 貼付高台、砂目積	回転ナデ、施釉	口縁部 3/8	17c 後	型打成形
592	SK23 SE02 上面		肥前 陶器・鉢	-	-	(8.0)	2.5Y5/2 暗灰黄	5Y4/3 暗オリーブ				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、 回転ナデ、 回転ヘラケズリ、 付高台	回転ナデ、施釉、 砂目積	底部 4/8	17c　2/4	
593	SK23 SE02 上面		肥前 陶器・鉢	-	-	(6.3)			2.5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐		砂粒：中・少	ヘラケズリ、 削出高台	回転ナデ	底部 1/8	17c 前 か？	
594	SK23 SE02 上面		備前 陶器・擂鉢	(26.0)	-	-			5YR4/6 赤褐	5YR5/6 明赤褐		砂粒：細・少	回転ナデ	回転ナデ、 回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8	17c 中～ 3/4、近 世 2b	
595	SK23 SE02 上面		備前 陶器・擂鉢	-	-	(13.0)			5YR4/2 灰褐	5YR4/3 にぶい赤褐		砂粒：中・少	回転ナデ、 ヘラケズリ	回転ナデ、　卸し目、 マメツ著しい	底部 1/8	17c 中 ～ 3/4、 近世 2b	
596	SK23 SE02 上面		土師質土器 杯	-	-	5.5			10YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙		砂粒：細・少	回転ナデ、 静止糸切り	回転ナデ	底部 7/8	様相 1 ～ 2	
597	SK23 SE02 上面		土師質土器 皿	12.0	2.0	5.8			2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ、 静止糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 2 ～ 3	A Ⅱ、 灯明皿
598	SK23 SE02 上面		土師質土器 皿	14.0	2.5	8.1			5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ、 静止糸切り	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 2 ～ 3	A Ⅱ、 灯明皿
599	SK23 SE02 上面		土師質土器 皿	-	-	4.7			10YR5/4 にぶい黄褐	2.5Y5/3 黄褐		砂粒：中・少	回転ナデ、 静止糸切り	回転ナデ のち指ナデ	底部 8/8	～様相 3	A Ⅱ
600	SK23 SE02 上面		焼塩壺	-	-	5.2			10YR7/2 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰		砂粒：粗・多	ナデ	指オサエ	底部 4/8		在地産
609	SK24		弥生・壺	11.0	-	-	10YR2/1 黒		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐		長石 1mm、角 閃石、雲母、 赤色粒子、普通	ヨコナデ、ヨコ ナデのちハケ目	ヨコナデ、 ハケ目	口縁部 1/8		
610	SK24		弥生・高坏	21.0	-	-	7.5YR5/4 にぶい褐		7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐		1mm 以下長石や や多い、角閃石赤 色少し、雲母少し	ナデ、 ヘラミガキ	ナデ、 ヘラミガキ	口縁部 1/8 以下		
611	SK24		弥生 製塩土器	-	-	4.2	7.5YR3/3 暗褐		7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐		長石～ 1mm 赤 色粒子、角閃石	ナデ、 ヘラケズリ	ナデ	底部 4/8		
612	SK24		肥前系 磁器・小杯	5.6	-	-	7.5Y8/1 灰白	7.5Y7/1 灰白				緻密	鎬をめぐらせる		口縁部 2/8	1630-1650	

第 59 表　土器観察表（20）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
613	SK24		肥前系・磁器・小杯	5.9	3.95	-	N8/ 灰白	2.5GY8/1 灰白			10G5/1 緑灰		高台畳付部に砂付着	施釉	底部 8/8	1630-1650	
614	SK24		肥前系 磁器・小杯	6.9	4.4	-	N8/ 灰白	透明釉				緻密			底部 4/8	1640-1650	
615	SK24		肥前系 磁器・小杯	8.0	4.8	-	N8/ 灰白	透明釉				緻密		縞が入る	底部 2/8	1640-1650	轆轤成型後型打ち成形
616	SK24		中国 磁器・碗	-	-	5.9	N9/ 白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉、削出高台、施釉、梅に鶯文	回転ナデ、施釉	底部 2/8	17c 前	景徳鎮
617	SK24		肥前系 磁器・碗	10.4	7.1	-	7.5Y7/1 灰白 7.5YR7/3 にぶい橙	透明釉			7.5Y4/2 灰オリーブ	1mm 以下の長石・石英を少し含む	連弧文、笹、高台部無釉		口縁部 3/8	1630-1650	
618	SK24		肥前系 磁器・碗	9.0	7.0	-	N7/ 灰白	透明釉			2.5GY4/1 暗ｵﾘｰﾌﾞ灰	精緻	連弧文、笹か、高台部無釉		底部 1/8	1630-1650	
619	SK24		肥前系 磁器・碗	9.8	7.3	-	2.5GY6/1 灰 2.5YR6/3 にぶい橙	透明釉			5G6/1 緑灰	1mm 以下の長石・石英を含む	竹		口縁部 2/8	1630-1650	
620	SK24		肥前系 磁器・碗	-	-	-	N8/ 灰白	2.5GY8/1 灰白			2.5GY6/1 オリーブ灰		染付、高台部ほぼ無釉		底部 4/8	1630-1650	
621	SK24		肥前系 磁器・碗	9.5	6.8	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	緊緻	蝶、唐草		口径 3/8 底部 完存	1630-1650	
622	SK24		肥前系 磁器・碗	-	-	4.2			10GY8/1 明緑灰	N8/ 灰白		砂粒 : 細・少	施釉	施釉	底部 8/8		
623	SK24		肥前系 磁器・皿	13.0	-	-	N8/ 灰白	透明釉			2.5GY5/1 オリーブ灰	緻密	染付	染付	口縁部 1/8 以下	1630-1650	
624	SK24		肥前系 磁器・碗	11.4	6.3	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	1mm 以下の黒色粒子を多く含む	葡萄文、扇、宝物		口縁部 3/8	1640-1650	
625	SK24		肥前系 磁器・碗	11.4	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	緻密	草花文 (葡萄文？)		口縁部 3/8	1640-1650	
626	SK24		肥前系 磁器・碗	13.0	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	1mm 以下の黒色粒子を多く含む、精微	葡萄文	葡萄文	口縁部 1/8	1630-1650	
627	SK24		肥前系 磁器・碗	-	-	(4.1)	N9/ 白	透明				砂粒・無	回転ナデ、施釉、削出高台、高台裏「大明成化年製」	回転ナデ、施釉、梅花文	底部 5/8	17c 後	
628	SK24		肥前系 磁器・碗	-	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	1mm 以下の茶色砂粒が少し含む (緊緻)	草花文、高台裏「　コ製」		底部 1/8	1640-1650	
629	SK24		肥前系 磁器・碗	-	-	-	N8/ 灰白	10GY8/1 明緑灰			呉須	緻密	高台部無釉、染付		底部 8/8	1630-1650	
630	SK24		肥前系 磁器・碗	11.2	5.5	-	7.5Y8/1 灰白	透明釉			呉須	1mm 以下の長石・黒色粒子を含む	山、網干、松、高台内「太明」		底部 6/8	1640-1650	
631	SK24		肥前系 磁器・碗	12.2	6.1	-	7.5Y7/1 灰白	透明釉		5Y7/2 灰白	呉須	1mm 以下の長石を少し含む	蝶、高台内「大明成化年製」		底部 完存	1640-1650	
632	SK24		肥前系 磁器・碗	-	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	緊緻	一重網目文、高台内「[大明 ?] 成 [化？] 年製」	見込に四菱、ハリ支え痕　1 ヶ所残存	底部 4/8	1640-1650	

第 60 表　土器観察表（21）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
633	SK24		肥前系 磁器・碗	-	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	緻密	一重網目文	一重網目文、 見込に「大明成化年製」	底部 6/8	1640-1650	
634	SK24		肥前系 磁器・碗	-	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	緻密	一重細目文		底部 8/8	1630-1650	
635	SK24		肥前系 磁器・碗	11.6	5.75	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	緊緻	(風景) 高台内「　」	見込	底部 完存	1640-1650	
636	SK24		肥前系 磁器・碗	9.15	5.5	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	緻密	牡丹、高台内「亀」	見込に花卉文？	底部 ほぼ 完存	1640-1650	
637	SK24		肥前系 磁器・碗	-	-	(4.6)	N9/ 白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施 釉、高台内「福」	回転ナデ、施 釉、染付	底部 2/8	17c 後	
638	SK24		肥前系 磁器・碗	(9.5)	5.7	(5.4)	N9/ 白	透明				砂粒 : 無	回転ナデ、施 釉、染付、削出 高台、砂目積	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8	18c 前	高台部砂付着
639	SK24		肥前系 磁器・碗	11.2	-	-	10Y7/1 灰白		10Y4/2 オリーブ灰 5Y2/2 オリーブ黒	7.5Y2/2 オリーブ黒 5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰		緊緻	鉄釉	口縁部下部まで鉄釉	口縁部 1/8 以下	1630-1650	
640	SK24		磁器・碗	-	-	-	N8/ 灰白		5YR3/2 暗赤褐	2.5GY8/1 灰白		緻密	鉄釉、高台部無釉		底部 4/8	1630-1650	
641	SK24		肥前系 磁器・皿	12.5	3.0	-	N8/ 灰白	5GY8/1 灰白			2.5GY6/1 オリーブ灰 5BG5/1 青灰	1mm 以下の黒色 粒子を少し含む	唐草か		口縁部 2/8 底部 4/8	1630-1650	
642	SK24		肥前系 磁器・皿	13.3	2.6	-	10Y8/1 灰白 5YR7/6 橙		5GY8/1 灰白	7.5GY8/1 明緑灰	10G5/1 緑灰	緻密		見込に銀杏	口縁部 2/8 底部 4/8	1630-1650	
643	SK24		肥前系 磁器・皿	13.4	-	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	精緻		染付	口縁部 4/8	1630-1650	
644	SK24		肥前系 磁器・皿	-	-	-	N8/ 灰白	10G7/1 明緑灰			5B4/1 暗青灰	緻密	高台畳付部に砂付着	見込に草花文	底部 4/8	1630-1650	
645	SK24		肥前系 磁器・皿	-	-	-	N7/ 灰白	10G7/1 明緑灰			5B5/1 青灰	緻密	放射状 + (染付)		底部 1/8	1630-1650	
646	SK24		肥前系 磁器・皿	20.0	3.1	-	N8/ 灰白	透明釉			呉須	1mm 以下の黒色 粒子を多く含む	回転ナデのち染付、 施釉	体部七宝、見込七宝 の変形？	口縁部 1/8	1630-1650	
647	SK24		肥前系 磁器・大皿	(21.8)	-	-	5Y7/2 灰白	7.5Y8/1 灰白				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施 釉、染付	口縁部 1/8 以下	1630-1650	釉生掛け
648	SK24		肥前系 磁器・大皿	(21.0)			N9/ 白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施 釉、染付	口縁部 1/8 以下	1650-1660	
649	SK24		肥前系 磁器・皿	15.2	-	-	N8/ 灰白	透明釉				緻密	口縁端部に圏線	菊花文を型押し	底部 4/8	1640-1660	型打成形
650	SK24		肥前系 青磁・皿	14.9	3.0	-	N8/ 灰白	2.5GY4/1 暗ｵﾘｰﾌﾞ灰				精緻		片彫りによる芭蕉文	口縁部 1/8	1640-1660	型打成形
651	SK24		中国 青磁・皿	-	-	-	N7/ 灰白		10GY7/1 明緑灰	7.5YR5/4 にぶい褐		緻密			底部 1/8	14c ～ 15c	
652	SK24		肥前系 磁器・皿	(12.0)	2.1	7.2	N8/ 灰白	2.5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰				砂粒 : 中・少	施釉 (貫入)、 回転ナデ、施釉、 砂目積	施釉 (貫入)	口縁部 3/8	17c 後	型打成 形、口銹

第 61 表　土器観察表（22）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
653	SK24		肥前系 磁器・鉢	-	-	7.8	7.5Y8/1 灰白	10YR8/1 灰白				砂粒：無	回転ナデ、施釉、 削出高台、施釉、 砂目積	回転ナデ、施釉	底部 4/8	1630-1650	高台裏砂付着、 被熱あり
654	SK24		肥前系 磁器・鉢	(24.8)	-	-	N8/ 灰白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 2/8		漆継ぎ痕あり
655	SK24		中国 青磁・鉢	18.6	-	-	7.5Y7/1 灰白	10GY7/1 明緑灰				緻密	回転ナデのち 施釉、指オサエ	回転ナデのち 施釉	口縁部 1/8	14c ～ 15c	
656	SK24		肥前系 磁器・蓋	5.9	3.1	-	5GY8/1 灰白	N8/ 灰白				砂粒：無	回転ナデ、施 釉、花文	回転ナデ	口縁部 7/8	17c 後	
657	SK24		肥前系 磁器・蓋	10.6	-	-	N8/ 灰白	7.5GY8/1 明緑灰				緻密		口縁端部から立ち上り部にかけて無釉	口縁部 1/8	1630-1650	
658	SK24		肥前系 青磁・香炉	11.6	5.3	-	7.5Y7/1 灰白		2.5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰	5Y7/1 灰白		1mm 以下の黒色 粒子を多く含む	高台内無釉	口縁部から下部は 無釉	口縁部 3/8	1630-1650	三足付き
659	SK24		肥前系 青磁・香炉	-	-	5.4	N8/ 灰白	10GY7/1 明緑灰				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、 削出高台	回転ナデ、施釉	底部 6/8	17c 前	三足付き、穿 孔 1 ヶ所
660	SK24		肥前系 磁器・香炉	-	-	(4.9)	N9/ 白	2.5GY8/1 灰白				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉、 回転ナデ、削出高台	回転ナデ	底部 1/8 以下		三足付き
661	SK24		肥前系 磁器・香炉	-	-	-	N8/ 灰白		10GY7/1 明緑灰	7.5Y8/1 灰白		緻密	高台部無釉	無釉	底部 8/8	1630-1650	
662	SK24		肥前系 磁器 髪油壺	-	-	-	7.5Y8/1 灰白	透明釉			10GY4/1 暗緑灰 7.5Y3/2 オリーブ黒 2.5YR3/6 暗赤褐	やや粗い	色絵、草木文	無釉、炭化物付着	体部	1640-1660	
663	SK24		肥前系 磁器・花生	-	-	4.3	N8/ 灰白	7.5GY8/1 明緑灰				緻密	染付	体部一部に釉が垂れ下がる	底部 5/8	1630-1650	
664	SK24		肥前系 磁器・花生	-	-	(5.4)	N9/ 白	透明				砂粒：細・少	回転ナデ、施釉 (一部貫入)、草花文	回転ナデ、施釉	底部 3/8	17c 後 か？	
665	SK24		瀬戸美濃 陶器・碗	12.0	-	-	10Y8/1 灰白		7.5YR4/4 褐、 10YR4/1 褐灰	7.5YR4/4 褐		細かい砂粒含む	鉄釉	鉄釉	口縁部 1/8 以下	17c 前	
666	SK24		肥前 陶器・碗	12.9	8.2	5.2	10YR8/4 浅黄橙	7.5Y7/1 灰白				砂粒：細・少	施釉、削出高台	施釉	口縁部 3/8	17c 後 ～ 18c 前	呉器手、 釉生掛け
667	SK24		肥前 陶器・碗	13.0	-	-	2.5Y7/1 灰白		2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄			貫入あり	貫入あり	口縁部 1/8	17c 後 ～ 18c 前	呉器手
668	SK24		肥前 陶器・碗	11.4	-	-	2.5Y7/2 灰黄		2.5Y7/1 灰白	2.5Y6/2 灰黄		ほとんど砂粒を 含まない			口縁部 1/8 以下	17c 後 ～ 18c 前	呉器手
669	SK24		肥前 陶器・碗	12.0	-	-	2.5Y7/1 灰白		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙		細かい砂粒含む			口縁部 1/8	17c 後 ～ 18c 前	呉器手
670	SK24		肥前 陶器・碗	-	-	4.9	2.5Y6/2 灰黄	10YR4/3 にぶい黄褐				砂粒：細・少	施釉、削出高台	施釉	底部 5/8	17c 後 ～ 18c 前	呉器手
671	SK24･25		肥前 陶器・碗	-	-	-	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/4 浅黄				ほとんど砂粒を 含まない	貫入	貫入	底部 8/8	17c 後 ～ 18c 前	呉器手
672	SK24		肥前 陶器・碗	13.8	-	-	5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白				ほとんど砂粒を 含まない	回転ナデのち施釉	回転ナデのち施釉	口縁部 1/8	1650	肥前内野山窯

第 62 表　土器観察表（23）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
673	SK24		肥前 陶器・碗	9.4	-	-	N7/ 灰白		10YR3/3 暗褐 10YR3/4 暗褐	10YR3/3 暗褐 10YR3/4 暗褐		ほとんど砂粒を含まない	施釉 (鉄釉)	施釉 (鉄釉)	口縁部 1/8	17c 後	
674	SK24		肥前 陶器・碗	-	-	3.6	2.5Y7/3 浅黄	5YR2/3 極 暗赤褐				砂粒 : 細・少	施釉 (鉄釉)、 削出高台	施釉 (鉄釉)	底部 2/8	17c 後	
675	SK24		肥前 陶器・皿	16.5	-	-	10YR4/1 褐灰		10YR2/2 黒褐	10YR2/3 黒褐		ほとんど砂粒を含まない	体部上半まで施釉	鉄釉、口縁部スス付着	口縁部 2/8	1630-1650	
676	SK24		肥前 陶器・皿	-	-	-	7.5YR7/2 明褐灰		7.5YR5/3 にぶい褐	2.5Y8/1 灰白 7.5YR4/3 褐		細かい砂粒を少し含む		刷毛目による波状文	口縁部 1/8 以下	1630-1650	
677	SK24		肥前 陶器・大皿	-	-	7.3	5Y8/1 灰白	7.5Y4/2 灰オリーブ				砂粒 : 細・少	施釉、砂目積	施釉、砂目積	底部 3/8	17c 後	高台部 2 ヶ所に切れ込み
678	SK24		肥前 陶器・皿	-	-	-	10YR7/2 にぶい黄橙		2.5GY8/1 灰白 5Y5/4 オリーブ 5Y3/2 オリーブ黒	5G5/1 緑灰 2.5GY8/1 灰白		0.1 ～ 1mm 程度の長石を含む	口縁部～体部中位まで青色釉 (発色が悪く白濁部分あり)	青色釉	底部 5/8	17c 後	口縁部を部分的に歪める
679	SK24		肥前 陶器・鉢	-	-	-	2.5Y4/6 オリーブ褐		5YR5/4 にぶい赤褐	7.5Y6/3 オリーブ黄 2.5Y8/2 灰白		0.1mm 程度の砂粒含む	残存部は無釉	砂目積、鉄絵	底部 1/8 以下	1630-1650	
680	SK24		肥前 陶器・鉢	(19.8)	12.0	8.6	5YR5/4 にぶい赤褐	5Y8/1 灰白				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉、 回転ヘラケズリ、 削出高台	回転ナデ、施釉	口縁部 5/8	17c 後	高台部 1 ヶ所切れ込み
681	SK24		備前 陶器・擂鉢	19.0	-	-	N5/ 灰		N5/ 灰 2.5Y6/1 黄灰	N5/ 灰 N4/ 灰		1mm 程度の長石	回転ナデ	回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8	1650-1670 乗岡編年 近世 2 b	
682	SK24		備前 陶器・擂鉢	25.1	-	-	2.5YR5/1 赤灰		2.5YR4/1 赤灰	2.5YR4/1 赤灰		1mm 程度の長石、 石英粒含む	回転ナデ、 口縁下端部に重ね焼き痕	回転ナデ、卸し目	口縁部 2/8	1650-1670 乗岡編年 近世 2 b	
683	SK24		備前 陶器・擂鉢	-	-	-	5YR5/1 褐灰		5YR5/1 褐灰	5YR5/1 褐灰		1mm 程度の長石、 石英粒	回転ナデ	回転ナデ のち指ナデ、卸し目	口縁部 1/8 以下	1650-1670 乗岡編年 近世 2 b	片口部分
684	SK24		備前 陶器・擂鉢	-	-	-			5YR5/6 明赤褐	5YR5/8 明赤褐		砂粒 : 中・少	回転ナデ、凹線(2 条)	回転ナデ、 回転ナデ、卸し目	口縁部 1/8 以下	17c 3/4 ～ 18c 初 乗岡編年 近世 3	
685	SK24		備前 陶器・擂鉢	(35.4)	-	-			N7/ 灰白	5YR5/4 にぶい赤褐		砂粒 : 細・少	回転ナデ	回転ナデ、回転ナデ、 卸し目	口縁部 1/8 以下	17c 3/4 ～ 18c 初 乗岡編年 近世 3	
686	SK24		肥前系 陶器・甕	9.4	-	-	N4/ 灰		7.5YR4/1 褐灰	7.5YR3/1 黒褐		0.1 ～ 1mm 程度の長石やや多い	鉄釉	鉄釉	口縁部 1/8	17c 前 か？	
687	SK24		陶器・壺	-	-	-	2.5Y3/3 暗 オリーブ褐		7.5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒	2.5Y4/1 黄灰		ほとんど砂粒を含まない	鉄釉、高台部無釉	無釉	底部 4/8	17c 後	
688	SK24		陶器 茶入れ	-	-	3.1	10YR7/2 にぶい黄橙		5YR4/4 にぶい赤褐 10YR7/2 にぶい黄橙 5YR3/1 黒褐	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR1.7/1 黒 2.5Y5/2 暗灰黄		細かい砂粒を少し含む	体部下端付近まで鉄釉、回転糸切り	体部の一部～底部にかけて鉄釉	底部 8/8		

第 63 表　土器観察表（24）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
689	SK24		肥前 陶器・不明	-	-	-	5YR6/1 褐灰		10GY2/1 緑黒 10GY7/1 明緑灰	10GY2/1 緑黒 10GY4/1 暗緑灰			回転ナデのち施釉	回転ナデのち施釉	1/8 以下	17c 後	
690	SK24		土師質土器 皿	7.9	2.2	3.7			7.5YR4/1 褐灰	7.5YR8/4 浅黄橙		砂粒：細・少	回転ナデ、 静止糸切り	回転ナデ	口縁部 7/8	様相 1	A Ⅱ　灯明皿
691	SK24		土師質土器 皿	11.8	1.7	6.9	2.5Y8/2 灰白		2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白 10YR7/4 にぶい黄橙		0.1mm 以下の砂粒、 赤色粒子少し	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ、ナデ	底部 2/8	様相 4	A Ⅴ
692	SK24		土師質土器 皿	8.6	1.85	6.0	2.5Y7/1 灰白		2.5Y7/2 灰黄 2.5Y3/1 黒褐	2.5Y7/3 浅黄 2.5Y3/1 黒褐		0.1mm 以下の砂粒 少し	回転ナデ、 静止糸切り	回転ナデ	底部 1/8	様相 2	A Ⅱ、 内面一部にス ス付着灯明皿
693	SK24		土師質土器 皿	7.8	1.8	6.1	2.5Y7/2 灰黄		2.5Y7/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄		0.5mm 程度の砂粒、 赤色粒子あり	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	底部 2/8	様相 3	A Ⅲ、 内面底部～体 部一部にスス 付着　灯明皿
694	SK24		土師質土器 皿	(8.8)	1.7	5.9			2.5Y7/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄		砂粒：細・少	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	口縁部 6/8	様相 3 か？	
695	SK24		土師質土器 皿	8.8	1.5	5.5	10YR6/1 褐灰		10YR5/2 灰黄褐 2.5Y6/2 灰黄	10YR4/1 褐灰 10YR6/2 灰黄褐		0.1mm 長石、 雲母多い 赤色粒子少ない	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 4	A Ⅲ、 体部内外面ス ス付着 灯明皿
696	SK24		土師質土器 皿	8.9	1.7	5.9	10YR7/2 にぶい黄橙		10 Y R 7/2 にぶい黄橙	10 Y R 7/2 にぶい黄橙		0.1mm 以下の砂粒、 赤色粒子少し	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 4	A Ⅲ
697	SK24		土師質土器 皿	9.0	-	-	7.5YR7/4 にぶい橙		7.5 Y R 7/4 に ぶい橙	7.5 Y R 7/4 に ぶい橙		1mm 以下の砂粒、 赤色粒子少し	回転ナデ	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 4	A Ⅲ、 口縁部内外面 スス付着 灯明皿
698	SK24		土師質土器 皿	9.1	1.9	5.3	7.5YR7/4 にぶい橙		7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙		1mm 程度の長石・ 石英含む、 赤色粒子多い	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	底部 5/8	様相 4	A Ⅲ、 口縁部内外面 スス付着 灯明皿
699	SK24		土師質土器 皿	9.0	1.3	6.0	5Y7/1 灰白		5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白		0.1mm 以下の砂粒、 雲母、赤色粒子少し	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 3	A Ⅴ
700	SK24		土師質土器 皿	-	-	5.6	10YR7/1 灰白		10YR6/2 灰黄褐 10YR8/2 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙		0.1mm 以下の砂粒、 雲母、赤色粒子少し	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	底部 4/8	様相 3 ～ 4	A Ⅲ
701	SK24		土師質土器 皿	10.0	2.1	6.5	2.5Y7/1 灰白		2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄		0.1mm 以下の 長石、石英粒	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 2	A Ⅵ
702	SK24		土師質土器 皿	8.4	1.8	4.8	2.5Y7/2 灰黄		2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄		長石 0.1mm 以下少し	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	底部 8/8	様相 4	A Ⅵ
703	SK24		土師質土器 皿	9.0	1.2	5.6	10YR8/3 浅黄橙		10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙		0.1mm 以下の砂粒 少し	回転ナデ、 回転糸切り	回転ナデ	底部 1/8	様相 3	A Ⅴ
704	SK24		土師質土器 皿	9.8	1.7	6.5	2.5Y6/1 黄灰		2.5Y7/3 浅黄 2.5Y3/1 黒褐	2.5Y7/3 浅黄 2.5Y3/1 黒褐			回転ナデ、 回転糸切り のち板状圧痕	回転ナデ、ナデ	口縁部 2/8	様相 4	A Ⅴ、 口縁端部内外 面スス付着 灯明皿

第 64 表　土器観察表（25）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
705	SK24		土師質土器皿	10.0	1.5	7.4	5Y7/1 灰白		5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白		2mm 以下の黒色砂粒・長石を少し含む	回転ナデ、回転糸切りのち板状圧痕あり	回転ナデ、回転ナデのち仕上げナデ	口縁部 1/8 以下	様相 3 ～ 4	A V、口縁端部にわずかのスス付着　灯明皿か
706	SK24		土師質土器皿	9.8	1.65	5.8	2.5Y4/1 黄灰		2.5Y6/1 黄灰 2.5Y5/1 黄灰 2.5Y4/1 黄灰 2.5Y3/1 黒褐	2.5Y6/1 黄灰 2.5Y5/1 黄灰 2.5Y4/1 黄灰 2.5Y3/1 黒褐			回転ナデ、回転板切りのち板状圧痕	回転ナデ、ナデ	口縁部 5/8	様相 3 ～ 4	A V、口縁部内面～体部にスス付着　灯明皿
707	SK24		土師質土器皿	10.0	1.4	6.8	10YR4/1 褐灰		10YR6/2 灰黄褐 10YR8/2 灰白	10YR5/1 褐灰 10YR7/2 にぶい黄橙		1mm 程度の長石	回転ナデ、回転ヘラ切り	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 4	A V、口縁端部にスス多量に付着 灯明皿
708	SK24		土師質土器皿	10.0	1.9	6.3	10YR7/1 灰白		10YR7/3 にぶい黄橙、10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙			回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	底部 1/8 以下	様相 3	A V、口縁部内外面スス付着 灯明皿
709	SK24		土師質土器皿	10.0	1.5	6.6	2.5Y7/2 灰黄		2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄		0.1mm 以下の砂粒少し	回転ナデ、回転糸切りのち板状圧痕	回転ナデ、ナデ	底部 7/8	様相 5	A V、口縁端部一部に多量のスス付着　灯明皿
710	SK24		土師質土器皿	10.3	1.6	6.8	2.5Y5/1 黄灰		2.5Y7/2 灰黄 2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y5/1 黄灰		0.1mm 以下の砂粒含む	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ、ナデ	底部 1/8	様相 4	A V、やや歪みあり
711	SK24		土師質土器皿	(10.5)	1.9	6.5			2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄		砂粒：細・少	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ、ナデ	口縁部 6/8	様相 3	A V
712	SK24		土師質土器皿	11.0	-	6.3			2.5Y7/3 浅黄	2.5Y8/2 灰白		砂粒：細・少	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	口縁部 2/8	様相 3	A V 灯明皿
713	SK24		土師質土器皿	10.8	1.8	6.4	10YR4/1 褐灰		10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐		0.1mm 以下の長石少し	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 4	A V、全面にスス付着、特に体部上部内外面に多い　灯明皿
714	SK24		土師質土器皿	11.8	1.55	8.0	2.5Y8/2 灰白		2.5Y8/2 灰白 2.5Y4/1 黄灰	2.5Y8/2 灰白 10YR6/3 にぶい黄橙		0.1mm 以下の砂粒少し	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 5	A V、外面スス付着 灯明皿
715	SK24		土師質土器皿	12.3	1.85	7.0	2.5Y6/1 黄灰		2.5Y7/1 灰白 2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄		0.1mm 以下の砂粒少し	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ、仕上げナデ	底部 2/8	様相 4	A V
716	SK24		土師質土器皿	12.4	2.1	7.0	2.5Y8/1 灰白		2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白			回転ナデ、糸切りのち板状圧痕	回転ナデ、不定方向のナデ	底部 4/8	様相 4 ～ 5	A V、体部内外面にスス多量に付着　灯明皿
717	SK24		土師質土器皿	12.8	2.4	8.2	2.5Y8/1 灰白		2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白		0.1mm 長石、赤色粒子少し	回転ナデ、糸切り	回転ナデ、ナデ	口縁部 2/8	様相 2	A V、体部上半部内外面に多量のスス付着 灯明皿

第 65 表　土器観察表（26）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
718	SK24		土師質土器・皿	14.7	-	-	5YR5/1 褐灰		10YR5/2 灰黄褐	10YR3/1 黒褐 10YR4/2 灰黄褐		細かい砂粒を少し含む		回転ナデ	口縁部 1/8 以下		
719	SK24		土師質土器 皿	-	-	7.4	2.5Y4/1 黄灰		2.5Y4/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰		0.5mm 程度の長石	回転ナデ、糸切り	回転ナデ、ナデ	底部 4/8	様相 4	A V、全体にスス付着、特に体部外面に多い灯明皿
720	SK24		土師質土器 皿	-	-	8.5	2.5Y8/1 灰白		2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白		0.1mm 以下の砂粒少し	回転ナデ、糸切り	回転ナデ、ナデ	底部 2/8	様相 5	A V、体部内外面上部にス付着灯明皿
721	SK24		土師質土器 皿	-	-	9.0	2.5Y6/1 黄灰		2.5Y7/2 灰黄	2.5Y 7 2 2.5Y7/3 浅黄		0.1mm 以下の砂粒少し	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	底部 1/8		A Xか？
722	SK24		土師質土器 焼塩壺	7.0	-	-	7.5YR7/2 明褐灰		7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙		3mm 以下の長石・石英・赤色・黒色砂粒を多く含む	剥落して不明	強い板ナデ	口縁部 1/8		在地産
723	SK24		土錘	最大長 6.7	最大幅 4.3	最大厚 3.6			N6/ 灰、7.5Y7/1 灰白	N6/ 灰		砂粒：細・少	ナデ、指オサエ		5/8		有溝土錘
724	SK24		土錘	最大長 6.2	最大幅 4.8	最大厚 2.3				5Y6/1 灰		砂粒：細・少	マメツ、ナデ		6/8		有溝土錘
725	SK24		瓦質土器 焙烙	27.0	-	-	2.5Y7/1 灰白		2.5Y2/1 黒 2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y2/1 黒		0.1 ～ 1mm 程度の長石を含む	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、ハケ目	口縁部 1/8 以下	様相 4	内耳残
726	SK24		瓦質土器 焙烙	(32.2)	-	-			10YR2/1 黒	10YR2/1 黒		砂粒：細・少	ナデ、指オサエ、ハケ目	ナデ、ハケ目	口縁部 1/8	様相 4 ～ 5	
727	SK24		瓦質土器 焙烙	42.2	-	-	2.5Y7/1 灰白		2.5Y3/1 黒褐	2.5Y4/1 黄灰 2.5Y2/1 黒		0.1 ～ 1mm 程度の砂粒、赤色粒子含む	板ナデ、ナデ、ナデのち指オサエ	ナデ	口縁部 1/8 以下	様相 4	内耳残
728	SK24		瓦質土器 焙烙	40.5	-	-	2.5Y5/1 黄灰		2.5Y2/1 黒	2.5Y4/1 黄灰 2.5Y2/1 黒		0.1mm 以下の砂粒少し	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、ハケ目、ナデ	口縁部 1/8 以下	様相 4	内耳残
729	SK24		瓦質土器 焙烙	38.0	-	-	7.5Y4/1 灰		7.5Y2/1 黒	7.5Y2/1 黒			ヨコナデ、ハケ目、指オサエ	ヨコナデ	口縁部 1/8 以下	様相 6 か？	内耳残
730	SK24		瓦質土器 焙烙	35.0	-	-	2.5Y6/1 黄灰		2.5Y2/1 黒	2.5Y2/1 黒		0.1mm 以下の砂粒少し	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、ハケ目	口縁部 1/8	様相 6 か？	内耳残
731	SK24		瓦質土器 火鉢	12.6	-	-	5Y6/1 灰		N3/ 暗灰	5Y6/1 灰		0.1mm 長石、雲母多い	回転ナデ、ヘラミガキ	ナデ、指オサエ、ナデ	口縁部 2/8		
732	SK24		瓦質土器 火鉢	28.0	12.9	23.7	N6/ 灰		N4/ 灰	N3/ 暗灰		1mm 程度の長石、石英粒やや多い、赤色粒子少し	体部：ヘラミガキ、マメツ 脚部：マメツ、穿孔 1 ヶ所	ヘラミガキ、マメツ	口縁部 2/8 (脚部一脚のみ)		
733	SK24		瓦質土器 火鉢	37.0	-	-	2.5Y7/1 灰白		2.5Y2/1 黒	2.5Y3/1 黒褐		～ 0.5mm 長石、雲母含む	ナデのちヘラミガキ	板ナデのちヘラミガキ	口縁部 1/8		
734	SK24		瓦質土器 火鉢	-	-	-	2.5Y7/1 灰白		2.5Y2/1 黒	2.5Y2/1 黒		0.1mm 以下の砂粒少し、雲母多い	体部：丁寧なヘラミガキ、脚部：ナデのちヘラミガキ	ハケ目のち粗いヘラミガキ	脚部 1/8		脚部内側に穿孔、体部と脚部の合部分に刻み目入れる

第 66 表　土器観察表（27）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
992	SK25		瓦器・椀	-	-	(5.7)			N5/ 灰	N5/ 灰		砂粒 : 無	回転ナデ、指オサエ、ナデ	ヘラミガキ	底部 2/8		
993	SK25		肥前系磁器・碗	12.0	-	-	N8/ 灰白	透明				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉、葡萄文	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8	1650-1680	
994	SK25		肥前系青磁・碗	(10.3)	-	-	N9/ 白	2.5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉、削出高台高台部無釉か	回転ナデ、施釉	口縁部 2/8	1630-1650	
995	SK25		肥前系磁器・大皿	-	-	-	N9/ 白	透明				砂粒 : 無	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 1/8 以下	1630-1650	
996	SK25		肥前系青磁・大皿	(20.7)	-	-	N9/ 白	5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉	回転ナデ、施釉	口縁部 2/8	1630-1650	
997	SK25		土師質土器皿	9.6	1.5	5.8			2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白		砂粒 : 細・少	回転ナデ、回転糸切りのち板状圧痕	回転ナデ、ナデ	口縁部 2/8	様相 3	A V
998	SK25		土師質土器皿	9.6	1.6	6.3			10YR6/3 にぶい黄橙			赤色粒 : 細・少、砂粒 : 細・少	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	口縁部 1/8	様相 4	A Ⅲ
1001	SK24 ·25 上面		肥前系磁器・碗	-	-	4.2	N8/ 灰白	5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰				砂粒 : 細・少	施釉、染付高台内無釉	施釉	底部 8/8	1630-1650	
1002	SK24 ·25 上面		肥前系磁器・碗	(8.4)	4.5	(3.4)	N9/ 白	透明				砂粒 : 無	回転ナデ、施釉、砂目積	回転ナデ、施釉	口縁部 3/8		高台裏砂付着型打成型
1003	SK24 ·25 上面		肥前陶器・皿	-	-	(3.4)	7.5Y6/1 灰	2.5GY5/1 オリーブ灰				砂粒 : 細・少	回転ナデ、施釉、回転ヘラケズリ	回転ナデ、施釉、胎土目積	底部 2/8	17c 初	
1004	SK24 ·25 上面		土師質土器皿	10.6	-	8.2			5YR7/4 にぶい橙	10YR5/1 褐灰		砂粒 : 細・少	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	口縁部 1/8		
1005	SK24 ·25 上面		土師質土器焼塩壺	6.0	1.7	5.4			5YR5/4 にぶい赤褐	5YR7/4 にぶい橙		砂粒 : 粗・多	回転ナデ、指オサエのちナデ	回転ナデ	口縁部 2/8		在地産
1006	SK24 ·25 上面		土師質土器羽釜	(24.6)	-	-			2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄		砂粒 : 中・少	ナデ、指オサエ、ナデ、ハケ目	ナデ、板ナデ	口縁部 1/8 以下		
1009	SX03		黒色土器 A 類・椀	-	-	-			2.5Y8/2 灰白	7.5Y2/1 黒		砂粒 : 中・少	回転ナデ	ヘラミガキ	2/8		高台部剥離
1010	SX03		土師質土器甕	-	-	-			10YR3/2 黒褐	5YR4/3 にぶい赤褐		砂粒 : 中・多	板ナデ、ハケ目、ナデ	板ナデ、ナデ	口縁部 1/8 以下		外面スス付着
1011	SX03		土師質土器把手付鍋	-	-	-			10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙		砂粒 : 粗・多	ナデ、マメツ	ナデ、板ナデ	口縁部 1/8 以下	～様相 3	
1012	遺構外		磁器円盤状土製品	長さ 2.6	幅 2.5	厚さ 0.5	N7/ 灰白	N8/ 灰白			呉須	砂粒 : 細・少	施釉	施釉	8/8		肥前系磁器を転用
1013	遺構外		肥前陶器・皿	13.7	3.6	3.4	10YR6/2 灰黄褐	7.5Y6/2 灰オリーブ				砂粒 : 細・少	施釉 (灰釉)、回転ナデ、削出高台	施釉 (灰釉)、砂目積み	口縁部 4/8	様相 3	高台部に砂目積み痕、SD04 出土の可能性が高い
1014	遺構外		肥前陶器・皿	12.4	2.2	5.1	7.5Y7/1 灰白	7.5Y4/2 灰オリーブ				砂粒 : 細・少	施釉、回転ナデ、削出高台	施釉、砂目積み	口縁部 3/8	様相 3	外面に陶器熔着痕残る高台部にも砂目積み痕貫入あり、SD04 出土の可能性が高い

第 67 表　土器観察表（28）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	法量			色調					胎土	調整		残存量	時期	備考
				口縁部	器高	底部	胎土	釉薬	外面	内面	呉須・上絵		外面	内面			
1015	遺構外		瀬戸美濃陶器・碗	-	-	4.3	2.5Y8/2 灰白	N5/ 灰 7.5YR2/1 黒 10YR8/4 浅黄橙 7.5YR5/4 にぶい褐				砂粒：細・少	回転ヘラケズリ、施釉、削出高台	回転ナデ、施釉（鉄釉）	底部 8/8	17c 中	天目碗 墨書あり
1016	遺構外		土師質土器擂鉢	-	-	-			7.5YR7/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙		砂粒：細・少	指オサエ	ハケ目、卸し目	1/8 以下	～様相 3	墨書 「六親」か

第 68 表　軒丸瓦観察表（1）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	瓦当文様				法　量				瓦当裏面調整	胎土	色調		同笵・同文関係	備考
				主文様	圏線の有無	巴文の尾の形状	珠文数 () は推定	瓦当径	文様区径	内区径	瓦当厚			表面	断面		
35	SD04		軒丸瓦	巴・左	×	一部連結する	(18)	11.5	8.1	5.2	1.6	ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：中・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：中・少	N4/ 灰 N4/ 灰	5Y7/1 灰白	133 と同文	
36	SD04		軒丸瓦	巴・左	×		-	-	-	-	1.5	円弧状のナデ、 ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/1 灰白		笵傷 2 ヶ所
64	SD09		軒丸瓦	巴・左	×	連結しない		-	-	-	1.5	ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	2.5Y4/1 黄灰 2.5Y4/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰		
65	SD09		軒丸瓦	巴・左	×	連結しない		-	-	-	-	ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：細・少	N5/ 灰 5Y5/1 灰	5Y8/1 灰白		
66	SD09		軒丸瓦	巴・右	×	連結しない		-	-	-	1.6	ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	5Y5/1 灰 5Y4/1 灰	5Y8/1 灰白		笵傷 1 ヶ所
132	SE02	井戸枠上部	軒丸瓦					-	-	-	-		白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：無	N4/ 灰 N5/ 灰	10YR8/1 灰白		凹面コビキ A 痕
133	SE02	井戸枠上部	軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(18)	11.8	8.2	4.6	-	ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N3/ 暗灰 N5/ 灰	10YR7/1 灰白	35 と同文	
134	SE02	井戸枠上部	軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(14)	11.4	8	5	1.1	板ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：中・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N4/ 灰 N6/ 灰	7.5YR8/2 灰白	491 ～ 494 と同文	軒込瓦か、 SK23 からの混入か
144	SE03	桶の井戸枠内	軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(17)	11.6	8	5.2	1.6	板ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N4/ 灰 7.5Y4/1 灰	2.5Y7/1 灰白		
153	SE04	井戸内	軒丸瓦	巴・右	×	連結しない	16	12.3	9.1	5.2	1.2	指オサエ、ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：無 赤色粒：無	5Y8/1 灰白 7.5Y7/1 灰白			瓦当面一部銀化
177	SE05	井戸枠内	軒丸瓦	巴・右	×	連結しない	(13)	13.1	9.8	5.8	-	ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	10YR7/3 にぶい黄橙 N4/ 灰	2.5Y7/3 浅黄		笵傷 2 ヶ所
206	SE06	井戸内	軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(14)	-	-	5.3	-	ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N5/ 灰 N5/ 灰	N6/ 灰		
207	SE06	井戸内	軒丸瓦	巴・左	×		(23)	-	-	-	-	丸瓦剥離痕、 ヨコナデ、ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N4/ 灰 N4/ 灰	7.5Y7/1 灰白	258 と同文	

第 69 表　軒丸瓦観察表（2）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	瓦当文様				法　量				瓦当裏面調整	胎土	色調		同笵・同文関係	備考
				主文様	圏線の有無	巴文の尾の形状	珠文数 () は推定	瓦当径	文様区径	内区径	瓦当厚			表面	断面		
221	SE07	井戸内	軒丸瓦	巴・右	×	連結する	16	13	10.4	6.5	1.3	ヨコナデ、 円弧状の強いナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	5Y7/2 灰白 5Y6/1 灰			丸瓦部分 全長 27.8cm、 幅 14.0cm、 厚さ 1.9cm、凹面 にコビキＢ痕
222	SE07	井戸内	軒丸瓦	巴・左	×	一部連結する	(12)	13.3	9.8	5.9	1.7	ヨコナデ、ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N4/ 灰 N4/ 灰	N7/ 灰白 N6/ 灰	歴博 530 と同文	
223	SE07	井戸内	軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(12)	12.7	9.2	4.8	1.1	ヨコナデ、ナデ、 ゆるい円弧状の ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：中・少	2.5Y7/3 浅黄 2.5Y6/1 黄灰	10YR7/2 にぶい黄橙		全長（23.9)、 幅 12.7、 厚さ 1.5 、 玉縁有
224	SE07	井戸内	軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	12	12.8	9.3	5.2	1.4	指オサエ、ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	2.5Y6/1 黄灰 5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白		
225	SE07	井戸内	軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(12)	13.1	9.2	5.5	1.7	ヨコナデ、ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：中・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：細・少	2.5Y5/1 黄灰 2.5Y7/1 灰白	N5/ 灰		笵の痛みが著しい 笵傷 3 ヵ所
258	SE07	井戸枠 上面	軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(24)	-	-	-	-	ヨコナデ、ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	2.5Y7/2 灰黄 10Y4/1 灰 5Y8/1 灰白 N4/ 灰	7.5Y7/1 灰白	207 と同文	SE06 1123 に 似るか？
295	SK10		軒丸瓦	巴・左	×	一部連結する	(12)	-	-	5.8	1.7	ヘラケズリ、ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：粗・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	10Y5/1 灰 10Y5/1 灰	7.5Y7/1 灰白 N5/ 灰		
310	SK11		軒丸瓦	巴・右	×	連結しない	(8)	12.6	8.8	4.8	1.8	ナデ、 円弧状のナデ、 ヘラケズリ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N4/ 灰 N4/ 灰	5Y8/1 灰白 N6/ 灰	310 ～ 312 は同笵	釘孔現存 1 か所
311	SK11		軒丸瓦	巴・右	×	連結しない	8	12.8	9	4.6	1.6	ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	N5/ 灰 N4/ 灰	N7/ 灰白	310 ～ 312 は同笵	釘孔現存 1 か所
312	SK11		軒丸瓦	巴・右	×	連結しない	(8)	13.1	8.6	5	1.4	ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N5/ 灰 5Y5/1 灰	5Y8/1 灰白	310 ～ 312 は同笵	
313	SK11		軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	12	12.2	8.7	4.5	1.6	ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/3 淡黄		釘孔現存 1 か所 笵の傷み著しい
314	SK11		軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	12	14.5	10.3	6	1.4	ナデ、 円弧状のナデ、 ヨコナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	7.5Y4/1 灰 7.5Y4/1 灰	5Y7/2 灰白		釘孔現存 1 か所
315	SK11		軒丸瓦	巴・左	×		(12)	-	-	-	-	ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：中・少	2.5Y7/2 灰黄 7.5Y6/1 灰	2.5Y7/3 浅黄		

第 70 表　軒丸瓦観察表（3）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	瓦当文様				法　量				瓦当裏面調整	胎土	色調		同笵・同文関係	備考
				主文様	圏線の有無	巴文の尾の形状	珠文数 () は推定	瓦当径	文様区径	内区径	瓦当厚			表面	断面		
335	SK12	下層	軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(12)	-	-	-	-	ナデ、ヨコナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙		
336	SK12	下層	軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(12)	-	-	-	1.7	ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	2.5Y6/1 黄灰 2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰		
353	SK12	上層	軒丸瓦	巴・左	×	連結する	(12)	-	-	-	1.3	ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	N4/ 灰 N4/ 灰	7.5Y7/1 灰白	495 ～ 500 と同笵	
354	SK12	上層	軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(14)	-	-	-	-	ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N5/ 灰 N5/ 灰	7.5Y8/1 灰白		
391	SK12	層位不明	軒丸瓦	巴・右	×		(16)	-	-	-	2	ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	N5/ 灰 N4/ 灰	5Y6/1 灰		
395	SK15		軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	12	14.6	10.5	5.7	1.6	ナデ、指押え、 円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	7.5Y5/1 灰 7.5Y5/1 灰	5Y8/2 灰白		
396	SK15		軒丸瓦	巴・右	×	連結しない		-	-	-	1.7	ナデ、 円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	5Y6/1 灰 5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白		
397	SK15		軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(8)	-	-	-	-	ナデ、ヨコナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N5/ 灰 N7/ 灰白	N8/ 灰白		
491	SK23		棟込瓦	巴・左	×	一部連結する	14	11.0	8.0	4.8	1.75	ナデ、強いナデ、 円に沿うナデ	1mm 程度の長石、 石英粒含む	2.5Y6/1 黄灰		134･491 ～ 494 と同笵 西の丸Ⅱ 39 と同文	
492	SK23		棟込瓦	巴・左	×	一部連結する	14	11.0	8.2	4.7	1.5	板ナデのちナデ、 円に沿うナデ	1mm 程度の長石、 石英粒、赤色粒子多い	2.5Y5/1 黄灰		134･491 ～ 494 と同笵 西の丸Ⅱ 39 と同文	
493	SK23		棟込瓦	巴・左	×	一部連結する	14	12.1	7.9	4.7	1.7	ナデ、 円に沿うナデ	1mm 程度の長石、 石英粒含む、赤色粒子多い	N4/ 灰	7.5YR8/2 灰 白 7.5YR7/1 明褐灰	134･491 ～ 494 と同笵 西の丸Ⅱ 39 と同文	
494	SK23		棟込瓦	巴・左	×	一部連結する	(14)	11.1	7.7	5.0	1.9	ナデ	1mm 程度の長石、 石英粒含む	5Y6/1 灰	7.5Y7/1 灰白	134･491 ～ 494 と同笵 西の丸Ⅱ 39 と同文	
495	SK23		棟込瓦	巴・左	×	連結する	13	12.3	10.0	5.7	1.5	ナデ、強いナデ	1mm 程度の長石、 石英粒含む	2.5Y6/1 黄灰		353･495 ～ 500 と同笵	
496	SK23		棟込瓦	巴・左	×	連結する	13	12.4	9.5	6.0	1.7	板ナデのちナデ、 円に沿うナデ	1mm 程度の長石、 石英粒含む、赤色粒子やや多い	2.5Y5/1 黄灰	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR4/1 褐灰	353･495 ～ 500 と同笵	
497	SK23		棟込瓦	巴・左	×	連結する	13	12.2	9.9	5.9	1.3		1mm 程度の長石、 石英粒含む	7.5Y7/1 灰白 N4/ 灰	5Y7/1 灰白	353･495 ～ 500 と同笵	
498	SK23		棟込瓦	巴・左	×	連結する	13	12.3	10.0	5.8	1.6	板ナデのちナデ、 円に沿うナデ	1mm 程度の長石、 石英粒含む	5Y6/1 灰	10YR7/1 灰白	353･495 ～ 500 と同笵	
499	SK23		棟込瓦	巴・左	×	連結する	(13)	12.35	10.1	5.8	1.5	ナデ、 円に沿うナデ	1mm 程度の長石、 石英粒やや多い	N4/ 灰	7.5Y6/1 灰 7.5Y5/1 灰	353･495 ～ 500 と同笵	

第 71 表　軒丸瓦観察表（4）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	瓦当文様				法　量				瓦当裏面調整	胎土	色調		同笵・同文関係	備考
				主文様	圏線の有無	巴文の尾の形状	珠文数 () は推定	瓦当径	文様区径	内区径	瓦当厚			表面	断面		
500	SK23		棟込瓦	巴・左	×	連結する	13	12.2	10.1	5.8	1.3	板ナデのちナデ、円に沿う強いナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	5Y5/1 灰 5Y4/1 灰 5Y3/1 オリーブ黒	5Y7/2 灰白	353･495 ～ 500 と同笵	
501	SK23		軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(12)	14.2	8.5	5.4	1.1	ナデ、円に沿うナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	N4/ 灰	5Y7/1 灰白 5Y6/1 灰		
502	SK23		軒丸瓦	巴・左	×		(13)	-	-	-	1.4	ナデ	1mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子含む	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y6/1 黄灰		
503	SK23		軒丸瓦		×		(14)	-	-	-	1.3	ナデ、円に沿うナデ	1mm 程度の長石、石英粒少し	N4/ 灰	5Y8/1 灰白 5Y5/1 灰		
504	SK23		軒丸瓦	巴・左	×		(14)	-	-	-	1.0	ナデ、円に沿うナデ	1mm 程度の長石、石英粒やや多い	10YR6/1 褐灰	10YR7/2 にぶい黄橙		
505	SK23		軒丸瓦		×		-	-	-	-	-		1mm 程度の長石、石英粒含む	2.5Y4/2 暗灰黄 2.5Y3/2 黒褐 2.5Y3/3 暗オリーブ褐	10YR7/2 にぶい黄橙		
506	SK23		軒丸瓦	巴・左	×		-	-	-	-	-		1mm 程度の長石、石英粒含む	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y7/1 灰白 2.5Y6/1 黄灰		
507	SK23		軒丸瓦	巴・左	×		(14)	-	-	-	-	ナデ	1mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子やや多い	N4/ 灰	2.5Y8/1 灰白	西の丸Ⅱ 2 と同文	
508	SK23		軒丸瓦	巴・左	×	連結する	(14)	-	-	-	-	ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む、赤色粒子多い	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR7/6 橙 7.5YR6/2 灰褐	西の丸Ⅱ 2 と同文	
509	SK23		軒丸瓦		×		-	-	-	-	-		1mm 程度の長石、石英粒含む	N3/ 暗灰	N8/ 灰白 N6/ 灰		丸瓦にはコビキ A 痕
510	SK23		軒丸瓦		×		-	-	-	-	-		1mm 程度の長石、石英粒含む、赤色粒子多い	2.5Y5/1 黄灰	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR6/1 褐灰		
511	SK23		軒丸瓦		×		(8.7)	-	-	-	-		1mm 程度の長石、石英粒含む	2.5Y5/2 暗灰黄	5Y8/1 灰白		
512	SK23		鳥衾	巴・左	×	一部連結する	18	14.8	9.8	7.0	1.5	縦方向指ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む、赤色粒子少し	N3/ 暗灰	N8/ 灰白		
601	SK23 SE02 上面		軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(12)	-	-	-	1.8	ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 無	N3/ 暗灰 N3/ 暗灰	7.5Y7/1 灰白		
602	SK23 SE02 上面		軒丸瓦	巴・左	×			-	-	-	-	ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 無 赤色粒 : 無	2.5Y5/2 暗灰 黄 10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/6 橙	西の丸Ⅱ 2 と同文	笵端
735	SK24		軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(12)	-	-	-	1.0	板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	5Y5/1 灰	7.5Y6/1 灰		
736	SK24		軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	12	13.0	9.5	5.2	1.1	ナデ、強いナデ	0.5mm 以下の長石、砂粒少し	5Y6/1 灰	7.5Y8/1 灰白 7.5Y6/1 灰		
737	SK24		軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	(12)	-	-	-	1.5	ナデ、強い円弧状のナデ	白色砂粒 : 中・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 無	7.5Y4/1 灰 N5/ 灰	7.5Y7/1 灰白		

第 72 表　軒丸瓦観察表（5）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	瓦当文様				法　量				瓦当裏面調整	胎土	色調		同笵・同文関係	備考
				主文様	圏線の有無	巴文の尾の形状	珠文数 () は推定	瓦当径	文様区径	内区径	瓦当厚			表面	断面		
738	SK24		軒丸瓦	巴・左	×	連結する	(14)	-	-	-	2.1	ナデ、円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N4/ 灰 7.5Y6/1 灰	7.5Y6/1 灰		
739	SK24		軒丸瓦	巴・左	×	連結する		-	-	-	-	ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：無 赤色粒：無	N3/ 暗灰 N3/ 暗灰	7.5Y7/1 灰白		
740	SK24		軒丸瓦	巴・左	×		(16)	-	-	-	1.5	ナデ、強いナデ	0.5mm 程度の長石、石英粒含む	5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白 5Y6/1 灰		
741	SK24		軒丸瓦				-	-	-	-	-		1mm 程度の長石、石英粒含む	5Y5/1 灰 5Y4/1 灰 5Y3/1 オリーブ黒	7.5Y7/1 灰白 N4/ 灰		
742	SK24		軒丸瓦				-	-	-	-	-		細かい砂粒含む	2.5Y4/1 黄灰	7.5Y5/1 灰		
999	SK25		軒丸瓦	巴・右	×	連結しない	(12)	-	-	-	1.8	ナデ、円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N3/ 暗灰 N3/ 暗灰	7.5Y7/1 灰白		
1017	遺構外		軒丸瓦	巴・左	×	連結しない	13	13.2	10	6.5	2	ナデ、ヨコナデ、円弧状のナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：無 赤色粒：無	7.5Y5/1 灰 7.5Y5/1 灰	2.5Y8/2 灰白		

第 73 表　軒平瓦観察表（1）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	瓦当文様		法　量					調整	胎土	色調	同笵・同文関係	備考
				中心飾り	唐草	瓦当幅	文様区幅	瓦当高	文様区高	瓦当厚					
14	SD02		軒平瓦			-	-	-	1.4	2.2	ナデ、板ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：中・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：中・少	N4/ 灰 N4/ 灰	513 ～ 516 等と同文	
37	SD04		軒平瓦	山形	2 転	-	-	-	-	2	板ナデ、ナデ	白色砂粒：細・少	N5/ 灰 N3/ 暗灰	37 ～ 42 等と同范	平瓦部分全長 24.3cm、幅 22.9 cm、厚さ 1.8cm
38	SD04		軒平瓦	山形	2 転	23	15.6	4.1	2.2	2	板ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：無	5Y5/1 灰 5Y5/1 灰	37 ～ 42 等と同范	
39	SD04		軒平瓦	山形	2 転	-	-	4.2	2	1.8	板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：中・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N5/ 灰 N5/ 灰	37 ～ 42 等と同范	

第 74 表　軒平瓦観察表（2）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	瓦当文様		法　量					調整	胎土	色調	同笵・同文関係	備考
				中心飾り	唐草	瓦当幅	文様区幅	瓦当高	文様区高	瓦当厚					
40	SD04		軒平瓦	山形	2 転	-	-	4	2	2.3	板ナデ、ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 中・少 灰色砂粒 : 中・多 赤色粒 : 無	N4/ 灰 N4/ 灰	37 ～ 42 等と同范	瓦上端部に瓦笵端の痕跡がある
41	SD04		軒平瓦	山形	2 転	-	-	4.1	1.9	1.9	板ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 無	N4/ 灰 N4/ 灰	37 ～ 42 等と同范	
42	SD04		軒平瓦		2 転	-	-	4.2	2.1	2	ナデ、板ナデ	白色砂粒 : 中・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 中・多 赤色粒 : 無	N4/ 灰 N4/ 灰	37 ～ 42 等と同范	
43	SD04		軒平瓦			-	-	2.1	3.7	1.8	ナデ、板ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 中・少 赤色粒 : 無	N5/ 灰 N5/ 灰	37 ～ 42 等と同范か	
44	SD04		軒平瓦			-	-	1.8		2.2	板ナデ	白色砂粒 : 中・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 無	5Y5/1 灰 5Y5/1 灰		
67	SD09		軒平瓦	三葉	2 転	-	-	3.3	2	1.2	板ナデ、ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 無	2.5Y5/1 黄灰 5Y5/1 灰		
68	SD09		軒平瓦			-	-	3.3	2.8	1.8	ナデ、板ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 粗・少 赤色粒 : 粗・少	2.5Y8/2 灰白 5Y8/1 灰白	231 と同文	
69	SD09		軒平瓦	三葉		-	-	(2.7)	1.4	1.4	ナデ、板ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 無	N2/ 黒 N2/ 黒	513 ～ 516 等と同范	
70	SD09		軒平瓦			-	-	3.2	1.5	1.5	ナデ、板ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 無	N3/ 暗灰 N3/ 暗灰	513 ～ 516 等と同范	
135	SE02	井戸枠上部	軒平瓦			-	-	-	-	-	ナデ、板ナデ	白色砂粒 : 中・少 黒色砂粒 : 中・少 灰色砂粒 : 細・少	5Y5/1 灰 5Y5/1 灰	歴博 165 と同文、 318 と同文	
136	SE02	井戸枠上部	軒平瓦			-	-	3.7	2.1	1.7	板ナデ	白色砂粒 : 中・少 黒色砂粒 : 中・少	N3/ 暗灰 7.5Y4/1 灰		
145	SE03	桶の井戸枠内	軒平瓦			-	-	-	-	1.9	板ナデ	白色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少	N5/ 灰 N5/ 灰		
178	SE05	井戸枠内	軒平瓦	三葉	3 転	-	-	2.8	1.4	1.3	板ナデ	白色砂粒 : 中・少 黒色砂粒 : 中・少	N4/ 灰 N4/ 灰	513 ～ 516 等と同范	
208	SE06	井戸内	軒平瓦			-	-	3.2	2	1	板ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 無	5Y4/1 灰 5Y6/1 灰		
226	SE07	井戸内	軒平瓦	宝珠	2 転	21.6	12.2	3.5	2	1.5	板ナデ、ヨコナデ	白色砂粒 : 中・少 黒色砂粒 : 細・少	2.5Y5/1 黄灰 2.5Y5/1 黄灰	西の丸Ⅱ 83 と同文	

第 75 表　軒平瓦観察表（3）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	瓦当文様		法　量					調整	胎土	色調	同笵・同文関係	備考
				中心飾り	唐草	瓦当幅	文様区幅	瓦当高	文様区高	瓦当厚					
227	SE07	井戸内	軒平瓦	三葉		-	-	-	-	1.6	ヨコナデ、板ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	N5/ 灰 5Y6/1 灰		
228	SE07	井戸内	軒平瓦			-	-			1.8	ヨコナデ、ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・多 赤色粒：細・多	7.5YR7/4 にぶい橙 10YR6/2 灰黄褐		
229	SE07	井戸内	軒平瓦			-	-	3.5	2.1	1.8	ナデ、板ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：無	10Y4/1 灰 10Y5/1 灰		
230	SE07	井戸内	軒平瓦			-	-	3.1	1.9	1.7	ヘラケズリ、ナデ、板ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：無	7.5Y5/1 灰 10Y4/1 灰		
231	SE07	井戸内	軒平瓦		4 転	-	-	3.3	2	1.8	板ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：無	2.5Y5/4 黄褐 5Y6/1 灰	68 と同文	
271	SK01		軒平瓦			-	-	3.3	1.7	1.3	板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N4/ 灰 5Y7/1 灰白	西の丸Ⅱ 26 と同文	
296	SK10		軒平瓦	三葉	3 転	-	-	2.8	1.8	1.6	ヨコナデ、板ナデ、マメツ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	N4/ 灰 N3/ 暗灰	513 ～ 516 等と同范	
297	SK10		軒平瓦	三葉	3 転	-	-	2.3	1.5	1.5	板ナデ、ナデ	白色砂粒：無 黒色砂粒：無 灰色砂粒：無 赤色粒：無	N4/ 灰 N3/ 暗灰	513 ～ 516 等と同范	
316	SK11		軒平瓦	三葉	3 転	-	-	3.5	1.5	2.1	ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	7.5Y5/1 灰 N4/ 灰	513 ～ 516 等と同范	
317	SK11		軒平瓦			-	-	3	1.9	1.2	ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：細・少 赤色粒：中・少	2.5Y5/1 黄灰 2.5Y5/1 黄灰		
318	SK11		軒平瓦			-	-	2.9	2	1.4	ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	2.5Y4/1 黄灰 2.5Y4/1 黄灰	歴博 165 と同文 135 と同文	
319	SK11		軒平瓦			-	-	3.7	1.9	1.6	ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：中・少	N5/ 灰 N5/ 灰		
337	SK12	下層	軒平瓦			-	-	3.3	2.2	1.9	ナデ、板ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：細・少	N4/ 灰 N5/ 灰	西の丸Ⅱ 13 と同文	
338	SK12	下層	軒平瓦			-	-	3.4	1.7	1.8	ナデ、板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少	2.5Y6/1 黄灰 2.5Y5/1 黄灰		

第 76 表　軒平瓦観察表（4）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	瓦当文様		法　量					調整	胎土	色調	同笵・同文関係	備考
				中心飾り	唐草	瓦当幅	文様区幅	瓦当高	文様区高	瓦当厚					
355	SK12	上層	軒平瓦			-	-	2.9	1.8	2	ナデ、板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N5/ 灰 N6/ 灰		
356	SK12	上層	軒平瓦			-	-	3.4	2.1	1.1	ナデ、板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：中・少	2.5Y5/1 黄灰 2.5Y5/1 黄灰		
357	SK12	上層	軒平瓦			-	-	-	1.9	0.8	ナデ、板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N4/ 灰 N4/ 灰		
392	SK12	層位不明	軒平瓦			-	-	-	-	1	板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N4/ 灰 N4/ 灰		
398	SK15		軒平瓦			-	-	3	1.6	1	ナデ、板ナデ	白色砂粒：細・多 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	2.5Y4/1 黄灰 2.5Y6/1 黄灰		
399	SK15		軒平瓦			-	-	3.4	2.1	1.1	ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	10YR5/2 灰黄褐 2.5Y5/2 暗灰黄		
405	SK18		軒平瓦			-	-	3.1	1.5	1.9	ナデ、板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N3/ 暗灰 N3/ 暗灰	513 ～ 516 等と同文	
513	SK23		軒平瓦	三葉	3 転	-	-	3.1	1.45	1.5	板ナデ、 横方向ハケ状工具	1mm 程度の長石、石英粒、黒粒含む	N3/ 暗灰	513 ～ 516 等と同文	
514	SK23		軒平瓦			-	-	3.2	1.55	1.6	板ナデ、ヨコナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	N4/ 灰	513 ～ 516 等と同文	
515	SK23		軒平瓦			-	-	3.1	1.5	-	板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	N4/ 灰	513 ～ 516 等と同文	
516	SK23		軒平瓦			-	-	2.5	1.5	1.8	板ナデ、ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：無 赤色粒：無	N3/ 暗灰 N3/ 暗灰	513 ～ 516 等と同文	
517	SK23		軒平瓦			-	-	3.4	2.1	1.1	板ナデのちナデ、板ナデ、マメツ	1mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子含む	N4/ 灰	513 ～ 516 等と同文か	
518	SK23		軒平瓦			-	-	3.4	2.9	1.8	ナデ、ヘラケズリ、板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N3/ 暗灰 N3/ 暗灰		
519	SK23		軒平瓦	四葉		-	-	-	2.3	-	ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：無 赤色粒：無	2.5Y4/1 黄灰 2.5Y5/1 黄灰	歴博 165 と同文	
520	SK23		軒平瓦		3 転	-	-	4.0	2.3	2.3	板ナデ、 強いヨコナデ、 板ナデ	1 ～ 5mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子多い	5YR5/4 にぶい赤褐 N4/ 灰		

第 77 表　軒平瓦観察表（5）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	瓦当文様		法　量					調整	胎土	色調	同笵・同文関係	備考
				中心飾り	唐草	瓦当幅	文様区幅	瓦当高	文様区高	瓦当厚					
521	SK23		軒平瓦			-	-	3.5	1.75	1.7	板ナデ	1 ～ 2mm 程度の長石、石英粒やや多い	N4/ 灰 N3/ 暗灰 N2/ 黒		
522	SK23		軒平瓦			-	-	-	-	-	板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子含む	2.5Y6/2 灰黄 2.5Y4/1 黄灰		
603	SK23 SE02 上面		軒平瓦	三葉	2 転	21.7	15.7	3.5	2.2	1.6	板ナデ、ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 無	N4/ 灰 7.5Y7/1 灰白		
604	SK23 SE02 上面		軒平瓦			-	-	-	-	-	ナデ、板ナデ	白色砂粒 : 細・多 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 中・少	N4/ 灰 N4/ 灰	西の丸Ⅱ 13 と同文	
605	SK23 SE02 上面		軒平瓦			-	-	-	-	1.4	マメツ	白色砂粒 : 細・多 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 無	5Y5/1 灰 5Y7/1 灰白		
743	SK24		軒平瓦	四葉	3 転	24.6	14.6	4.25	2.4	1.9	ヨコナデ、横方向板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	2.5Y5/3 黄褐 2.5Y3/1 黒褐 2.5Y3/2 黒褐	歴博 160 と同文	
744	SK24		軒平瓦	山形	2 転	-	-	4.4	2.1	1.8	板ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 無	7.5YR5/2 灰褐 5Y5/1 灰	39 ～ 42 等と同文	
745	SK24		軒平瓦		3 転か	-	-	3.8	2.1	1.7	板ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 無	5Y5/1 灰 5Y3/1 オリーブ黒		
746	SK24		軒平瓦			-	-	3.0	1.5	1.2	ヨコナデ、接合痕あり、ハケ風のナデ？	1mm 程度の長石、石英粒含む	N3/ 暗灰	513 ～ 516 等と同文	
747	SK24		軒平瓦			-	-	3.6	2.0	1.6	横方向板ナデ、ヨコナデ	1mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子やや多い	7.5YR4/1 褐灰 7.5YR5/1 褐灰 7.5YR3/1 黒褐		
1007	SK24 ・25 上面		軒平瓦	山形	2 転	-	-	4.3	2.2	1.9	板ナデ、マメツ	白色砂粒 : 中・少 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 細・少	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙	39 ～ 42 等と同范	
1008	SK24 ・25 上面		軒平瓦			-	-	4.2	2	1.6	板ナデ	白色砂粒 : 細・多 黒色砂粒 : 細・少 灰色砂粒 : 細・多 赤色粒 : 細・多	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR6/3 にぶい黄橙		
1018	遺構外		軒平瓦		3 転	-	-	-	-	-	ナデ、板ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 無 灰色砂粒 : 無 赤色粒 : 細・少	7.5Y7/1 灰白 7.5Y7/1 灰白		
1019	遺構外		軒平瓦	三葉		-	-	3.5	1.7	1.6	ナデ、マメツ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 無 灰色砂粒 : 細・少 赤色粒 : 無	N4/ 灰 N4/ 灰		
1020	遺構外		軒平瓦			-	-	3.9	2.4	2.2	板ナデ、ナデ	白色砂粒 : 細・少 黒色砂粒 : 無 灰色砂粒 : 無 赤色粒 : 細・少	N5/ 灰 5Y5/1 灰		

第 78 表　軒平瓦観察表（6）

報文番号	報告遺構	層位等	器種	瓦当文様		法　量					調整	胎土	色調	同笵・同文関係	備考
				中心飾り	唐草	瓦当幅	文様区幅	瓦当高	文様区高	瓦当厚					
1021	遺構外		軒平瓦			-	-	3.9	2.4	1.6	ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	5Y5/1 灰 5Y5/1 灰		

第 79 表　丸瓦観察表（1）

報文番号	報告遺構	層名等	器種	法量				調整		胎土	色調			備考
				全長（残存長）	幅（残存幅）	厚さ	玉縁の有無	凸面	凹面		凸面	凹面	断面	
45	SD04		丸瓦	24.5	(10.1)	1.7	無	板ナデ	布目痕、面取り	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：中・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：無	N5/ 灰	N4/ 灰	N7/ 灰白	玉縁を持たない
46	SD04		丸瓦	30.0	13.6	-	有 4.0	板ナデ	コビキ B、布目痕、吊り紐痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	N5/ 灰	
47	SD04		丸瓦	(28.8)	14.8	-	-	板ナデ	布目痕、吊り紐痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	5Y7/1 灰白	
154	SE04	井戸内	丸瓦	21.6	12.0	1.5	有 2.8	板ナデ、ナデ	コビキ B、布目痕、刺し子痕、面取り	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：無 赤色粒：無	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰		
179	SE05	井戸枠内	丸瓦	(15.5)	12.8	1.7	有 3.1	ナデ	コビキ B、布目痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N4/ 灰	N3/ 暗灰	7.5YR7/3 にぶい橙	釘孔 1 ヶ所
232	SE07	井戸内	丸瓦	23.5	11.8	1.4	有 2.2	板ナデ	コビキ B、布目痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：無 赤色粒：無	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y6/2 灰黄	
233	SE07	井戸内	丸瓦	(23.9)	13.0	1.5	有 3.4	板ナデ	コビキ B、布目痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N4/ 灰	N4/ 灰	5Y7/1 灰白	
234	SE07	井戸内	丸瓦	23.2	12.9	1.6	有 3.3	板ナデ、ヨコナデ	コビキ B、布目痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：無	N5/ 灰	N3/ 暗灰	5Y8/1 灰白	
235	SE07	井戸内	丸瓦	24.3	13.0	1.7	有 2.5	板ナデ	コビキ B、布目痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：中・少	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/1 灰白	

第 80 表　丸瓦観察表（2）

報文番号	報告遺構	層名等	器種	法量				調整		胎土	色調			備考
				全長（残存長）	幅（残存幅）	厚さ	玉縁の有無	凸面	凹面		凸面	凹面	断面	
236	SE07	井戸内	丸瓦	26.0	13.3	2.2	有 3.9	板ナデ、ナデ	コビキ B、布目痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：細・少	10YR7/3 にぶい黄橙 N3/ 暗灰	2.5Y8/1 灰白 N3/ 暗灰	2.5Y8/1 灰白	
237	SE07	井戸内	丸瓦	24.4	13.0	1.7	有 4.0	板ナデ	コビキ B、布目痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：無 赤色粒：無	N3/ 灰	N3/ 灰	5Y7/1 灰白 N6/ 灰	
238	SE07	井戸内	丸瓦	27.3	13.8	1.8	有 3.1	板ナデ、ナデ	コビキ B、布目痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：無 赤色粒：無	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	5Y7/2 灰白	
239	SE07	井戸内	丸瓦	-	13.3	1.8	有 2.7	板ナデ	コビキ B、布目痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：中・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：中・少	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	7.5YR8/4 浅黄橙	
298	SK10		丸瓦	(25.5)	12.9	2.1	-	板ナデ	コビキ B、布目痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	5Y8/1 灰白	
339	SK12	下層	丸瓦	22.7	12.6	1.4	有 2.8	板ナデ	布目痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：無 赤色粒：無	5Y5/1 灰	7.5Y5/1 灰	7.5Y7/1 灰白	
358	SK12	上層	丸瓦	26.0	(12.2)	-	有 3.1	板ナデ	コビキ B、布目痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	2.5Y6/1 黄灰	N4/ 灰	5Y7/1 灰白	
359	SK12	上層	軒丸瓦	25.9	12.7	1.8	有 2.8	板ナデ	コビキ B、布目痕、面取り	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	瓦当は剝れ残らない 釘孔 1 ヶ所あり
523	SK23		丸瓦	(22.4)	6.2	1.6	有 3.1	ヨコナデ、面取り、ヨコナデのち縦方向ヘラミガキ	布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒少し含む	N6/ 灰	N7/ 灰白	10YR8/1 灰白	
524	SK23		丸瓦	(16.9)	-	2.2	有 2.9	ヨコナデのち縦方向ヘラミガキ	布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒含む	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	N8/ 灰白 N6/ 灰	
525	SK23		丸瓦	(13.0)	-	3.9	有 (3.7)	ナデ	布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒含む、赤色粒子多い	10YR6/1 褐灰	10YR5/1 褐灰	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR7/1 灰白	
526	SK23		丸瓦	(13.4)	-	2.1	有 2.1	ナデ、縦方向ヘラミガキ	布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒含む	N4/ 灰 7.5Y7/1 灰白	5Y6/1 灰 5Y6/2 灰オリーブ	5Y8/1 灰白	
527	SK23		丸瓦	(14.65)	-	1.9	有 2.8	縦方向板ナデ	布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒含む、赤色粒子多く含む	2.5Y5/1 黄灰 2.5Y4/1 黄灰 2.5Y3/1 黒褐	2.5Y4/1 黄灰 2.5Y3/1 黒褐 2.5Y2/1 黒	5Y8/1 灰白	
528	SK23		丸瓦	(13.4)	-	1.1	無	横方向ナデ	コビキ B、布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒含む、黒色粒子やや多い	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	5Y7/1 灰白	玉縁を持たない 棟飾り用か
529	SK23		丸瓦	(18.7)	-	2.0	-	縦ナデ、板ナデ	コビキ B、布目痕	1mm 程度の長石、石英粒やや多い	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	5Y8/1 灰白	
530	SK23		丸瓦	-	-	1.8	-	縦方向板ナデ	コビキ B、布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒含む	N4/ 灰	N4/ 灰	5Y8/1 灰白	

第 81 表　丸瓦観察表（3）

報文番号	報告遺構	層名等	器種	法量				調整		胎土	色調			備考
				全長（残存長）	幅（残存幅）	厚さ	玉縁の有無	凸面	凹面		凸面	凹面	断面	
531	SK23		丸瓦	(13.7)	-	1.9	-	縦方向板ナデ、ミガキ？	コビキ B、面取り	1 ～ 5mm 程度の長石、石英粒やや多い	5Y7/2 灰白 5Y6/2 灰オリーブ 5Y5/1 灰 5Y4/1 灰	5Y7/2 灰白 5Y6/1 灰 5Y6/2 灰オリーブ 5Y5/2 灰オリーブ	5Y7/1 灰白	
532	SK23		丸瓦	(13.6)	-	2.1	-	板ナデのちナデ	布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒含む、赤色粒子多い	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/1 褐灰	
533	SK23		丸瓦	(16.2)	-	2.0	-	縦方向板ナデ、ヘラミガキ	コビキ B、布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒含む	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	5Y8/1 灰白	
534	SK23		丸瓦	(10.8)	-	1.4	-	横方向ナデ	布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒含む	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	N8/ 灰白	
748	SK24		丸瓦	(20.7)	-	1.8	有 2.6	ナデ、縦方向板ナデのちナデ	コビキ B、布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒少し	N5/ 灰	N5/ 灰	5Y7/1 灰白 5Y5/1 灰	
749	SK24		丸瓦	(14.8)	-	2.0	有 2.4	縦方向板ナデのちナデ	布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒含む	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	5Y8/1 灰白	
750	SK24		丸瓦	(11.0)	-	1.9	有 2.9	縦方向板ナデ	布目痕	1mm 程度の長石、石英粒含む	5B4/1 暗青灰 5B3/1 暗青灰	5B4/1 暗青灰 5B3/1 暗青灰	5Y8/1 灰白	釘孔 1 ヶ所あり
751	SK24		丸瓦	(8.6)	-	2.0	有 2.8	横方向板ナデ	布目痕、吊り紐痕		N4/ 灰	N4/ 灰	N8/ 灰白 N7/ 灰白	
752	SK24		丸瓦	(11.1)	-	1.5	有 (2.2)	横方向板ナデのちナデ	布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒やや多い	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	N8/ 灰白	
753	SK24		丸瓦	(11.0)	-	1.9	-	縦方向板ナデ	布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒含む	10YR4/1 褐灰 10YR5/4 にぶい黄褐 10YR3/1 黒褐 10YR2/1 黒	10YR4/1 褐灰 10YR5/4 にぶい黄褐 10YR3/1 黒褐 10YR2/1 黒	10Y8/1 灰白	
754	SK24		丸瓦	(11.8)	-	2.2	-	縦方向板ナデのちナデ、指オサエ	コビキ B、布目痕、面取り	細かい砂粒含む	N4/ 灰	N4/ 灰	7.5Y7/1 灰白	
755	SK24		丸瓦	(13.6)	-	1.6	-	縦方向板ナデ	布目痕、面取り	1mm 程度の長石、石英粒含む	7.5Y5/1 灰 7.5Y3/1 オリーブ黒 7.5Y2/1 黒	7.5Y5/1 灰 7.5Y3/1 オリーブ黒 7.5Y2/1 黒	7.5Y7/1 灰白 7.5Y5/1 灰	
756	SK24		丸瓦	(11.1)	12.9	1.7	-	板ナデ	布目痕、面取り	0.5mm 程度の長石少し含む	N3/ 暗灰 2.5Y3/1 黒褐	N3/ 暗灰 2.5Y3/1 黒褐	5Y8/1 灰白	
757	SK24		丸瓦	(10.8)	-	1.4	-	縦方向板ナデ、マメツ	コビキ B、布目痕、面取り	細かい砂粒含む	N4/ 灰	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白 5Y6/1 灰	

第 82 表　平瓦観察表（1）

報文番号	報告遺構	層名等	器種	法量				調整		胎土	色調		備考
				全長（残存長）	狭端幅（残存幅）	広端幅（残存幅）	厚さ	凸面	凹面		凸面	凹面	
48	SD04		平瓦	28.0	(17.1)	-	1.3	マメツ	板ナデ	白色砂粒：中・多 黒色砂粒：中・少 灰色砂粒：中・多 赤色粒：無	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/3 浅黄	
71	SD09		平瓦	23.9	-	22.7	1.3	板ナデ、ヘラケズリ	板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰	
137	SE02	井戸枠の上部	熨斗瓦	(16.7)	11.7	-	1.8	板ナデ	板ナデ、面取り	白色砂粒：細・多 黒色砂粒：細・多 灰色砂粒：細・多	5Y6/1 灰	N3/ 暗灰	

第 83 表　平瓦観察表（2）

報文番号	報告遺構	層名等	器種	法量				調整		胎土	色調		備考
				全長（残存長）	狭端幅（残存幅）	広端幅（残存幅）	厚さ	凸面	凹面		凸面	凹面	
240	SE07	井戸内	平瓦	25.0	19.9	21.1	1.6	板ナデ、ヘラケズリ	板ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：細・少	N3/ 暗灰	N4/ 灰	
241	SE07	井戸内	平瓦	30.2	(12.5)	-	2.5	板ナデ、ヘラケズリ	板ナデ	白色砂粒：中・多 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：無	N3/ 暗灰	N4/ 灰	
242	SE07	井戸内	海鼠瓦	25.5	25.1	-	2.0	板ナデ、ヘラケズリ	板ナデ	白色砂粒：中・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	N4/ 灰	7.5Y6/1 灰	穿孔 3 か所残るしっくいが一部に残る
243	SE07	井戸内	海鼠瓦	25.6	25.4	-	1.8	板ナデ	板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：中・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：無	N4/ 灰	N4/ 灰	穿孔 3 ヶ所残内 1 ヶ所には鉄の錆びが付着か
320	SK11		平瓦	23.6	(19.4)	-	1.5	ナデ	板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：無 赤色粒：無	5Y6/1 灰	7.5Y5/1 灰	
321	SK11		平瓦	23.5	(18.5)	-	1.6	ヘラケズリ、ナデ	板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：無 赤色粒：無	N5/ 灰	7.5Y5/1 灰	
322	SK11		平瓦	23.5	-	-	1.5	ナデ、ヘラケズリ	板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：細・ 赤色粒：無	N5/ 灰	N5/ 灰	
323	SK11		平瓦	24.5	(11.0)	-	1.4	ヘラケズリ、ナデ	板ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：無 赤色粒：細・少	2.5Y5/1 黄灰	5Y7/2 灰白	
535	SK23		平瓦	27.5	24.5	21.8	1.7	板ナデ	板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	N2/ 黒	N2/ 黒	
536	SK23		平瓦	29.2	-	(24.5)	1.5	板ナデ	ヨコナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	10YR6/1 褐灰 10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/3 にぶい黄橙 10YR6/2 灰黄褐 10YR5/2 灰黄褐	2.5Y6/1 黄灰 2.5Y5/1 黄灰 2.5Y7/2 灰黄 2.5Y6/2 灰黄 2.5Y5/2 暗灰黄	
537	SK23		平瓦	27.8	-	-	1.4	縦方向板ナデ	主に横方向板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子含む	N4/ 灰	N4/ 灰	
538	SK23		平瓦	26.8	-	-	1.5	縦方向板ナデ	主に横方向板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子含む	N2/ 黒	N2/ 黒	
539	SK23		平瓦	26.2	-	(11.55)	1.4	縦方向板ナデ	主に板ナデ、縦方向ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	5Y4/1 灰 5Y3/1 オリーブ黒	5Y4/1 灰 5Y3/1 オリーブ黒	
540	SK23		平瓦	(27.0)	-	(16.4)	1.8	縦方向板ナデ	ヨコナデ のち端だけ板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子含む	5Y6/1 灰 N4/ 灰	N6/ 灰 N5/ 灰	
541	SK23		平瓦	(24.1)	-	-	1.5	板ナデ	板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	N4/ 灰	N4/ 灰	

第 84 表　平瓦観察表（3）

報文番号	報告遺構	層名等	器種	法量				調整		胎土	色調		備考
				全長（残存長）	狭端幅（残存幅）	広端幅（残存幅）	厚さ	凸面	凹面		凸面	凹面	
542	SK23		平瓦	(20.2)	-	-	1.6	縦方向ヘラケズリ	横方向ナデ	1mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子含む	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	
543	SK23		平瓦	(18.75)	-	(17.2)	1.8	縦方向板ナデ	縦横方向板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒、黒粒含む	2.5Y7/1 灰白 2.5Y4/1 黄灰 2.5Y2/1 黒	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y6/2 灰黄 7.5Y6/1 灰 7.5Y2/1 黒 2.5Y2/1 黒	
544	SK23		平瓦	(14.5)	-	(13.0)	1.7	縦方向板ナデ	横方向板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒、3mm 程度のクサリ礫含む	N4/ 灰	N4/ 灰	
545	SK23		平瓦	(12.9)	-	(12.4)	1.65	横方向板ナデ、縦方向板ナデ	横縦方向板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	2.5Y5/1 黄灰 2.5Y4/1 黄灰 2.5Y3/1 黒褐	5Y5/1 灰 5Y4/1 灰 5Y3/1 オリーブ黒 5Y3/2 オリーブ黒	
546	SK23		平瓦	(16.9)	-	-	1.6	縦方向板ナデ	縦方向板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	N5/ 灰	N5/ 灰	
547	SK23		平瓦	(20.0)	-	-	1.6	縦方向板ナデ	主に横方向板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	N4/ 灰 N5/ 灰	N4/ 灰 N5/ 灰	
548	SK23		平瓦	(19.2)	-	(10.85)	1.5	縦方向板ナデ	横方向板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子含む	2.5Y6/1 黄灰 2.5Y5/1 黄灰 2.5Y4/1 黄灰	2.5Y6/2 灰黄 2.5Y6/1 黄灰 2.5Y5/1 黄灰 2.5Y4/1 黄灰 2.5Y3/1 黒褐	
549	SK23		平瓦	(14.9)	-	(14.6)	1.6	縦方向板ナデ	ヨコナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	N5/ 灰	N5/ 灰	
550	SK23		平瓦	(16.0)	-	-	1.3	板ナデ	板ナデ	0.5mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子黒色粒子含む	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	
551	SK23		平瓦	(14.5)	-	-	1.4	縦方向板ナデ	ヨコナデ	1mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子含む	10YR5/1 褐灰	10YR5/1 褐灰	
552	SK23		平瓦	-	-	-	1.7	格子タタキ	ナデ	1 ～ 3mm 程度の長石、石英粒やや多い	7.5Y7/2 灰白 10YR6/3 にぶい黄橙 10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR3/1 黒褐	
553	SK23		海鼠瓦	(11.5)	-	26.0	1.7	縦方向板ナデ	板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	釘穴 2 ヶ所、うち 1 ヶ所には釘残存
758	SK24		平瓦	27.4	-	-	1.6	ナデ	指オサエ、ナデ	0.5mm 程度の長石含む	N5/ 灰	N4/ 灰	
759	SK24		平瓦	(12.2)	-	-	1.9	縦方向板ナデ	横方向ナデ	1mm 程度の長石、石英粒、雲母やや多い	5Y7/1 灰白	N3/ 暗灰	
760	SK24		平瓦	(16.1)	-	-	1.9	横方向ナデ	横方向板ナデ、縦方向板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	2.5Y3/1 黒褐 2.5Y2/1 黒	2.5Y3/1 黒褐 2.5Y2/1 黒	
761	SK24		平瓦	(16.7)	-	-	1.9	縦方向板ナデ	板ナデのちナデ	0.5mm 程度の長石、石英粒、赤色粒子	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	
762	SK24		平瓦	(14.4)	-	-	1.8	縦方向板ナデ	横方向板ナデ、マメツ	1mm 程度の長石、石英粒赤色粒子含む	10YR6/1 褐灰	10YR6/1 褐灰	
763	SK24		平瓦	(8.4)	-	-	1.7		横方向ナデ	1mm 程度の長石、赤色粒子含む	10YR6/1 褐灰 10YR4/1 褐灰	10YR6/1 褐灰 10YR4/1 褐灰	

第 85 表　平瓦観察表（4）

報文番号	報告遺構	層名等	器種	法量				調整		胎土	色調		備考
				全長（残存長）	狭端幅（残存幅）	広端幅（残存幅）	厚さ	凸面	凹面		凸面	凹面	
764	SK24		平瓦	(8.65)	-	-	1.8	縦方向板ナデ	調整が目立たない	1 ～ 5mm 程度の長石、石英粒多い	N3/ 暗灰 N2/ 黒	N3/ 暗灰 N2/ 黒	
765	SK24		平瓦	(12.7)	-	-	1.6	縦方向板ナデ のち横方向ナデ	横方向ナデ、マメツ	0.5mm 程度の長石、石英粒含む	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	
766	SK24		平瓦	(18.55)	-	-	1.6	横方向板ナデ、 縦方向板ナデ	横方向板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒少し	2.5Y6/1 黄灰 2.5Y5/1 黄灰 2.5Y4/1 黄灰 2.5Y5/2 暗灰黄 2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y6/1 黄灰 2.5Y5/1 黄灰 2.5Y4/1 黄灰 2.5Y5/2 暗灰黄 2.5Y4/2 暗灰黄	
767	SK24		平瓦	(10.8)	-	-	1.6	ナデ	ナデ	細かい砂粒含む、赤色粒子多い	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y5/1 黄灰	
768	SK24		平瓦	(12.9)	-	-	1.5	縦横方向ナデ？	横方向板ナデ	細かい砂粒含む、赤色粒子含む	2.5Y6/2 灰黄 2.5Y5/2 暗灰黄 2.5Y3/1 黒褐	2.5Y6/2 灰黄 2.5Y5/2 暗灰黄 2.5Y3/2 黒褐	
769	SK24		平瓦	(5.9)	-	-	1.6	ナデ	ナデ		2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	
770	SK24		平瓦	(12.5)	-	-	1.5	縦方向板ナデ	横方向板ナデ のちナデ、マメツ	1mm 程度の長石、石英粒多い	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/1 黄灰	
771	SK24		平瓦	(10.9)	-	-	1.4	マメツ	横方向ナデ、マメツ のち一部縦方向ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む	N4/ 灰	N4/ 灰	
772	SK24		平瓦	(14.4)	-	-	1.4	板ナデ	ナデ	1mm 程度の長石、石英粒やや多い	N6/ 灰	5Y6/1 灰	
773	SK24		平瓦	(11.5)	-	-	1.4	ナデ	ナデ、マメツ	0.5mm 程度の長石、石英粒含む	N4/ 灰	N4/ 灰	
774	SK24		平瓦	(8.3)	-	-	1.4	ナデ	ナデ	0.5mm 程度の長石、石英粒	N4/ 灰	N3/ 暗灰	
775	SK24		平瓦	(10.8)	-	-	1.3	縦方向板ナデ	横方向板ナデ (丁寧なナデ)	ほとんど砂粒を含まない	N4/ 灰	N4/ 灰	
776	SK24		平瓦	(11.8)	-	-	1.1	板ナデ	板ナデ	1mm 程度の長石、石英粒含む、雲母あり	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	
777	SK24		平瓦	(9.2)	-	-	1.15	ナデ	ナデ	0.5mm 程度の長石少し	N3/ 暗灰	N4/ 灰	
778	SK24		海鼠瓦	(10.5)	-	-	1.7	ナデ	ナデ	0.5mm 程度の長石、石英粒少し	N4/ 灰	N3/ 暗灰	
779	SK24		平瓦	(9.0)	-	-	1.5	板ナデ	横方向ナデ	0.5mm 程度の長石、石英粒含む、赤色粒子多い	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	

第 86 表　軒桟瓦観察表

報文番号	報告遺構	器種	瓦当文様		法量（ｃｍ）					法量（ｃｍ）				調整			胎土	色調			備考
			中心飾り	唐草	瓦当幅	文様区幅	瓦当高	文様区高	瓦当厚	全長（残存長）	狭端幅（残存幅）	広端幅（残存幅）	厚さ	凸面	凹面	瓦当上面		凸面	凹面	断面	
606	SK23 SE02上面	軒桟瓦			-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	板ナデ	板ナデ		白色砂粒：細・少 黒色砂粒：無 灰色砂粒：細・少 赤色粒：無	10YR7/3 にぶい黄橙	5Y2/1 黒	2.5Y7/1 灰白	

第 87 表　鬼瓦観察表

報文番号	報告遺構	層位	器種	法量（ｃｍ）				調整		胎土	色調			備考
				高さ	幅	奥行	厚さ	外面	内面		外面	内面	断面	
340	SK12	下層	鬼瓦	13.3	17.2	10.6	10.6	ナデ	ナデ	白色砂粒：細・少 黒色砂粒：細・少 灰色砂粒：中・少 赤色粒：無	N6/ 灰	N6/ 灰	7.5Y8/1 灰白	

第 88 表　鯱観察表

報文番号	報告遺構	層位	器種	法量（ｃｍ）				調整		胎土	色調			備考
				高さ	幅	奥行	厚さ	外面	内面		外面	内面	断面	
72	SD09		鯱	最大長 (10.0)	最大 幅 (8.1)		2.1	板ナデ、ウロコ	板ナデ、ナデ	白色砂粒：細・少	5Y5/1 灰	5Y6/1 灰	2.5Y7/2 灰黄	

第 89 表　石器観察表

報文番号	報告遺構	器種	法　量				備考
			現存長	最大幅	最大厚	重量	
73	SD09	硯	8.7	5.7	1.6	171.98	裏「　」之高田石」か
152	SE03	井戸枠	口径 93.5	高さ 50.0	底径 96.4		残存率 4/8
324	SK11	砥石	6.3	5.1	1.4	54.71	残存面はすべて使用によりマメツ
554	SK23	砥石	-	4.0	0.7	19.55	残存面はすべて使用によりマメツ
780	SK24	用途不明	6.4	5.0	1.1	50.53	片面に墨書

第 90 表　金属器観察表

報文番号	報告遺構	層位	種類	長さ	幅	厚み	重量	材質	備考
49	SD04		毛抜き	8.6	1.3	0.3		鉄	
74	SD09		銭	2.4	2.4	0.1	3.08	銅	熙寧元宝 (篆書体)
138	SE02	井戸枠上部	不明	2.9	3.0	高さ 1.5	1.77	銅	
139	SE02	井戸枠上部	銭	2.5	2.5	0.2	4.08	銅	寛永通宝
140	SE02	井戸枠上部	銭	2.4	2.4	0.1	2.34	銅	銭種不明、摩耗が著しい
155	SE04	井戸内	簪	19.8	1.2	0.2	9.27	真鍮	
169	SE04	井戸枠上面	容器の把手	13.6	21.2	0.1	38.13	鉄	
276	SK04		針状	3.8	0.4	0.3	0.82	鉄	
303	SK10-SD09	土層観察用畦	銭	2.5	2.4	0.1	2.94	銅	銭種不明、摩耗が著しい
406	SK18		キセル	1.0	5.2	0.9	3.90	真鍮	雁首、先端部分剥離？
409	SK20		刀装具	0.6	1.7	0.2	1.31	金	栗尻にはめ込む金具
607	SK23 SE02上面		キセル	0.9	7.8	0.9	4.22	真鍮	吸口
608	SK23 SE02上面		銭	-	2.4	0.1	2.30	銅	寛永通宝
781	SK24		燭台の皿または秤皿か	口径 6.0	器高 1.8	底径 5.4		銅	
782	SK24		キセル	2.6	5.5	1.5	6.65	真鍮	雁首
783	SK24		不明	0.9	8.8	0.8	5.83	真鍮	
784	SK24		キセル	1.1	7.8	0.8	5.10	真鍮	吸口
785	SK24		キセル	0.9	7.0	0.8	3.68	真鍮	吸口
786	SK24		釘	8.9	1.0	0.5		鉄	
787	SK24		鈎状金具	3.8	2.7	0.6	3.52	鉄	
788	SK24		不明	7.1	0.5	0.5	2.30	鉄	
789	SK24		不明	21.6	0.9	0.8	21.19	鉄	
790	SK24		不明	4.2	9.3	0.6	34.17	鉄	
791	SK24		銭	2.4	2.4	0.1	2.94	銅	熙寧元宝 (篆書体)
792	SK24		銭	2.4	2.4	0.2	3.61	銅	至大通宝

第 91 表　木器観察表（1）

報文番号	報告遺構	層名	器種	現存長	最大幅	最大厚	口径（直径）	器高	高台径（つまみ径）	木取り	材質	備考
83	SE01	石組内	蓋又は底板	12.0	4.3	0.5	13.4			柾目		
84	SE01	石組内	蓋又は底板	14.8	4.0	1.4	17.4			板目	スギ	
85	SE01	石組内	卒塔婆	47.0	11.0	0.7				板目	モミ属	3 点接合。釋　南無 [　]　　願主
156	SE04	井戸内	手桶側板	23.2	6.5	1.0				柾目	スギ	
157	SE04	井戸内	手桶側板	23.2	7.3	1.0				板目	スギ	
158	SE04	井戸内	蓋又は底板	13.2	3.4	1.2	17.8			柾目	スギ	断面 2 箇所にホゾ孔
209	SE06	井戸枠内	蓋又は底板	8.9	5.1	0.7	13.0/11.4			柾目	アスナロ	
210	SE06	井戸枠内	蓋又は底板	12.5	5.1	0.6				柾目	アスナロ	
244	SE07	井戸枠内	漆椀　蓋								ブナ	(内) 赤漆 ,(外) 赤漆
245	SE07	井戸枠内	櫛	4.7	9.7	0.5				不明	イスノキ	全面に漆
246	SE07	井戸枠内	櫛	3.5	8.9	1.2				柾目	広葉樹	
247	SE07	井戸枠内	櫛	1.7	6.4	1.3				柾目	イスノキ	
248	SE07	井戸枠内	木簡	14.5	2.9	0.5				柾目	マツ科モミ属	三木郡水上
249	SE07	井戸枠内	蓋又は底板	10.9	4.1	0.5	15.2			柾目	モミ属	
250	SE07	井戸枠内	栓	5.8	2.5	2.4				芯去削出	アスナロ	
259	SE07	井戸枠上面	木簡	10.0	2.2	0.5				板目	スギ	主参
260	SE07	井戸枠上面	木簡	12.1	2.4	0.8					マツ科モミ属	戸祭主水 / 番つつら
261	SE07	井戸枠上面	下駄	20.8	8.9	2.3					台 / カツラ　後歯 / カツラ	
407	SK18		栓	12.0	1.8	1.4				追柾目	アスナロ	
555	SK23		蓋又は底板	8.5	8.2	0.6	8.2			柾目	スギ	
556	SK23		蓋又は底板	8.2	7.4	0.6	8.2			柾目	スギ	
557	SK23		蓋又は底板	10.3	2.9	0.4	13.2			追柾目	アスナロ	
558	SK23		折敷の脚部	9.4	40.4	2.0				柾目	モミ属	
559	SK23		チュウ木	22.3	0.9	0.55				芯去削出	モミ属	
560	SK23		チュウ木	22.4	0.7	0.45				芯去削出	モミ属	
561	SK23		チュウ木	22.5	0.8	0.5				芯去削出	モミ属	
562	SK23		チュウ木	22.6	0.7	0.5				芯去削出	モミ属	
563	SK23		チュウ木	22.9	0.7	0.6				芯去削出	モミ属	
564	SK23		チュウ木	23.1	0.7	0.6				芯去削出	モミ属	
565	SK23		チュウ木	23.75	1.0	1.0				芯去削出	スギ	
566	SK23		木簡	13.5	1.9	0.8				柾目	ヒノキ科ヒノキ属	野左衛門 / 不明
567	SK23		木簡	12.3	1.7	0.5				板目	モミ属	□森
568	SK23		木簡	9.9	1.8	0.4				柾目	ヒノキ科ヒノキ属	田中右兵衛 /(文様) 宮ノ□□
569	SK23		木簡	9.9	2.0	0.4				柾目	ヒノキ科ヒノキ属	(墨書あり)
570	SK23		木簡	7.6	2.3	0.2				柾目		
571	SK23		木簡	8.6	2.1	0.2				板目	マツ科モミ属	山田郡西上田 / 甚三郎分
572	SK23		木簡	5.5	2.0	0.2				板目	ヒノキ	]　銑右衛門□
573	SK23		刷毛の柄	11.0	5.3	0.9				柾目	スギ	
574	SK23		下駄	21.3	8.7	2.5				板目	トネリコ属	
793	SK24		漆椀				11.0	8.6	5.8	横木他	ケヤキ	(内) 赤漆、(外) 黒漆、草花文
794	SK24		漆椀				10.2	6.9	4.6	横木他	トチノキ	(内) 赤漆、(外) 黒漆、松葉文
795	SK24		漆椀				11.8	9.9	6.2	横木他	トチノキ	(内) 赤漆、(外) 黒漆、丸に花文
796	SK24		漆椀				11.0	9.0	5.9	横木他	ブナ	(内) 赤漆、(外) 赤漆、丸に巴文

第 92 表　木器観察表（2）

報文番号	報告遺構	層名	器種	現存長	最大幅	最大厚	口径（直径）	器高	高台径（つまみ径）	木取り	材質	備考
797	SK24		漆椀				-	-	-	横木他	トチノキ	（内）赤漆、（外）黒漆、丸に葉文
798	SK24		漆椀				-	-	-	横木他	トチノキ	（内）赤漆、（外）黒漆、丸に葉文
799	SK24		漆椀				12.4	9.5	6.0	横木地		
800	SK24		漆椀				-	-	6.6	横木地	ブナ	損傷著しい、（内）赤漆、（外）赤漆
801	SK24		漆椀				-	-	6.2	横木地	ブナ	（内）赤漆、（外）黒漆
802	SK24		漆椀				-	-	5.8	横木地		
803	SK24		漆椀				10.4	-	-	横木地	ブナ	（内）赤漆、（外）黒漆
804	SK24		漆椀				-	-	6.0	横木地	ブナ	（内）赤漆、（外）黒漆
805	SK24		漆椀				-	-	5.9	横木地	ブナ	損傷著しい、（内）赤漆、（外）黒漆
806	SK24		漆椀				-	-	-	横木地	トチノキ	（内）赤漆、（外）黒漆、丸
807	SK24		漆椀				(10.4)				広葉樹散孔材	（内）赤漆、（外）黒漆、丸に茗荷文？
808	SK24		漆椀				11.0	-	-	横木地	広葉樹散孔材	（内）赤漆、（外）黒漆、丸に茗荷文？
809	SK24		漆椀					-	5.3	横木地	ブナ	（内）赤漆、（外）黒漆
810	SK24		漆椀				-	-	-	横木地	トチノキ	（内）赤漆、（外）黒漆
811	SK24		漆椀　蓋				10.6	2.8	5.4（天井部）	横木地	ケヤキ	（内）黒漆、（外）黒漆、草花文
812	SK24		漆椀　蓋				12.0	-	-	横木地	ホオノキ	（内）黒漆、（外）黒漆、草花文
813	SK24		漆椀　蓋				11.0	-	-	横木地	トチノキ	（内）赤漆、（外）黒漆、文様あり
814	SK24		漆椀　蓋				12.0	-	-	横木地	トチノキ	（内）赤漆、（外）黒漆、文様あり
815	SK24		漆椀　蓋				12.6	4.1	6.6	横木地	ホオノキ	（内）赤漆、（外）黒漆、丸に葉文
816	SK24		漆椀　蓋				11.5	3.9	5.0（天井部）	横木地	ブナ	（内）赤漆、（外）赤漆、2 点接合
817	SK24		漆椀　蓋				10.8	2.5	5.0	横木地	ブナ	（内）赤漆、（外）赤漆
818	SK24		漆椀　蓋				10.0	2.2	3.6	横木地	広葉樹材	（内）赤漆、（外）赤漆、5 点接合
819	SK24		蓋	9.0	8.7	0.4				板目	広葉樹材	（内）赤漆、（外）黒漆
820	SK24		蓋	12.8	3.1	0.7						
821	SK24		容器				20.4	7.3	17.1		ニレ科ケヤキ属ケヤキ	全面黒漆
822	SK24		容器　把手	12.2	1.4	1.8					ヒノキ	赤漆
823	SK24		曲げ物　側板	-	-	0.2				柾目	スギ	とじ紐 2 ヶ所、内面に縦方向刻み
824	SK24		曲げ物　側板	-	-	0.3				柾目	スギ	とじ紐 1 ヶ所
825	SK24		曲げ物　側板	4.9	28.9	0.4				柾目	スギ	内面に縦方向の刻み目
826	SK24		容器の把手		1.3	0.8				柾目	アスナロ	木の皮で 5 ヶ所を固定
827	SK24		蓋又は底板	13.4	13.7	0.9	13.8			追柾目	モミ属	中央に摘み
828	SK24		蓋又は底板	9.9	6.7	0.5	9.6			板目	ヒノキ	中央やや片側寄りに桜か樺の皮でつまみ
829	SK24		蓋又は底板	6.1	6.1	0.5	6.0			柾目	ヒノキ	
830	SK24		蓋又は底板	6.6	2.4	0.5	6.8/6.0			板目	スギ	中央 1 ヶ所に孔
831	SK24		蓋又は底板	8.0	3.8	0.5	8.0/7.2			柾目	アスナロ	
832	SK24		蓋又は底板	8.4	5.5	0.6	8.4			柾目	アスナロ	
833	SK24		蓋又は底板	8.5	8.4	0.7	8.6			柾目	アスナロ	
834	SK24		蓋又は底板	9.1	9.3	0.6	9.2			柾目	ヒノキ	中央やや片側寄りに木の皮のつまみ
835	SK24		蓋又は底板	9.5	5.2	0.6	9.4			柾目	ヒノキ	
836	SK24		蓋又は底板	7.9	3.7	0.5				柾目	アスナロ	中央付近に孔、断面にホゾ、側縁寄りに 2 孔
837	SK24		蓋又は底板	17.0	6.3	0.6	23.0/20.4			板目	スギ	短部付近 2 ヶ所に穿孔
838	SK24		蓋又は底板	12.1	11.8	1.1	11.8			柾目	アスナロ	

第93表　木器観察表（3）

報文番号	報告遺構	層名	器種	現存長	最大幅	最大厚	口径(直径)	器高	高台径(つまみ径)	木取り	材質	備考
839	SK24		蓋又は底板	13.5	13.4	0.5	13.2			柾目	スギ	
840	SK24		蓋又は底板	14.2	8.3	0.7	14.8			板目	アスナロ	
841	SK24		蓋又は底板	13.8	6.3	0.6	14.2			柾目	アスナロ	
842	SK24		蓋又は底板	13.4	9.0	0.7	13.8			柾目	ヒノキ	
843	SK24		蓋又は底板	14.7	2.7	0.7	23.4			柾目	ヒノキ	
844	SK24		蓋又は底板	10.2	9.7	0.7	10.0			柾目	スギ	
845	SK24		蓋又は底板	21.7	6.5	0.7	25.0			柾目	スギ	孔1ヶ所残
846	SK24		蓋又は底板	22.6	7.4	1.2	26.2			板目	スギ	
847	SK24		蓋又は底板	21.2	11.4	0.6	21.4			柾目	スギ	孔4か所残
848	SK24		蓋又は底板	32.6	11.0	1.6	34.2			柾目	アスナロ	断面ホゾ2か所、849と接合
849	SK24		蓋又は底板	20.4	3.9	1.6	34.2			柾目	アスナロ	断面ホゾ2ヶ所、孔1ヶ所848と接合
850	SK24		蓋又は底板	32.7	6.3	1.1				板目	スギ	断面ホゾ3ヶ所孔
851	SK24		栓	4.6	3.5	2.9				芯出削出	アスナロ	
852	SK24		栓	5.4	2.2	2.1				角材	アスナロ	
853	SK24		栓	7.9	3.3	3.2				芯出削出	マツ属複維管束亜属	
854	SK24		栓	6.6	3.9	3.6				芯出削出	スギ	
855	SK24		栓	10.7	2.0	1.9				芯出削出	コウヤマキ	
856	SK24		折敷の脚部(墨書)	4.1	15.3	0.6				柾目	ヒノキ科ヒノキ属	墨書「物　てわき」
857	SK24		折敷の脚部	4.7	20.6	1.4				柾目	スギ	上面にホゾ1ヶ所
858	SK24		折敷の脚部	4.6	20.5	1.3				追柾目	スギ	
859	SK24		折敷の脚部	4.5	25.6	1.0				板目	ヒノキ	
860	SK24		調度品の部材か？	9.5	24.1	0.5				柾目	アスナロ	
861	SK24		折敷の脚部	7.1	10.3	0.7				柾目	アスナロ	
862	SK24		折敷の脚部	9.3	6.5	0.7				柾目	アスナロ	
863	SK24		折敷の脚部	8.8	14.8	0.9				柾目	スギ	上面にホゾ1ヶ所
864	SK24		箱の側板	4.7	18.7	0.7					スギ	(内)黒漆、(外)黒漆
865	SK24		調度品の部材か？	28.6	9.8	0.4				柾目	アスナロ	
866	SK24		調度品の部材か？	31.5	14.0	1.1				追柾目	スギ	
867	SK24		箱	11.7	12.1	1.0					モミ属	小さい木釘で固定、5点組み立て式(樹種同定は底板1点、側板2点)
868	SK24		木釘	6.4	1.6	1.4				芯出削出	スギ	
869	SK24		楊枝	15.0	0.6	0.4				芯出削出	モミ属	両面にうすい擦痕あり
870	SK24		楊枝	9.8	0.8	0.8				芯出削出	モミ属	
871	SK24		櫛	(4.1)	9.0	1.2					イスノキ	
872	SK24		櫛	4.4	3.5	0.9					広葉樹	
873	SK24		ヘラ状木製品	15.0	4.1	0.4				柾目	スギ	
874	SK24		ヘラ状木製品	14.2	2.6	0.4				板目	スギ	
875	SK24		ヘラ状木製品	16.0	2.3	0.5				柾目	アスナロ	
876	SK24		ヘラ状木製品	15.5	0.9	0.5					モミ属	
877	SK24		ヘラ状木製品	18.8	0.7	0.4				板目	スギ	
878	SK24		箸	20.5	0.7	0.6				芯出削出		
879	SK24		箸	21.0	0.8	0.5				芯出削出	モミ属	
880	SK24		箸	21.0	0.7	0.6				芯出削出	モミ属	
881	SK24		箸	21.2	0.8	0.6				芯出削出		先端焼け焦げ痕
882	SK24		箸	21.3	0.8	0.7				芯出削出		

第 94 表　木器観察表（4）

報文番号	報告遺構	層名	器種	現存長	最大幅	最大厚	口径（直径）	器高	高台径（つまみ径）	木取り	材質	備考
883	SK24		箸	21.6	0.8	0.6				芯出削出		
884	SK24		箸	21.45	0.7	0.8				芯出削出		
885	SK24		箸	21.65	0.7	0.6				芯出削出		
886	SK24		箸	21.35	0.8	0.7				芯出削出		
887	SK24		箸	21.4	0.8	0.6				芯出削出	スギ	
888	SK24		箸	21.5	0.8	0.7				芯出削出	モミ属	
889	SK24		箸	21.45	0.7	0.6				芯出削出		
890	SK24		箸	21.6	0.9	0.5				芯出削出		
891	SK24		箸	21.6	0.7	0.6				芯出削出		
892	SK24		箸	21.6	0.7	0.6				芯出削出		
893	SK24		箸	21.8	0.7	0.5				芯出削出	モミ属	
894	SK24		箸	22.0	0.9	0.5				芯出削出		
895	SK24		箸	21.8	0.7	0.6				芯出削出	モミ属	
896	SK24		箸	22.1	0.7	0.45				芯出削出		
897	SK24		箸	22.0	0.7	0.5				芯出削出	モミ属	
898	SK24		箸	21.6	0.8	0.8				芯出削出	アスナロ	
899	SK24		箸	21.9	0.6	0.7				芯出削出	モミ属	
900	SK24		箸	22.0	0.7	0.6				芯出削出	モミ属	
901	SK24		箸	22.6	0.8	0.6				芯出削出	スギ	
902	SK24		箸	23.7	0.9	0.7				芯出削出		
903	SK24		箸	23.95	0.6	0.6				芯出削出		
904	SK24		箸	24.1	0.9	0.5				芯出削出		
905	SK24		箸	23.9	0.6	0.6				芯出削出		
906	SK24		箸	24.1	0.7	0.7				芯出削出		先端焼け焦げ痕
907	SK24		箸	24.4	0.7	0.5				芯出削出		
908	SK24		箸	24.6	0.6	0.4				芯出削出		
909	SK24		箸	24.5	0.6	0.6				芯出削出		
910	SK24		箸	24.45	0.8	0.6				芯出削出		
911	SK24		箸	24.5	0.8	0.6				芯出削出		
912	SK24		箸	24.7	0.6	0.5				芯出削出	スギ	
913	SK24		箸	24.6	0.6	0.6				芯出削出		
914	SK24		箸	24.7	0.8	0.4				芯出削出		
915	SK24		箸	24.5	0.9	0.6				芯出削出		
916	SK24		箸	24.7	0.8	0.6				芯出削出	アスナロ	
917	SK24		箸	24.7	0.5	0.5				芯出削出	スギ	
918	SK24		箸	25.0	0.9	0.5				芯出削出		
919	SK24		箸	25.1	0.8	0.6				芯出削出		
920	SK24		箸	25.0	0.9	0.6				芯出削出		先端焼け焦げ痕
921	SK24		人形頭部	9.0	6.3	6.0					ヒノキ科アスナロ属	
922	SK24		人形頭部	9.4	5.2	6.3					ヒノキ科アスナロ属	
923	SK24		人形頭部	10.5	6.8	6.8					スギ科スギ属スギ	
924	SK24		人形頭部	7.2	4.7	4.2					スギ科スギ属スギ	
925	SK24		人形頭部	12.3	4.9	5.6				芯出削出	スギ	
926	SK24		人形頭部（耳か）	3.1	1.7						トネリコ属	

第 95 表　木器観察表（5）

報文番号	報告遺構	層名	器種	現存長	最大幅	最大厚	口径（直径）	器高	高台径（つまみ径）	木取り	材質	備考
927	SK24		将棋の駒	2.5	2.1	0.3				芯出削出	バラ科ナシ亜科	
928	SK24		舟型木製品	26.7	10.2	5.2				板目	ツガ属	底部切込み部それぞれ１箇所ずつ釘穴？底部中央付近に焼け焦げ跡
929	SK24		木簡	12.7	2.1	0.4				板目		
930	SK24		木簡	9.8	2.8	0.3				板目	アスナロ	□筆
931	SK24		木簡	11.2	3.0	0.4				柾目	ヒノキ科アスナロ属	南条郡新石西　善七／八月四日
932	SK24		木簡	10.9	1.6	0.5				柾目	ヒノキ科ヒノキ属	山田郡□めん？　與次衛門
933	SK24		木簡	13.6	2.3	0.5				柾目	ヒノキ科アスナロ属	南条嶋木
934	SK24		木簡	11.2	2.0	0.5				柾目	マツ科マツ属【二葉松類】	
935	SK24		木簡	13.4	2.2	0.3				柾目	マツ科モミ属	山田郡宮［　／弥八
936	SK24		木簡	22.0	2.6	0.5				柾目	スギ	花□□左衛門
937	SK24		木簡	18.0	1.8	0.5				板目		
938	SK24		木簡	21.2	2.3	0.6				板目	モミ属	
939	SK24		木簡	18.3	2.7	0.3				柾目	スギ	
940	SK24		木簡	14.6	2.8	0.5				柾目	スギ	
941	SK24		木簡	16.7	1.6	0.1				柾目	アスナロ	（墨書あり）
942	SK24		木簡	9.5	2.8	0.3				柾目	モミ属	]東彦左衛門
943	SK24		木簡	8.5	3.0	0.5				板目	スギ	
944	SK24		木簡	9.3	1.9	0.3				柾目	ヒノキ	[　]蔵
945	SK24		木簡	7.4	2.1	0.3				板目		
946	SK24		木簡	8.3	2.3	0.3				板目	マツ科モミ属	南条郡／八分五り　数右衛門
947	SK24		木簡	4.1	2.2	0.3				板目	ヒノキ科	門
948	SK24		木簡	3.2	2.1	0.6				板目		南［　／八月
949	SK24		木簡	27.1	3.4	0.6				柾目	ヒノキ科アスナロ属	十二月六日　[　]三右衛門／不明
950	SK24		木札（墨書）	24.0	6.5	0.6				板目	モミ属	下側に砂利がめり込んでいる、家内安穏［
951	SK24		木簡	18.1	1.3	0.25				板目	スギ	人名か　字はあるがワレのため判読不能
952	SK24		下駄	21.6	8.5	2.8				板目	台・前歯／トネリコ属	露卯下駄、片側が使い減りしている、底に砂利がめり込む、はめ込み式の歯が２つあり（樹種同定は本体と歯を１点）
953	SK24		下駄	21.2	8.2	2.6					台・前歯・後歯／モクレン属	露卯下駄、底に砂利が付着、前歯と後歯で使い減りが逆側になる、はめ込み式の歯が２つあり
954	SK24		下駄	21.6	8.9	2.7				板目	台・前歯／トネリコ属	露卯下駄、片側に使い減り痕部あり、底に砂利付着、はめ込み式の歯が１つあり
955	SK24		下駄	20.8	8.9	3.6					トネリコ属	露卯下駄、上面に指圧痕明瞭に残る
956	SK24		下駄	21.1	8.4	4.4				追柾目	トネリコ属シオジ節	露卯下駄
957	SK24		下駄	15.6	8.7	2.2				追柾目	トネリコ属シオジ節	露卯下駄
958	SK24		下駄	17.5	7.7	2.4				追柾目	トネリコ属シオジ節	露卯下駄
959	SK24		下駄	21.0	7.8	2.3					台／マツ属複維管束亜属 前歯／カツラ	露卯下駄、 上面：指、かかと厚痕明瞭に残る、 歯は片側（内側？）が著しく使い減りする、 底：マメツし砂利がめり込んでいる、はめ込み式の歯が１つあり
960	SK24		下駄	21.1	7.6	2.5					ヒノキ科	露卯下駄
961	SK24		下駄	16.4	6.0	1.7					ヒノキ科	露卯下駄、上側面に漆塗り
962	SK24		下駄	22.0	9.4	4.1					マツ属複維管束亜属	連歯下駄
963	SK24		下駄	20.8	9.2	5.3					モミ属	連歯下駄
964	SK24		下駄	7.5	8.5	3.5				板目	カエデ属	連歯下駄

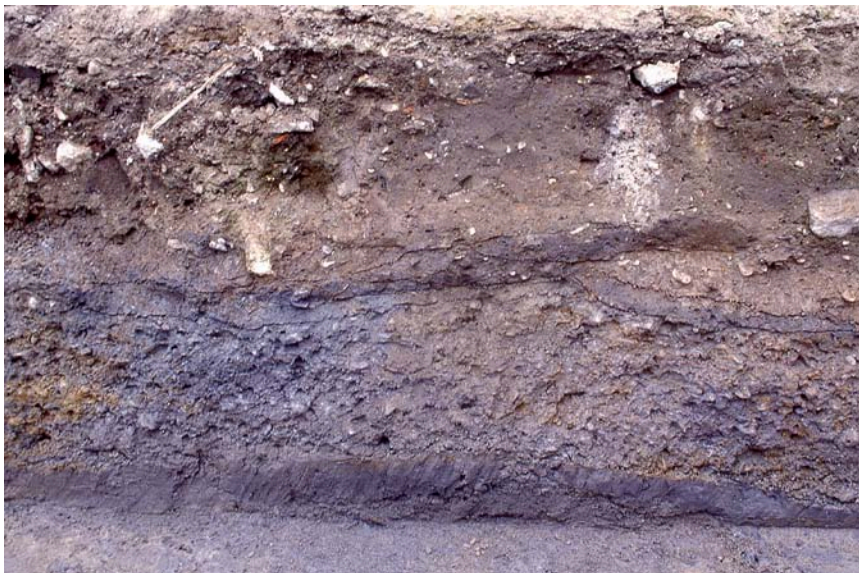
第 96 表　木器観察表（6）

報文番号	報告遺構	層名	器種	現存長	最大幅	最大厚	口径（直径）	器高	高台径（つまみ径）	木取り	材質	備考
965	SK24		下駄	15.4	6.0	1.1					アスナロ	連歯下駄 上側面に漆が少し残存、上下部の丸みは細かく削ることにより出している、透明の漆一部残存
966	SK24		下駄	21.7	4.2	1.7				板目	スギ	刳り下駄
967	SK24		下駄	12.7	9.2	4.0				追柾目	スギ	刳り下駄
968	SK24		下駄	7.2	8.2	2.3				追柾目	トネリコ属シオジ節	刳り下駄
969	SK24		下駄の歯	7.9	9.8	1.9				柾目	広葉樹	内外面ともに下駄の圧痕が台形に残る
970	SK24		下駄の歯	6.5	10.5	1.6				柾目	トネリコ属シオジ節	
971	SK24		下駄の歯	10.2	11.3	1.6				追柾目	マツ属複維管束亜属	底に砂利が付着
972	SK24		下駄の歯	6.0	9.0	1.7				追柾目	トネリコ属シオジ節	底はマメツが著しく砂利が付着している
973	SK24		下駄の歯	5.2	6.6	1.0				追柾目	モミ属	
974	SK24		下駄の歯	6.5	5.9	1.7				追柾目	マツ属複維管束亜属	底に砂利が食い込む、使い減り著しい
975	SK24		不明	4.1	2.4	1.1				心出削出	モミ属	漆付着
976	SK24		不明	4.9	3.7	0.9				柾目	アスナロ	中央 4 ヶ所穿孔
977	SK24		不明	7.8	2.1	0.5				横木取り	スギ	
978	SK24		不明	8.5	1.6	0.8				追柾目	スギ	
979	SK24		不明	13.3	1.3	1.7				芯去削出	アスナロ	
980	SK24		不明	12.5	1.1	2.1				芯去削出	ヒノキ	
981	SK24		不明	1.4	13.3	1.9				柾目	アスナロ	
982	SK24		不明	16.6	1.8	1.8						
983	SK24		不明	20.6	2.8	1.5				板目	モミ属	
984	SK24		不明	15.6	2.6	1.6				芯去削出	アスナロ	
985	SK24		不明	19.0	1.5	0.8				柾目	アスナロ	
986	SK24		不明	22.8	1.2	1.1				角材	アスナロ	孔には木釘 (三ヵ所)
987	SK24		不明	23.5	2.9	2.0				板目	スギ	
988	SK24		不明	26.3	1.8	0.6				柾目	アスナロ	
989	SK24		不明	29.8	2.4	1.1				板目	スギ	
990	SK24		不明	10.8	10.0	2.0				柾目	マツ属複維管束亜属	
991	SK24		引き戸の戸車か	8.9	8.7	2.5				芯去削出	コナラ属アカガシ亜属	
1000	SK25		金隠し	44.6	31.7	1.4				柾目	モミ属	

全景 (東から)

図版２

全景 (上空から)



南壁土層 (西から 10 m付近)
(SK12 付近)

南壁土層 (西から 14 m付近)
(SD02-2 付近)

南壁土層 (東から 6 m付近)

図版４

東壁土層 (北端付近)

西壁土層 (南端付近)

西壁土層 (南から 13 m付近)

SD02 -1　土層断面 (南から)

SD04　土層断面 a-a ´ (東から)

SD04　土層断面 c-c ´ (西から)

SD04　土層断面 d-d ´ (西から)

図版 5

図版 6

SD08　土層断面 a-a ´ (南から)

SD08 土層断面 b-b ´ (南から)

SD08　土層断面 c-c ´ (北から)

SD09　土層断面 (南から)

SD08　石組溝検出状況 (北から)

SE01　土層断面 (西から)

SE01　石組検出状況
(北から)

SE01　土層断面 (西から)

SE02　井戸枠検出状況（西から）

SE02　土層断面（西から）

SE02　土層断面（西から）

SE02　井戸枠検出状況（桶２段目）（西から）

SE03　土層断面 (西から)

SE03　井戸枠検出状況 (東から)

SE03　土層断面 (西から)

SE03　井戸枠検出状況 (西から)

SE04　井戸枠検出状況（南から）

SE04　井戸枠検出状況（最下段）（北から）

SE04　土層断面（南から）

SE04　井戸枠検出状況（甕・竹）（南から）

SE05　井戸枠検出状況 (北東から)

SE06　井戸枠検出状況 (西から)

SE06　土層断面　(西から)

SE05　井戸枠検出状況・土層断面 (北から)

SE05(下層) 井戸枠検出状況・土層断面 (北から)

図版 12

SE07　井戸枠検出状況
（北から）

SE07　井戸枠検出状況
（北から）

SE07　土層断面 （北から）

SK01　土層断面 (西から)

SK04　土層断面 (東から)

SK11　土層断面 (西から)

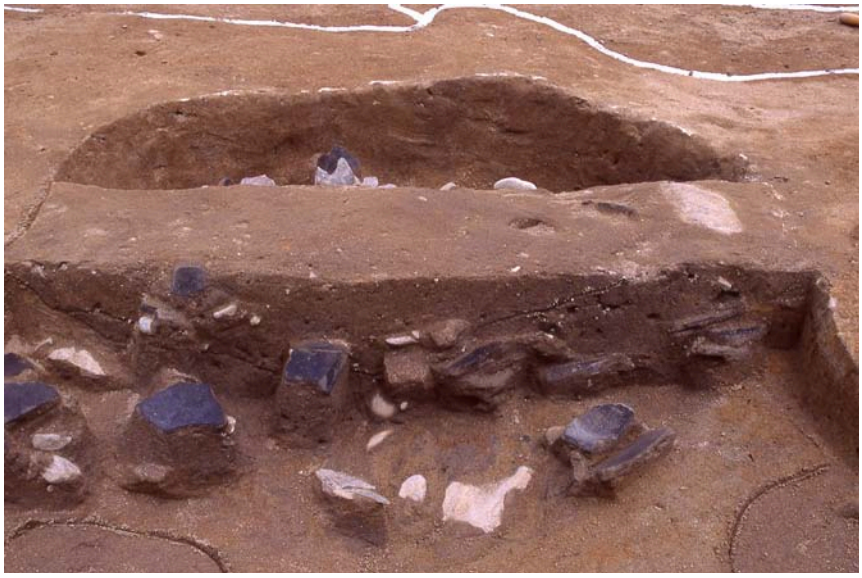
SK12　土層断面（東から）

SK12　土層断面（南から）

SK12　土層断面（東から）

SK12　土層断面（南から）

SK12(下層)　瓦出土状況
(北から)



SK15　土層断面 (西から)

SK15　瓦出土状況
(西から)

SK18　土層断面 (北から)

SK21　土層断面 (北から)

SK22　土層断面 (南から)

SK23　土層断面 (東から)

SK23　土層断面 (東から)

SK23　土層断面 (北から)

SK23　土層断面 (南から)

SK23　土層断面　(東から)

SK23　土層断面 (北東から)

SK23　土層断面 (北から)

SK24　遺物出土状況
（北から）

SK24　遺物出土状況
（南から）

SK24　遺物出土状況
（南から）

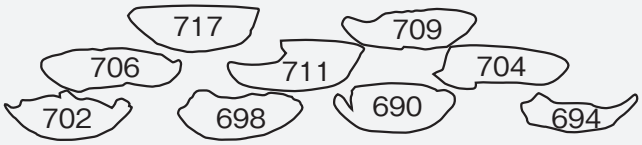
SK24　土層断面 (西から)

SK24　土層断面 (西から)

SK25　土層断面 (西から)

59
58
366
374
367
110
112
368
369
121
122
473
474
269
264
291
289
617
619
299
300
621
624
329
330
630
636
631
344
343
658
659
364
365
690
694

出土土器・陶磁器 (1)


717
709
706
711
704
702
698
690
694

364
365
377
369
367
368
366
381
371
374

658
619
659
617
664
666
631
636
630
624
621
646
641
642
650
656

出土土器・陶磁器 (2)

16
17
21
10
91
22
102
101
57
103
105
107
92
143
119
168
117
184
174
188
192
127

出土土器・陶磁器 (3)

出土土器・陶磁器 (4)

出土土器・陶磁器 (5)

361
377
351
371
371
381
394
389
390
414
417
418
421
426
436
429
432
435
428
434
438

出土土器・陶磁器 (6)

出土土器・陶磁器 (7)

出土土器・陶磁器 (8)

1012

1016

1015

73

780

出土土器・陶磁器 (9)・石器

出土瓦 (1)

144
177
222
224
295
310
226
227
231
296
337
355
153
221
223
153
154

出土瓦 (2)

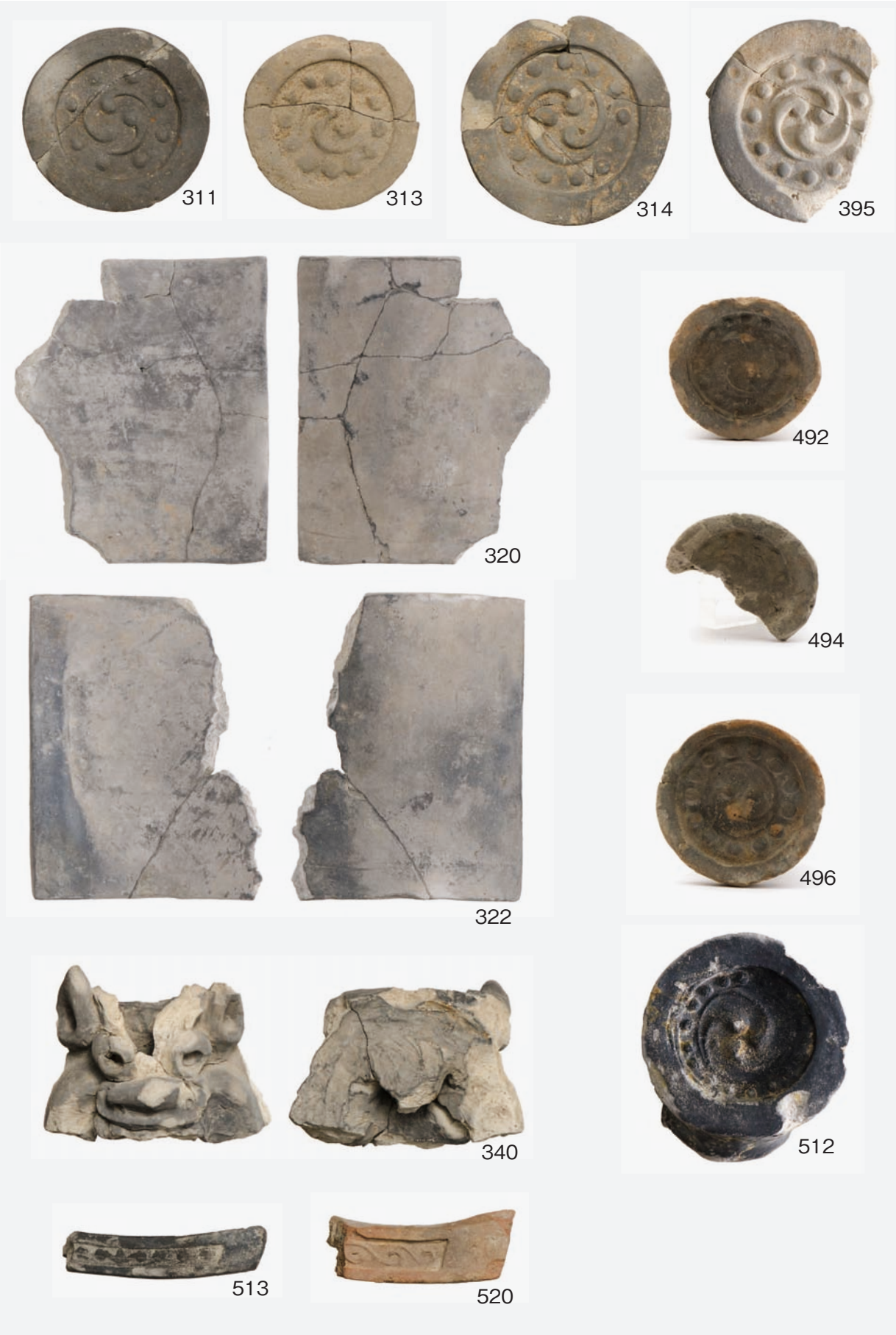
240

241

242

243

出土瓦 (3)



出土瓦 (4)

出土瓦 (5)

553

553 拡大

536

603

743

736

出土瓦 (6)

出土金属器

83
84
158
156
157
209
210
244
248
250
249
85
245
246
247
261
555
556
259
260
407
566
567
568
557

出土木器 (1)

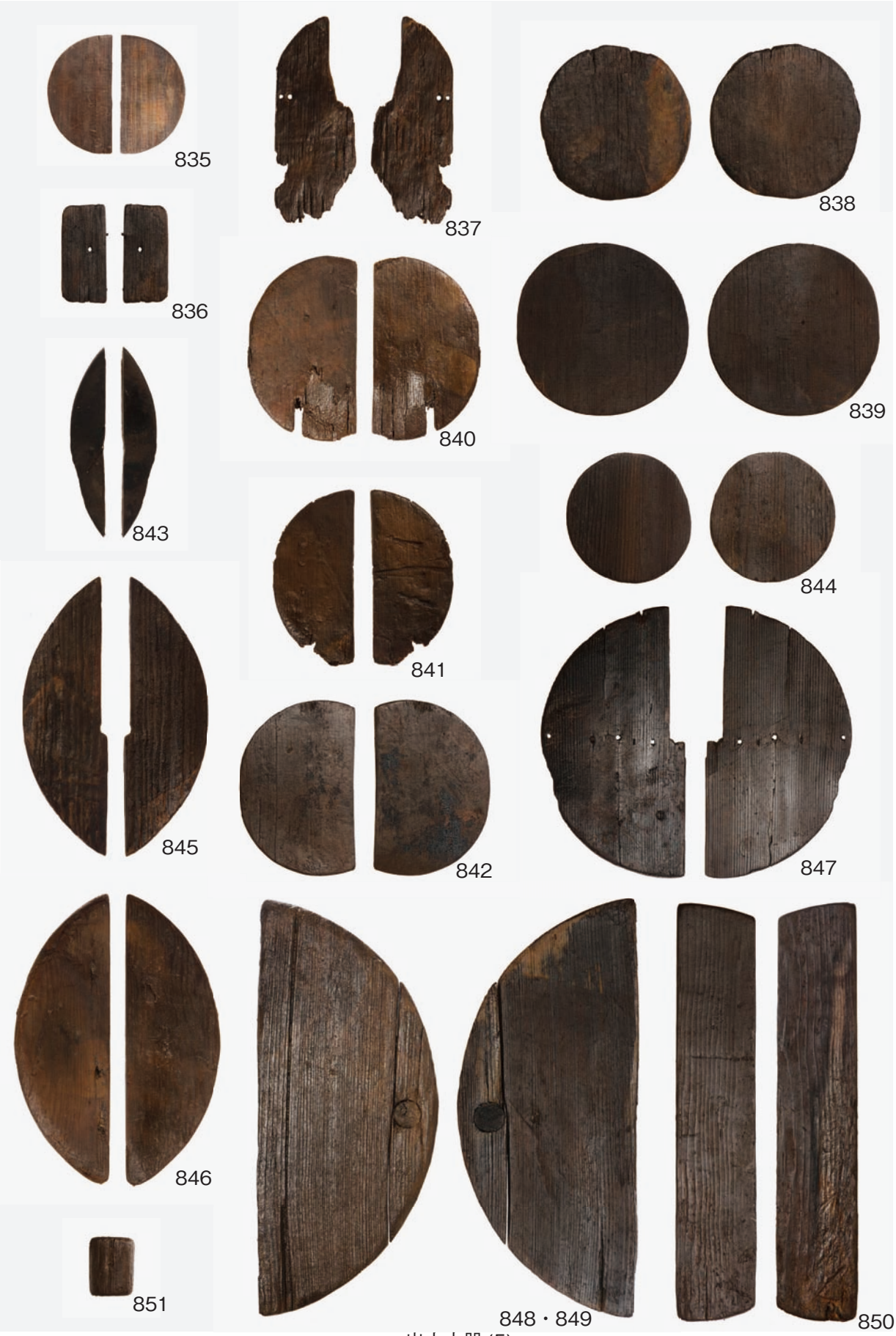
558
569
570
571
572
573
574
559
560
561
562
563
564
565
793
794
795
796
797

出土木器 (2)

798
800
801
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
822

出土木器 (3)

出土木器 (4)


835
836
837
838
839
840
841
842
843
844
845
846
847
848・849
850
851

出土木器 (5)

852
856
858
853
860
854
861
863
855
862
864
865
866
867
869
870
868

出土木器 (6)

871
872
873
874
875
876
877
879
881
883
884
885
887
888
889
890
892
894
895
896
897
899
902
903
904
905
907
908
909
910
911
914
915
916
918
919
920
926
927

出土木器 (7)

出土木器 (9)

928
929
930
931
932
933
934
935
940
941
936
937
938
939
942
943
944
945
946
947
948
949
950
951

出土木器 (10)

952

956

953

957

954

958

955

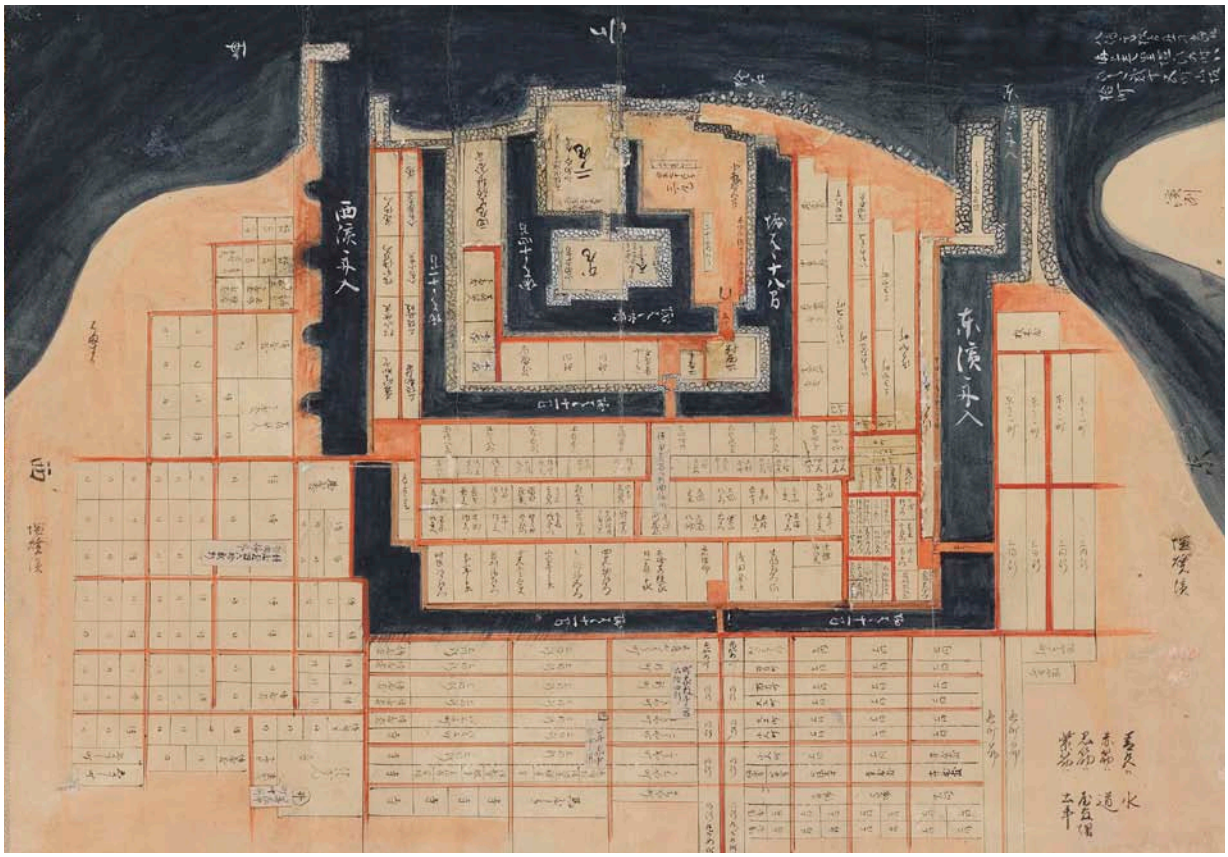
959

出土木器 (11)

出土木器 (12)

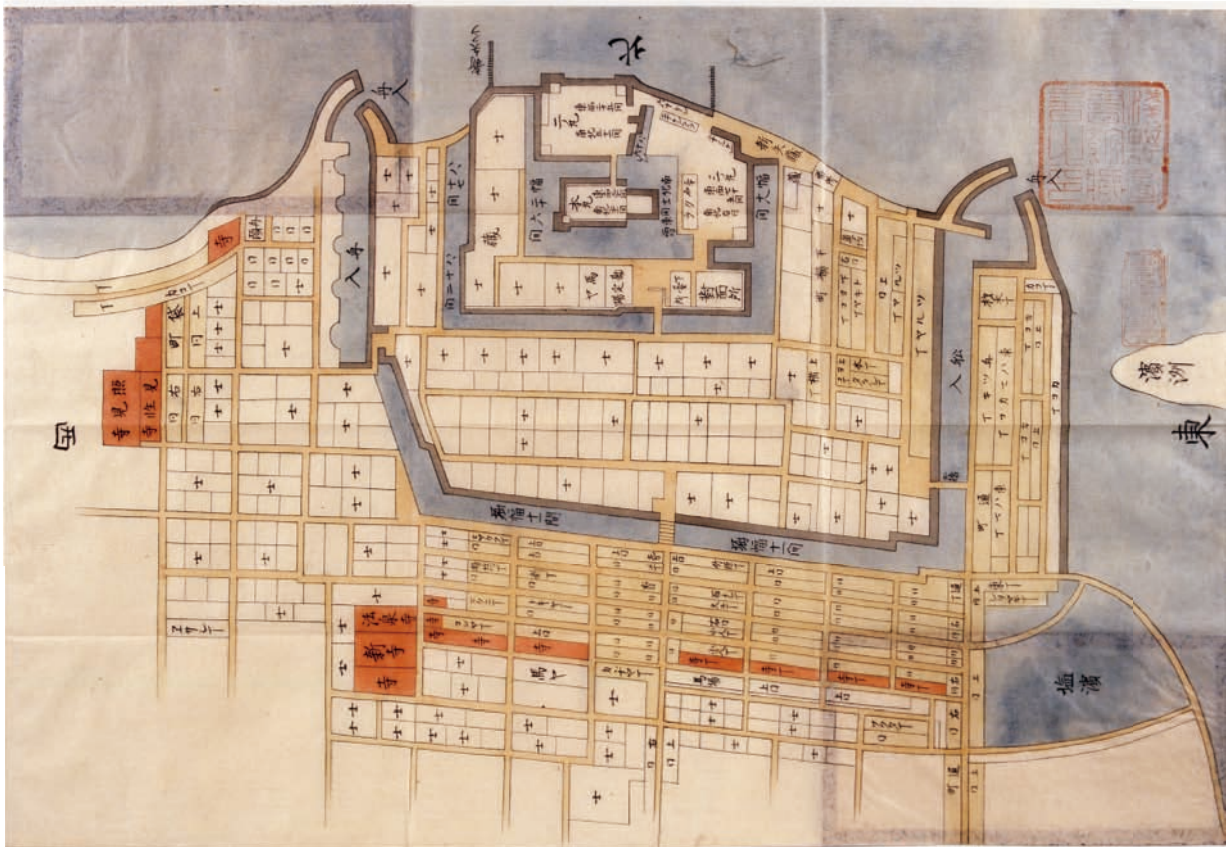
975
976
977
978
979
980
981
982
983
984
985
986
987
988
989
990
991
1000

出土木器 (13)

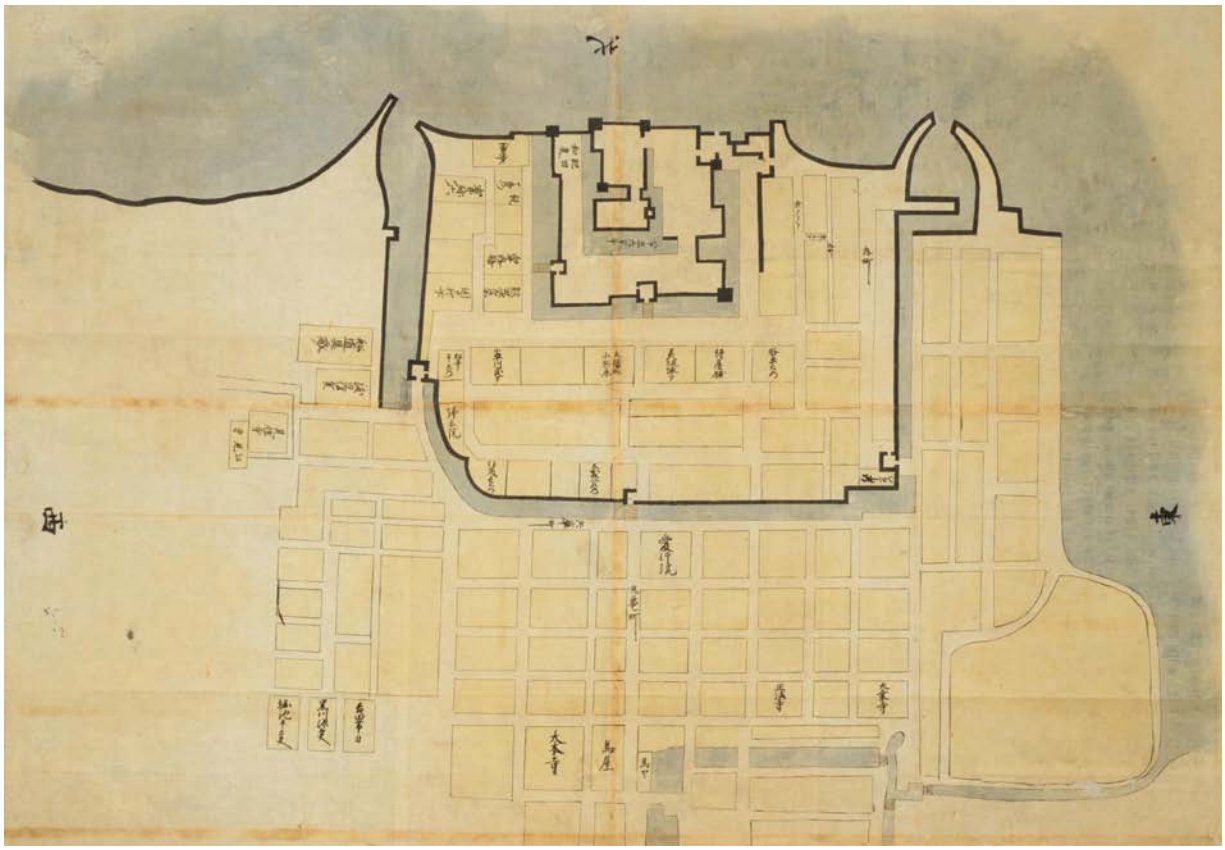


生駒家時代讃岐高松城屋敷割図　（高松市歴史資料館所蔵）

讃州高松城之図　（国立国会図書館所蔵）

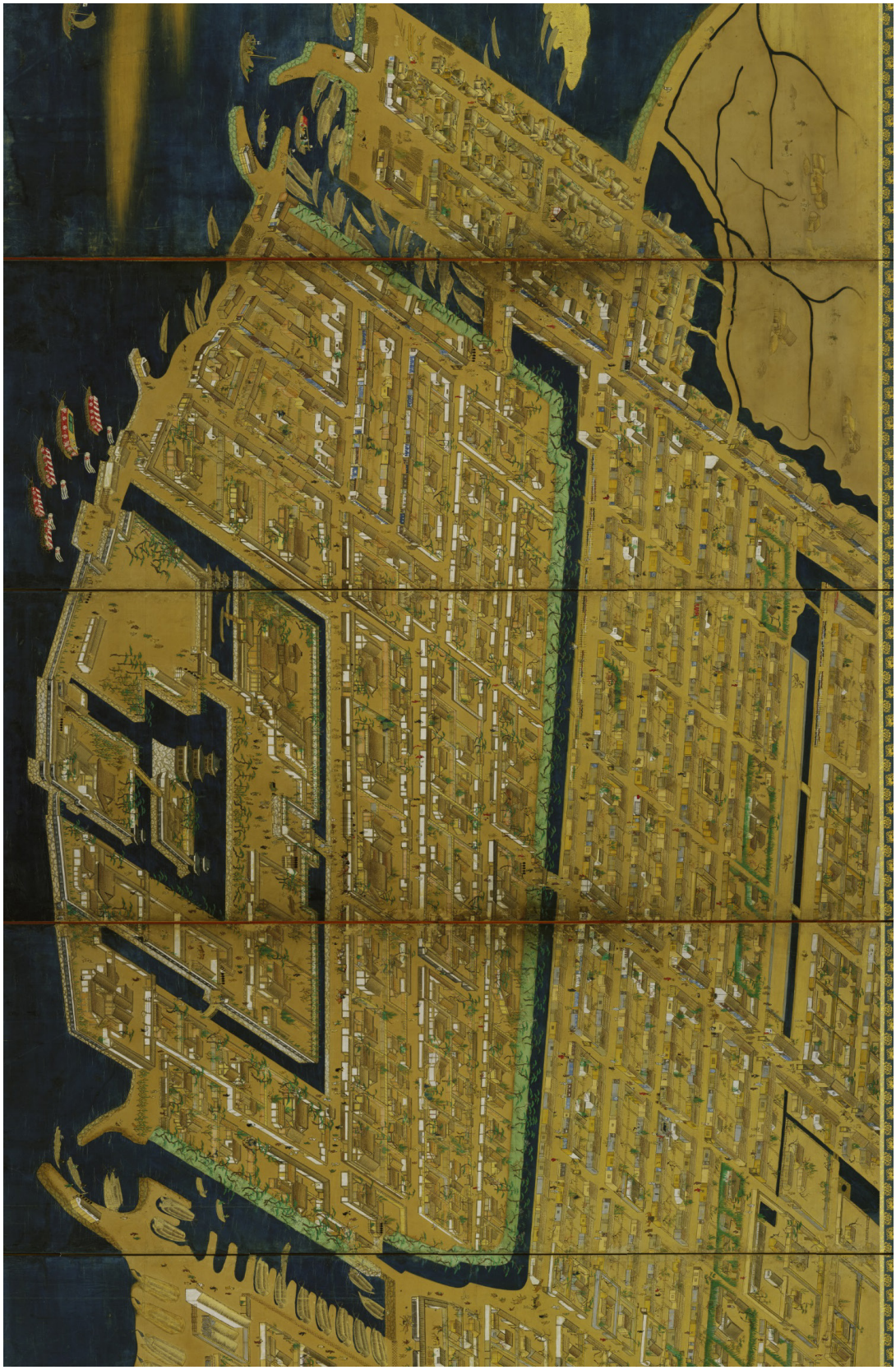


諸国当城之図　（広島市立中央図書館所蔵）



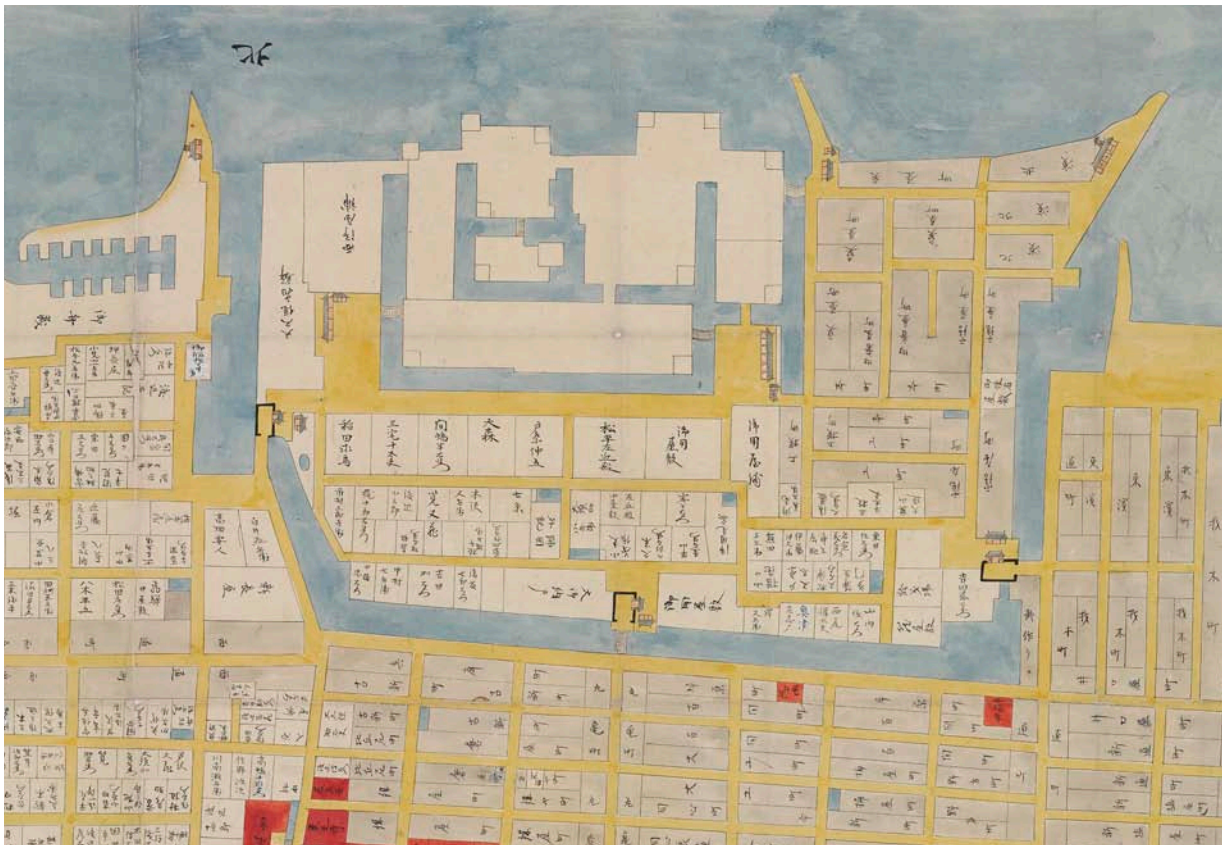
讃州高松城図　（国立国会図書館所蔵）

図版 52



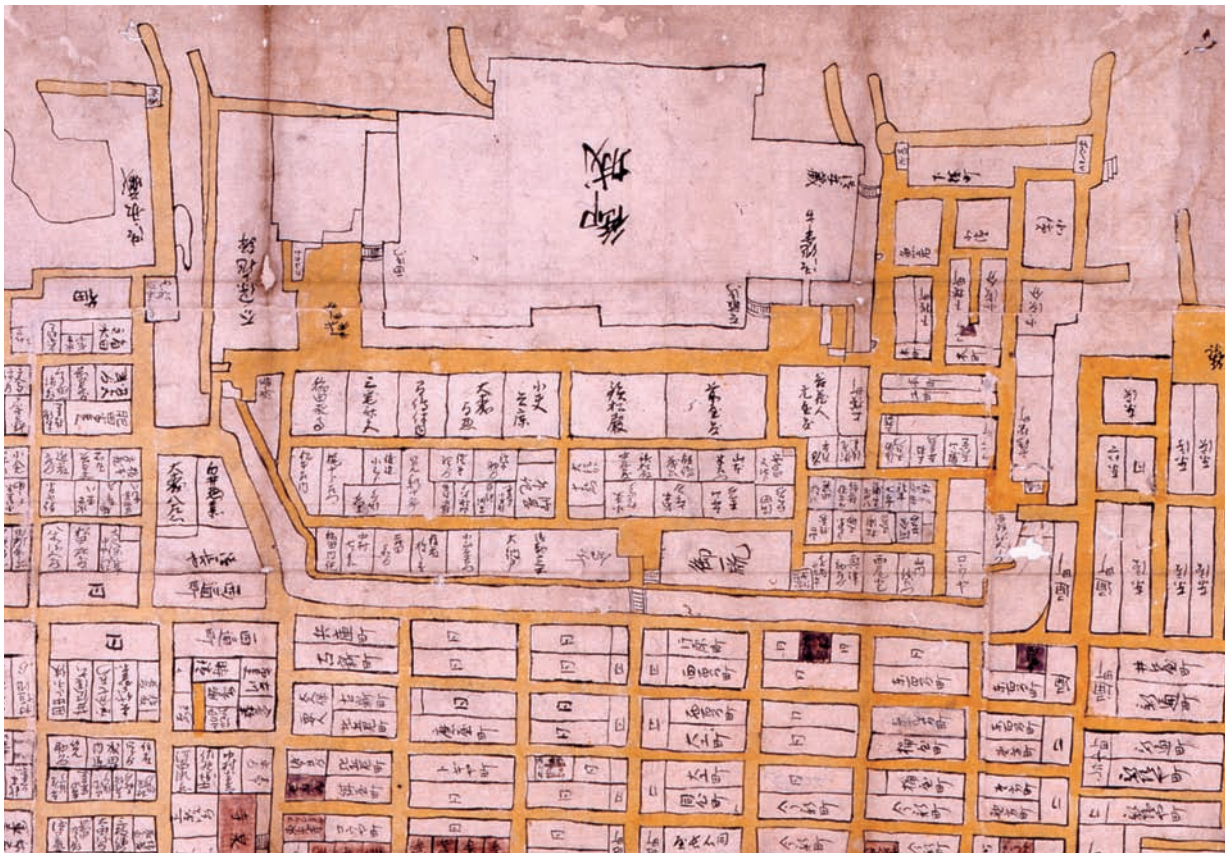
高松城下図屏風　（香川県立ミュージアム所蔵）

日本輿地図讃州高松地図　（独立行政法人国立公文書館所蔵）

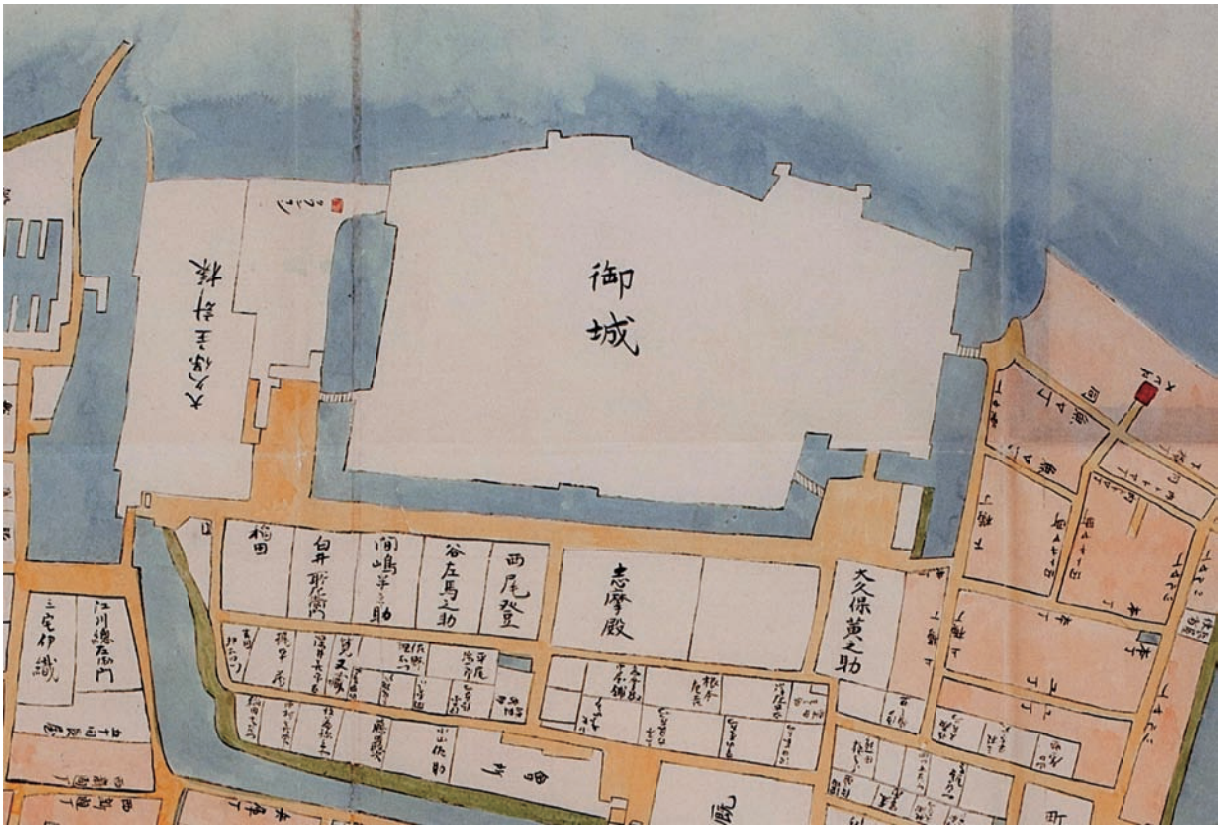


享保年間高松城下図　（高松市歴史資料館所蔵）

図版 54



高松地図　（香川県立ミュージアム所蔵）



寛政元年己酉五月　高松之図　（公益財団法人鎌田共済会郷土博物館所蔵）

報告書抄録

ふりがな	たかまつじょうあと
書名	高松城跡
副書名	香川県警察高松北警察署建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	
編著者名	山元素子（編）、北野信彦、石丸恵理子、株式会社パレオ・ラボ、株式会社吉田生物研究所、株式会社文化財サービス
編集機関	香川県埋蔵文化財センター
所在地	〒762-0024　香川県坂出市府中町字南谷5001-4　Tel　0877-48-2191 E-Mail　maibun@pref.kagawa.lg.jp
発行機関名	香川県教育委員会
発行年月日	2018/3/5

所収遺跡名	所在地	コード 市町	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
高松城跡（たかまつじょうあと） （高松北警察署（たかまつきたけいさつしょ））	香川県高松市西内町（かがわけんたかまつしにしうちちょう）	37201		34°20′47″	134°02′56″	1998.4.1～1998.6.30	900㎡	香川県警察高松北警察署建設

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
武家屋敷	江戸時代	区画溝5/井戸7/廃棄土坑　/トイレ状遺構1	陶磁器、瓦、木製品、金属製品など	

要約

調査地は高松城中堀と外堀の間の上級武家屋敷の一角に相当する。今回の調査では17世紀中葉～18世紀前半の区画溝を検出した。区画溝は絵図史料との照合が可能なもので、当時の屋敷地割を復元するうえで新たな資料を得ることができた。

また、陶磁器類や瓦類とともに多量に出土した食物残滓や木製品からは当時の食生活や暮らしぶりを知る貴重な資料を得ることができた。

香川県警察高松北警察署建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

高松城跡

2018 年 3 月 5 日
編集　香川県埋蔵文化財センター
〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
Tel 0877-48-2191
E-Mail　maibun@pref.kagawa.lg.jp
発行　香川県教育委員会
印刷　（株）成光社